高松東道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告　第5冊

六条・上所遺跡

1995.10

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
建設省四国地方建設局

高松東道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告　第５冊

六条・上所遺跡

１９９５．10

香　川　県　教　育　委　員　会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
建　設　省　四　国　地　方　建　設　局

（1）E地区全景（東より）

（2）G1南調査区全景（東より）

（1） ＳＨ01出土遺物

（2） ＳＫ01出土遺物

（3） Ｆ地区出土有溝土錘

序　文

香川県では，昭和63年４月の瀬戸大橋の開通，平成元年12月の新高松空港の開港，平成４年５月の四国横断自動車道（高松～善通寺間）の開通など，高速交通網の整備が精力的に進められております。

香川県教育委員会では，県東部の重要な幹線道路であります高松東道路建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査と出土遺物の整理・研究及び調査報告書の作成・刊行の業務を，昭和63年度から財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施してまいりましたが，これらの調査で本県における先人の営みを明らかにする多くの資料を得ることができました。

このたび「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第五冊」として刊行いたしますのは，高松市六条町に位置します六条・上所遺跡についてであります。

六条・上所遺跡の調査では，古墳時代中期の竪穴住居跡から朝鮮半島で作製された韓式系土器と呼ばれる土器が土師器とともに出土しました。当時は須恵器がわが国に伝わって間もないころで，このころの本県に古代の朝鮮半島と密接な交流があった人々が生活していたことがうかがわれます。

本報告書が本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに，埋蔵文化財に対する理解と関心が深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査から出土品の整理・研究，報告書の刊行にいたるまでの間，建設省四国地方建設局及び関係諸機関並びに地元関係各位に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに，今後ともよろしく御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成７年10月

香川県教育委員会

教育長　　田中壮一郎

例　言

1．本報告書は，高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第５冊で，香川県高松市六条町に所在する六条・上所遺跡（ろくじょう・じょうしょいせき）の報告を収録した。

2．発掘調査は，香川県教育委員会が建設省四国地方建設局から委託され，香川県教育委員会が調査主体，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3．発掘調査は，試掘調査を香川県教育委員会事務局文化行政課が昭和62年10月５日から31日まで実施し，本調査のうちＡ地区からＧ地区までを昭和63年８月１日から平成元年３月31日まで，Ｃ・Ｇ地区の一部を平成３年４月１日から同年４月28日まで実施した。発掘調査の担当は以下のとおりである。

試掘調査　香川県教育委員会事務局文化行政課　大久保徹也

本 調 査　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

廣瀬常雄・大山真充・中野昇一・市村拓二・北山健一郎

稲田美穂子・古野徳久・宮崎哲治・西中一伸・吉原明美・稲毛裕美

4．発掘調査および整理作業にあたっては，下記の機関ならびに下記の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい。（順不同，敬称略）

建設省四国地方建設局，同香川工事事務所，高松市教育委員会，地元自治会

寒川旭

5．本遺跡の報告にあたっては，下記に鑑定を依頼し，玉稿をいただいた。（敬称略）

胎土分析　　三辻利一（奈良教育大学）

6．本報告書で用いる方位の北は，国土座標系第Ⅳ系の北であり，標高はＴ．Ｐ．を基準としている。

7．調査はＡ～Ｉ地区の９調査区に分けて行った。また，各調査区の調査面を第○面とす

る。

8．遺構は下記の略号により表示しており，遺構番号は各調査区ごとの番号とした。

ＳＡ	柵列	ＳＢ	掘立柱建物跡	ＳＤ	溝状遺構	ＳＥ	井戸
ＳＨ	竪穴住居跡	ＳＫ	土坑	ＳＰ	柱穴・小穴	ＳＲ	自然河川
ＳＴ	墓	ＳＸ	不明遺構				

9．遺物実測図は，断面の表示によって次のように分類した。

縄文土器・弥生土器・土師器・土師質土器・黒色土器・瓦　　白

須恵器・陶質土器・瓦質土器・須恵質土器・瓦器・陶磁器　　黒

10．本報告書は，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが作成した。

本書の執筆・編集は北山が担当した。

目　次

第１章　調査の経緯と経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 2
　　１．発掘調査の経過 …… 2
　　２．整理作業の経過 …… 8

第２章　立地と環境 …… 10
　第１節　地理的環境 …… 10
　第２節　歴史的環境 …… 11

第３章　調査の成果 …… 22
　第１節　土層序 …… 22
　第２節　遺構・遺物 …… 39
　　（１）弥生時代の遺構・遺物 …… 39
　　（２）古墳時代の遺構・遺物 …… 66
　　（３）古代の遺構・遺物 …… 82
　　（４）中世の遺構・遺物 …… 82
　　（５）近世の遺構・遺物 …… 122
　　（６）その他の遺構・遺物 …… 136

第４章　自然科学的分析 …… 150
　第１節　六条・上所遺跡出土韓式土器および初期須恵器の蛍光Ｘ線分析 …… 150

第５章　考察およびまとめ …… 155
　第１節　六条・上所遺跡出土の韓式系土器について …… 155
　第２節　まとめ …… 161

挿図目次

第１図　グリッド配置図 …… 3
第２図　六条・上所遺跡位置図 …… 10
第３図　周辺の遺跡分布図 …… 12
第４図　Ａ地区土層断面図(1) …… 23
第５図　Ａ地区土層断面図(2) …… 24
第６図　Ｂ地区土層断面図(1) …… 25
第７図　Ｂ地区土層断面図(2) …… 26
第８図　Ｃ地区土層断面図 …… 27
第９図　Ｄ地区土層断面図(1) …… 28
第10図　Ｄ地区土層断面図(2) …… 29
第11図　Ｄ地区土層断面図(3) …… 30
第12図　Ｅ地区土層断面図(1) …… 31
第13図　Ｅ地区土層断面図(2) …… 32
第14図　Ｆ地区土層断面図(1) …… 33
第15図　Ｆ地区土層断面図(2) …… 34
第16図　Ｇ地区土層断面図(1) …… 35
第17図　Ｇ地区土層断面図(2) …… 36
第18図　Ｇ地区土層断面図(3) …… 37
第19図　Ｇ地区土層断面図(4) …… 38
第20図　ＳＢ01平・断面図 …… 39
第21図　ＳＫ01遺物出土状況平・断面図 40
第22図　A・B地区弥生時代遺構配置図 …… 41
第23図　C・D地区弥生時代遺構配置図 …… 43
第24図　E・F地区弥生時代遺構配置図 …… 45
第25図　Ｇ地区弥生時代遺構配置図 …… 47
第26図　ＳＫ01出土遺物実測図(1) …… 48
第27図　ＳＫ01出土遺物実測図(2) …… 49
第28図　ＳＫ01出土遺物実測図(3) …… 50
第29図　ＳＤ01土層断面図 …… 51
第30図　ＳＤ02土層断面図 …… 51
第31図　ＳＤ02出土遺物実測図 …… 51
第32図　ＳＤ04土層断面図 …… 52
第33図　ＳＤ04出土遺物実測図 …… 52
第34図　ＳＲ07，ＳＤ05土層断面図 …… 52
第35図　ＳＲ01・11土層断面図 …… 53
第36図　ＳＲ01出土遺物実測図 …… 54
第37図　ＳＲ02土層断面図 …… 54
第38図　ＳＲ02出土遺物実測図 …… 55
第39図　ＳＲ03土層断面図 …… 55
第40図　ＳＲ03出土遺物実測図 …… 55
第41図　ＳＲ04土層断面図 …… 56
第42図　ＳＲ05土層断面図 …… 56
第43図　ＳＲ06・07出土遺物実測図 …… 57
第44図　ＳＲ06・07土層断面図 …… 58
第45図　ＳＲ08土層断面図 …… 59
第46図　ＳＲ09土層断面図 …… 60
第47図　ＳＲ09出土遺物実測図(1) …… 61
第48図　ＳＲ09出土遺物実測図(2) …… 62
第49図　ＳＲ09出土遺物実測図(3) …… 63
第50図　包含層出土遺物実測図(1) …… 64
第51図　包含層出土遺物実測図(2) …… 65
第52図　A・B地区古墳時代遺構配置図 …… 67
第53図　C・D地区古墳時代遺構配置図 …… 69
第54図　E・F地区古墳時代遺構配置図 …… 71
第55図　Ｇ地区古墳時代遺構配置図 …… 73
第56図　ＳＨ02平・断面図 …… 74

第57図　ＳＨ01平・断面図 …… 75
第58図　ＳＨ01・02出土遺物実測図 …… 77
第59図　ＳＤ06土層断面図 …… 78
第60図　ＳＤ07土層断面図 …… 78
第61図　ＳＤ08土層断面図 …… 78
第62図　ＳＤ09土層断面図 …… 79
第63図　ＳＤ09出土遺物実測図 …… 79
第64図　ＳＤ10土層断面図 …… 79
第65図　ＳＤ11土層断面図 …… 79
第66図　ＳＲ10・11土層断面図 …… 80
第67図　ＳＲ11出土遺物実測図 …… 80
第68図　包含層出土遺物実測図(3) …… 81
第69図　ＳＢ02平・断面図 …… 82
第70図　A・B地区中世遺構配置図 …… 83
第71図　C・D地区中世遺構配置図 …… 85
第72図　E・F地区中世遺構配置図 …… 87
第73図　Ｇ地区中世遺構配置図 …… 89
第74図　ＳＰ0025（ＳＢ03）遺物出土状況
　　平・断面図 …… 90
第75図　ＳＢ03出土遺物実測図 …… 90
第76図　ＳＢ03平・断面図 …… 91
第77図　ＳＢ04平・断面図 …… 93
第78図　Ｅ地区ピット群出土遺物実測図(1) 94
第79図　Ｅ地区ピット群出土遺物実測図(2) 95
第80図　Ｅ地区ピット群出土遺物実測図(3) 96
第81図　Ｅ地区ピット群出土遺物実測図(4) 96
第82図　Ｆ地区ピット群出土遺物実測図　97
第83図　ＳＫ02平・断面図 …… 98
第84図　ＳＫ02出土遺物実測図 …… 98
第85図　ＳＫ03平・断面図 …… 99
第86図　ＳＫ04平・断面図 …… 99
第87図　ＳＫ05平・断面図 …… 100
第88図　ＳＫ06平・断面図 …… 100
第89図　ＳＫ06出土遺物実測図 …… 100
第90図　ＳＥ01平・断面図 …… 101
第91図　ＳＥ01出土遺物実測図 …… 102
第92図　ＳＸ02出土遺物実測図 …… 102
第93図　ＳＸ02平・断面図 …… 103
第94図　ＳＸ03平・断面図 …… 103
第95図　ＳＸ04土層断面図 …… 104
第96図　ＳＤ12土層断面図 …… 104
第97図　ＳＤ12出土遺物実測図 …… 104
第98図　ＳＤ13土層断面図 …… 104
第99図　ＳＤ13出土遺物実測図 …… 104
第100図　ＳＤ14土層断面図 …… 105
第101図　ＳＤ15土層断面図 …… 105
第102図　ＳＤ16土層断面図 …… 105
第103図　ＳＤ17土層断面図 …… 106
第104図　ＳＤ18土層断面図 …… 106
第105図　ＳＤ18出土遺物実測図(1) …… 107
第106図　ＳＤ18出土遺物実測図(2) …… 108
第107図　ＳＤ19土層断面図 …… 109
第108図　ＳＤ19出土遺物実測図 …… 109
第109図　ＳＤ20土層断面図 …… 109
第110図　ＳＤ20出土遺物実測図 …… 109
第111図　ＳＤ21土層断面図 …… 110
第112図　ＳＤ21出土遺物実測図 …… 110
第113図　ＳＤ23土層断面図 …… 110
第114図　ＳＤ23出土遺物実測図 …… 110
第115図　ＳＤ24土層断面図 …… 111

第116図 ＳＤ24出土遺物実測図 …… 111
第117図 ＳＤ22土層断面図 …… 111
第118図 ＳＤ25土層断面図 …… 112
第119図 ＳＤ25出土遺物実測図 …… 112
第120図 ＳＤ26土層断面図 …… 112
第121図 ＳＤ26出土遺物実測図 …… 112
第122図 ＳＤ27土層断面図 …… 113
第123図 ＳＤ29土層断面図 …… 113
第124図 ＳＤ30土層断面図 …… 113
第125図 ＳＤ31土層断面図 …… 113
第126図 ＳＤ28土層断面図 …… 113
第127図 ＳＤ28出土遺物実測図 …… 114
第128図 ＳＤ32土層断面図 …… 114
第129図 ＳＲ12土層断面図 …… 115
第130図 ＳＲ12出土遺物実測図 …… 116
第131図 包含層出土遺物実測図(4) …… 117
第132図 包含層出土遺物実測図(5) …… 118
第133図 包含層出土遺物実測図(6) …… 119
第134図 包含層出土遺物実測図(7) …… 120
第135図 包含層出土遺物実測図(8) …… 121
第136図 ＳＥ03平・断面図 …… 122
第137図 ＳＥ03出土遺物実測図 …… 122
第138図 A・B地区近世遺構配置図 …… 123
第139図 C・D地区近世遺構配置図 …… 125
第140図 E・F地区近世遺構配置図 …… 127
第141図 G地区近世遺構配置図 …… 129
第142図 ＳＸ05平・断面図 …… 131
第143図 ＳＸ05出土遺物実測図 …… 131
第144図 ＳＸ06出土遺物実測図 …… 131
第145図 ＳＤ33土層断面図 …… 132
第146図 ＳＤ33出土遺物実測図 …… 132
第147図 ＳＤ34土層断面図 …… 132
第148図 ＳＤ34出土遺物実測図 …… 132
第149図 ＳＤ35土層断面図 …… 133
第150図 ＳＤ36土層断面図 …… 133
第151図 ＳＤ37土層断面図 …… 133
第152図 包含層出土遺物実測図(9) …… 134
第153図 包含層出土遺物実測図(10) …… 135
第154図 包含層出土遺物実測図(11) …… 135
第155図 ＳＫ07出土遺物実測図 …… 136
第156図 ＳＫ08出土遺物実測図 …… 136
第157図 ＳＫ10平・断面図 …… 136
第158図 A・B地区その他の遺構配置図 …… 137
第159図 C・D地区その他の遺構配置図 …… 139
第160図 E・F地区その他の遺構配置図 …… 141
第161図 G地区その他の遺構配置図 …… 143
第162図 ＳＸ01平・断面図 …… 145
第163図 ＳＸ07平・断面図 …… 146
第164図 ＳＫ11平・断面図 …… 146
第165図 ＳＫ12平・断面図 …… 147
第166図 ＳＫ13平・断面図 …… 147
第167図 ＳＸ08平・断面図 …… 148
第168図 ＳＤ40土層断面図 …… 148
第169図 ＳＤ41土層断面図 …… 149
第170図 ＳＤ42土層断面図 …… 149
第171図 ＳＤ43土層断面図 …… 149
第172図 Rb－Sr分布図 …… 152
第173図 K－Ca分布図 …… 152

表 目 次

第1表 整理作業工程表 …… 9
第2表 周辺の遺跡一覧表① …… 13
第3表 周辺の遺跡一覧表② …… 14
第4表 周辺の遺跡一覧表③ …… 15
第5表 六条・上所遺跡出土韓式土器および初期須恵器の分析値 …… 153
第6表 各母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値 …… 154
第7表 土器・陶磁器観察表 …… 163
第8表 瓦観察表 …… 184
第9表 石器観察表 …… 185
第10表 木器観察表 …… 185
第11表 金属器・骨角器観察表 …… 185
第12表 ピット一覧表 …… 186

付図目次

付図1　A地区遺構配置図
付図2　B地区遺構配置図
付図3　C地区遺構配置図
付図4　D地区遺構配置図
付図5　E地区遺構配置図
付図6　F地区遺構配置図
付図7　G地区遺構配置図

図版目次

巻頭図版１　(1)Ｅ地区全景（東より）
　　(2)Ｇ１南調査区全景（東より）
巻頭図版２　(1)ＳＨ01出土遺物
　　(2)ＳＫ01出土遺物
　　(3)Ｆ地区出土有溝土錘

図版１　(1)Ａ地区西壁土層断面（東より）
　　(2)Ｂ地区南壁土層断面（北より）
図版２　(1)Ｂ地区北壁土層断面（南より）
　　(2)Ｃ地区南壁土層断面（北より）
図版３　(1)Ｄ地区南壁土層断面（北より）
　　(2)Ｅ地区南壁土層断面（北より）
図版４　(1)Ｆ地区南壁土層断面（北より）
　　(2)Ｇ１北調査区南壁土層断面(北より)
図版５　(1)Ｇ２地区北壁土層断面(南より)
　　(2)Ａ地区上層遺構全景（東より）
図版６　(1)Ａ地区下層遺構全景（東より）
　　(2)Ｂ地区全景（西より）
図版７　(1)Ｂ地区全景（東より）
　　(2)Ｃ地区全景（西より）
図版８　(1)Ｄ地区全景（東より）
　　(2)Ｅ地区全景（東より）
図版９　(1)Ｅ地区全景（西より）
　　(2)Ｆ地区全景（東より）
図版10　(1)Ｆ地区全景（西より）
　　(2)Ｆ地区全景（西より）
図版11　(1)Ｆ地区全景（西より）
　　(2)Ｇ１北調査区全景（西より）
図版12　(1)Ｇ２地区上層全景（西より）
　　(2)Ｇ２地区上層全景（東より）
図版13　(1)Ｇ２地区下層全景（南より）
　　(2)Ｇ１南調査区全景（東より）
図版14　(1)ＳＢ01（東より）
　　(2)ＳＫ01遺物出土状況（南より）
図版15　(1)ＳＫ01遺物出土状況（１）
　　(2)ＳＫ01遺物出土状況（２）
図版16　(1)ＳＫ01完掘状況
　　(2)ＳＤ03（北より）
図版17　(1)ＳＤ05土層断面（北より）
　　(2)ＳＲ01・11土層断面（北より）
図版18　(1)ＳＲ01・02・10・11土層断面
　　（北より）
　　(2)ＳＲ01遺物出土状況
図版19　(1)ＳＲ02 土層断面（北より）
　　(2)ＳＲ03，ＳＤ09土層断面
　　（北より）
図版20　(1)ＳＲ03遺物出土状況（西より）
　　(2)ＳＲ05・10・11土層断面
　　（北より）
図版21　(1)ＳＲ06土層断面（北より）
　　(2)ＳＲ07土層断面（北より）
図版22　(1)ＳＲ06遺物出土状況（南より）
　　(2)ＳＲ06遺物出土状況拡大
　　（南より）
図版23　(1)ＳＲ08（西より）
　　(2)ＳＲ09（南東より）

図版24 (1)ＳＲ09土層断面（南より）
(2)ＳＲ09遺物出土状況（１）
図版25 (1)ＳＲ09遺物出土状況（２）
(2)ＳＨ01（東より）
図版26 (1)ＳＨ01・02，ＳＥ01（北より）
(2)ＳＨ01遺物出土状況（１）
図版27 (1)ＳＨ01遺物出土状況拡大
(2)ＳＨ01遺物出土状況拡大
（韓式系土器）
図版28 (1)ＳＨ01遺物出土状況（２）
(2)ＳＨ02（南より）
図版29 (1)ＳＨ02遺物出土状況
(2)ＳＤ04・06（北より）
図版30 (1)ＳＤ07土層断面（北より）
(2)ＳＤ08土層断面（北より）
図版31 (1)ＳＤ08・09，ＳＲ03土層断面
(2)ＳＤ09遺物出土状況（西より）
図版32 (1)ＳＤ10土層断面（北より）
(2)ＳＤ11土層断面（北より）
図版33 (1)ＳＲ10・05土層断面（北より）
(2)ＳＲ10遺物出土状況
図版34 (1)ＳＲ10・11・01・05土層断面
（北より）
(2)ＳＢ02（北より）
図版35 (1)ＳＢ03（北より）
(2)ＳＢ03，ＳＰ0025遺物出土状況
図版36 (1)ＳＢ03，ＳＰ0025完掘状況
(2)ＳＢ03，ＳＰ0033遺物出土状況
図版37 (1)ＳＢ03，ＳＰ0034遺物出土状況
(2)ＳＢ04（西より）
図版38 (1)Ｅ地区ピット群（北より）
(2)ＳＰ0804遺物出土状況
図版39 (1)ＳＰ0804遺物出土状況拡大
(2)ＳＰ0094遺物出土状況
図版40 (1)ＳＰ0417柱材検出状況
(2)Ｆ地区ピット群（西より）
図版41 (1)Ｆ地区ピット群（南より）
(2)ＳＰ1018遺物出土状況
図版42 (1)ＳＰ1018柱痕検出状況
(2)ＳＫ02（西より）
図版43 (1)ＳＫ02完掘状況（北より）
(2)ＳＫ05（北より）
図版44 (1)ＳＥ01（南より）
(2)ＳＸ03遺物出土状況
図版45 (1)ＳＤ12土層断面
(2)ＳＤ13土層断面
図版46 (1)ＳＤ14土層断面（北より）
(2)ＳＤ14土層断面拡大（北より）
図版47 (1)ＳＤ15土層断面（北より）
(2)ＳＤ16土層断面（北より）
図版48 (1)ＳＤ17土層断面（北より）
(2)ＳＤ18土層断面（北より）
図版49 (1)ＳＤ18遺物出土状況
(2)ＳＤ19土層断面（西より）
図版50 (1)ＳＤ21～24（南より）
(2)ＳＤ24土層断面（北より）
図版51 (1)ＳＤ26・27・29～31（南より）
(2)ＳＤ28（南より）
図版52 (1)ＳＤ28獣骨出土状況
(2)ＳＤ32（北より）

図版53　(1)ＳＲ12（北より）
(2)Ｅ地区東壁遺物出土状況
図版54　(1)ＳＥ03検出状況
(2)ＳＥ03掘削状況
図版55　(1)ＳＥ03土層断面
(2)ＳＥ03土層断面拡大
図版56　(1)ＳＸ06(畝状遺構）全景(西より)
(2)ＳＤ33土層断面（北より）
図版57　(1)ＳＫ07～09，ＳＤ38（南より）
(2)ＳＫ10検出状況（東より）
図版58　(1)ＳＫ10木炭堆積状況（西より）
(2)ＳＤ38（南より）
図版59　(1)ＳＸ07土層断面
(2)ＳＫ12土層断面（南より）
図版60　(1)ＳＸ08土層断面（北より）
(2)ＳＤ43土層断面（南より）
図版61　ＳＫ01出土遺物(1)
図版62　ＳＫ01出土遺物(2)
図版63　ＳＫ01出土遺物(3)
図版64　ＳＫ01出土遺物(4)
図版65　ＳＲ01(21,33,35)・ＳＲ03(39～41)
出土遺物
図版66　ＳＲ06・07合流部出土遺物
ＳＲ07出土遺物
図版67　ＳＲ09出土遺物(1)
図版68　ＳＲ09出土遺物(2)
図版69　ＳＲ09出土遺物(3)
図版70　ＳＲ09出土遺物(4)
図版71　弥生時代包含層出土遺物(1)
図版72　弥生時代包含層出土遺物(2)
図版73　弥生時代包含層出土遺物(3)
図版74　弥生時代包含層出土遺物(4)
図版75　ＳＨ01出土遺物(1)
図版76　ＳＨ01出土遺物(2)
図版77　ＳＨ01(120,121,124,125)・ＳＨ02
(126,128)出土遺物
図版78　ＳＨ01出土遺物集合写真
ＳＨ01出土韓式系土器
図版79　ＳＤ09 出土遺物
ＳＤ11 出土遺物
図版80　古墳時代包含層出土遺物
図版81　ＳＢ03 出土遺物(1)
図版82　ＳＢ03 出土遺物(2)
図版83　Ｅ地区ピット群出土遺物(1)
図版84　Ｅ地区ピット群出土遺物(2)
図版85　Ｅ地区ピット群出土遺物(3)
図版86　Ｆ地区ピット群出土遺物
図版87　ＳＥ01出土遺物(1)
図版88　ＳＥ01出土遺物(2)
ＳＤ12出土遺物
ＳＤ18出土遺物
ＳＤ23出土遺物(1)
図版89　ＳＤ23出土遺物(2)
ＳＤ24出土遺物
図版90　ＳＤ25出土遺物
土錘集合写真
図版91　ＳＤ28出土遺物
図版92　ＳＲ12出土遺物(1)
図版93　ＳＲ12出土遺物(2)
古代・中世包含層出土遺物(1)

図版94　古代・中世包含層出土遺物(2)
図版95　古代・中世包含層出土遺物(3)
図版96　古代・中世包含層出土遺物(4)
図版97　古代・中世包含層出土遺物(5)
図版98　古代・中世包含層出土遺物(6)
図版99　古代・中世包含層出土遺物(7)
図版100　ＳＥ03(425～427)・ＳＤ33出土遺物
図版101　近世包含層出土遺物

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

昭和53年，一般国道11号「高松東道路」の建設が都市計画決定された。これに伴い，建設省四国建設局香川工事事務所より昭和62年５月29日付建四香第806号で，香川県教育委員会教育長あてに工事予定地内の埋蔵文化財発掘調査についての協力依頼がなされた。

香川県教育委員会では，これを受けて昭和63年３月７日付62教文発第427号で，埋蔵文化財の所在の確認調査が必要な地区とその面積（約18万㎡）を示し，用地買収の進捗に合わせて確認調査を実施し，本調査面積の確定を行う旨の回答を行った。

第１次の確認調査は，昭和61年12月17日から25日まで，高松市上天神町・三条町において実施され，上天神遺跡の所在と範囲を確定した。その後の協議の結果，昭和62年度に上天神遺跡の一部（約5,000㎡）の調査を実施した。

第２次の確認調査は，昭和62年10月５日～31日の期間で，高松市林町・六条町において実施され，林・坊城遺跡と六条・上所遺跡の範囲を確定した。

この結果をもとに，香川県教育委員会と建設省四国建設局香川工事事務所との協議により，昭和63年度以降の本調査は，香川県教育委員会を調査主体として，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当として実施することとなった。

その結果，昭和63年度に，前年度までに面積の確定していた上天神遺跡，林・坊城遺跡と六条・上所遺跡（一部未退去家屋あり）の発掘調査を実施した。

六条・上所遺跡の発掘調査は，昭和63年４月１日付「埋蔵文化財調査委託契約書」に基づき，工事請負調査と直営調査とを並行して実施したが，Ｃ・Ｇ地区に一部未退去家屋があったため，その部分は，平成３年４月１日付「埋蔵文化財調査委託契約書」に基づき，平成３年４月１日から４月30日までの期間で調査を実施した。

工事請負調査部分の面積は21,680㎡で，直営調査部分の面積は昭和63年度が 8,630㎡，平成３年度が870㎡の計31,180㎡である。当初の調査対象面積は34,300㎡であったが，春日川と古川の間の3,120㎡については用地買収後の平成２年度に試掘調査を実施したが，遺構・遺物ともに検出されず，調査対象面積から除外されることとなった。

第2節　調査の経過

1．発掘調査の経過

六条・上所遺跡は，高松市六条町に所在する。発掘調査は工事請負による調査と直営調査に分け，工事請負調査は昭和63年8月1日に開始し，平成元年3月20日に終了した。直営調査は昭和63年11月22日に開始し，平成元年3月31日に終了した。平成3年度の調査は直営調査により実施し，平成3年4月1日に開始し，4月30日に終了した。

調査体制は，以下のとおりである。

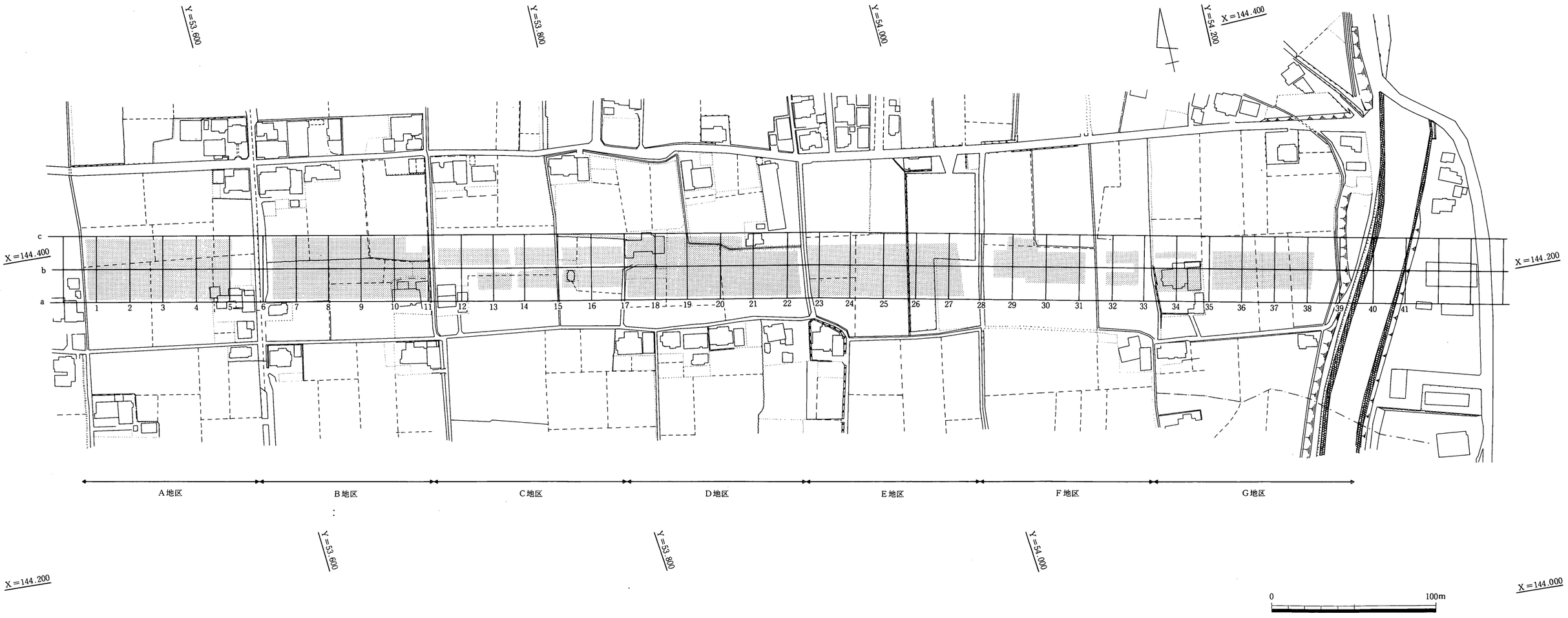
・昭和63年度

香川県教育委員会事務局文化行政課

総括	課長	廣瀬和孝
	課長補佐	高木　尚
	副主幹	野網朝二郎
総務	係長	宮内憲生
	主事	横田秀幸
	主事	水本久美子
埋蔵文化財	係長	大山真充
	技師	岩橋　孝
	技師	國木健司

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	田丸秀明
	次長	小原克己
総務	係長	加藤正司
	主査	山地　修
	主事	黒田晃郎
	参事	前田輝夫
調査	係長	廣瀬常雄
	主任技師	中野昇一（11.22～）
	技師	北山健一郎
	技師	稲田美穂子
	技師	宮崎哲治（11.22～）
	調査技術員	吉原明美
	調査技術員	西中一伸（11.22～）
	調査補助員	田村久雄（11.22～）


Y=53.600
Y=53.800
Y=54.000
Y=54.200
X=144.400
X=144.200
X=144.000
c
b
a
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
A地区
B地区
C地区
D地区
E地区
F地区
G地区
0
100m

第1図　グリッド配置図

・平成３年度

香川県教育委員会事務局文化行政課

総括	課長	太田彰一（～12.31）
	課長事務取扱	井上明俊（1.1～3.31）
	副主幹	野網朝二郎（～5.31）
	課長補佐	小原克己（6.1～）
総務	係長	宮内憲生
	主任主事	横田秀幸（～5.31）
	主事	櫻木新士（6.1～）
	主事	石川恵三子
埋蔵文化財	係長	藤好史郎
	主任技師	岩橋　孝
	主任技師	北山健一郎

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	十川　泉
	次長	安藤道雄
総務	係長	加藤正司
	主査	山地　修
	主任主事	黒田晃郎
調査	参事	前田輝夫
	係長	大山真充
	技師	古野徳久
	技師	市村拓二
	調査技術員	稲毛裕美
	調査補助員	田村久雄

調査区の設定は，複数の道路が調査対象地を南北に横切り，また用水路や出水などの保守の必要性から，南北方向は路線幅，東西方向は道路や用水路を境とするＡ～Ｇの調査区を設定した。（第１図）

調査の基準となる杭は，国道建設予定地のセンターライン上に20m間隔で打設した。さらに航空測量の際に同時に基準点測量を行い，国土座標との対応を図った。

遺構番号は，調査時に設定した番号を破棄し，整理段階で時代を特定し，時代ごとに新たに振り直した。ただし，ピットの遺構番号については繁雑になるため，西から順に振っている。

以下に調査日誌抄を掲げて，調査の詳細について報告する。

調査日誌（抄）

（昭和63年８月）

４日　六条・上所遺跡工事請負調査部分入札，（株）三井建設に落札。

８日　調査工程の打ち合せ。

18日　調査地の草刈開始。

22日　平板測量開始。

（昭和63年９月）

12日　Ｃ地区より表土掘削開始。

30日　ＳＢ01検出。ピット４つが並んでいる。

（昭和63年10月）

12日　Ａ地区の表土掘削開始。

17日　Ｃ地区包含層より完形の石匙が出土。

19日　Ｃ地区でＳＥ03検出。陶磁器を包含している。

（昭和63年11月）

９日　Ｄ地区表土掘削開始。

11日　Ａ地区でＳＤ群を検出。

22日　Ｂ地区表土掘削開始。Ｆ・Ｇ地区直営調査開始。

29日　Ａ地区ＳＤ群より壺・高杯等が出土。

（昭和63年12月）

14日　第２回航空測量実施。（Ａ地区上層）

26日　第３回航空測量実施。（Ａ地区下層）

（昭和64年１月）

７日　昭和天皇崩御。

（平成元年１月）

雨が多く，作業がはかどらない。

８日　今日より元号が「平成」と変わる。

（平成元年２月）

今月も全般的に雨が多く作業が思うように進まない。

６日　Ｂ地区でＳＢ02検出。

18日　Ｆ地区溝状遺構より多数の有溝土錘が出土。

23日　Ｄ地区航空測量実施。

（平成元年３月）

最後の調査区になって多数のピットや土坑，溝状遺構等を検出した。

７日　Ｂ地区自然河川より弥生土器が出土。

９日　Ｂ地区航空測量実施。

15日　Ｅ地区ＳＢ03のピットより土師器杯と小皿が数枚づつ出土した。地鎮にでも使用し

たのであろうか？

Ｆ地区北拡張区で掘立柱建物跡（ＳＢ04）を検出。

17日　Ｅ地区で多量のピットが出土，平板測量が困難を極める。

20日　Ｅ地区の全景写真を撮影し，何とか調査を終える。

（平成３年４月）

９日　Ｇ１南調査区，作業員就労開始。

23日　東部で竪穴住居跡と思われる方形の遺構を２棟確認，土師器の小型丸底壺や韓式系土器が出土した。また，中央北よりの部分で弥生土器の廃棄土坑を検出。多量の土器を含んでいる。

25日　韓式系土器を取り上げる。

30日　弥生土器の廃棄土坑を完掘し，調査終了。

発掘調査に従事した方々

乙武孝男	柏原　巧	柏原義明	久保竹義	富川政信
細谷祐義	本田昌男	丸川正則	井上ユキノ	植松美知子
太巻房子	内海花子	岡田春野	乙武文江	楠原ひとみ
久保トリ子	桑島アキ子	鍬島美智子	十河信子	十川芳子
高澤由紀子	高橋三千代	高橋光子	田中キヨ	田村都孟子
西谷政江	平田圭子	福家タミ	本田貞子	松上初子
三好モト	森澤千尋	吉田絹代	吉田千代子	脇千代枝

学生アルバイト

白石浩司（香川大学学生）　神保美智子（徳島文理大学学生）

山田明子（徳島文理大学学生）　矢野日登美（香川大学学生）

2．整理作業の経過

整理作業は，平成６年４月１日より平成６年９月30日まで実施した。整理作業は，古野・宮崎の協力を得て北山が担当した。整理作業は第１表の工程表のとおりである。

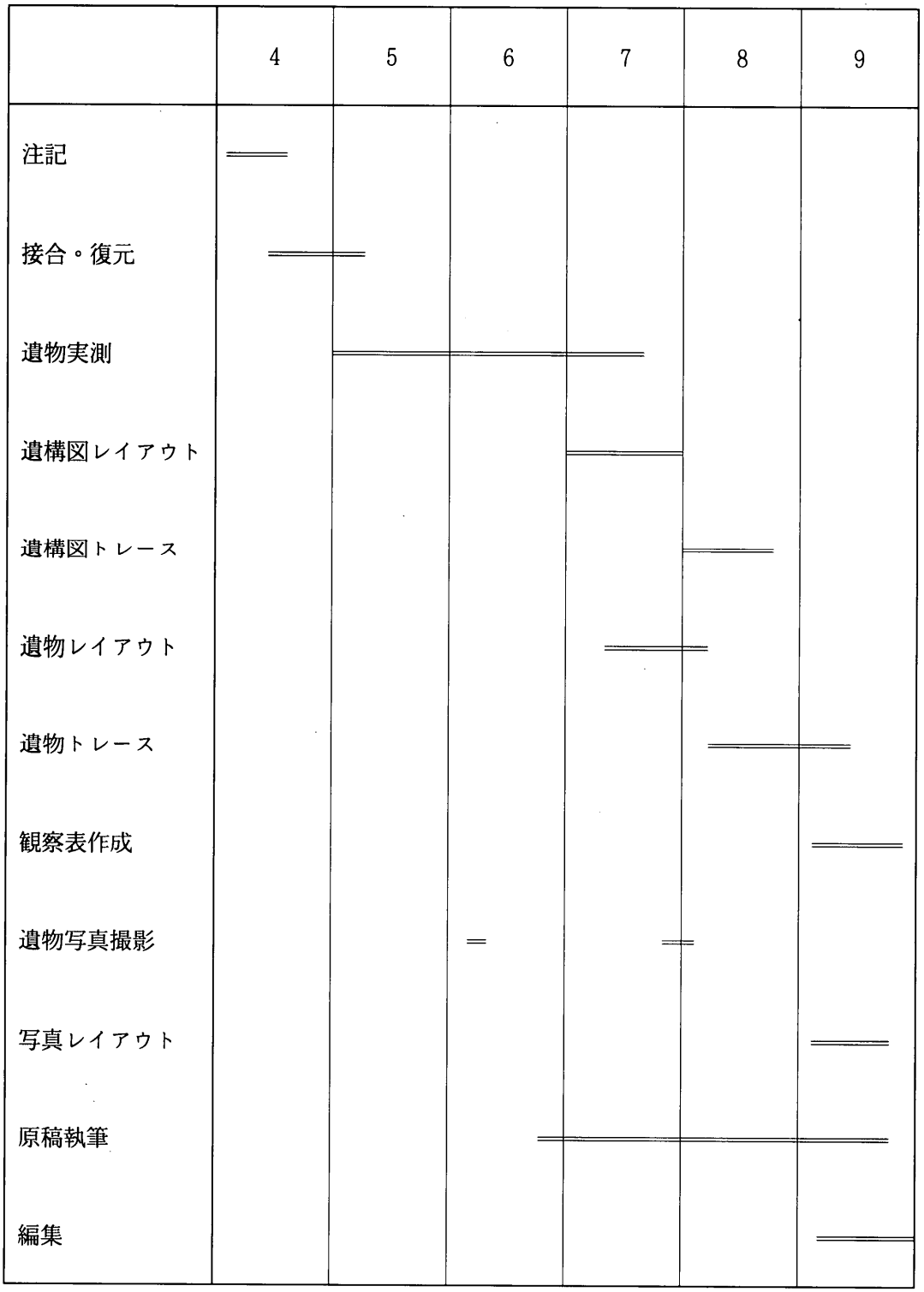
平成６年度の整理体制は，以下のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課

総括	課長	高木　尚
	主幹	小原克己
	課長補佐	高木一義
総務	係長	源田和幸
	主任主事	櫻木新士（～5.31）
		星加宏明（6.1～）
	主事	藤原和子（～5.31）
		高倉秀子（6.1～）
埋蔵文化財	係長	藤好史郎
	主任技師	國木健司
	主任技師	森下英治

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	松本豊胤
	次長	真鍋隆幸
総務	係長	土井茂樹（～5.31）
		前田和也（6.1～）
	主査	大西健司
整理担当	係長	廣瀬常雄
	主任技師	北山健一郎
	整理補助員	青木民江
		猪木原美恵子
	整理作業員	大原江里子
		岡野雅子
		多田見和
		吉田育代
		大林由佳
		岩崎美穂（6.1～）


4
5
6
7
8
9
注記
接合・復元
遺物実測
遺構図レイアウト
遺構図トレース
遺物レイアウト
遺物トレース
観察表作成
遺物写真撮影
写真レイアウト
原稿執筆
編集

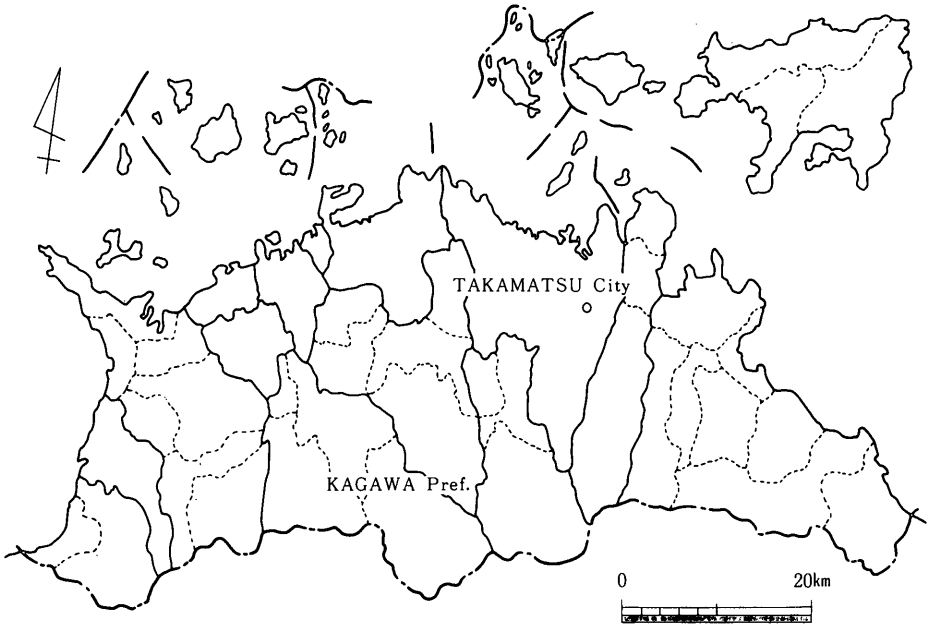
第1表　整理作業工程表

第2章　立地と環境

第1節　地理的環境

六条・上所遺跡は高松平野の中央部やや東よりに所在する遺跡で，行政区域としては，高松市六条町に属する。

高松平野は，北側に穏やかな瀬戸内海が広がり，南側を標高800～1,000ｍの讃岐山脈（阿讃山地）に，西側が南の堂山から五色台へと続く山地に，東側を立石山・雲附山・五瀬山山地に取り囲まれた扇状地で，東西約12km，南北約10kmの広がりをもっている。讃岐山脈は，和泉層群と花崗岩層から成っており，北側に洪積台地が続いている。高松平野を囲む山地はいずれも基盤となる花崗岩の上に侵食を受けにくい安山岩が被っており，台状の平坦部を有するメサ台地もしくは孤立した丘陵のビュートとなっている。安山岩の一部はサヌカイトとして特に有名であり，五色台は日本有数のサヌカイト産地として知られている。また，メサ台地は特に西側の五色台や東側の屋島などに顕著である。東側の山地は他と違い，開析が進んでおり，白山・由良山などの多数のビュートがあちこちに点在する。



第2図　六条・上所遺跡位置図

沖積世に入ると，平野西部の本津川・香東川，平野東部の春日川・新川等の堆積作用により本格的に高松平野が形成される。これらの河川はいずれも近世に大規模な改修を受け，特に香東川は現在では開析溶岩台地の石清尾山山塊の西側を流れるが，これは寛永２～16（1625～1639）年に高松藩の西島八兵衛により，現在の香川町浅野付近で付け替えられたもので，本来は石清尾山山塊の東側を流れていたものである。(1)

香東川の堆積力は主要河川の中でも最も大きく，香川町川東の西部付近を扇頂，紫雲山・浄願寺山付近を扇端とし，春日川の西側約500ｍ付近まで及ぶ，凹凸が少なく南から北に向かって緩やかに傾斜する扇状地を形成している。このため，古くから開発が盛んで，現存する最古の田図である「弘福寺領讃岐国山田郡田図」(2)（天平７年）に見られるような条里地割による方格地割が現在も残っている。

六条・上所遺跡もこの扇状地に属し，標高９～10ｍを測る。

(1) 『香川県史３』四国新聞社　1988

(2) 『讃岐国弘福寺領の調査　弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会　1992年

参考文献

(1) 『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅰ』高松市教育委員会　1988

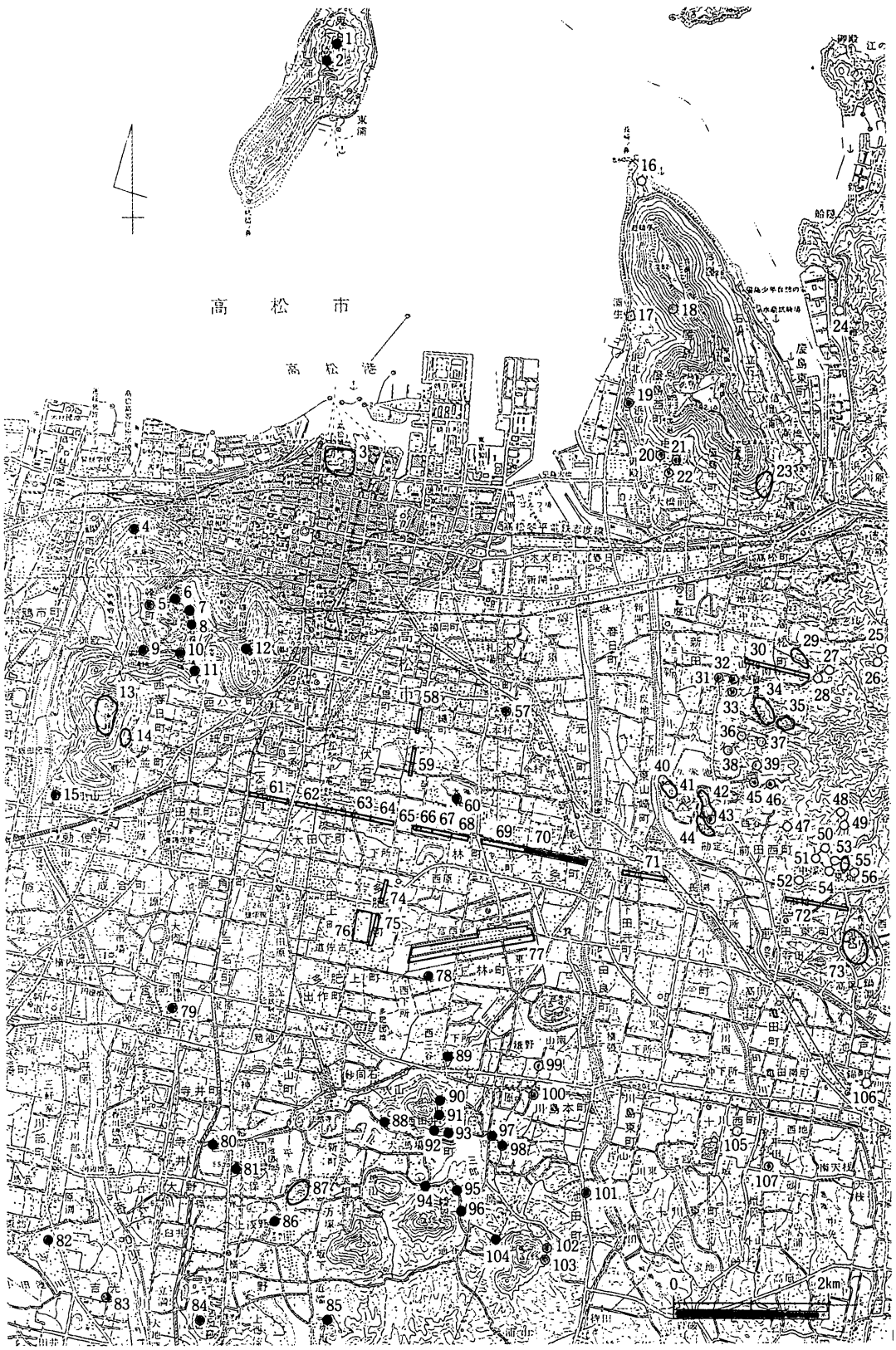
(2) 『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅱ』高松市教育委員会　1989

(3) 『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅲ』高松市教育委員会　1990

(4) 『讃岐国弘福寺領の調査　弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会　1992年

第２節　歴史的環境

本遺跡の立地する高松平野は，古くから遺跡の多い地域として知られてきた。周知の遺跡が分布するのは，高松平野東部から南部にかけての平野と丘陵が接する部分の丘陵上と，高松平野北西部に位置する石清尾山塊に集中しており，また，そのほとんどが古墳であり，高松平野の中央部については遺跡の分布はほとんど知られていなかった。しかし，当センターや高松市教育委員会によって平野の中央部で発掘調査が実施された結果，平野中央部



第3図　周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備考	参考文献
1	鷲ヶ峰遺跡	高松市女木町			製塩土器		
2	女木丸山古墳	高松市女木町	古墳	円墳　直径15m　組合式箱式石棺	純金製鎖式耳飾り・鉄刀・鉄鏃	1964年調査	10・18
3	高松城跡	高松市玉藻町	近世			1990年調査	13・27
4	下ノ山遺跡	高松市西宝町	弥生	（青銅器埋納地）	広形銅矛2口	1982・83年出土	11
5	摺鉢谷9号墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳　全長27m　列石		積石塚	5・16・23
6	北大塚古墳	高松市宮脇町	古墳	前方後円墳　全長40m　石積み	土師器細片	積石塚	5・16・23
7	鏡塚古墳	高松市峰山町	古墳	双方中円墳　全長70m　竪穴式石槨？		積石塚　盗掘	5・16・23
8	石船塚古墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳　全長57m　刳抜式石棺	変形神獣鏡　円筒埴輪	積石塚　棺身に造り付けの石枕	5・16・23
9	猫塚古墳	高松市鶴市町	古墳	双方中円墳（双方中方墳）全長96m	内行花文鏡・獣帯鏡・四獣鏡・三角縁神獣鏡・筒形銅器・銅鏃・石剣・土師器壺	積石塚　大盗掘	5・16・23
10	姫塚古墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳　全長43m		積石塚	5・16・23
11	鶴尾神社4号墳	高松市西春日町	古墳	前方後円墳　全長47m　縦穴式石槨	方格規矩鏡・土師器片	積石塚1970・81年調査	9・10・23
12	稲荷山姫塚古墳	高松市宮脇町	古墳	前方後円墳　全長58m	土師器片	積石塚　盗掘	5・16・23
13	浄願寺山古墳群	高松市西春日町	古墳	小円墳		50基程度	10
14	南山浦古墳群	高松市西春日町	古墳	小円墳　横穴式石室	須恵器・土師器・鉄器・ガラス玉・金環	13基程度	10・12
15	ガメ塚古墳	高松市飯田町	古墳	前方後円墳		消滅	
16	長崎朶古墳	高松市屋島東町	古墳	前方後円墳　全長33m　縦穴式石槨			10・23
17	浦生遺跡	高松市屋島西町	古墳			製塩遺跡	
18	屋島城跡	高松市屋島西町	古代	石塁・水門跡		1980年調査	23・25
19	浜北古墳群	高松市屋島西町	古墳			1号墳は前方後円墳	
20	中筋北古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳　組合式石棺			
21	屋島中央東古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳　横穴式石室		1968年消滅	
22	屋島中央西古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳　横穴式石室			
23	湯の谷古墳群	高松市屋島東町	古墳	円墳			
24	丸山遺跡	木田郡庵治町	弥生		中細形銅鉾1口		
25	大空遺跡	高松市高松町	弥生	土坑	弥生土器・製塩土器	1951年調査	10・17
26	スベリ山南遺跡	高松市高松町	弥生		弥生土器	1955年出土	
27	南谷古墳	高松市高松町	古墳	円墳	須恵器平瓶	消滅	
28	南谷遺跡	高松市高松町	弥生		弥生土器・製塩土器	1976・1987年出土	10・21
29	長尾古墳群	高松市高松町	古墳	円墳　横穴式石室			
30	小山・南谷遺跡	高松市高松町	弥生	竪穴住居跡	弥生土器・製塩土器	1993～調査継続中	44・53
31	小山古墳	高松市新田町	古墳	横穴式石室（複式構造）	須恵器長頸壺	1950年消滅	21
32	石塚古墳	高松市新田町	古墳	円墳　横穴式石室	円筒埴輪	消滅	
33	山下古墳	高松市新田町	古墳	横穴式石室		1987年調査	7・10・23
34	岡山小古墳群	高松市新田町	古墳	小円墳		15基程度	
35	岡山古墳群	高松市新田町	古墳	小円墳　横穴式石室		1号墳は前方後円墳3基	
36	丸山古墳	高松市新田町	古墳			消滅	
37	大谷山古墳	高松市新田町	古墳			消滅	
38	久本古墳	高松市新田町	古墳	円墳？　横穴式石室　石棚	土師質陶棺・承盤付銅椀・須恵器	1975年調査	10・22・23

第2表　周辺遺跡一覧表①

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備考	参考文献
39	久本山東峯古墳	高松市新田町	古墳	円墳　組合式石室			
40	諏訪神社古墳	高松市東山崎町	弥生～古墳	竪穴式石槨３基	碧玉製管玉・土器枕	1990年調査	30
41	久米山古墳群	高松市東山崎町	古墳	円墳		６基程度	
42	久米池南遺跡	高松市新田町	弥生		弥生中期土器・石器・絵画土器・鉄器	1987～88年調査	15
43	高松市茶臼山古墳	高松市前田西町	古墳	前方後円墳　全長75m　竪穴式石槨２基　箱式石棺　土壙墓	画文帯重列神獣鏡・鍬形石・玉類・鉄剣鉄刀・土師器壺・鉄鏃・鉄斧	1969年調査	4・10・23
44	茶臼山古墳群	高松市東山崎町	古墳	円墳		５基程度	
45	北山古墳	高松市新田町	古墳	古墳　直径20m　粘土槨舟形木器		1972年調査消滅	
46	滝本神社古墳	高松市前田西町	古墳	横穴式石室（T字形）		小型石棺が出土したという	
47	田楽古墳	高松市前田西町	古墳	円墳　横穴式石室			
48	金石山１号墳	高松市前田西町	古墳	円墳　箱式石棺			
49	金石山２号墳	高松市前田西町	古墳	円墳　横穴式石室			
50	平尾１号墳	高松市前田西町	古墳	円墳　横穴式石室			
51	平尾２号墳	高松市前田西町	古墳	円墳　横穴式石室			
52	宝寿寺跡	高松市前田西町	白鳳	礎石	瓦		
53	平尾３号墳	高松市前田東町	古墳	円墳　横穴式石室			
54	平尾４号墳	高松市前田東町	古墳	円墳　横穴式石室			
55	平尾小古墳群	高松市前田東町	古墳	小円墳　横穴式石室		10基程度	
56	山本古墳	高松市前田東町	古墳	円墳			
57	白山神社古墳	高松市木太町	古墳	円墳		1985年調査	
58	天満・宮西遺跡	高松市松縄町	弥生～近世	竪穴住居・掘立柱建物・溝状遺構・土坑	弥生土器・石庖丁・紡錘車・舟形木器	1989年調査	24・29
59	松縄下所遺跡	高松市松縄町	古代	掘立柱建物・道路状遺構・溝状遺構	須恵器	1991年調査	24
60	大池遺跡	高松市木太町	旧石器		有舌尖頭器	採集	
61	上天神遺跡	高松市上天神町	弥生	掘立柱建物・溝状遺構・土坑・自然河川	弥生土器・石器（石庖丁・石鏃）	1987・88・91・92年調査	27・28・32
62	太田下・須川遺跡	高松市太田下町	弥生～古代	竪穴住居・掘立柱建物・溝状遺構・土坑	弥生土器・絵画土器・須恵器・木器	1989年調査	29・30・33
63	蛙股古墳	高松市伏石町	弥生				
64	居石遺跡	高松市伏石町	縄文～近世	溝状遺構・自然河川・土坑	縄文土器・弥生土器・小型仿製鏡３面	1991年調査	24
65	井手東Ⅰ遺跡	高松市伏石町	縄文～近世	溝状遺構	縄文土器・弥生土器・木器	1991年調査	24
66	谷・長池Ⅱ遺跡	高松市伏石町	弥生～近世	水田跡・竪穴住居・溝状遺構・土坑	弥生土器	1991年調査	24
67	谷・長池遺跡	高松市林町	縄文～中世	竪穴住居・掘立柱建物・水田跡	縄文土器・弥生土器・木器	1989・90年調査	29
68	谷・松ノ木遺跡	高松市林町	弥生～近世	溝状遺構・自然河川・水田跡	弥生土器	1990年調査	30
69	林・坊城遺跡	高松市林町	縄文～中世	掘立柱建物・溝状遺構・土坑・自然河川・円形周溝状遺構	縄文土器・弥生土器・石器・木器（鍬・小型鋤状木製品・柄付半蔵木製品・えぶり）	1988年調査	28・32
70	六条・上所遺跡	高松市六条町	弥生～近世	掘立柱建物・溝状遺構・土坑・竪穴住居	弥生土器・陶質土器・韓式土器・須恵器	1989・90年調査	28・32・35
71	東山崎・水田遺跡	高松市東山崎町	中・近世	掘立柱建物・井戸・溝状遺構・土坑	土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・木器	1988年調査	28・32・36
72	前田東・中村遺跡	高松市前田東町	縄文～中世	掘立柱建物・自然河川・方形周溝墓・土坑・溝状遺構・平窯	縄文土器・古式土師器・緑釉陶器・墨書土器・輸入青白磁・木器	1988・89・90・91年調査	28～30・32～35
73	楾八原遺跡	木田郡三木町	弥生・古墳	溝状遺構・台状墓・円墳	弥生土器・土師器・須恵器	1980・81年調査	10

第３表　周辺遺跡一覧表②

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備考	参考文献
74	凹原遺跡	高松市多肥下町	弥生～中世	竪穴住居・溝状遺構・土坑・噴砂	弥生土器・古式土師器	1990・91年調査	24・30
75	日暮遺跡	高松市多肥上町	弥生	竪穴住居跡・自然河川	弥生土器	1990年～調査継続中	
76	多肥松林遺跡	高松市多肥上町	弥生	竪穴住居跡・自然河川	弥生土器・剣形木製品	1993・94年調査	44・49・50・53
77	空港跡地遺跡	高松市林町	弥生～近世	竪穴住居・掘立柱建物・溝状遺構・円形周溝墓・方形周溝墓・水田跡	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・瓦器・緑釉陶器・石器・呪符木簡・北宋銭	1991～94年調査	33～38・42～44・52・53
78	拝師廃寺	高松市上林町	奈良				
79	田村神社遺跡	高松市一宮町	弥生		弥生土器	採取	2
80	舟岡山古墳	香川郡香川町	古墳	前方後円墳		1977年調査	8・10・23
81	舟岡古墳	香川郡香川町	古墳	円墳？竪穴式石槨？		半壊　主体部一部露出	
82	若宮神社古墳	高松市川部町	古墳	横穴式石室			
83	佐賀神社古墳	香川郡香南町	古墳	横穴式石室			
84	横岡山古墳	香川郡香川町	古墳	横穴式石室	須恵器・鉄剣・銅環	半壊	3
85	東赤坂古墳	香川郡香川町	古墳	円墳　径30m　横穴式石室	須恵器		
86	八王子古墳	香川郡香川町	古墳	横穴式石室	土師器・須恵器・鉄鏃・切子玉・馬具	1973年調査消滅	20
87	万塚古墳群	香川郡香川町	古墳	横穴式石室（万塚古墳）	鉄刀・馬具・金環・ガラス玉	1971年調査消滅	19
88	雨山南古墳	高松市三谷町	古墳	円墳　径10m　横穴式石室	馬具		
89	加摩羅神社古墳	高松市三谷町	古墳				
90	平石上1号墳	高松市三谷町	古墳	円墳　直径20m		前方後円墳の可能性	
91	平石上2号墳	高松市三谷町	古墳			1986年調査	
92	瘤山1号墳	高松市三谷町	古墳	前方後円墳　全長27m　竪穴式石槨	鏡・家形埴輪が出土したという		1
93	瘤山2号墳	高松市三谷町	古墳	円墳　径10m			
94	矢野面古墳	高松市三谷町	古墳	横穴式石室		半壊	
95	三谷三郎池遺跡	高松市三谷町	縄文		縄文土器	採取	
96	三谷三郎池西岸窯跡	高松市三谷町	古墳	登り窯	須恵器	1983年調査	26
97	三谷石船池古墳群	高松市三谷町	古墳	円墳　横穴式石室	須恵器・鉄鏃・ガラス小玉	1989年～調査継続中	24
98	三谷石船古墳	高松市三谷町	古墳	前方後円墳　全長90m　刳抜式石棺	玉類・埴輪が出土したという		10・23
99	高野丸山古墳	高松市川島本町	古墳	円墳　直径60m　集濠	円筒埴輪	前方後円墳の可能性	1
100	高野南古墳群	高松市川島本町	古墳				
101	光専寺山遺跡	高松市池田町	弥生	環濠？	弥生土器・石器	1983年調査	10・23
102	中山田遺跡	高松市西植田町	弥生	竪穴住居・掘立柱建物・テラス状遺構	弥生土器・石器・分銅形土製品	1977年調査	10・23
103	中山田古墳群	高松市西植田町	古墳	円墳　横穴式石室	鉄器・馬具・銀環・須恵器・玉類	1977年調査	10
104	三谷通谷遺跡	高松市三谷町	弥生	円形周溝・壺棺墓	壺棺	1974年調査	6
105	西尾遺跡	高松市十川西町				1993年調査	
106	香川大学農学部遺跡	木田郡三木町	弥生		弥生土器		14
107	十川東・平田遺跡	高松市十川東町	弥生～中世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡	弥生土器・土師器・須恵器	1994年調査	51・53

第4表　周辺遺跡一覧表③

にも多くの遺跡が存在することが確認された。特に，国道11号線のバイパスである高松東道路建設に伴う発掘調査と，旧高松空港跡地の開発に伴う発掘調査は，高松平野中央部における初めての大規模な発掘調査である。高松東道路建設に伴う発掘調査は平野を東西に横断する大きなトレンチのような線的なもので，遺跡の立地のみならず高松平野の形成と変遷にまで迫るものであるといえる。また，新設高校建設予定地や太田第２土地区画整理事業等に伴う発掘調査においても新たな資料の発見が相次いでいる。これらの発掘調査は，いくつもの新知見をもたらしているが，高松平野中央部の研究はまだまだ緒についたばかりである。本節では，各時代別に周辺の遺跡を概観してみる。

１．縄文時代以前

旧石器時代および縄文時代の遺跡は極端に少なく，旧石器時代の遺跡としては，久米池南遺跡や雨山南遺跡で国府型ナイフ形石器が採集されており，平野中央部の大池遺跡では有舌尖頭器が採集されている。また，四国横断自動車道（高松～善通寺間）建設に伴う発掘調査により高松平野西部の中間・西井坪遺跡から旧石器のユニットが出土している。高松東道路関連の発掘調査では東山崎・水田遺跡で有舌尖頭器が出土している。

縄文時代は前期の下司遺跡，後期の三谷三郎池遺跡，晩期末と考えられる光専寺山遺跡など，高松平野南部の山麓地帯の遺跡が知られているが，当センターが調査した前田東・中村遺跡で注口土器を含んだ後期の土器が多量に自然河川から出土し，さらに晩期の土坑から凸帯文土器がわずかに出土しているが，この遺跡も高松東部の山麓地帯に位置している。平野中央部には自然河川から多量の晩期末の凸帯文土器とともに木製農耕具が出土した林・坊城遺跡や，やはり自然河川より原下層式併行の土器が出土している居石遺跡等が知られており，今後も高松平野中央部で縄文時代晩期の遺跡が発見される可能性は高い。

２．弥生時代

弥生時代の遺跡には，前期・中期に属する遺跡は少なく，後期に属する遺跡が圧倒的に多い傾向を示している。

前期の遺跡は平野中央部に位置する天満・宮西遺跡や浴・長池Ⅱ遺跡，山麓部に位置する諏訪神社遺跡，光専寺山遺跡などがあげられる。天満・宮西遺跡では環濠が検出され，浴・長池Ⅱ遺跡では前期と考えられる小区画水田が検出されている。諏訪神社遺跡でも環濠と考えられる溝状遺構が検出されている。

中期の遺跡はこれまでほとんど知られておらず，わずかに石清尾山山頂の摺鉢谷遺跡，平野東部の低丘陵上の久米池南遺跡，平野南部山麓地帯の中山田遺跡などがあるにすぎなかった。しかしながら，近年の高松市教育委員会による調査で平野中央部に位置する凹原遺跡，浴・長池Ⅱ遺跡，井手東Ⅰ遺跡，当センターが調査した前田東・中村遺跡で，中期の遺構が検出されている。凹原遺跡では中期中頃の竪穴住居跡が１棟検出されており，石器製作の場に利用されていたことが判明している。浴・長池Ⅱ遺跡でも竪穴住居跡が検出されており，井手東Ⅰ遺跡では溝状遺構から櫛描文を中心とする土器群と共に鍬・鋤といった農耕具，弓・琴などの木製品が出土している。前田東・中村遺跡では中期後半の方形周溝墓を１基検出している。また，高校新設に伴う多肥松林遺跡では自然河川から大量の木器が中期の土器と共に出土した。このなかには鍬等の農具のほかに中細形銅剣を模倣した剣形木製品があり，注目される。しかし中期の遺跡の動向については，今後の平野部での調査に期待されるところが大きい。

後期に入ると遺跡の数ははるかに増加する。山麓部に位置する遺跡としては大空遺跡，南谷遺跡，葛谷遺跡，三谷三郎池遺跡，三谷通谷遺跡，円養寺遺跡などがあげられるが，発掘調査が実施された遺跡は少なく，内容の不明な遺跡が多い。大空遺跡は一辺１ｍ程の土坑から40点余りの完形土器が出土しており，北四国における弥生時代後期初頭の標識遺跡として著名な遺跡である。南谷遺跡では後期の土器と共に多量の製塩土器片が採集されている。三谷通谷遺跡と円養寺遺跡は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての墳墓が確認されている遺跡である。平野中央部でも，当センターと高松市教育委員会による発掘調査で後期の遺跡の存在が確認されてきている。上天神遺跡は竪穴住居跡を中心とする遺構群を検出しており，拠点集落の一つである可能性が高い遺跡である。居石遺跡では自然河川の川岸から弥生時代終末の３面の小型仿製鏡が出土しており，水辺の祭祀との関連が想定されている。凹原遺跡では微高地上に14棟の竪穴住居跡が検出されている。前田東・中村遺跡では「周溝墓」と考えられる溝状遺構を検出しており，自然河川から多量の土器が出土している。林・坊城遺跡でも陸橋部を持った後期後半の円形周溝状遺構を１基検出している。空港跡地遺跡では竪穴住居跡をはじめとして，円形・方形や前方後方形などの周溝状遺構を検出している。また，太田下・須川遺跡でも竪穴住居跡を検出しており，また，自然河川から鹿の線刻のある土器片が出土しており注目に値する。

3．古墳時代

古墳時代では，積石塚で著名な石清尾山古墳群をはじめとする古墳が多く知られているのに対して，集落遺跡はほとんど知られていない。この点，当遺跡で該期の竪穴住居跡等を検出していることは重要である。今後，平野中央部での調査が進むにつれて集落遺跡も検出されるものと思われる。

前期から中期にかけての古墳は平野の縁辺部の丘陵上に立地する。平野北西部の石清尾山山塊上には2基の双方中円墳（猫塚・鏡塚）・9基の前方後円墳（北大塚・石船塚・稲荷山姫塚・姫塚・鶴尾神社4号墳・摺鉢谷9号墳など）の積石塚に10数基の円墳・方墳を加えた大古墳群である石清尾山古墳群が所在し，平野東部では前方後円墳である高松市茶臼山古墳が低丘陵の頂部に立地している。平野南部においては丘陵上に船岡山古墳や三谷石船古墳が築かれている。他にも円墳をはじめとする多数の古墳が築かれているが，いずれも丘陵上や山麓部に立地している。このような傾向を示す中で，平野の中央部の海岸近くに1基のみで所在する，小規模な円墳の白山神社古墳は特異な存在といえよう。

後期になると横穴式石室を主体部にもつ小型の円墳が群集して出現してくる。前述の石清尾山古墳群のうち大半は横穴式石室墳で，山麓から山頂にかけての各所に見ることができる。これらの小規模な横穴式石室墳は南山浦古墳群・浄願寺山古墳群というようにいくつかの支群に分かれる。数では他の古墳群を圧倒する石清尾山古墳群ではあるが，小規模な横穴式石室をもつものが多く，巨大な石室を主体部とする古墳は見られない。平野の東縁部には山下古墳・久本古墳・小山古墳といった巨大な横穴式石室をもつ古墳が集中している。こられの巨大な石室墳は古墳時代終末期に築かれたものであろう。また，滝本神社古墳は平面形態がT字形の石室を持っており注目される。この地域にも古墳群は存在しているが数基単位で古墳群を形成しており，大規模なものはみられない。平野南部にも大型の横穴式石室をもつ矢野面古墳をはじめとして，いくつかの古墳の存在が知られているが，数基単位の小さな古墳群が散在しているにすぎない。

次に集落遺跡であるが，古墳の数に比べると圧倒的に少ない。当センターが調査した平野中央部やや西側の太田下・須川遺跡では5世紀代の竪穴住居跡を数棟検出しており，集落がこの辺りに広がっている可能性を示唆している。また，溝状遺構から須恵器の樽形𤭯や器台等が出土している。その他，前田東・中村遺跡では自然河川から古墳時代前期の土器とともに木樋・弓・斧柄・木錘などの多量の木製品が出土していることから，周囲に集落の存在が想定される。他にも高松市教育委員会が発掘調査した天満・宮西遺跡や凹原遺

跡などでも集落遺構が検出されていることから，今後発掘調査が進むにつれて多くの集落遺跡が検出されるであろう。

4．古代

古代の遺跡では前田東・中村遺跡で大きな規模をもつ掘立柱建物跡群を検出しており，さらに帯金具・墨書土器・緑釉陶器などといった出土遺物から官衙的な役割を有していた可能性が指摘されている。高松市教育委員会が調査した松縄・下所遺跡では7世紀中頃～8世紀後半までの幹線道路状遺構を検出している。高松平野の条里制施行に何らかの形で関わっているものであろう。高松平野の土地利用については，天平7年（735）に描かれた「弘福寺領讃岐国山田郡田図」が残されており奈良時代の村落の状況をうかがうことができる。この田図に描かれた地域は当遺跡の東方一帯に比定されると考えられており，高松市教育委員会によって発掘調査を含めた総合的な調査が進められ，貴重な成果が得られている。高松平野は現在でもほぼ全域に方格地割が認められる地域であり，今後の研究に大きな期待が寄せられている。

5．中世・近世

中世・近世の遺跡としては，城跡や城館跡などが知られているが，集落遺跡としては当センターが調査した東山崎・水田遺跡がある。掘立柱建物跡群や井戸などを検出したが，なかでも掘立柱建物跡を囲むように検出した溝状遺構は，近世の屋敷跡の可能性がある。その他，前田東・中村遺跡でも掘立柱建物跡を検出している。

城跡等としては，天正16年（1588）に生駒親正によって築城された高松城跡（国指定史跡）が天守閣は消失しているものの典型的な水城としての縄張を今に伝えている。

参考文献

（1）『木田郡史』1940

（2）『一宮村史』1965

（3）『香川郡史』1970

（4）『高松市茶臼山古墳緊急発掘調査概報』香川県教育委員会　1970

（5）『石清尾山塊古墳群調査報告』高松市教育委員会　1973

（6）『高松市三谷通谷遺跡調査概報』高松市教育委員会　1974

(7)『高松市・山下古墳調査報告』香川県教育委員会　1980
(8)『香川町・船岡山古墳調査報告』香川県教育委員会　1980
(9)『鶴尾神社4号墳調査報告書』高松市教育委員会　1983
(10)『新篇・香川叢書考古篇』香川県教育委員会　1983
(11)『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館　1983
(12)『南山浦古墳群調査報告書』高松市教育委員会　1985
(13)『高松城東ノ丸跡発掘調査報告書』香川県教育委員会　1987
(14)『香川県史』第1巻　原始・古代　1988
(15)『久米池南遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会　1989
(16)梅原末治『讃岐高松石清尾山石塚の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第12冊　1933
(17)竺林徳　『高松市高松町すべり山出土弥生式遺物報告書』1955
(18)森井　正「高松市女木島丸山古墳」『香川県文化財調査報告第8』香川県教育委員会　1966
(19)中原耕男「万塚古墳発掘調査報告」『文化財協会報　特別号』第10号香川県文化財保護協会　1971
(20)井上勝之「香川町浅野八王子古墳調査報告」『文化財協会報』第58号香川県文化財保護協会　1973
(21)小竹一郎他『古高松郷土誌』古高松郷土誌編集委員会　1977
(22)松本敏三「久本古墳・横穴式石室の一例」『教育香川』1977
(23)廣瀬常雄『日本の古代遺跡8　香川』保育社　1983
(24)山元敏裕・山本英之「香川県埋蔵文化財研究会発表資料」1992
(25)『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和55年度』香川県教育委員会　1981
(26)『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和56年度』香川県教育委員会　1982
(27)『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和57年度』香川県教育委員会　1983
(28)『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和58年度』香川県教育委員会　1984
(29)『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和59～62年度』香川県教育委員会　1988
(30)『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和63年度』香川県教育委員会　1989
(31)『香川県埋蔵文化財調査年報　平成元年度』香川県教育委員会　1990
(32)『香川県埋蔵文化財調査年報　平成2年度』香川県教育委員会　1991
(33)『香川県埋蔵文化財調査年報　平成3年度』香川県教育委員会　1992
(34)『香川県埋蔵文化財調査年報　平成4年度』香川県教育委員会　1993
(35)『香川県埋蔵文化財調査年報　平成5年度』香川県教育委員会　1994
(36)『空港跡地遺跡発掘調査概報　平成3年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査

センター　1992

(37)『空港跡地遺跡発掘調査概報　平成4年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　1993

(38)『空港跡地遺跡発掘調査概報　平成5年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　1994

(39)『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　昭和63年度』1989

(40)『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成元年度』1990

(41)『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成2年度』1991

(42)『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成3年度』1992

(43)『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成4年度』1993

(44)『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成5年度』1994

(45)『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第1冊　東山崎・水田遺跡』香川県教育委員会　1992

(46)『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第2冊　林・坊城遺跡』香川県教育委員会　1993

(47)『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第3冊　前田東・中村遺跡』香川県教育委員会　1994

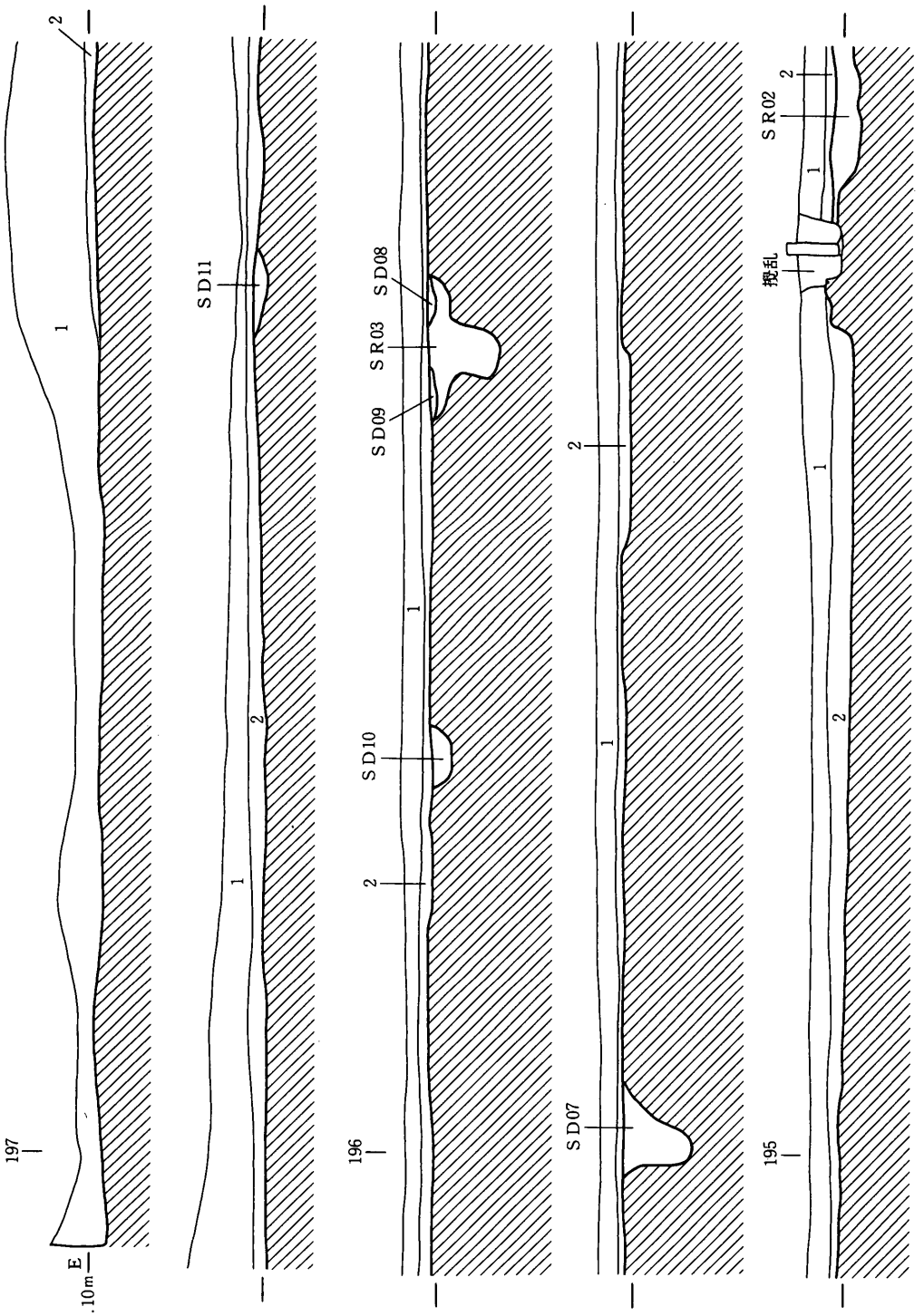
(48)『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第4冊　太田下・須川遺跡』香川県教育委員会　1994

第３章　調査の成果

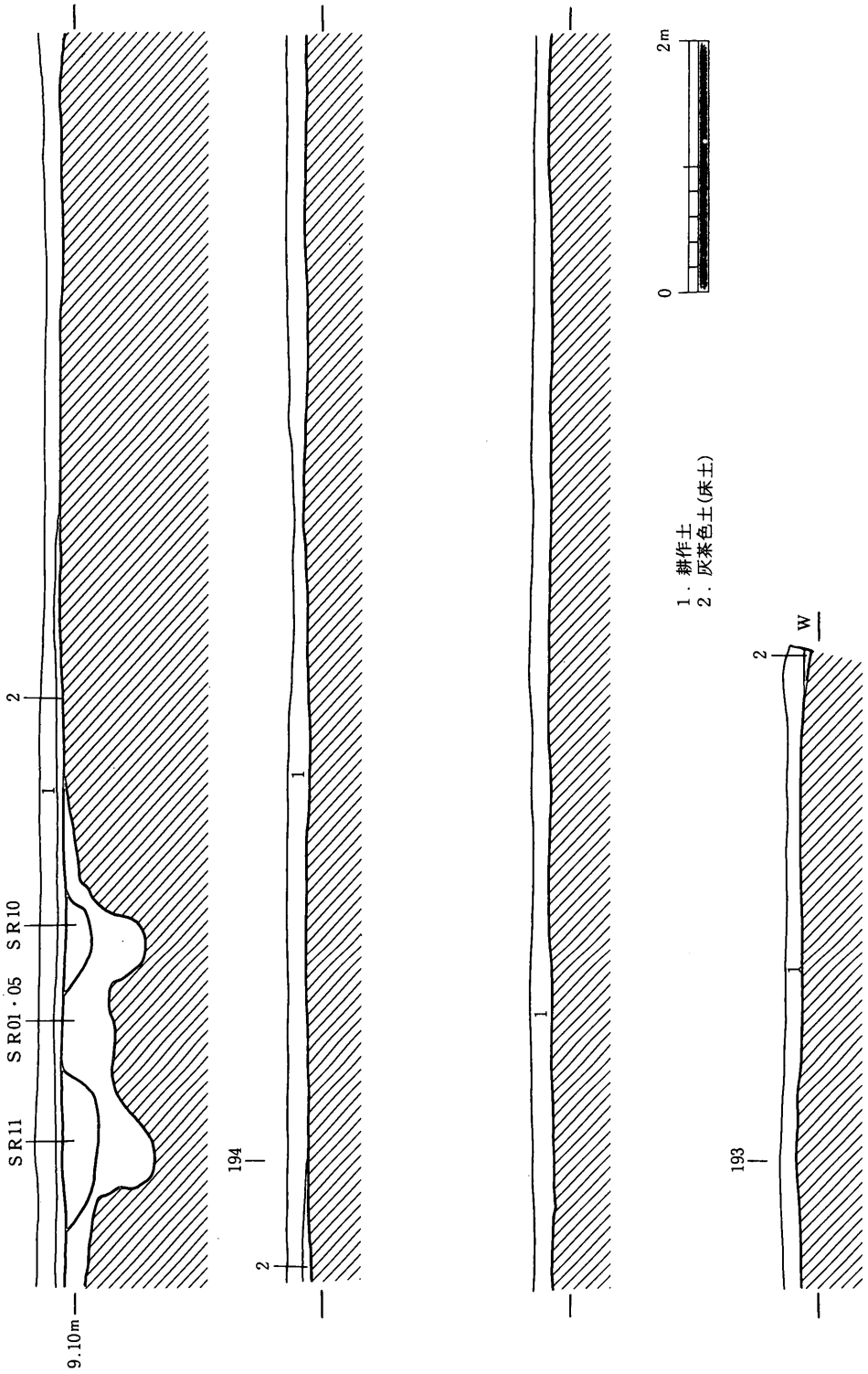
第１節　土層序

六条・上所遺跡は高松平野の中央部やや東南に位置する。高松平野は地表下約２～３ｍに礫層が厚く堆積しており，六条・上所遺跡ではＣ地区とＤ地区の西部の一部に地表下数十㎝のところにみられる。この礫層の上部に粘質土と砂質土が堆積するのが高松平野の一般的な様相であり，六条・上所遺跡もこのような状況を呈する。第４図～第19図は六条・上所遺跡の南壁の土層断面図である（Ｇ地区は北壁）。六条・上所遺跡の西部，つまり，Ａ・Ｂ地区では水田耕土および床土の下に黄色粘質土が厚く堆積しており，この粘質土上面が遺構面となっている。このような状況は西隣する林・坊城遺跡の東部でもみられ，六条・上所遺跡の西部と林・坊城遺跡の東部とは同一の遺跡であると考えられる。このことは，行政区画や現在の地割によって遺跡の範囲を決定することの困難さを示唆するものである。Ｄ地区東部よりＧ地区にかけては水田耕土の下に砂質土が堆積しており，特にＧ地区ではその厚さが１ｍ以上にも達する。これは春日川の支流である古川の氾濫原による洪水砂の堆積である。この洪水砂の堆積の下には弥生時代～中世にかけての遺構・遺物が同一遺構面に認められ，大規模な氾濫は中世以降に起こったことを示している。また，洪水砂の上面に近世の畑跡が認められ，近世には既に治水事業により氾濫は治まっていたものと思われる。

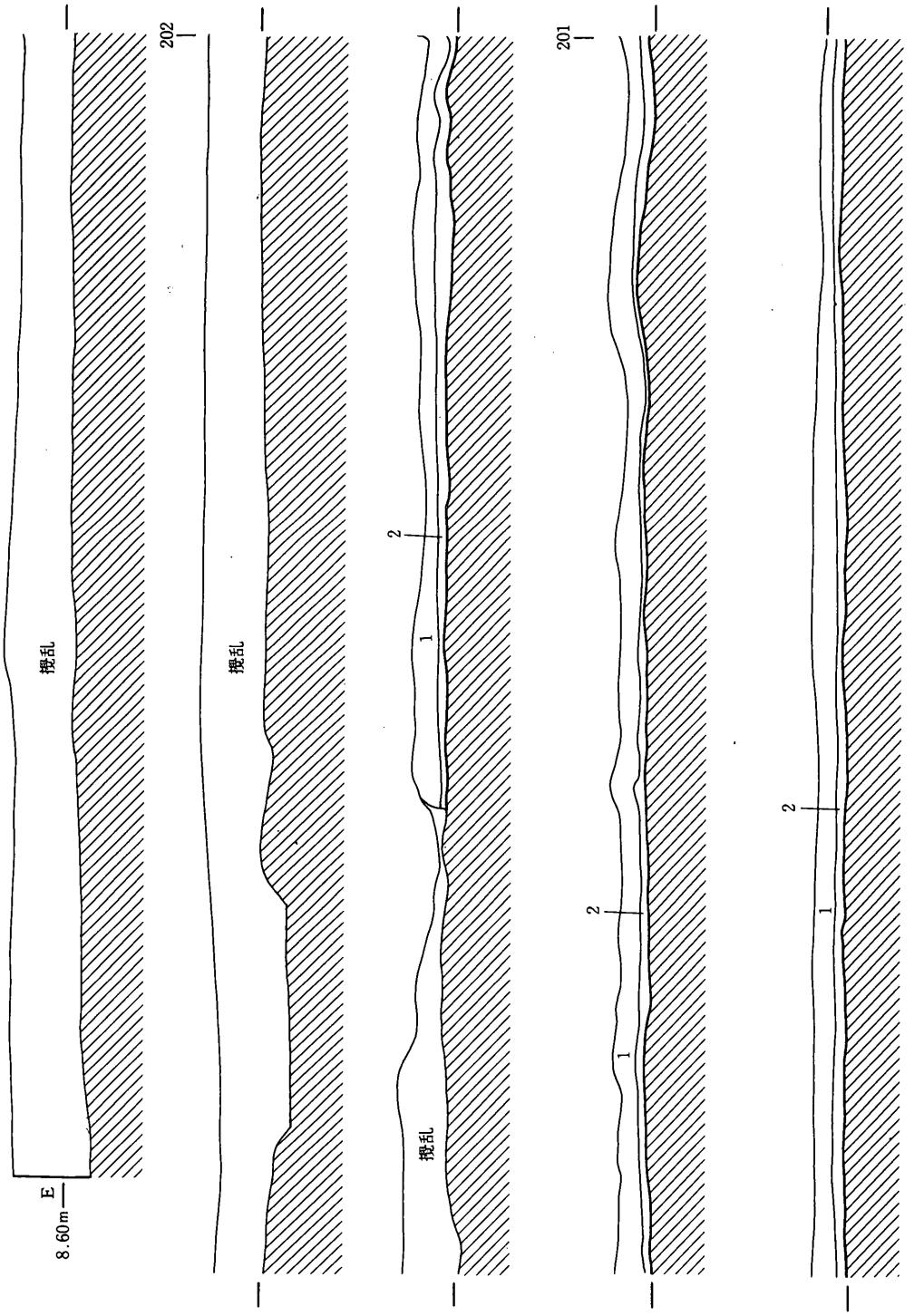
また，特筆すべきものとしてＢ地区西部の北壁で土層断面に現れた噴砂がある。地震によって土が液状化したものが地表に現れる現象で，Ｂ地区床土下層に見られた。この部分の断面を観察すると，地山である黄色粘土層を突き破るように幅10㎝程度の粗砂層の縦方向の帯状の堆積が確認できた。この粗砂層は黄色粘土層の上面に堆積する床土には認められず，つまり，床土が堆積する以前にこの地震が発生したということであり，少なくとも近世以前の地震であることは間違いない。



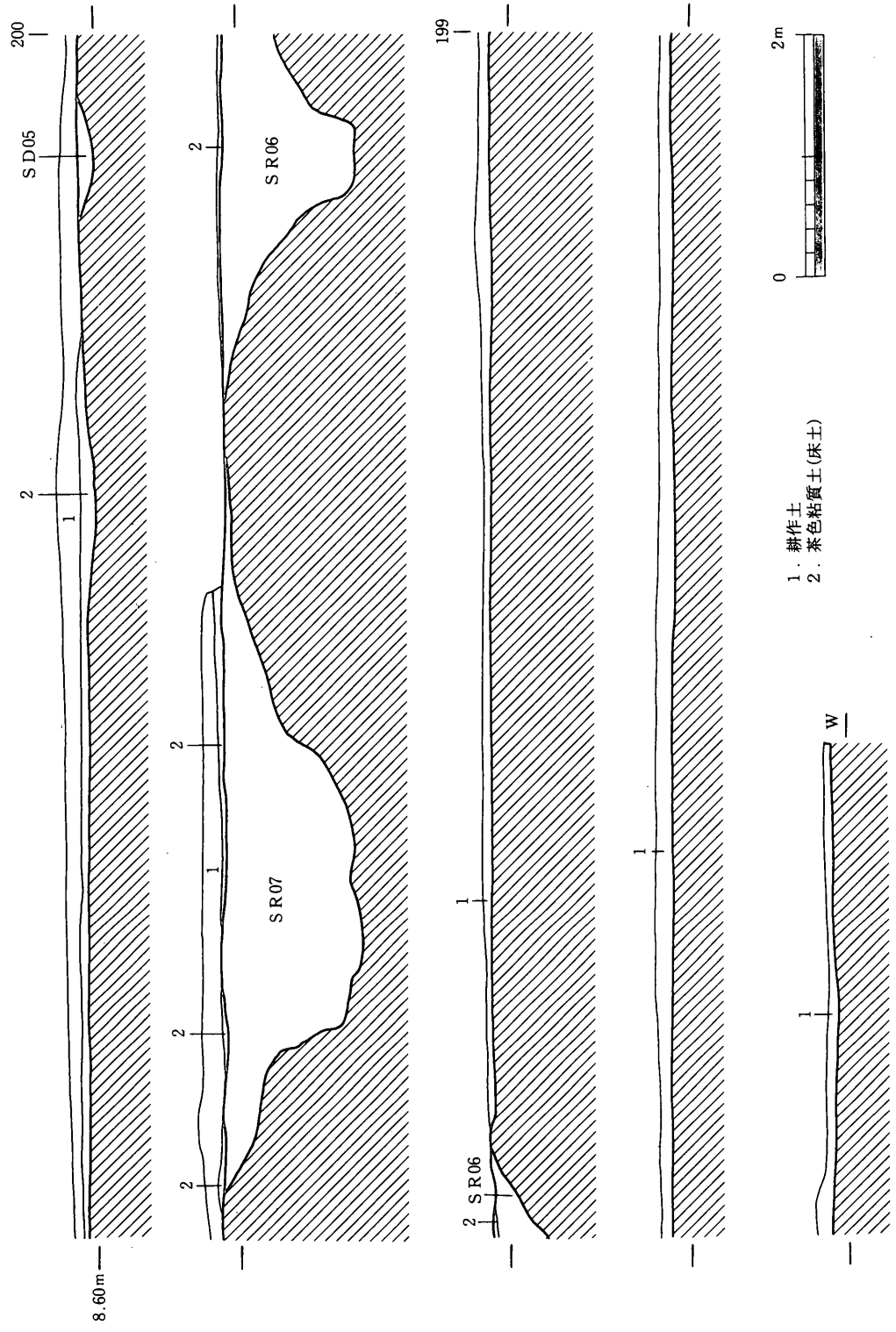
第4図　A地区土層断面図(1)



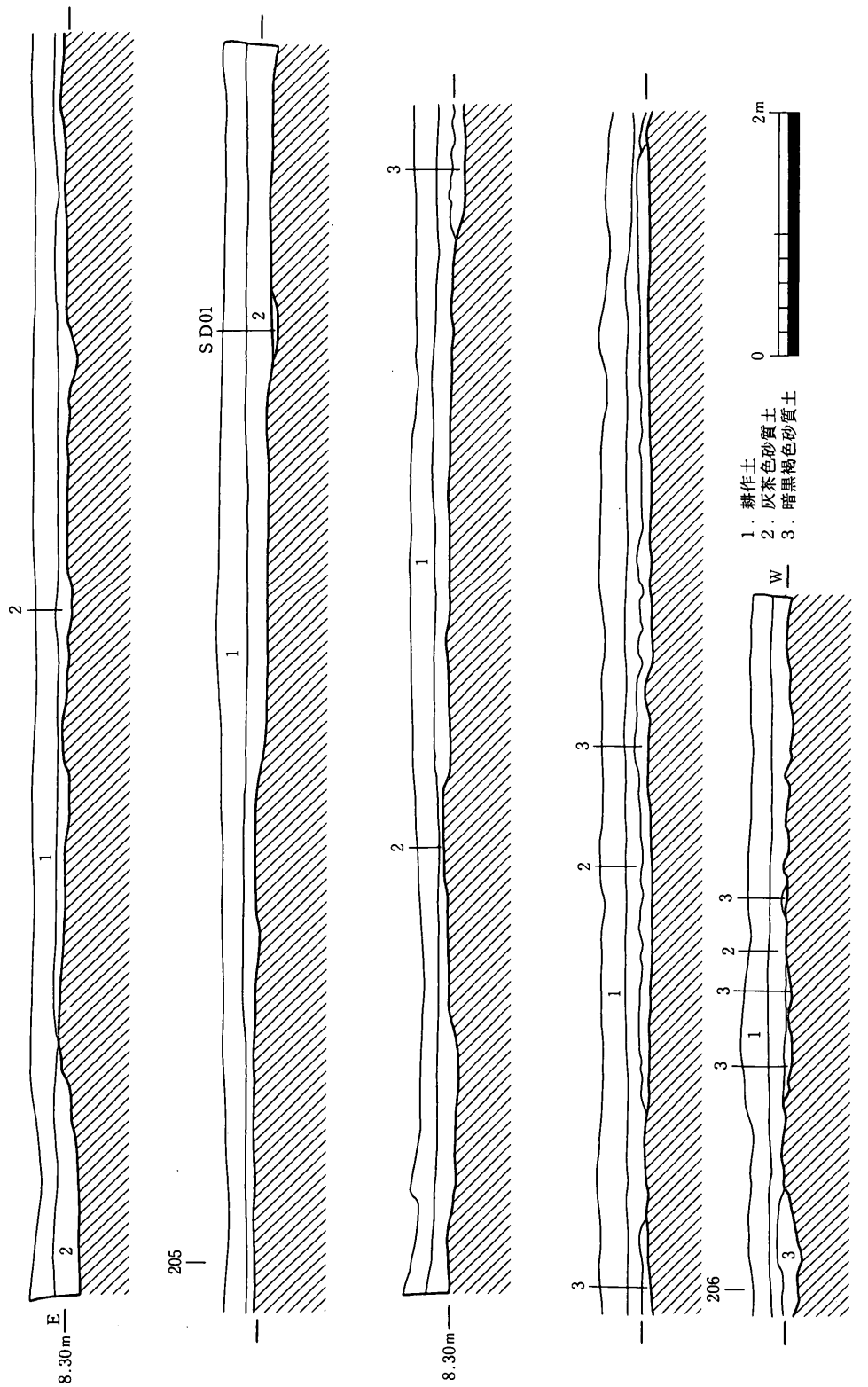
第5図　A地区土層断面図(2)



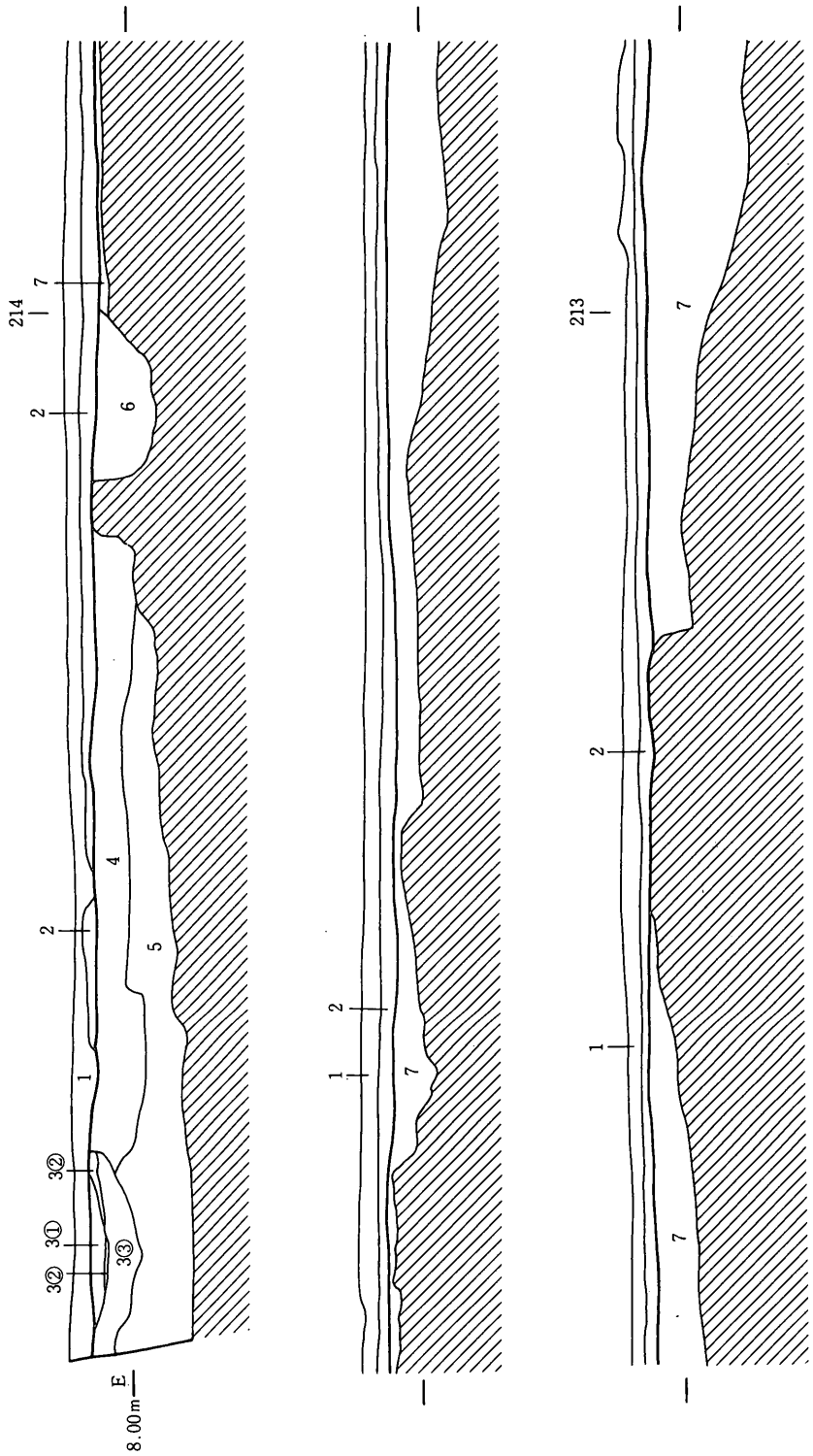
第6図　B地区土層断面図(1)



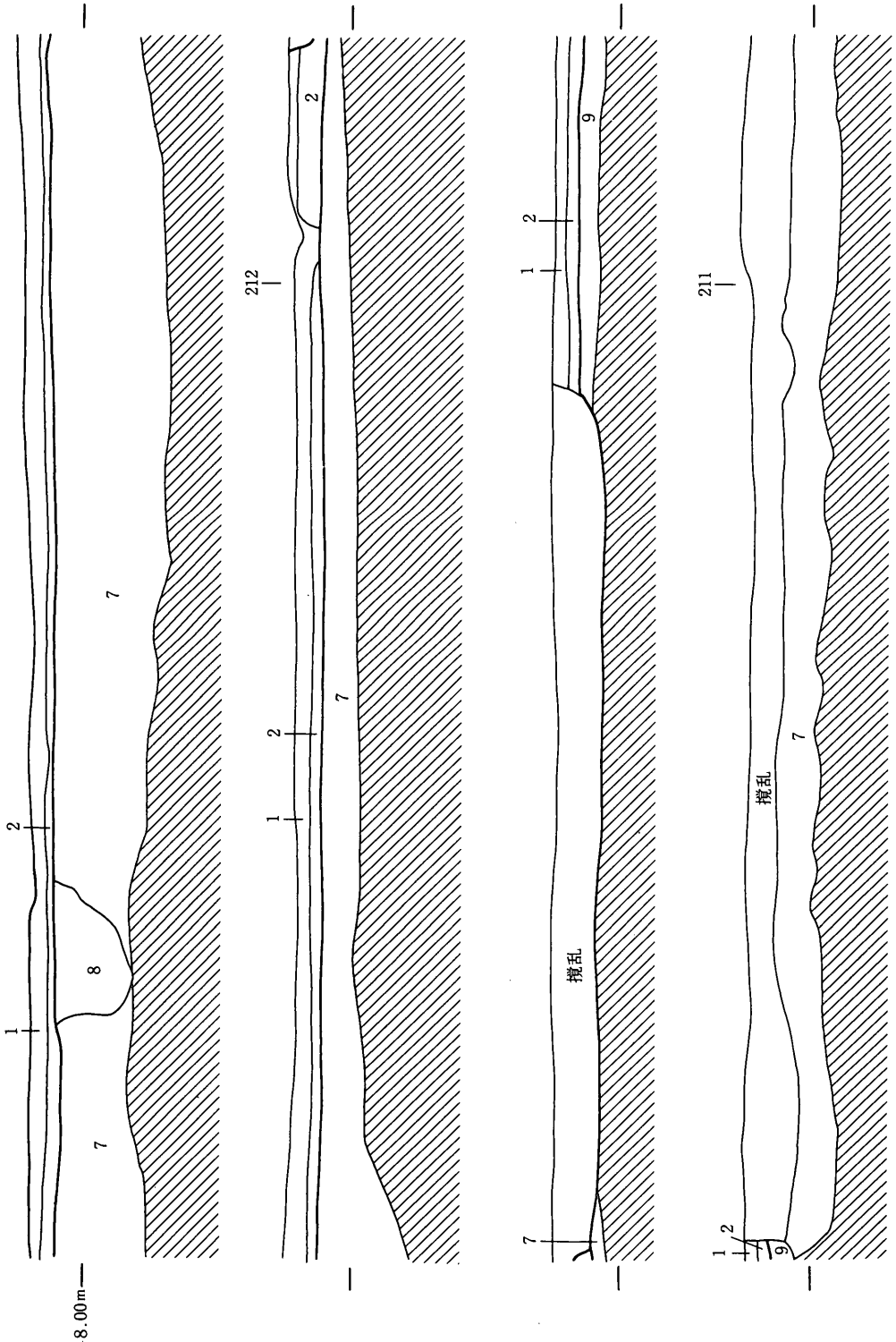
第7図　B地区土層断面図(2)



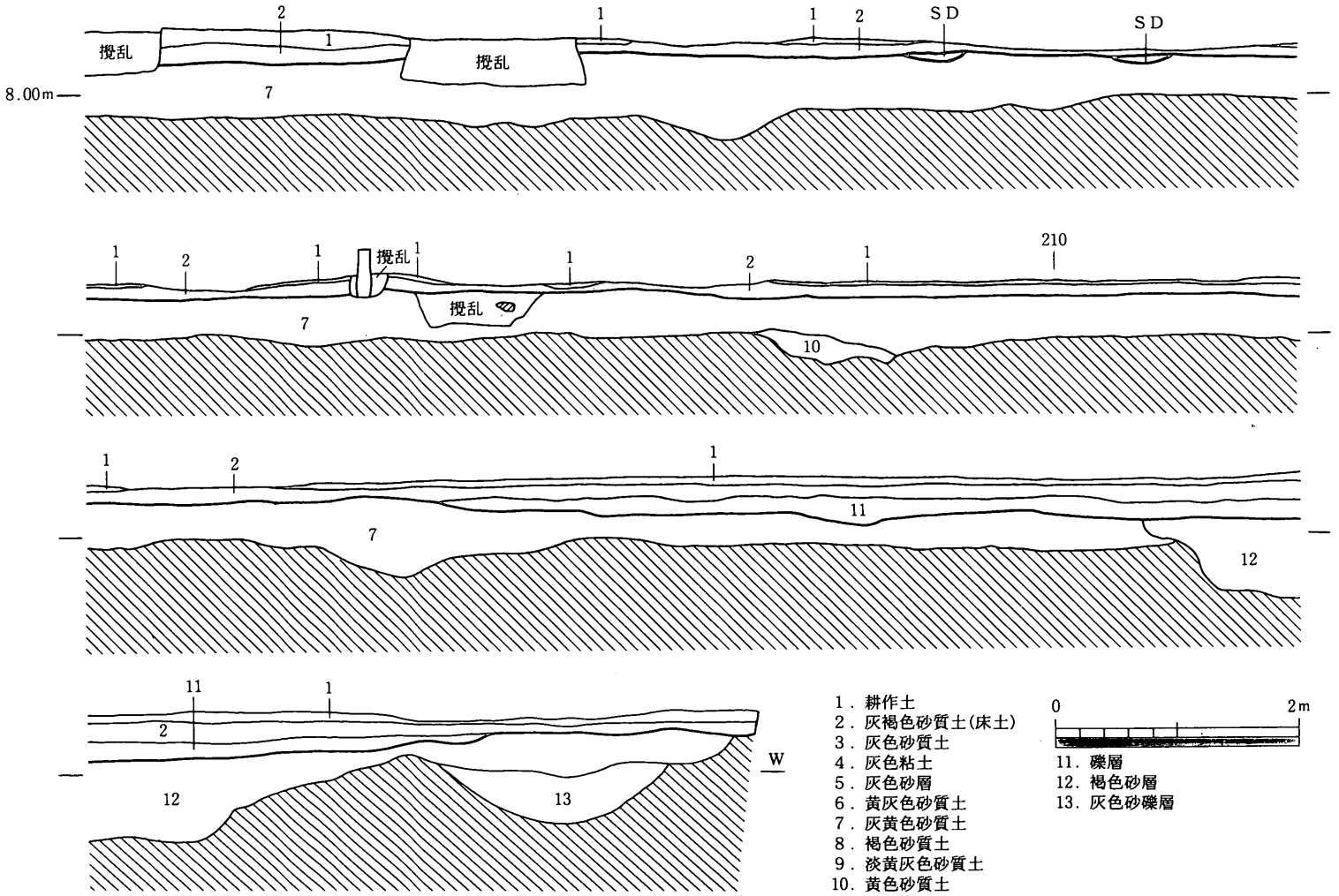
第8図　C地区土層断面図



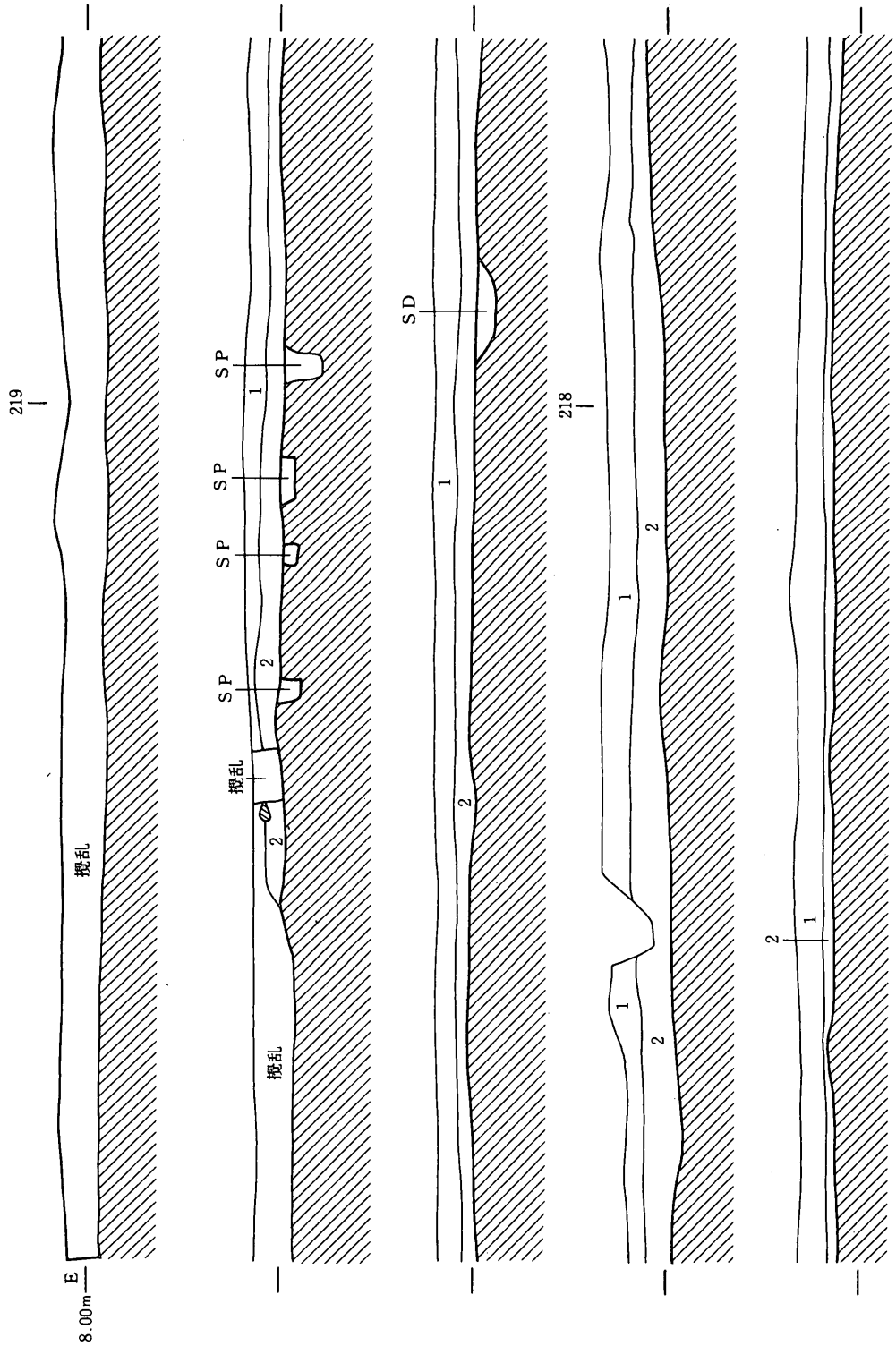
第9図　D地区土層断面図(1)



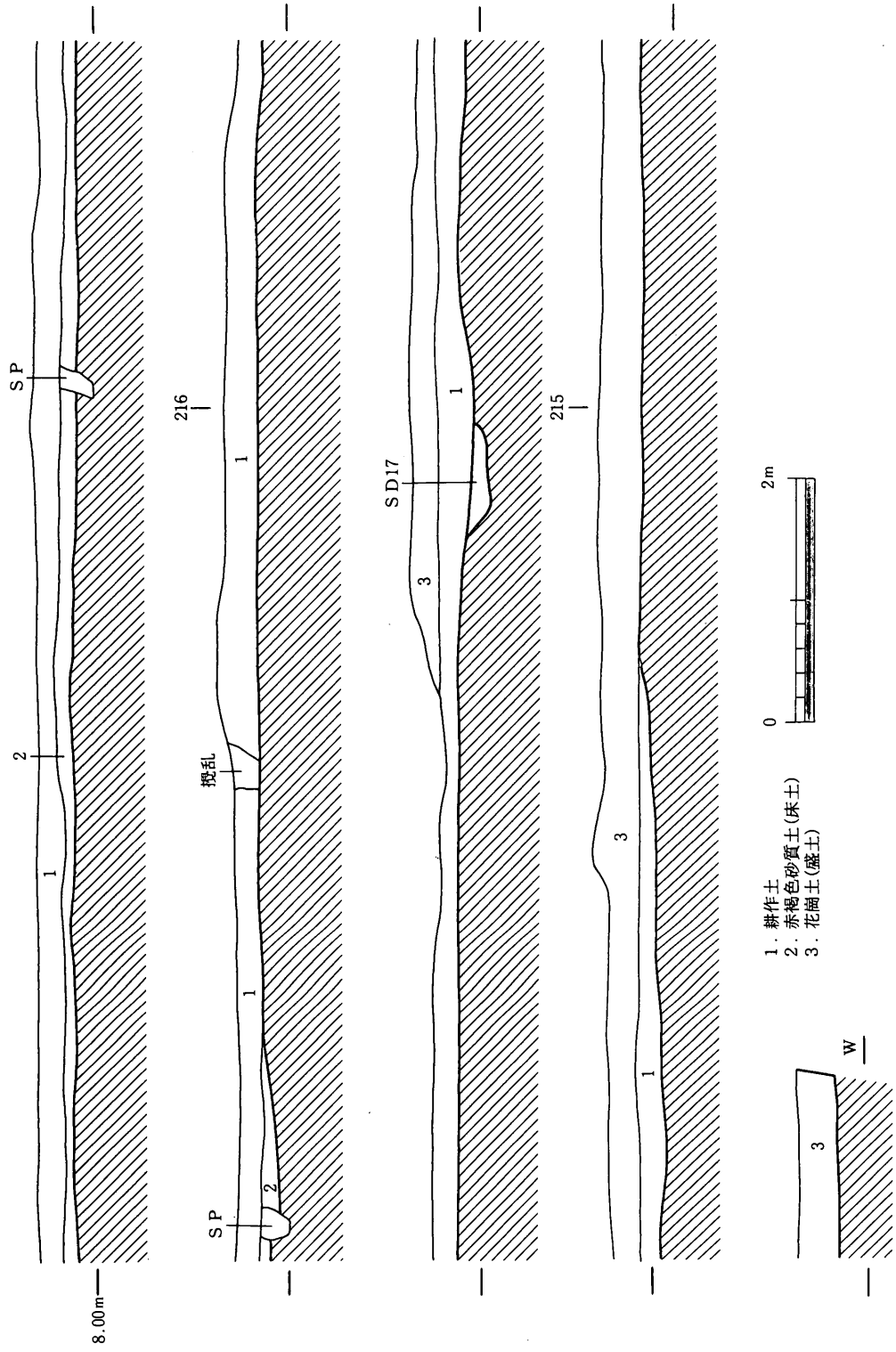
第10図　D地区土層断面図(2)



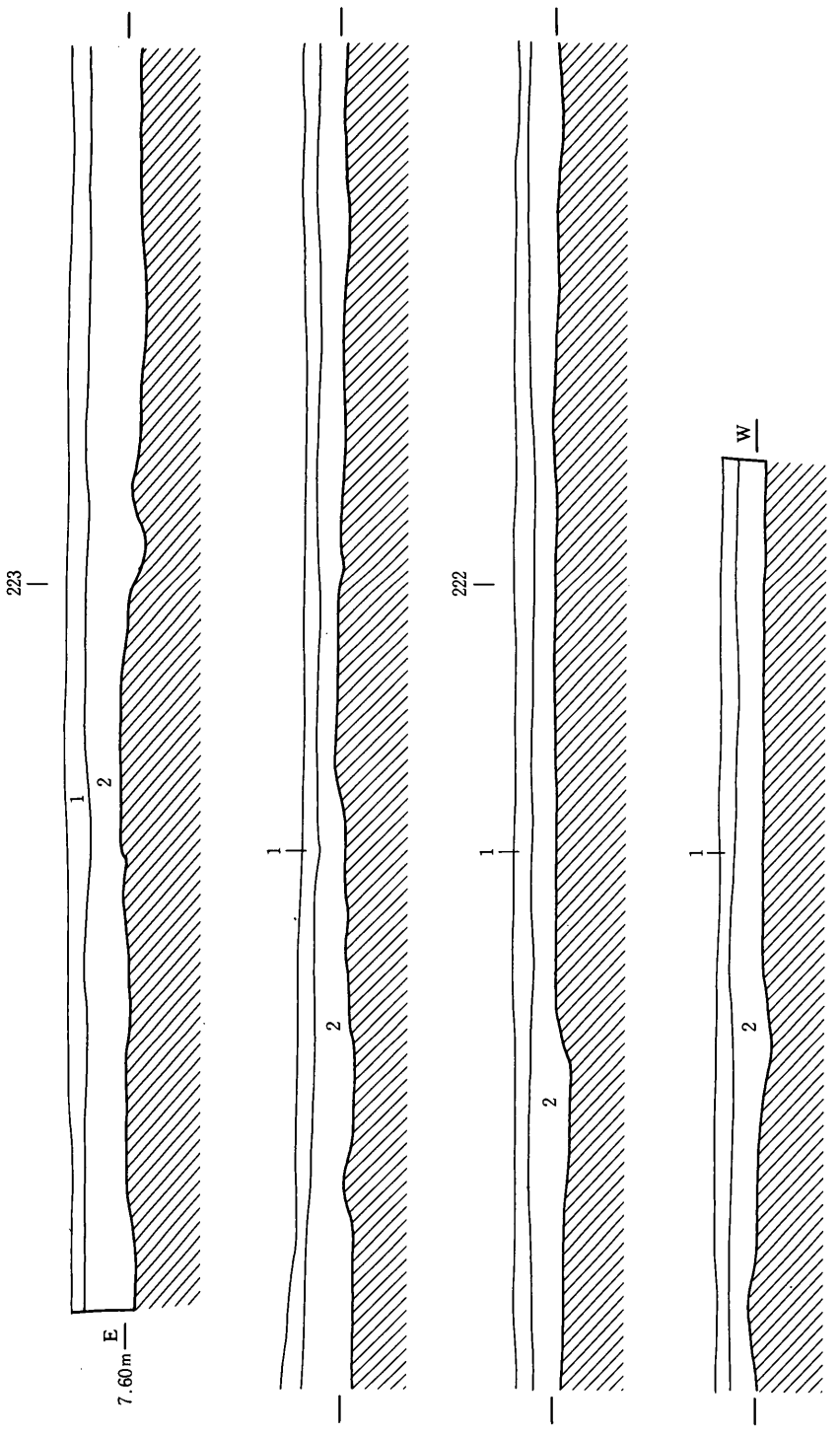
第11図　D地区土層断面図(3)



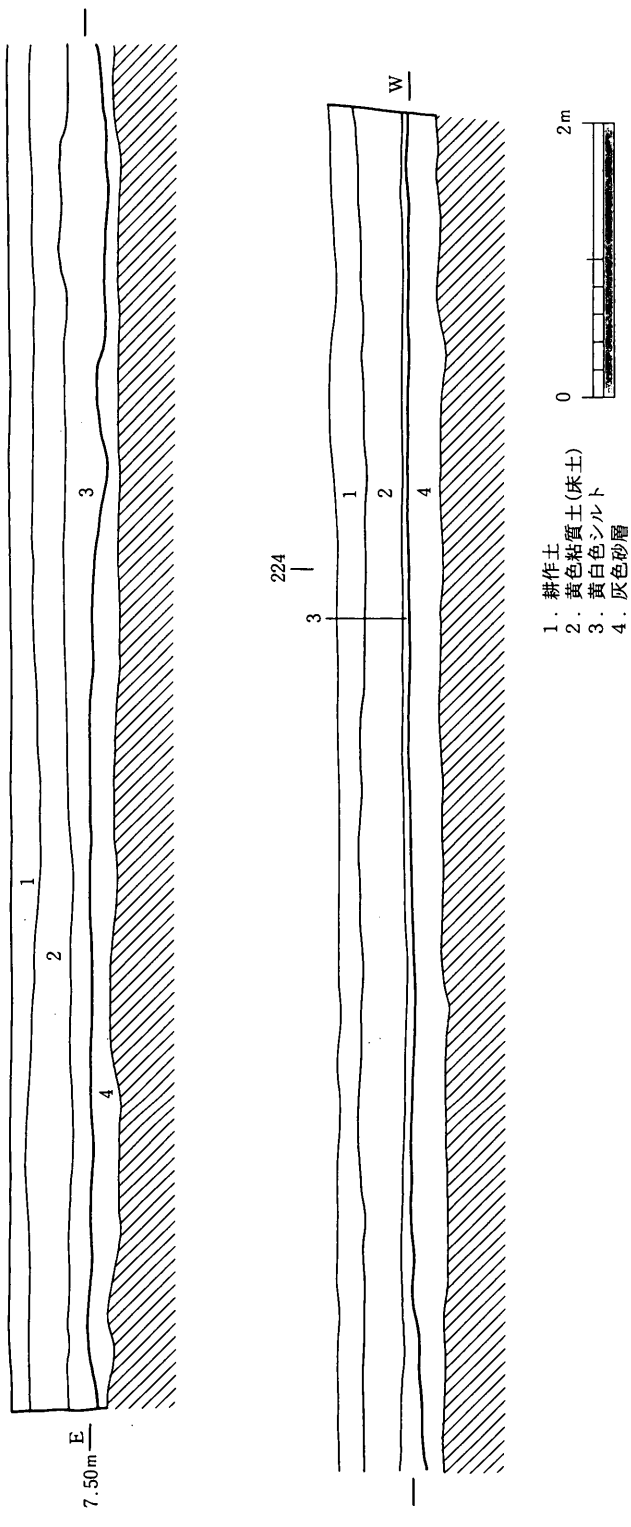
第12図　E地区土層断面図(1)



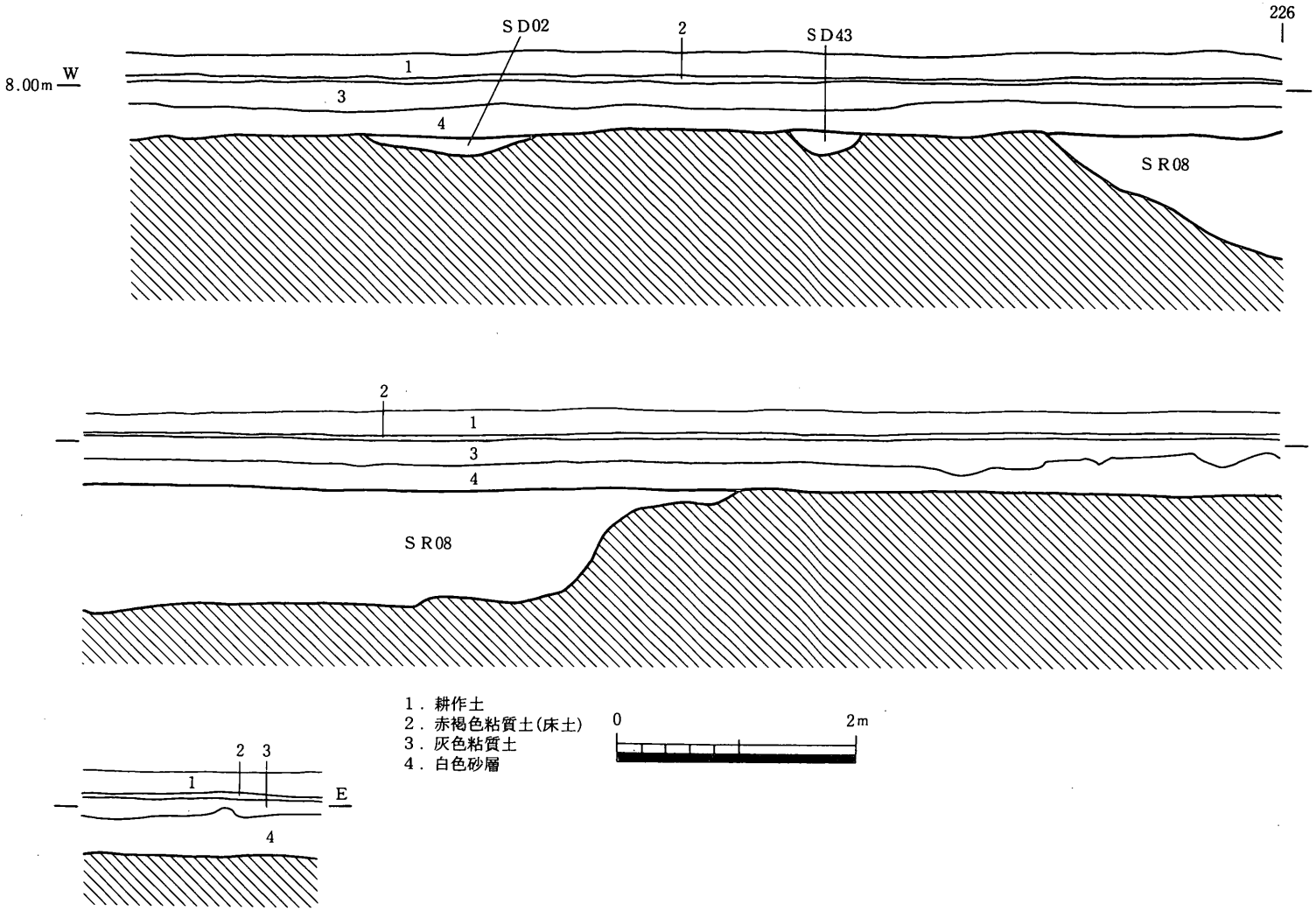
第13図　E地区土層断面図(2)



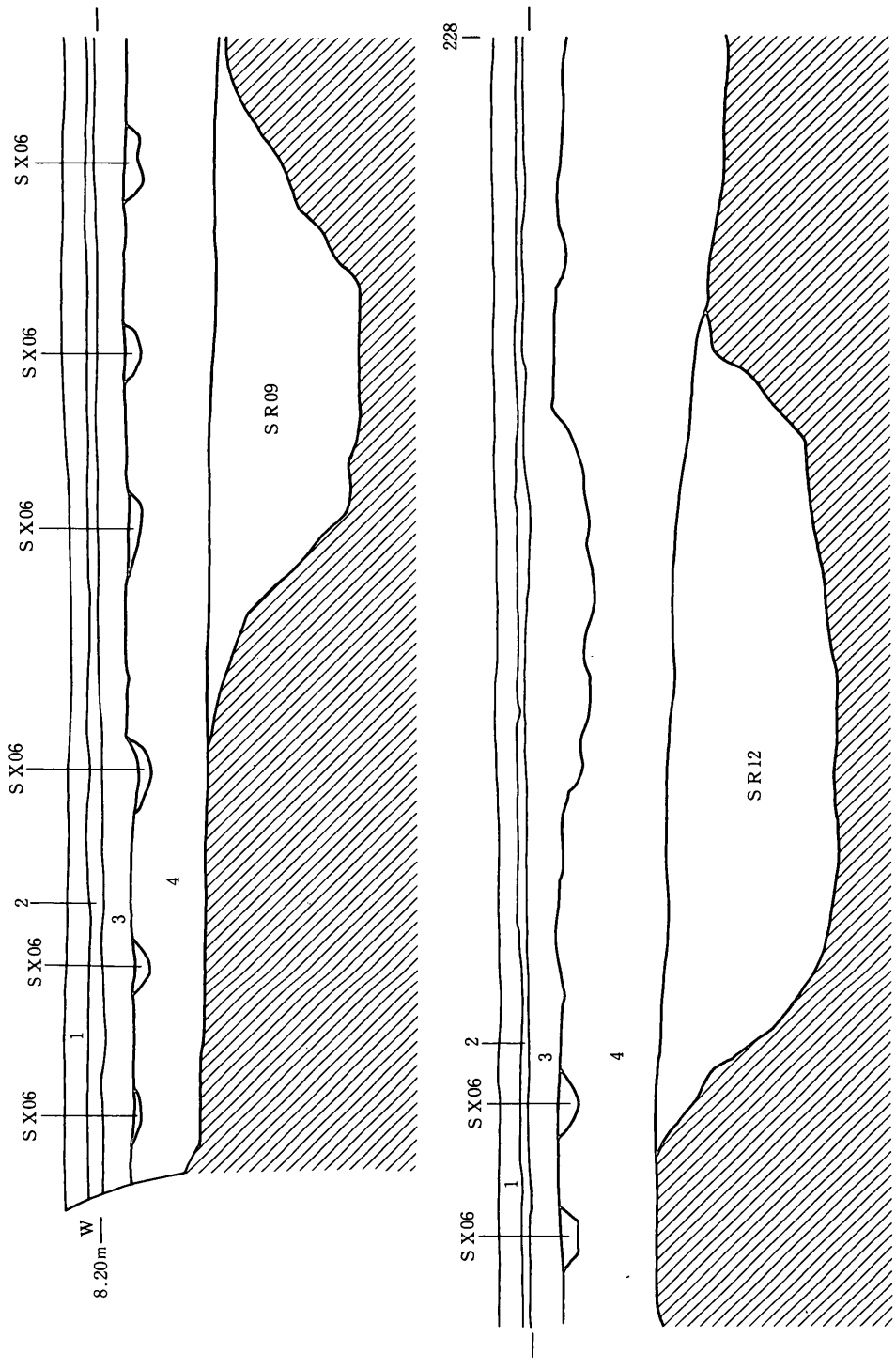
第14図　F地区土層断面図(1)



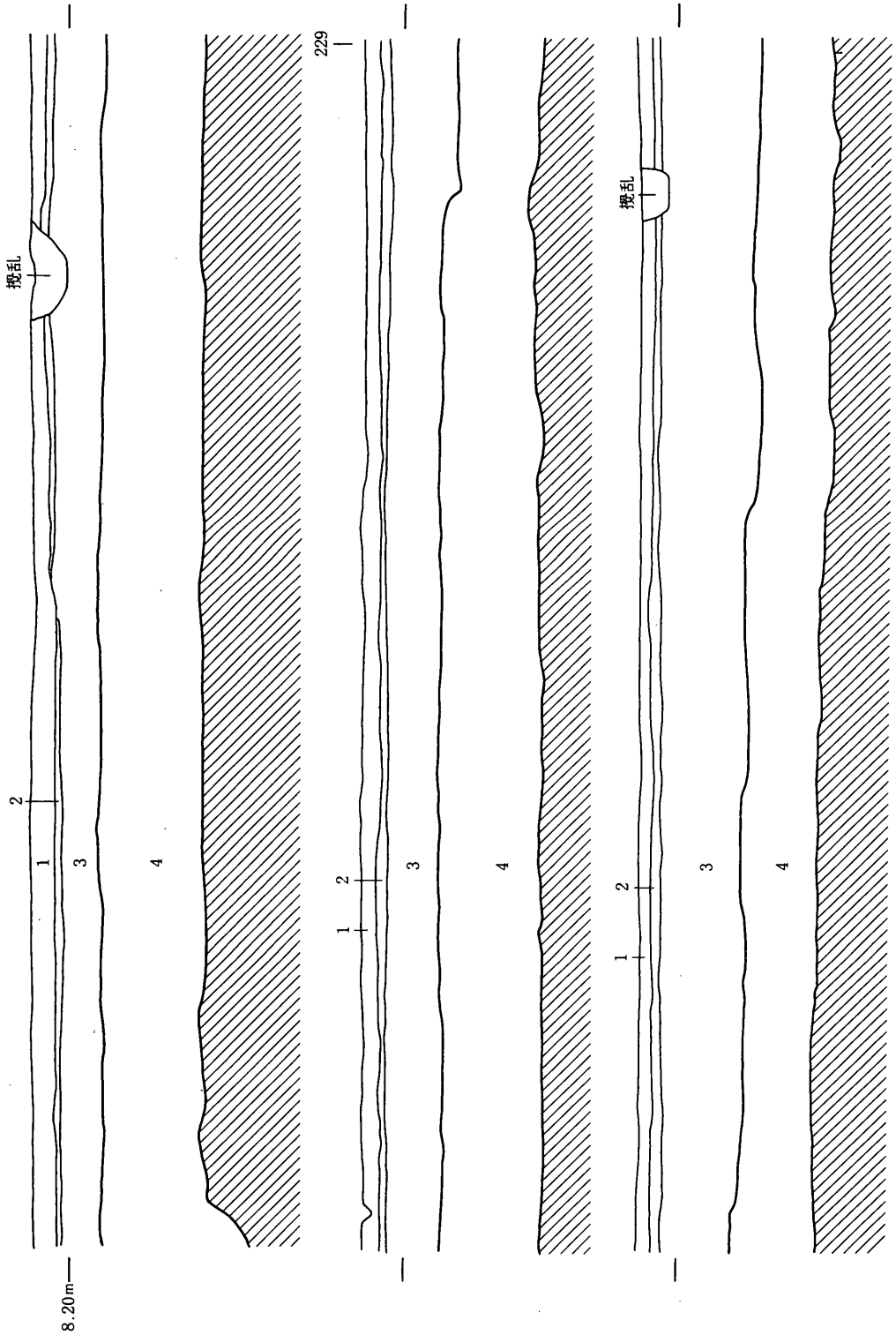
第15図　F地区土層断面図(2)



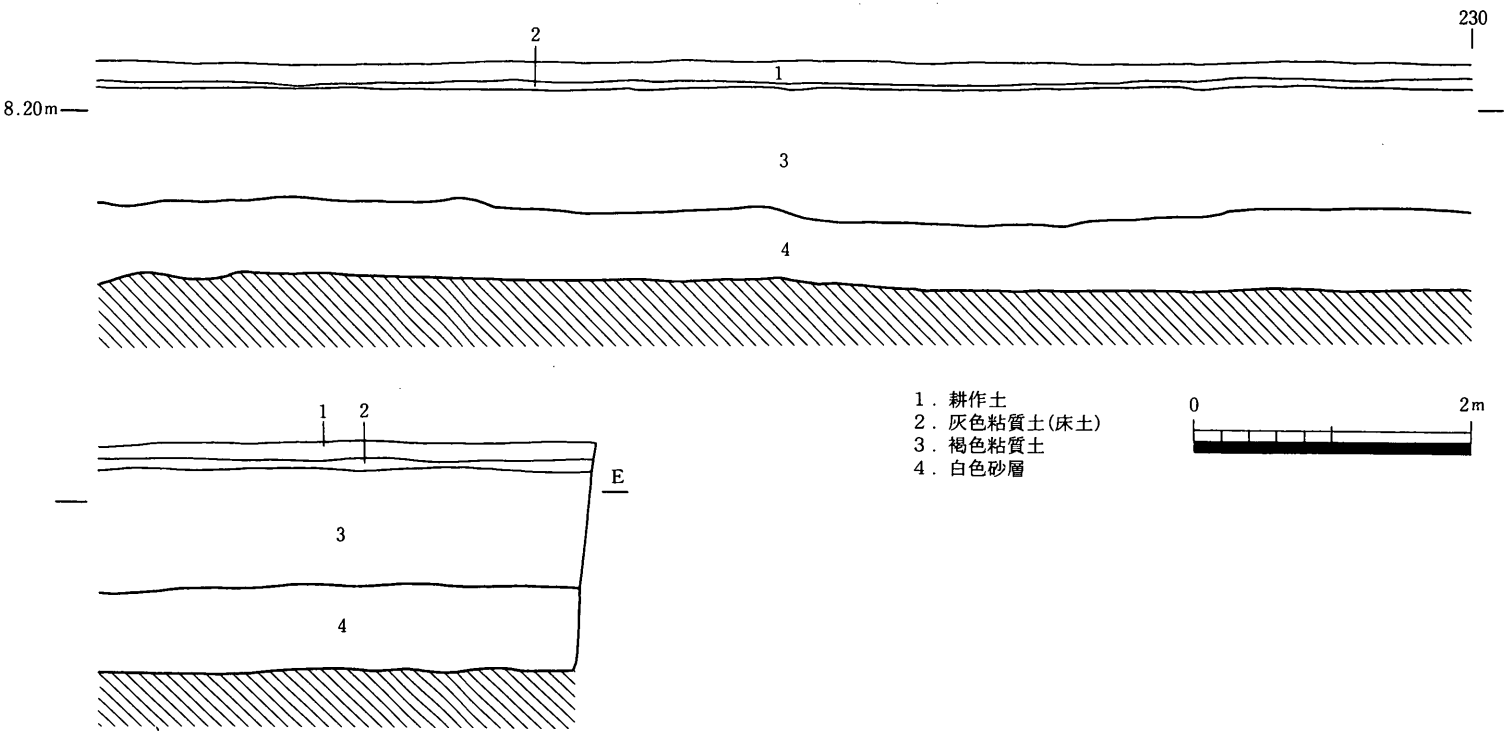
第16図　G地区土層断面図(1)



第17図　G地区土層断面図(2)



第18図　G地区土層断面図(3)



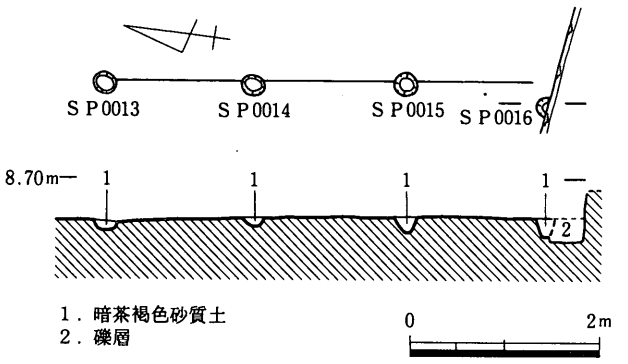
第19図　G地区土層断面図(4)

第２節　遺構・遺物

（１）弥生時代の遺構・遺物

ＳＢ01（第20図，図版14(1)）

Ｃ地区南西部で検出した掘立柱建物跡である。柱穴が等間隔に４つ並んでおり，３間以上の柵列の可能性も考えられるが，ここでは掘立柱建物跡としておく。柱穴の心心間の距離は1.6m，主軸方向はＮ８°Ｗである。柱穴は直径約24cm，深さ約10cmを測る。埋土は暗茶褐色砂質土の単一層で埋土中からは弥生時代後期ごろの土器の細片が出土した。また，この掘立柱建物跡の西側を同じ方向で流れる溝状遺構（ＳＤ01）からも同時期の遺物が出土していることなども考え合わせ，この掘立柱建物跡は弥生時代後期ごろの所産であると思われる。

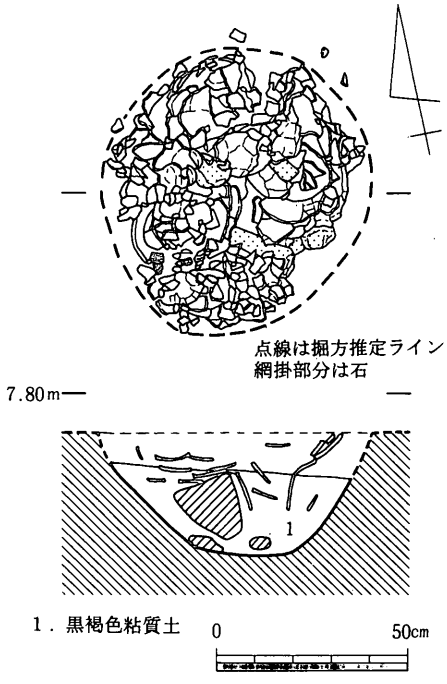


第20図　ＳＢ01平・断面図

ＳＫ01（第21図，図版14(2)）

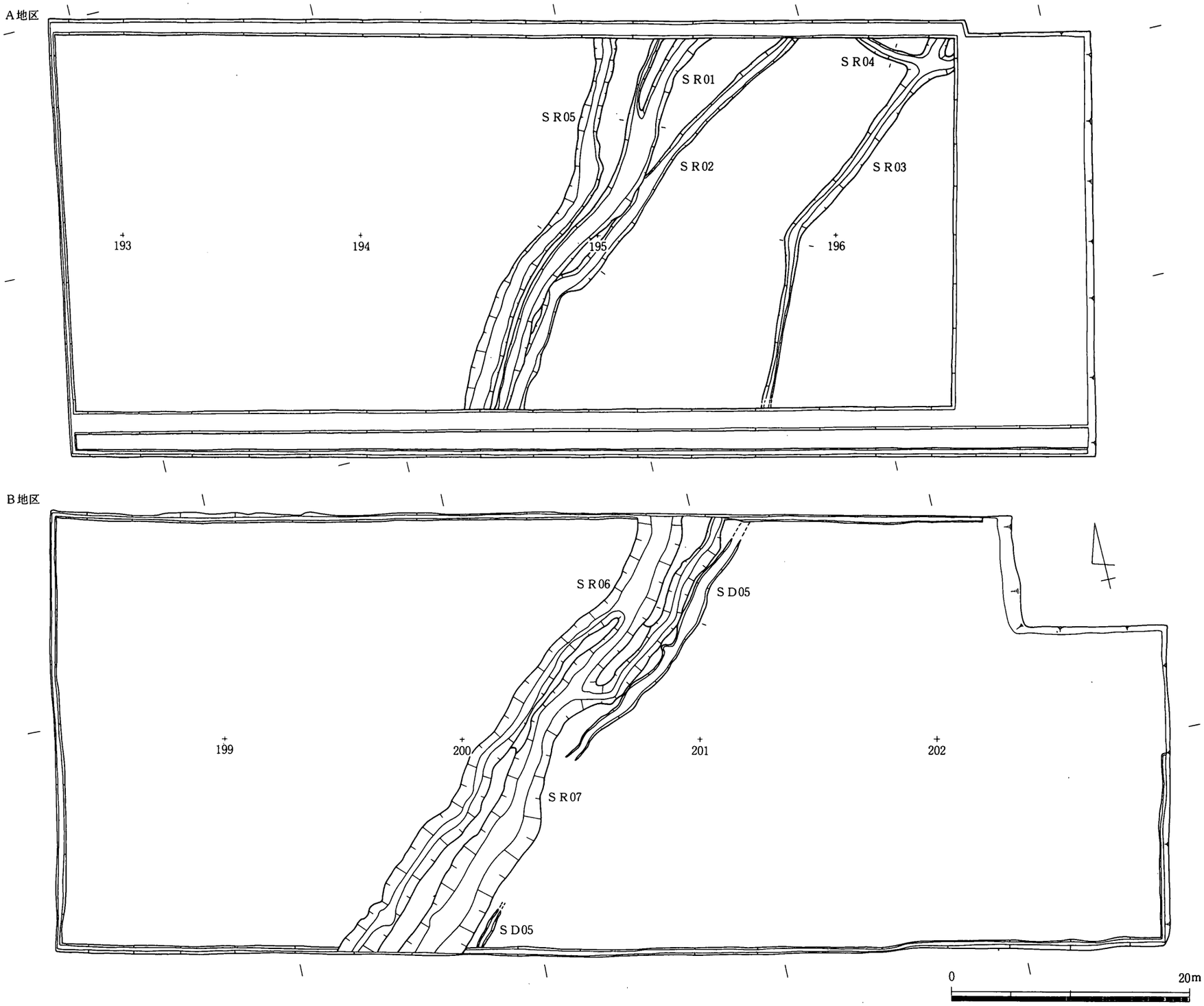
Ｇ１南調査区中央北よりで検出した土坑である。上層包含層と遺構検出面とが酷似するため，実際の土坑の掘り方は若干上方にあったものと思われる。平面形はほぼ円形を呈しており，直径は60cm（実掘），深さは20cm（実掘）である。もともとは直径約70cm，深さ約30cm程度であったものと思われる。埋土は黒色粘質土であるが，上部２／３には弥生土器が隙間なく埋まっており，下部１／３には黒色粘質土と拳大から人頭大の石が堆積していた。土器と土器のわずかの隙間には黒色粘質土が入り込んでおり，これらの土器が一括して廃棄された状況を示唆している。検出時には完形品は少なく，壺・甕の口縁部と体部が多く確認されたが，取り上げた後に観察してみると壺・甕には完形品は少ないが，高杯は量的には少ないものの完形品に近いものが多く出土していることが確認された。取り上げた遺物はコンテナ約５箱にものぼった。第26図～第28図はこの土坑から出土した遺物である。

1・2は壺である。いずれも球形を呈する体部と朝顔形に拡がる頸部をもち，外面には刷毛目調整が認められる。1は頸部からやや屈曲しながら口縁部にいたる。口縁端部は若干上下方向に拡張し，口縁端部には強いナデ調整が認められる。また，体部内面には指押さえの痕跡が顕著に認められ，頸部から口縁部にかけての内面には指押さえの他に横方向の刷毛目調整が認められる。2は頸部から口縁部にかけて緩やかな曲線を描く壺で口縁端部は上方へ拡張し，強いナデ調整が認められる。



第21図　ＳＫ01遺物出土状況平・断面図

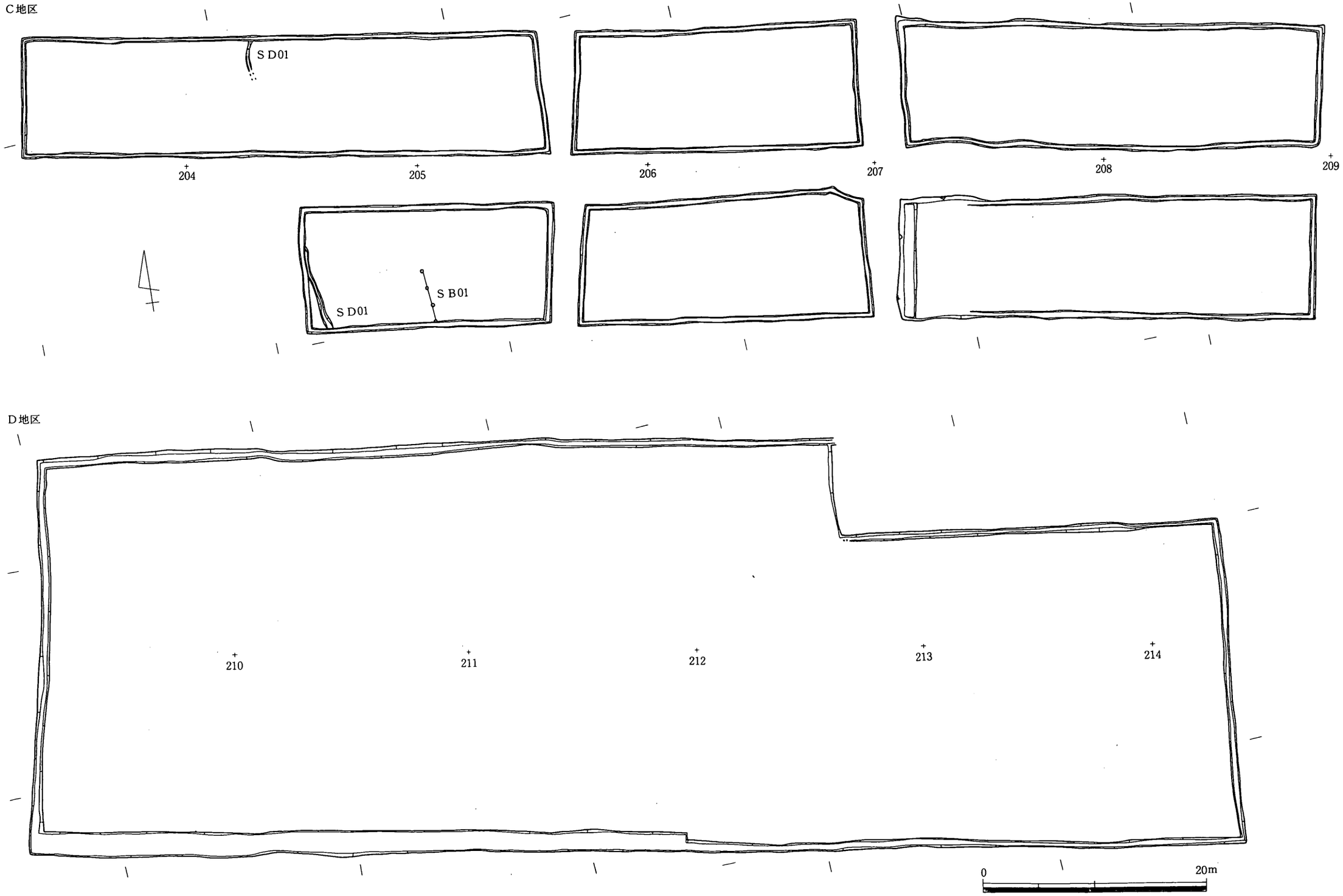
3～12は甕である。3は体部中央やや上寄りが最も張りくの字を呈する。口縁部は短く屈曲して外反し，端部は強いナデ調整によって作り出されている。4は肩の部分が最も張るタイプのものでやはり口縁部は短く屈曲し外反する。5も体部の形態は4に似るが，口縁部は大きく外側へ屈曲し外反する。3～5のいずれの甕にも内面には指押さえ，外面には刷毛目調整が認められる。6は球形を呈する体部をもち，短く屈曲し外反する口縁部をもつ。口縁端部はやや上方へつまみ上げ，丸くおさめている。器壁は薄く，内面には指押さえ，外面には斜め方向の刷毛目調整が顕著に認められる。7は体部の張りがあまり顕著ではなくやや長細い甕である。口縁部は屈曲し外反する。口縁端部はナデ調整により面をなす。外面下方に一部タタキ調整の痕跡が認められる。8は口縁端部，底部を欠損するが形態的には6に酷似する。9は球形を呈する体部をもち，鋭く屈曲し外反する口縁部をもつ。口縁端部は一旦肥厚し，やや尖り気味に立ち上がる。調整は非常に丁寧であり，内面には下方から上方へのヘラ削り調整が頸部やや下部にまで認められる。その上部には粘土紐を積み上げた痕跡が3条ほど観察できる。外面はタタキ調整ののち，刷毛目調整を施している。10は底部を欠損するが倒卵形を呈する甕である。くの字形に屈曲し外反する口縁部をもち，端部はナデ調整によりやや丸くおさめている。外面にはタタキ調整の痕跡が顕著に認められる。11も倒卵形を呈する甕の下半部である。やや小振りで厚手の器壁をもつ。12も10と同じ形態の倒卵形を呈する甕である。口縁部を欠損している。内面には指押さえののち，



第22図　A・B地区弥生時代遺構配置図

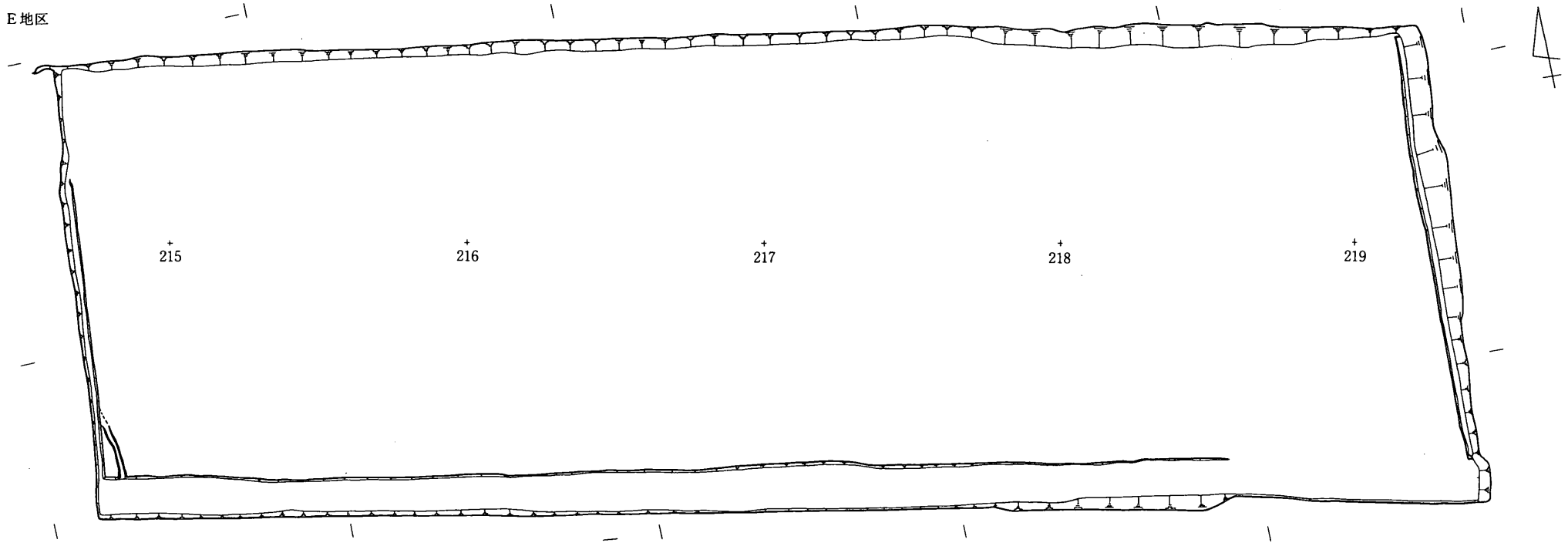
C地区

D地区

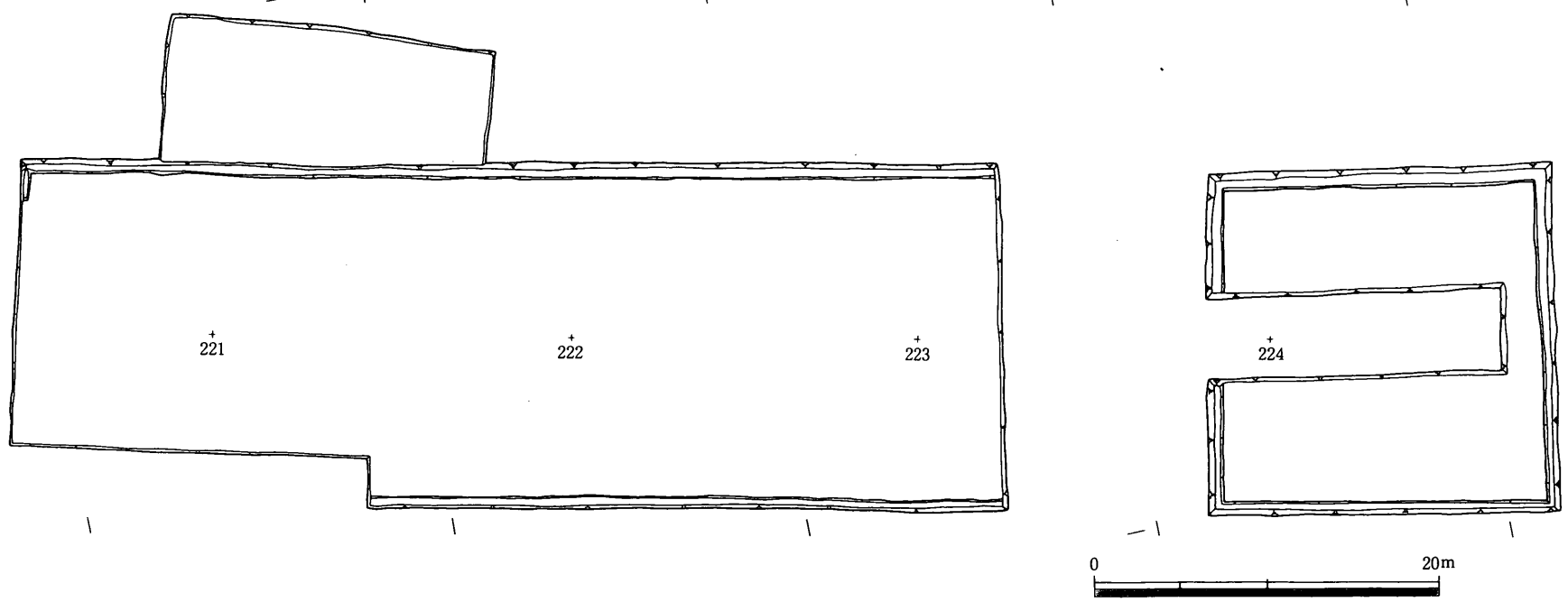


第23図　C・D地区弥生時代遺構配置図

E地区

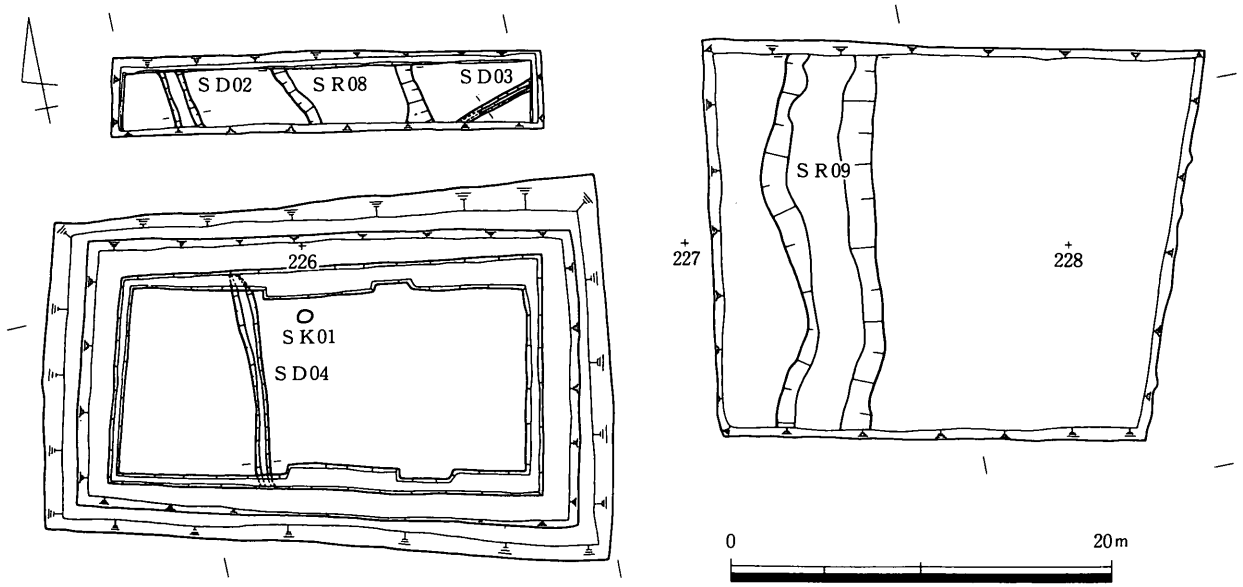


F地区

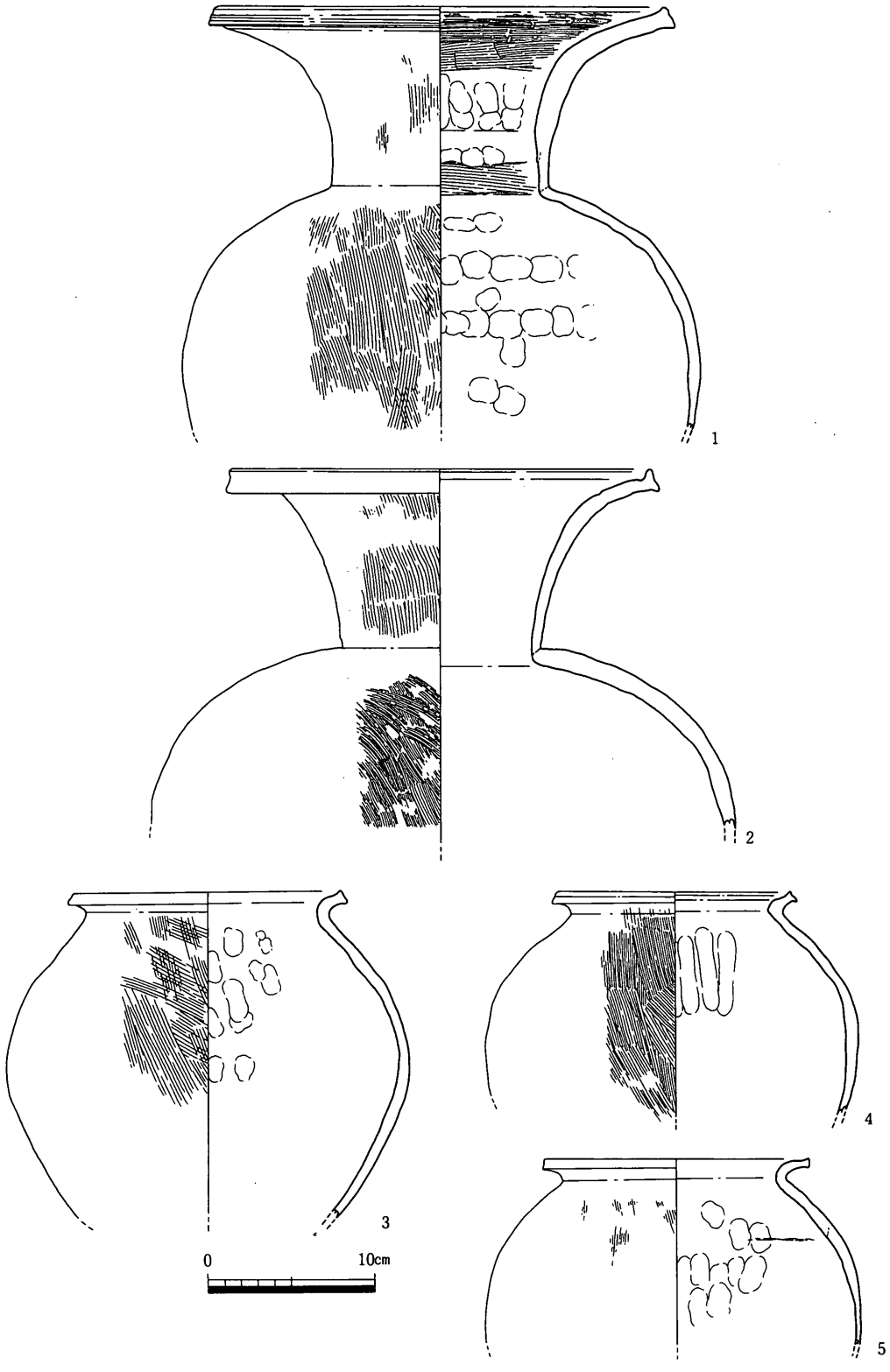


第24図　E・F地区弥生時代遺構配置図

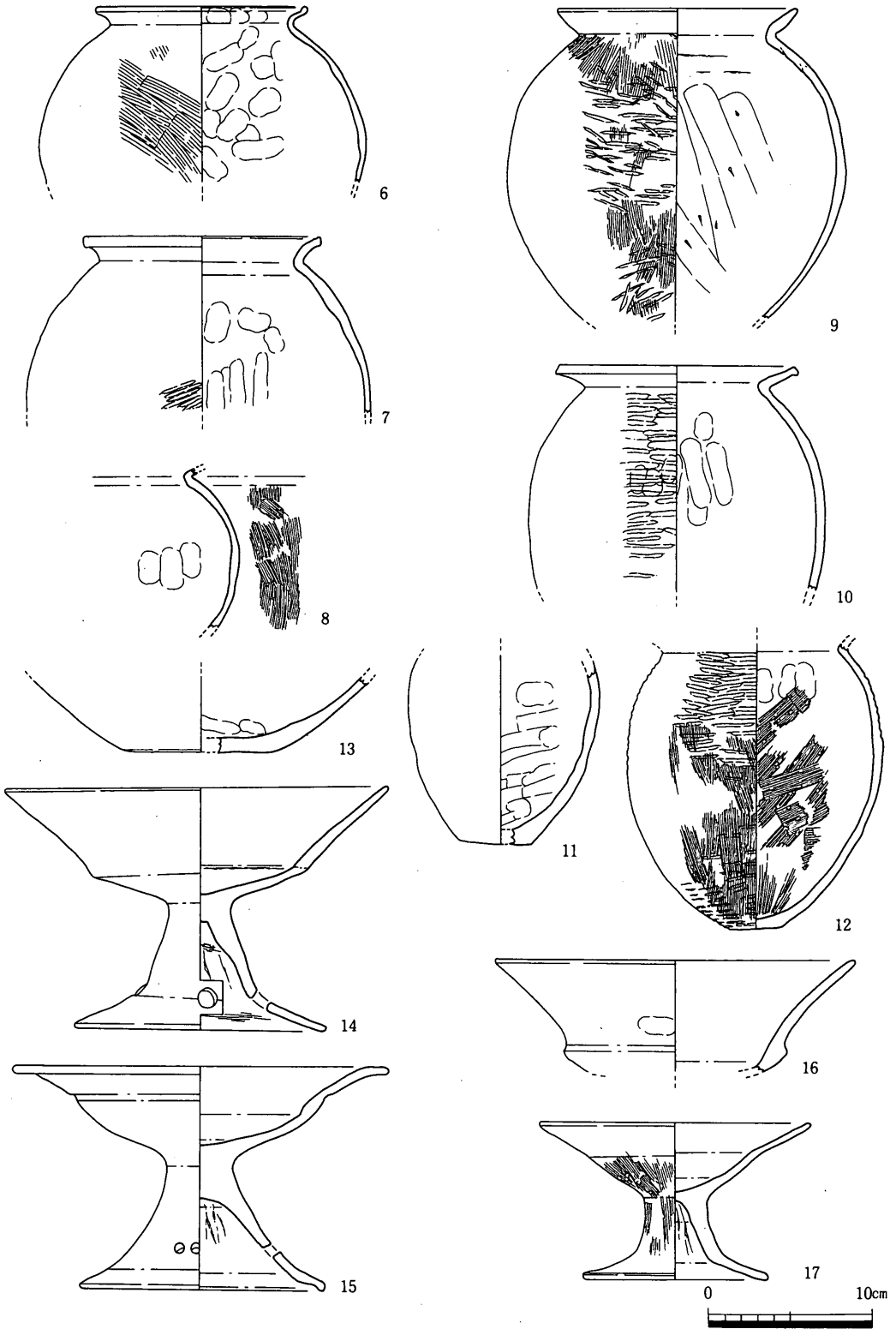
G地区



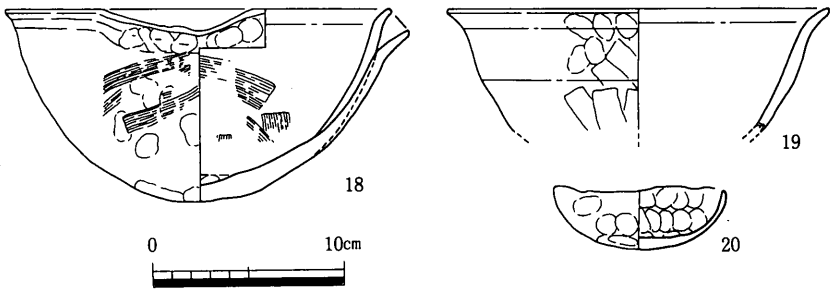
第25図　G地区弥生時代遺構配置図



第26図　ＳＫ01出土遺物実測図(1)



第27図　ＳＫ01出土遺物実測図(2)



第28図　ＳＫ01出土遺物実測図(3)

刷毛目調整を施している。外面にはタタキ調整ののち，刷毛目調整を主として下半分に加えている。底部はやや尖り気味の平底である。13は底部である。

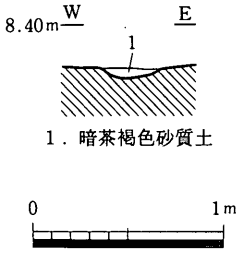
14～17は高杯である。14は杯部が大きく屈曲して外方へ広がる。口縁端部はやや尖り気味に立ち上がる。脚部は中ほどが若干膨らみ緩やかに屈曲して裾端部に至る。四方向に透し孔が認められる。15は内彎する杯部から屈曲して外反する口縁部へいたる高杯である。屈曲部は口縁部に近いところであり，杯部は椀形を呈する。脚部は緩やかに裾部に至る。裾部端部は下方へつまみ出しておさめている。２個一組の円孔が四方向に認められる。16は高杯の杯部である。脚部以下と杯部の半分は欠損している。やや小さめで内彎する杯部から大きく外反して開く口縁部をもつ。口縁端部はやや尖り気味に丸くおさめる。17はやや小型の高杯である。形態的には15に似ている。やや内彎する杯部と外方に開く口縁部をもつ。口縁端部はやはり丸くおさめる。杯部と口縁部との屈曲はあまり顕著ではなく，緩やかである。脚部は屈曲して裾部にいたるが，裾端部は丸くおさめる。透し孔は認められない。

18～20は鉢である。18は片口付の鉢である。球形を呈する体部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部はやや尖り気味に立ち上がる。内外面ともに指押さえののち刷毛目調整を施している。19は18に比べ，体部がやや外方に向く。底部は欠損しているが，体部中央部にやや屈曲する部分が認められる。口縁部は緩やかに屈曲して外反する。口縁端部はやや尖り気味におさめている。20は小型の鉢である。全体的にいびつで口縁端部がふぞろいである。内外面ともに指押さえにより成形，調整している。

この他に図化し得なかったが，この土坑からはコンテナ約５箱分の弥生土器が出土している。土器の形態，調整などからみてすべて弥生時代後期後半から末ごろのものと考えられる。したがって，この土坑は一括して土器を廃棄した土坑であると思われる。

ＳＤ01（第29図）

ＳＢ01の西側を流れる溝状遺構である。後世の削平により埋土の大部分は削られており，Ｃ地区南西部と北西部で部分的に検出したに過ぎない。幅は20cm，深さは10cmにも満たない。埋土はＳＢ01の柱穴と同じ暗茶褐色砂質土の単一層であり，埋土中から弥生時代後期ごろの土器の細片が出土している。したがって，この溝状遺構も弥生時代後期ごろの所産であると思われる。

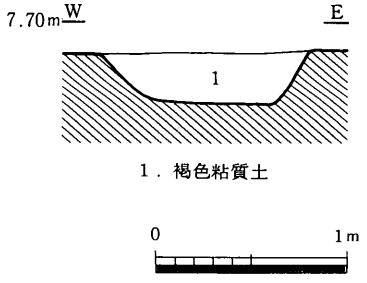


第29図　ＳＤ01土層断面図

ＳＤ02（第30図）

Ｇ１北調査区西部で検出した南から北へ向かって流れる溝状遺構である。幅1.1m，深さ30cmを測る。埋土は褐色粘質土の単一層であり，埋土中より少量の弥生土器片が出土している。

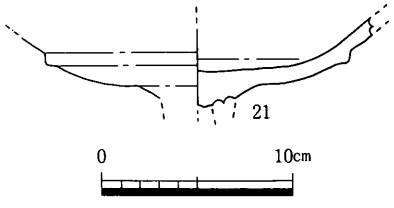
この埋土はＳＤ04と同じ埋土であり，また，流路の方向もほぼ同一である。このことより，ＳＤ02とＳＤ04は同一の溝状遺構の可能性が考えられる。



第30図　ＳＤ02土層断面図

第31図21はこの溝状遺構から出土した高杯である。脚部と口縁部は欠損している。杯部はやや内彎気味に立ち上がり，外面に段を有してそのまま口縁部にいたる。弥生時代後期ごろのものと思われる。

したがって，この溝状遺構は弥生時代後期ごろに埋没したものと思われる。



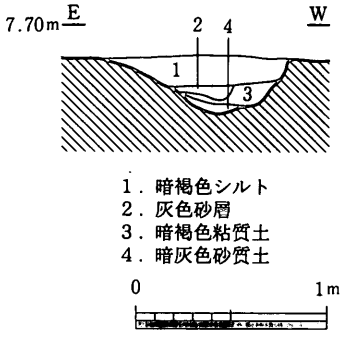
第31図　ＳＤ02出土遺物実測図

ＳＤ03（図版16(2)）

Ｇ１北調査区の東端を南西から北東に流れる幅20cm，深さ10cmの溝状遺構である。埋土は褐色粘質土であり，ＳＤ02・04等と同一である。遺物は全く出土しなかったが，埋土の質・色調よりＳＤ02・04等と同じく弥生時代後期ごろのものであると思われる。

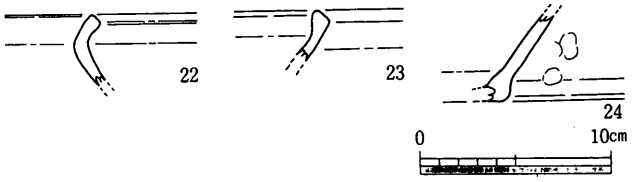
ＳＤ04（第32図）

Ｇ１南調査区中央やや西よりの部分で検出した南から北へ向かって流れる溝状遺構である。途中，一部ＳＤ06に破壊されている。幅１ｍ，深さ30㎝を測る。埋土は褐色シルトと褐色粘質土の２層に大別できるが，下層の粘質土はＳＤ02と同一である。埋土中から弥生土器片が出土している。



第32図　ＳＤ04土層断面図

第33図は，この溝状遺構から出土した遺物である。22は甕の口縁部である。頸部から屈曲して短く立ち上がる。口縁端部は面をなす。23は鉢の口縁部であると思われる。口縁端部を内側につまみ出している。24は底部である。体部との境の外面に強いナデ調整による段が見られる。これらの遺物も弥生時代後期ごろのものと考えられる。



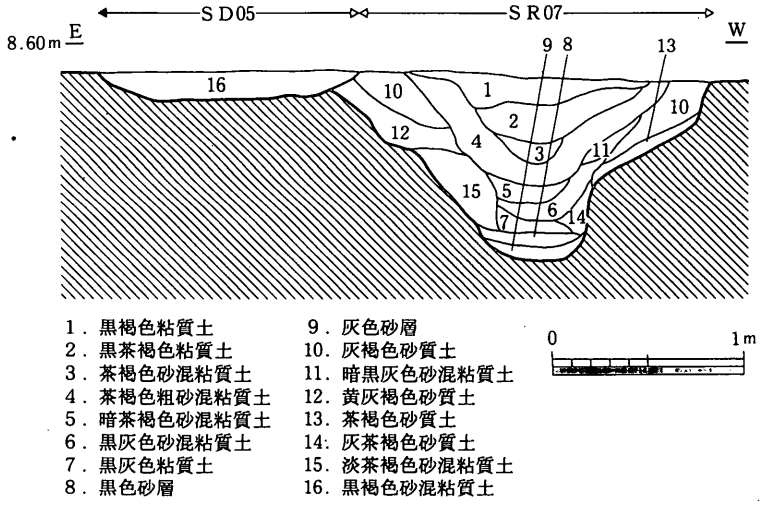
第33図　ＳＤ04出土遺物実測図

したがって，この溝状遺構の埋没期も弥生時代後期ごろと思われる。

ＳＤ05（第34図，図版17(1)）・・・弥生時代後期～古墳時代

ＳＲ07のすぐ東側を流れる溝状遺構である。幅1.4ｍ，深さ15㎝を測り，黒褐色砂混粘質土を埋土にもつ。一部でＳＲ07の東岸を破壊しており，ＳＲ07が埋没する過程で機能していたものと思われる。

遺物は細片がほとんどで，図化し得な

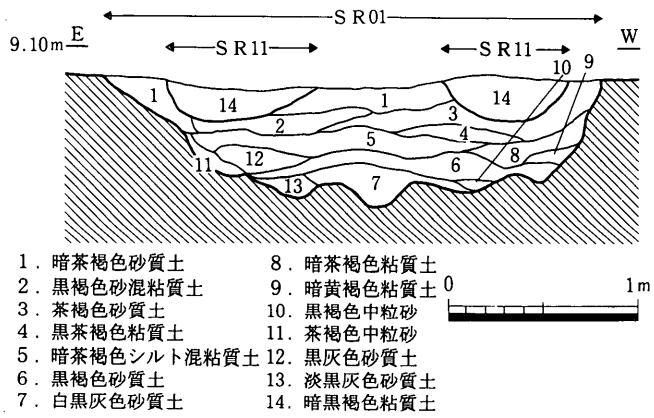


第34図　ＳＲ07，ＳＤ05土層断面図

かったが，胎土・調整等からみて弥生時代後期末ごろのものと思われる壺もしくは甕の破片が出土している。したがって，この溝状遺構は，ＳＲ07が穿たれてからのち，やや埋没しかかったころに機能していたものと思われる。その時期としては弥生時代後期末ごろが与えられよう。

ＳＲ01（第35図，図版17(2)）

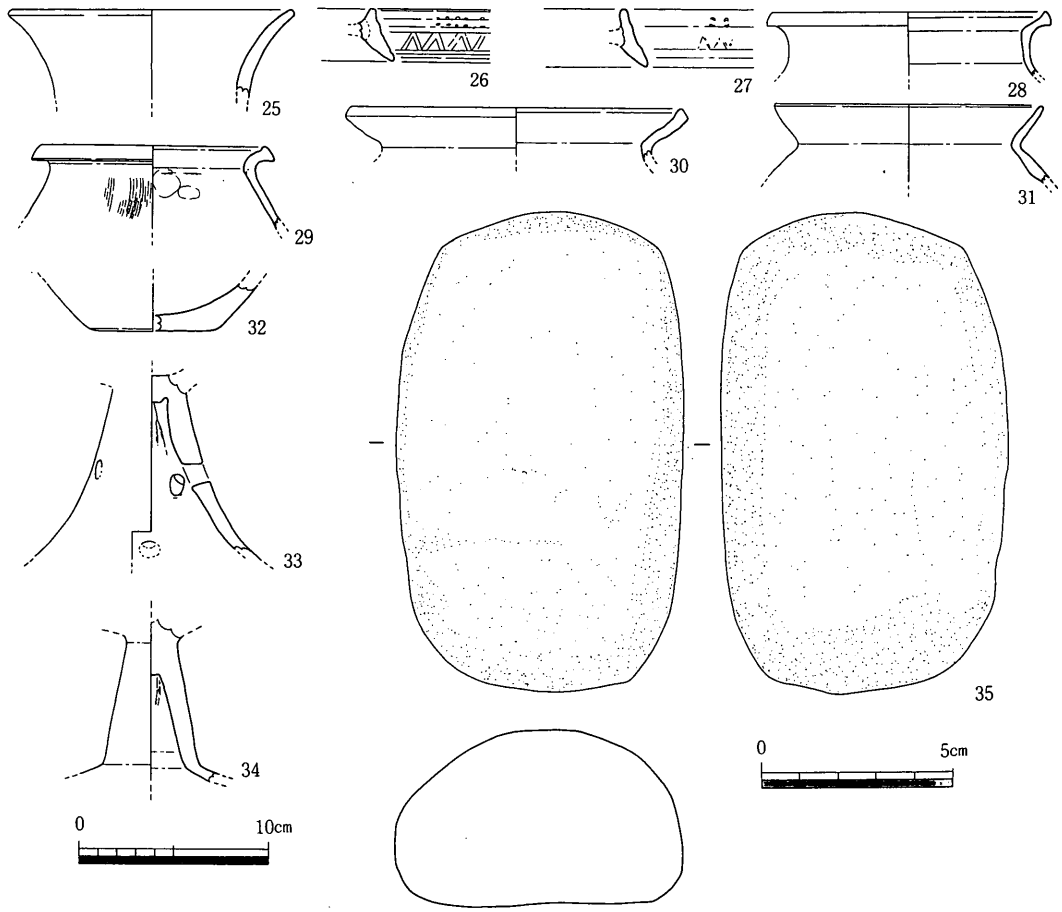
ＳＲ10・11の下層に流れていた自然河川である。幅約2.1m，深さ約50cmを測る。埋土は下層の粘質土と上層の砂質土の２層に大別できる。上層，下層とも弥生土器を出土している。



第35図　ＳＲ01・11土層断面図

第36図は，ＳＲ01から出土した遺物である。25～28は壺の口縁部である。25は口縁部がラッパ状に開くタイプのものである。内外面ともに丁寧なナデ調整が見られる。26・27は同一個体と思われる壺の口縁部である。口縁端部を上下方向に拡張し，その部分に竹管文と鋸歯文を施す。28は直立する頸部から屈曲して外反する口縁部をもつものである。口縁端部はわずかに拡張する。29～31は甕の口縁部である。29は頸部から屈曲して外反する口縁部をもつ甕である。口縁端部は若干下方に拡張する。内面には指押さえ，外面には刷毛目調整の痕跡がわずかに認められる。30・31はくの字状を呈するの口縁部をもつ甕である。30は口縁部がわずかに内彎し，端部は上方にわずかに拡張する。31は口縁端部を丸くおさめている。32は底部である。33・34は高杯の脚部である。33は緩やかに広がるタイプのもので円孔が上下２段に認められる。34は脚部中ほどがわずかに膨らみ，屈曲して裾部にいたるタイプのものである。35は石器である。安山岩製と思われる磨石である。平坦な面に縦方向の擦痕が認められる。

これらの遺物には25～27のように弥生時代後期初頭ごろの特徴を示すものから31の甕のように弥生時代後期末ごろの特徴を示すものまで見られる。したがって，このＳＲ01の埋没時期は弥生時代後期後半ごろと推測される。

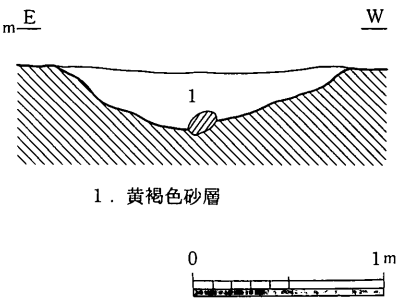


第36図　ＳＲ01出土遺物実測図

ＳＲ02（第37図，図版19(1)）

ＳＲ01のすぐ東側で検出した自然河川である。幅約1.5ｍ，深さ約40㎝で，埋土は黄褐色砂層の単一層である。一部ＳＲ01に壊されている部分があるため，ＳＲ01の前身の自然河川である可能性も考えられる。遺物は弥生土器が出土している。第38図は，ＳＲ02から出土した遺物である。36は壺である。口縁部がラッパ状に開くタイプのものであろう。端部はやや丸くおさめている。37は高杯の口縁部である。杯部から屈曲してわずかに外反する。端部は外方にわずかにつまみ出す。いずれも弥生時代後期ごろの特徴を示している。

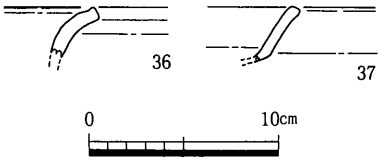
したがって，ＳＲ02は弥生時代後期後半ごろに埋没したものと思われる。



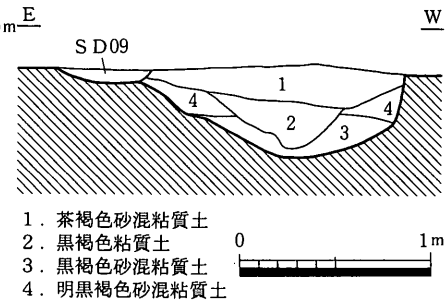
第37図　ＳＲ02土層断面図

ＳＲ03（第39図，図版19(2)）

ＳＤ07・08の下層に流れていた自然河川である。調査区中央付近までＳＤ07・08とほぼ同じ方向を流れるが，北側で大きく東側に方向を変える。調査区北端付近では３方向に分岐する。分岐点での土層に前後関係は認められないため，同時期に分岐したものと思われる。幅は約 1.5 m，深さは約50cmである。埋土は粘質土が多くみられる。埋土中からは弥生土器が出土している。

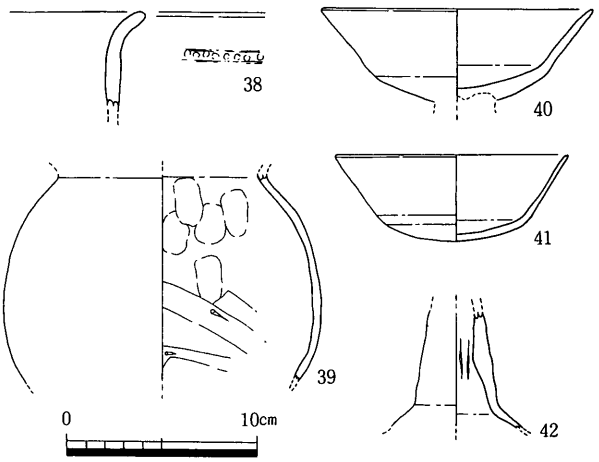


第38図　ＳＲ02出土遺物実測図



第39図　ＳＲ03土層断面図

第40図はＳＲ03から出土した遺物である。38は甕の口縁部である。ほぼ直立する体部より如意状に外反する。口縁端部は丸くおさめている。頸部にわずかに刺突文が認められる。弥生時代前期のものであろう。39は甕の体部である。屈曲して外反する口縁部が付くものと思われる。体部は球形を呈し，内面下半部にヘラ削り調整，上半部には指押さえが顕著に認められる。40は高杯の杯部である。杯部がやや内彎気味で屈曲して外反する口縁部にいたるものである。



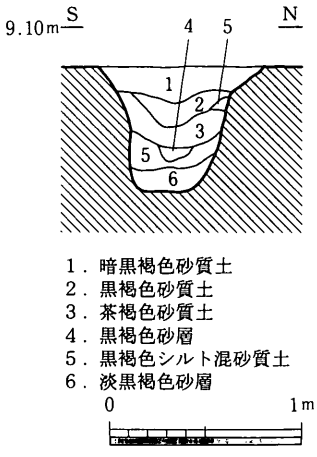
第40図　ＳＲ03出土遺物実測図

41は鉢である。一見，高杯の杯部に見えるが，脚部との接合痕が全く認められないので鉢とした。42は高杯の脚部である。脚部中ほどがわずかに膨らみ，屈曲して裾部にいたるものである。38をのぞき，いずれも弥生時代後期ごろのものと思われる。したがって，ＳＲ03は弥生時代後期ごろに埋没したものと思われる。

ＳＲ04（第41図）

ＳＲ03の支流をなす自然河川である。ＳＲ03の北部で３方向に分岐する流路のうちで西側に向かって流れる。幅約80cm，深さもほぼ同じくらいで断面Ｕ字形を呈する。埋土は砂質土が多いが，若干粘性を帯びている。

出土遺物は少ないが，壺もしくは甕の破片が出土している。形態や胎土に角閃石が含まれることから弥生時代後期ごろのものと思われ，したがって，この自然河川も当該時期に埋没したものと思われる。

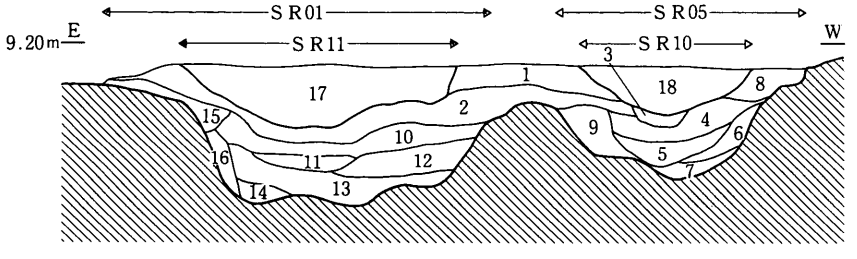


第41図　ＳＲ04土層断面図

ＳＲ05（第42図，図版20(2)）

ＳＲ10の下層を流れる自然河川である。ＳＲ01とほぼ同じ方向を流れる。幅は約１ｍ，深さは約50cmである。ＳＲ01と同じ時期に機能していたものと思われる。埋土はＳＲ01と酷似している。

遺物はまったく出土しなかったが，方向・埋土等からみてＳＲ01と同じく弥生時代後期ごろに埋没したものと思われる。



第42図　ＳＲ05土層断面図

ＳＲ06（第44図，図版21(1)）・・・弥生時代後期～古墳時代

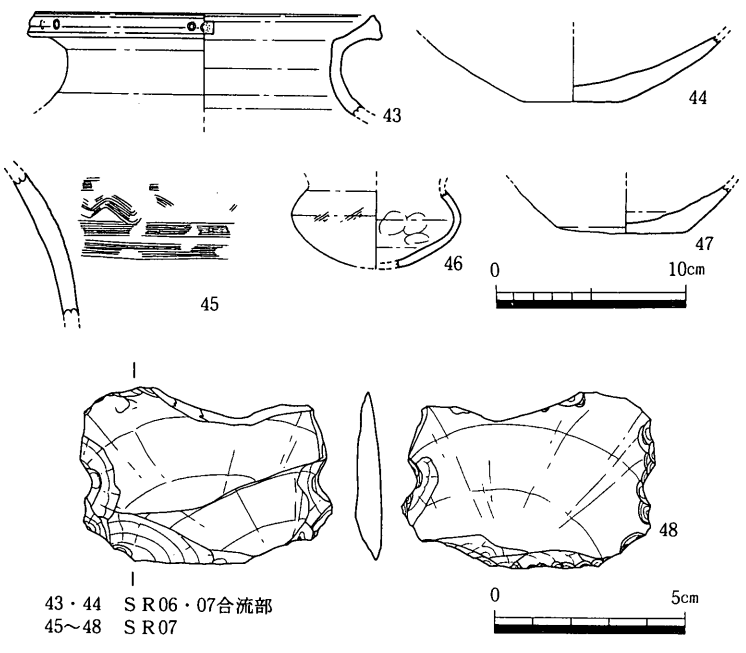
Ｂ地区のほぼ中央を南西から北東に向かって流れる自然河川である。幅2.4ｍ，深さ1.4ｍを測る。埋土は10層以上に細別できるが，大きくは上層の粘質土と下層の砂質土に大別される。下層の砂質土からは，図化し得なかったが，土器の細片が出土しており，その胎土等からみて弥生時代後期後半ごろのものと思われる。また，上層の粘質土からは土師器片と須恵器片が出土している。須恵器片は壺の体部であると思われる破片が出土しているが，形態・調整等からみて古墳時代後期ごろのものであると思われる。

したがって，この自然河川は弥生時代後期に機能し始め，徐々にその機能を失いつつ，古墳時代後期に埋没したものと思われる。

ＳＲ07（第44図，図版21(2)）・・・弥生時代後期～古墳時代

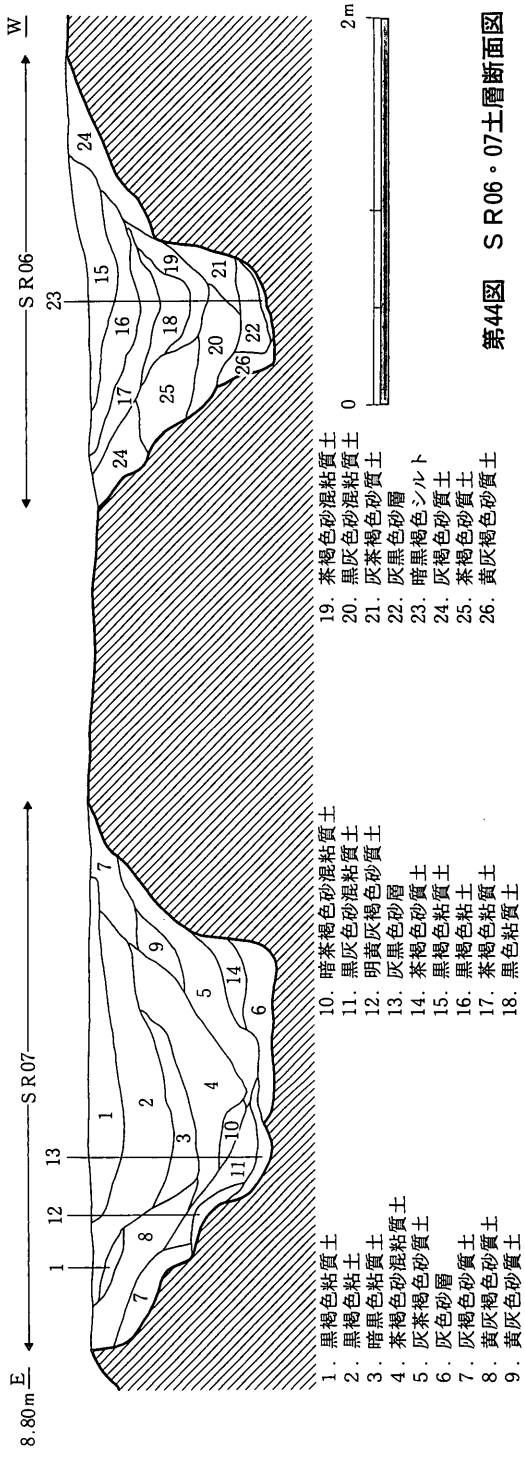
ＳＲ06のすぐ東側を流れる自然河川である。幅2.8ｍ，深さ1.4ｍを測る。南側では上部の広がった「Ｕ」字形を呈するが，北側ではやや緩やかな「Ｖ」字形を呈する。埋土はやはり粘質土と砂質土に大別できるが，砂質土は両岸に，粘質土は中央部に堆積しており，幅が狭くなりつつ埋没した状況がうかがわれる。また，ＳＲ07は，調査区の中央やや北よりの部分で２条に分岐し，その西側の流路がＳＲ06と合流するという複雑な状況を呈している。

遺物はＳＲ06と同じく弥生土器・土師器・須恵器・石器が出土しているが図化できる遺物はわずかである。第43図はＳＲ06とＳＲ07の合流部およびＳＲ07から出土した遺物である。43は壺である。直立気味の頸部から大きく屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁端部は強いナデ調整により上下方向にわずかに拡張し，面



第43図　ＳＲ06・07出土遺物実測図

をなす。周囲には四方向に竹管文を施す。44・47は底部である。46は小型丸底壺である。口縁部と底部の一部を欠損しているが，体部中央が大きく張り出す算盤玉状を呈する。48はサヌカイト製の石器である。両側に抉りが認められ，長辺の一辺に調整を加えていることからやや小型の石庖丁であると思われる。小型丸底壺の形状から判断してこの自然河川の埋没期の上限は弥生時代後期ごろと思われる。また，上層からは古墳時代後期ごろの須恵器も出土していることから判断して，この自然河川もＳＲ06と同じく弥生時代後期に機能し始め，古墳時代後期頃に埋没したものと思われる。



第44図　ＳＲ06・07土層断面図

ＳＲ08（第45図，図版23(1)）

Ｇ１北調査区中央部で検出した自然河川である。幅7.5m，深さ70㎝で色調の異なる砂層が堆積している。遺物は全く出土しておらず，時期の特定はできないが，埋土の特徴からＳＲ09などと同じく弥生時代～古墳時代にかけて埋没したものと考えられる。

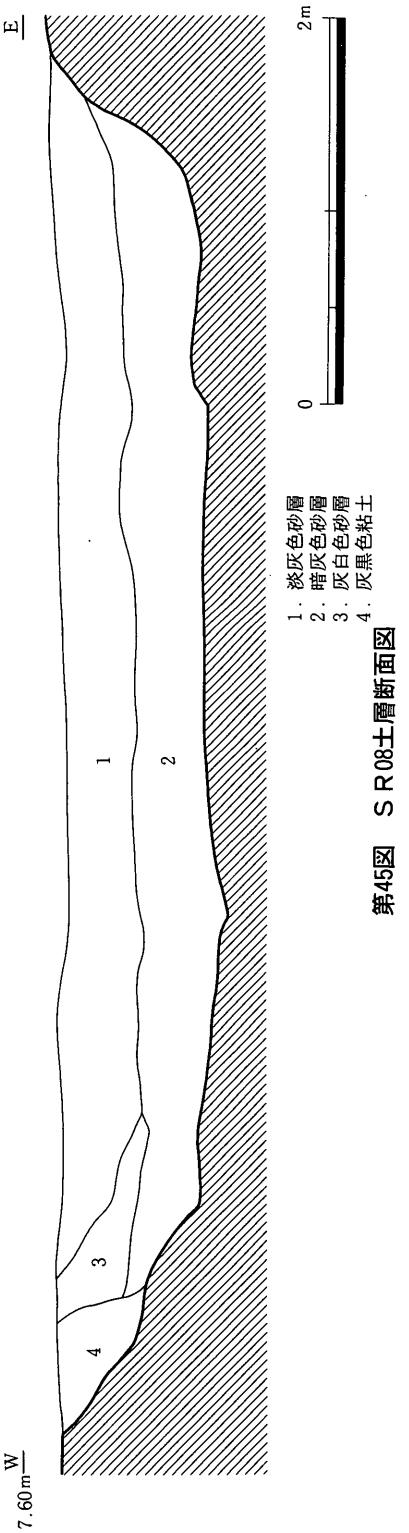
ＳＲ09（第46図，図版23(2)）・・弥生時代後期～古墳時代後期

Ｇ２地区の西側で検出した自然河川である。上層には春日川の支流である古川の洪水砂層が厚く堆積していた。検出した上面での幅は5.8m，深さは1.2mを測る。埋土は褐色シルトと褐色砂層の２層に大きく分けら

れる。上層の褐色シルトからは土師器片や須恵器片が出土した。下層の褐色砂層からは弥生時代後期の土器片が多量に出土した。この自然河川は古川の旧河道最深部であると思われる。おそらく，弥生時代～古墳時代には古川は現在よりも西側によっており，その後氾濫を繰り返したのであろう。

第47図～第49図はＳＲ09より出土した遺物の実測図である。第47図49～54は壺である。49・50は，頸部から弓のように外反する口縁部をもつものである。頸部には沈線が3条ほど見られる。口縁端部は丸くおさめている。その特徴からみてこの壺は弥生時代前期新段階のものと考えられる。この壺は摩滅が著しいことから，南の方より流入したものと思われる。51は複合口縁の壺である。直立気味に立ち上がる頸部から外方に広がり，再びやや外反しながら立ち上がる口縁部にいたる。口縁端部は丸くおさめている。摩滅のため，調整ははっきりしない。52・53は直立する頸部から大きく外方へ広がる口縁部をもつ壺である。いずれも口縁端部は強いナデ調整により上方へわずかにつまみ出す。54は頸部から外反し，一段屈曲し立ち上がる口縁部をもつ壺である。口縁部は強いナデ調整により作られている。体部は球形を呈し，下半部には斜め方向のヘラ削り調整，上半部には指押さえが顕著に認められる。口縁端部はやや尖り気味に立ち上がる。

55～57は甕である。55は短く屈曲する口縁部をもち口縁端部を上方につまみ出している。56はやや長細い体部を呈する甕である。わずかに内彎しながら立ち上がる口縁部をもつ。口縁端部はやや尖り気味に立ち上がる。体部内面には板ナデの痕跡が認められ，外面にはタタキ調整が顕著に認められる。



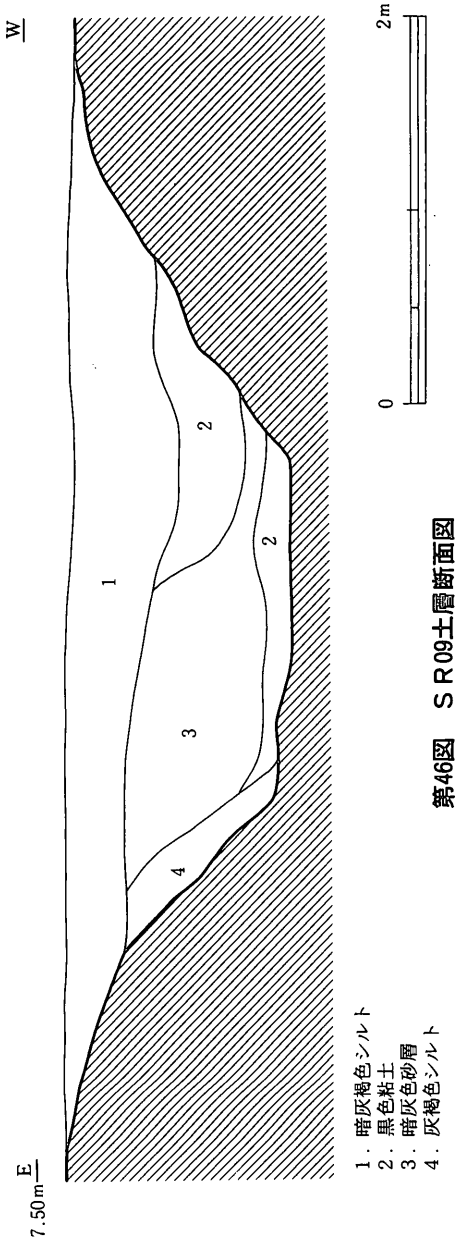
第45図　ＳＲ08土層断面図

58～60は底部である。いずれも平底を呈するものである。60は若干底部裾を外方につまみ出す。

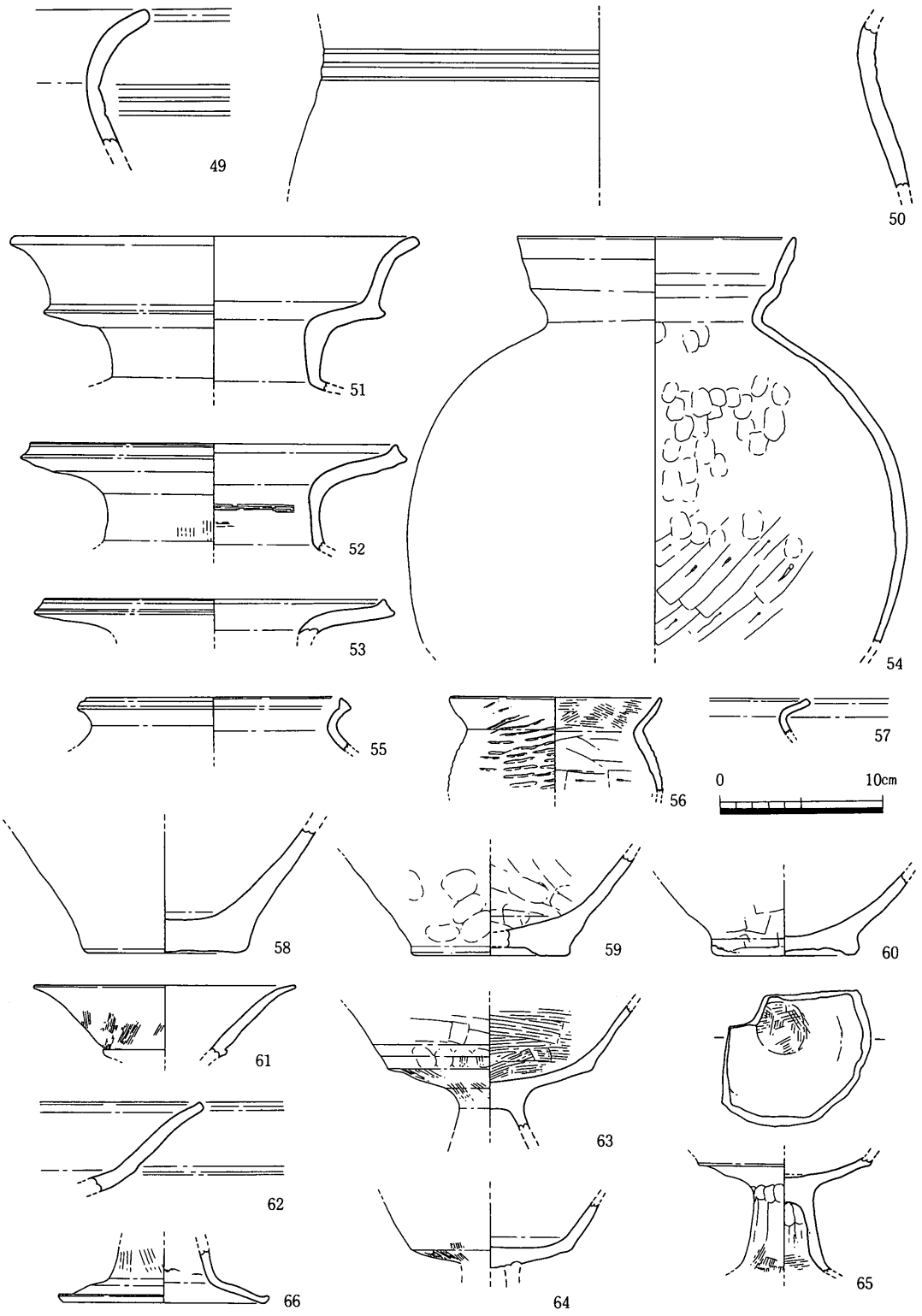
61～66は高杯である。杯部から口縁部にいたるまでが直線的な61や62，杯部から屈曲して口縁部に至る63～65の2種類に分けられる。63は外面に横方向の刷毛目調整が，顕著に認められる。66は脚部から屈曲して裾部にいたるものである。

67～69は石器である。67・68はいずれも表面に擦痕の認められる石器である。材質は安山岩であると思われる。用途としては砥石もしくは磨石が考えられる。69は安山岩製の小型の打製石斧である。以上の遺物は49・50の壺を除きすべて弥生時代後期に属するものであると思われる。

70～79は土師器である。71は甕である。体部の中央やや下方が張りだし，ほぼ丸底である。頸部から屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁端部はやや丸くおさめている。内面には指押さえが顕著に認められる。外面には刷毛目調整ののち横方向のヘラ磨き調整を施している。口縁部外面にも縦方向のヘラ磨き調整が，認められる。72～74はいずれも甕の口縁部である。頸部から屈曲して外反するもの（72），口縁部中ほどが若干肥厚し，端部を外方へ折り曲げるもの（73），内彎気味に立ち上がり端部を外方へ折り曲げるもの（74）がある。75・76は高杯の杯部である。75は外反して口縁端部を丸くおさめる。76は杯部から屈曲して外反しながら口縁端部を外側にさらに開く。77は高杯の杯部である。78・79は高杯の脚部である。いずれも脚部から大きく屈曲して裾部にいたるものである。

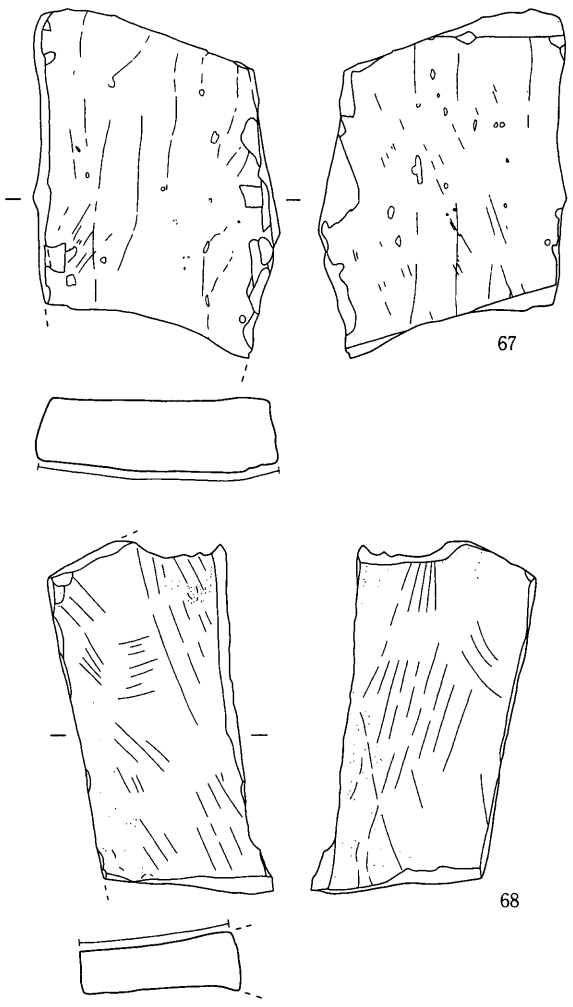


第46図　ＳＲ09土層断面図



第47図　ＳＲ09出土遺物実測図(1)

80～87は須恵器もしくは陶質土器である。80は杯蓋である。大部分が欠損しているが，外面に明確な稜をもち，ヘラ削りも丁寧である。口縁端部はやや尖り気味である。81は杯身である。受け部の立ち上がりが高く，ヘラ削りもほぼ全体に及んでいる。82は甕もしくは小型の壺の体部である。内外面ともに下方に指押さえの痕跡がわずかに認められる。胎土も砂粒等をほとんど含んでおらず，きめ細かい。一見すると，ＳＨ01出土の陶質土器に酷似している。83～87は須恵器もしくは陶質土器の体部の破片である。いずれも指押さえの痕跡が認められる。82～87は蛍光Ｘ線による胎土分析の結果，大阪府堺市の陶邑窯跡群もしくは朝鮮半島で製作された可能性が高いことが明らかとなっている。

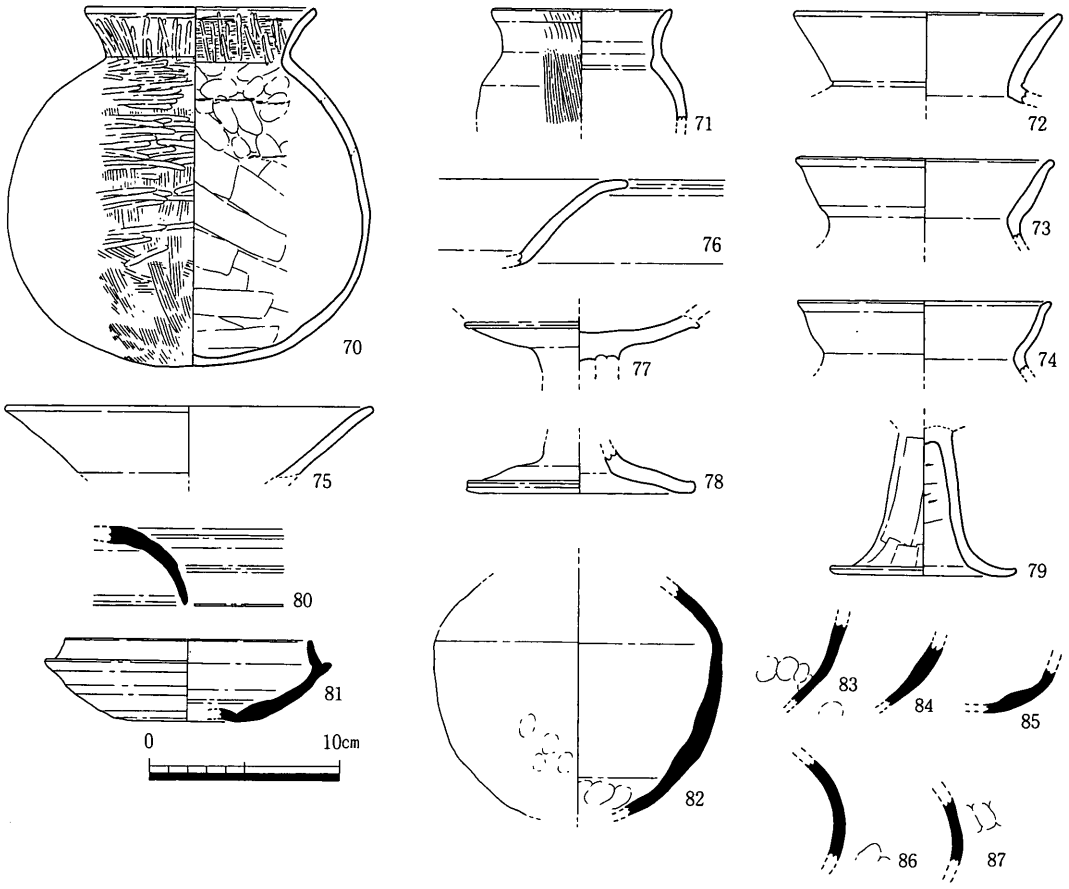


第48図　ＳＲ09出土遺物実測図(2)

弥生時代包含層の遺物（第50・51図）

ここでは各地区の包含層から出土した遺物のうち，弥生時代およびそれ以前に属するものを報告する。

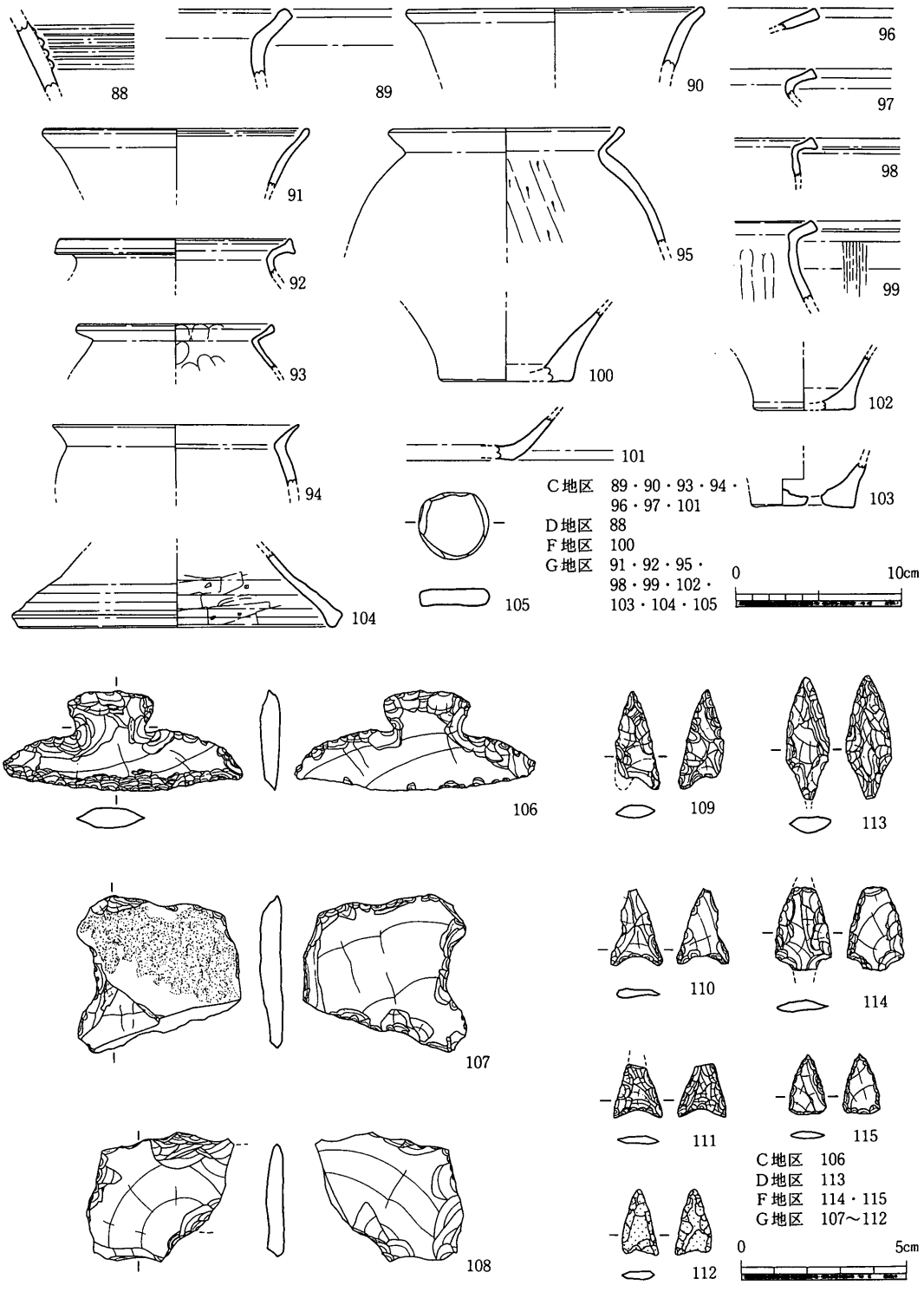
88～91は壺である。88は頸部下部に３条の突帯を巡らす。89はいわゆる如意状を呈する口縁部，90・91は長頸壺の口縁部である。92～99は甕である。口縁部はくの字状に屈曲するものがほとんどである。口縁端部を拡張するも



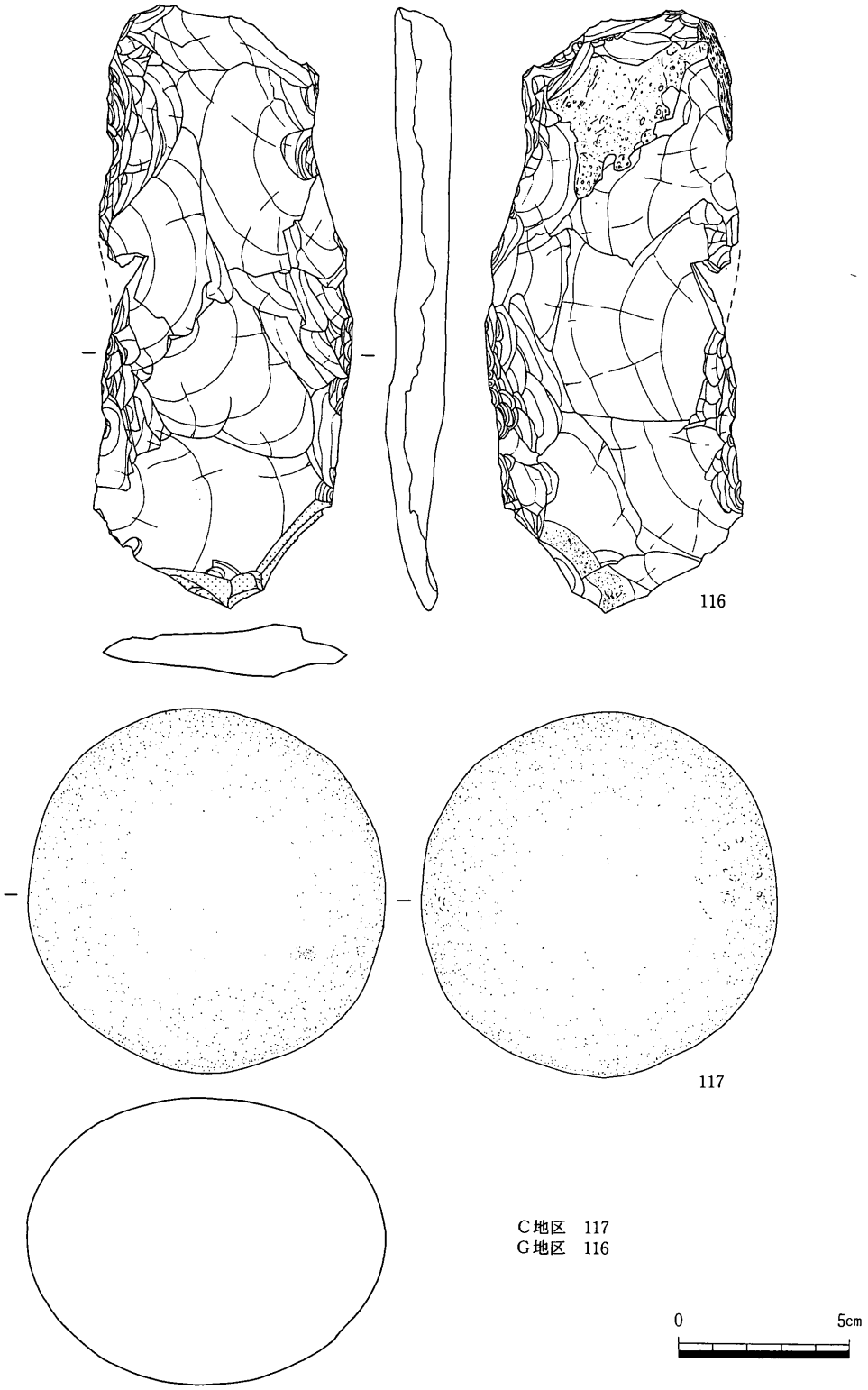
第49図　ＳＲ09出土遺物実測図(3)

の（92・97・98）と尖らせるもの（94）がみられる。100～103は底部である。103は意図的に底部中央部を穿孔している。104は高杯の裾部である。105は円盤状土製品である。壺の底部を丁寧に割り，何らかの目的に転用したものと思われる。

106～117は石器である。106は石匙である。サヌカイト製で残存状況も良好である。石匙は縄文時代に多く見られる石器であるが，本遺跡での出土状況は包含層中であり，正確な時期の特定はできないが，製作時期はやはり縄文時代であろう。107・108は短側辺に抉りが認められることより，石庖丁であると考えられる。109～115は石鏃である。凹基式のもの（109～112），凸基式のもの（113・114）と平基式のもの（115）が混在して出土している。116は大型の打製石斧である。サヌカイト製で刃部に使用したと思われる擦痕と磨滅が認められる。117は磨石である。安山岩の円礫を利用している。きれいな円形を呈するが，明確な使用痕は認められない。



第50図　包含層出土遺物実測図(1)



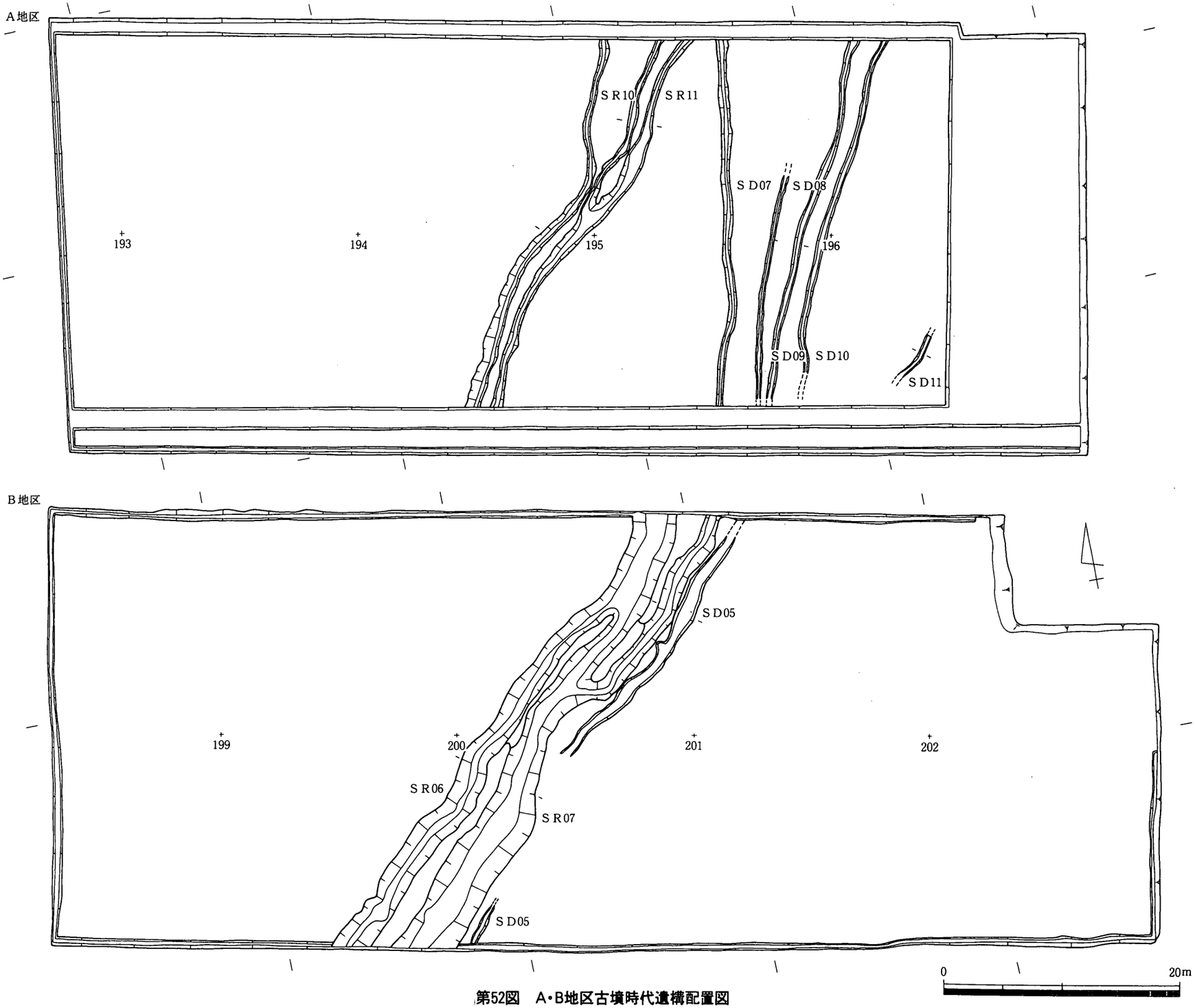
第51図　包含層出土遺物実測図(2)

（2）古墳時代の遺構・遺物

SH01（第57図，図版25(2)）

G1南調査区北東隅で検出した竪穴住居跡である。上層包含層と遺構検出面とが酷似しているため，平面プランは確認できず，調査区東側に設定した側溝の断面を観察して竪穴住居跡であると判断した。断面の観察により南北方向の大きさは約4.5mであることがわかる。したがって，この竪穴住居跡の規模も約4.5m四方の方形を呈するものと推測される。埋土も断面から確認して黒色砂質土の単一層であることがわかるが壁溝等の諸施設の存在は確認できなかった。また，この竪穴住居跡に伴う柱穴や土坑もいくつか確認しているが，主柱穴の数等は不明である。この竪穴住居跡の床面と思われる面より小型丸底壺を始めとする土師器やいわゆる韓式系土器が出土している。

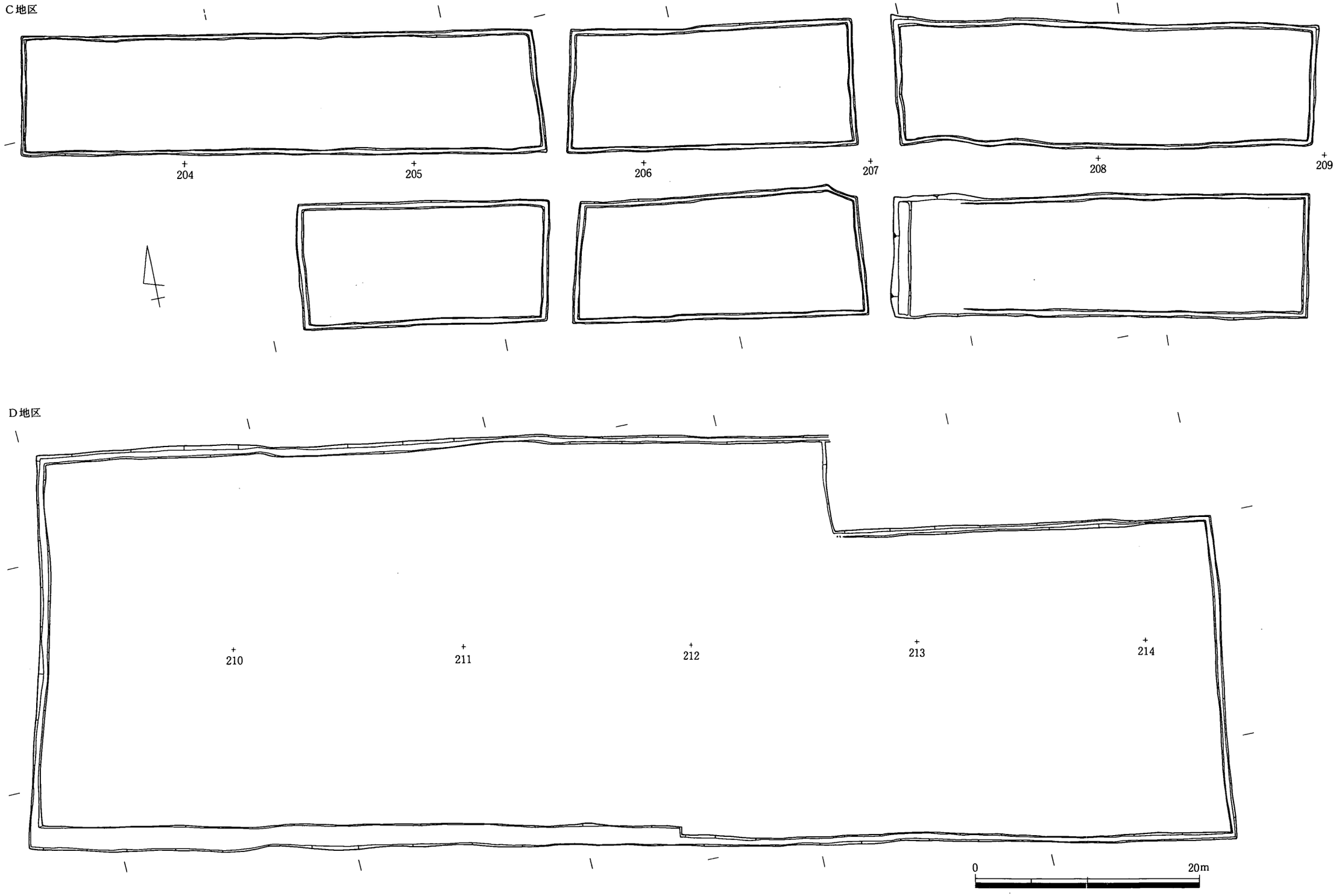
第58図はこの竪穴住居跡から出土した遺物である。118は赤褐色を呈する軟質だが胎土・焼成状態の良好な土器である。大きく張り出す体部およびそれと同じくらい張り出す肩部をもつ。肩部から大きく内側に屈曲し，ほぼ直立する頸部へといたる。口縁部は欠損している。内面は丁寧な横方向のナデ調整がほぼ全面に見られるが，下半部に若干指押さえの痕跡が認められる。外面上半部は丁寧なナデ調整が施されている。下半部には1辺5㎜角の格子目のタタキ調整が顕著に認められる。119も118と同じ製作技法によって作られた土器である。頸部より上の部分を欠損しているが，同じ種類の土器であろう。ただし，
119は体部外面すべてに格子目のタタキ調整が認められる。このような製作技法や形態，胎土・色調を呈する土器は朝鮮半島の三国時代の土器に酷似しており，いわゆる「韓式系土器」の範疇に属するものであると考えられる。120は土師器である。甕の口縁部であると思われる。くの字状に外反する口縁部をもち，短部はやや尖り気味に立ち上がる。内外面ともに指押さえの痕跡が認められる。121は灰色を呈する硬質の土器である。甑もしくは小型の壺の体部であると思われる。作り方は非常に丁寧で粘土紐を積み上げた痕跡とそれを指で丁寧に結合させた指押さえの痕跡が内外面ともに顕著に認められる。日本の須恵器にはこのような製作技法のものは非常に希であり，やはり「韓式系土器」の範疇に属する陶質土器であると考えられる。
122・123は土師器高杯の杯部である。いずれも杯部と口縁部の境が明確でなく，内彎気味に口縁部にいたり，若干外反する口縁端部をもつ。122は口縁端部がやや薄手で尖り気味，123は丸くおさめている。



第52図　A・B地区古墳時代遺構配置図

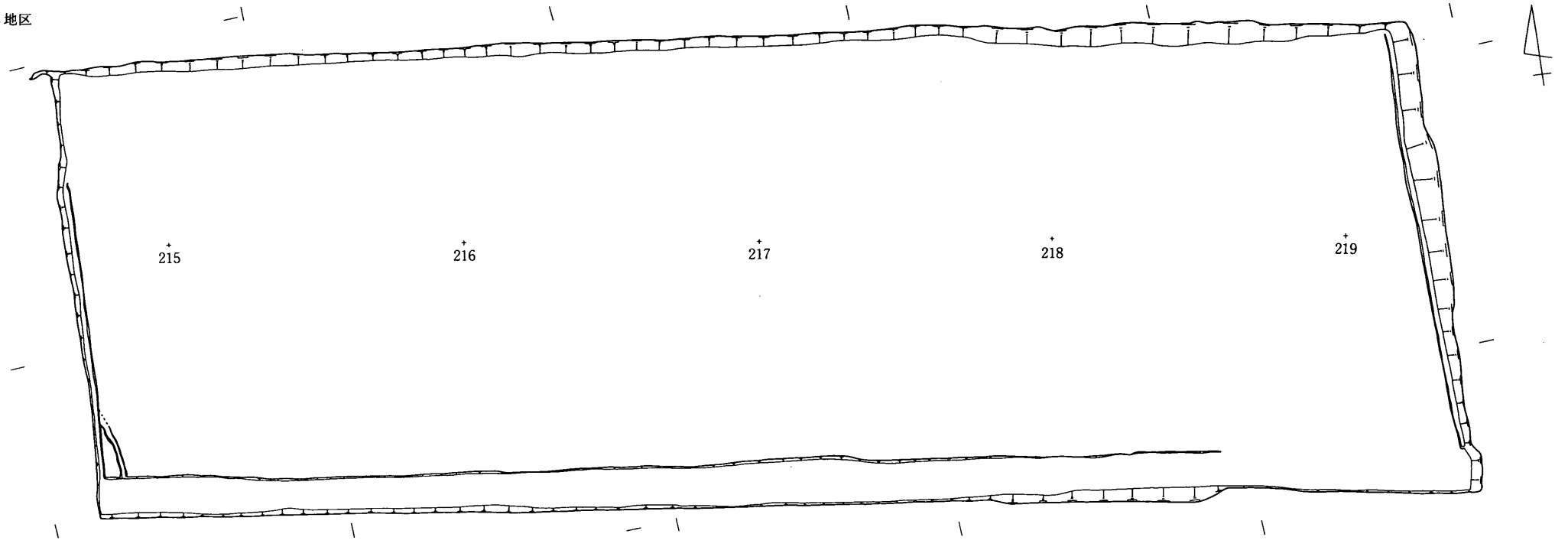
C地区

D地区

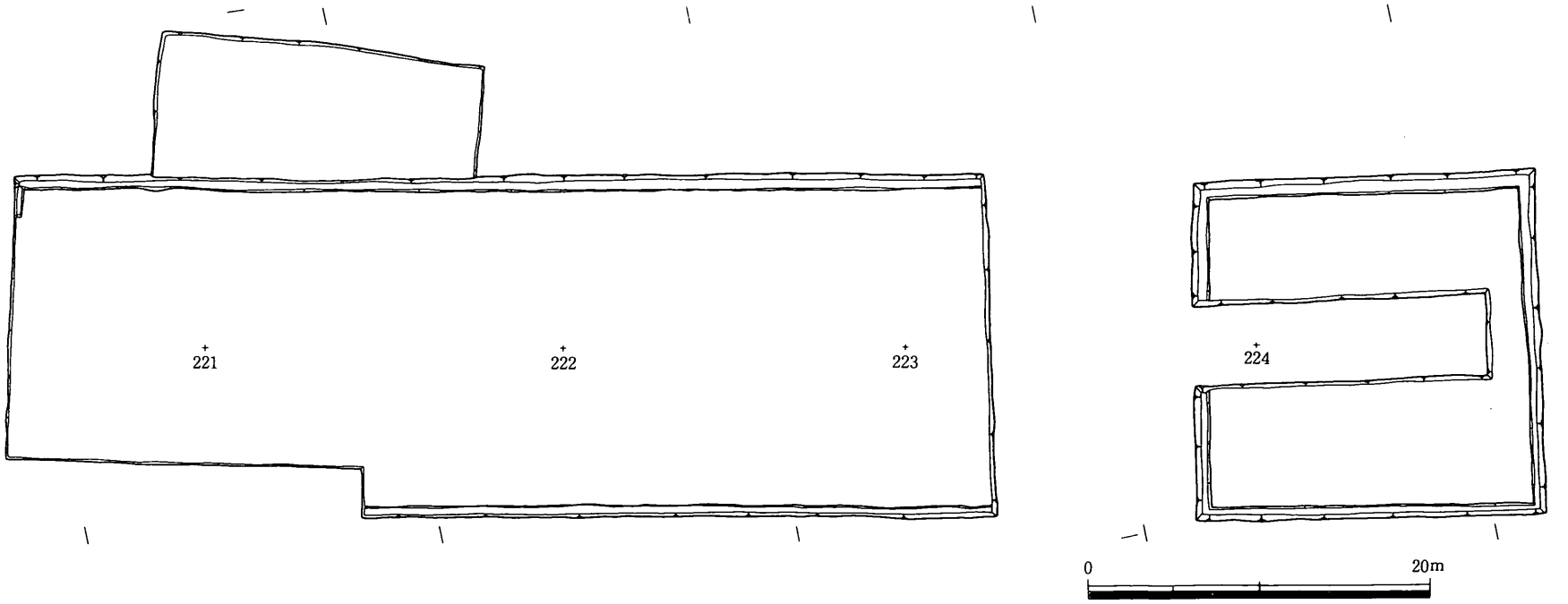


第53図　C・D地区古墳時代遺構配置図

E地区

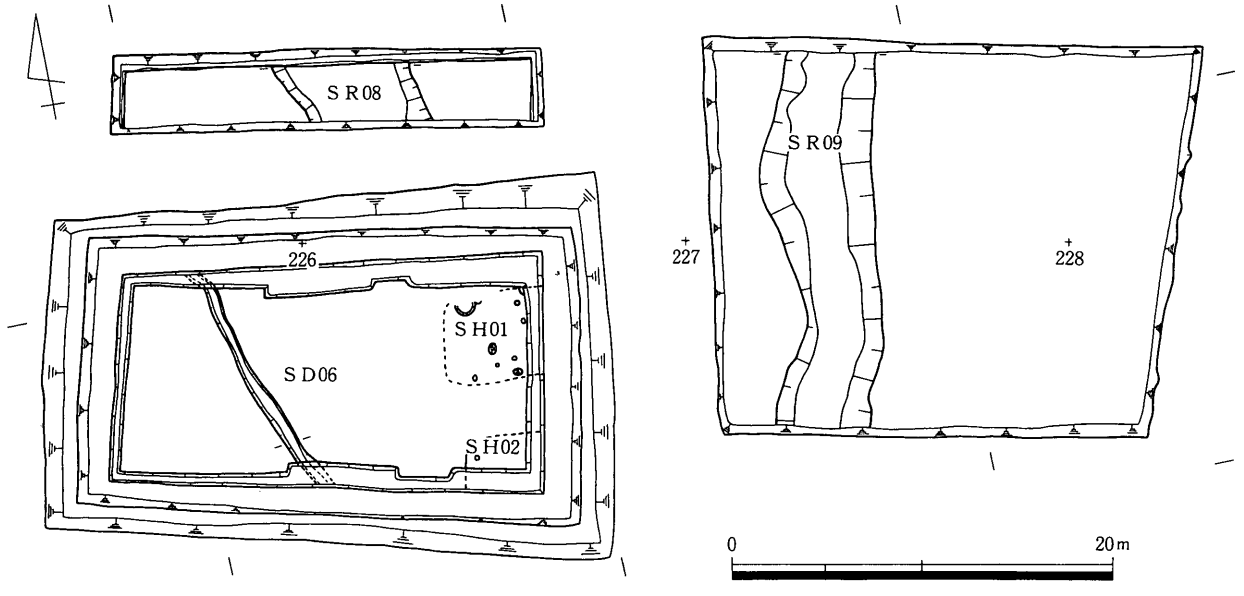


F地区



第54図　E・F地区古墳時代遺構配置図

G地区

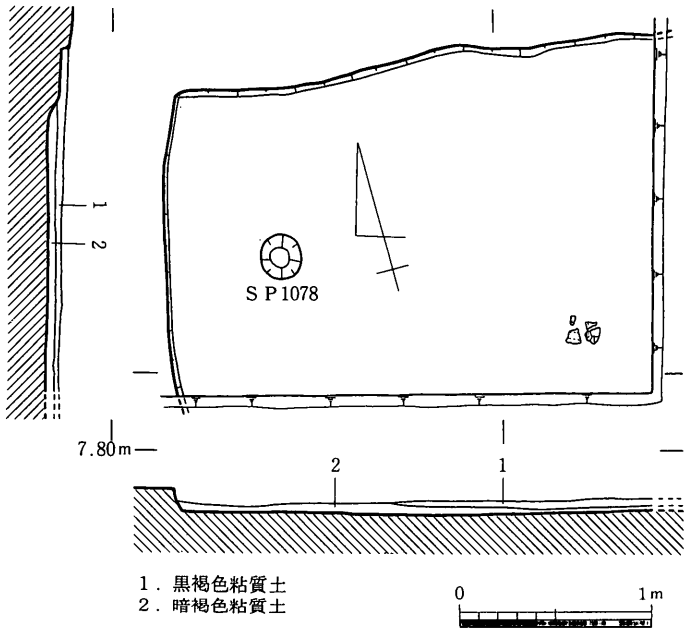


第55図　G地区古墳時代遺構配置図

124・125・127はＳＨ01から出土した土師器の小型丸底壺である。いずれもやや扁平の体部にわずかに外反する口縁部をもつ。124は口縁部が若干外方へ開くが，125・127はほぼ直立気味に立ち上がる。これらの土師器の特徴からＳＨ01の機能していた時代は古墳時代中期ごろ，つまり５世紀前半から中頃と思われる。この時期は日本に須恵器が入ってきた前後と考えられ，あわせて朝鮮半島の土器（韓式系土器）も流入していた時期である。このころの土器が六条・上所遺跡付近で生活していた人々にわたっていたことは，この地域の人々の先取性の一端をうかがわせる意味で非常に興味深い。

ＳＨ02（第56図，図版28(2)）

Ｇ１南調査区南東隅で検出した竪穴住居跡である。ＳＨ01と同じく平面的には確認できず，断面の観察により竪穴住居跡と判断した。検出した部分は概ね全体の１／４程度であると思われ，全体の規模は約４ｍ四方程度であったと思われる。

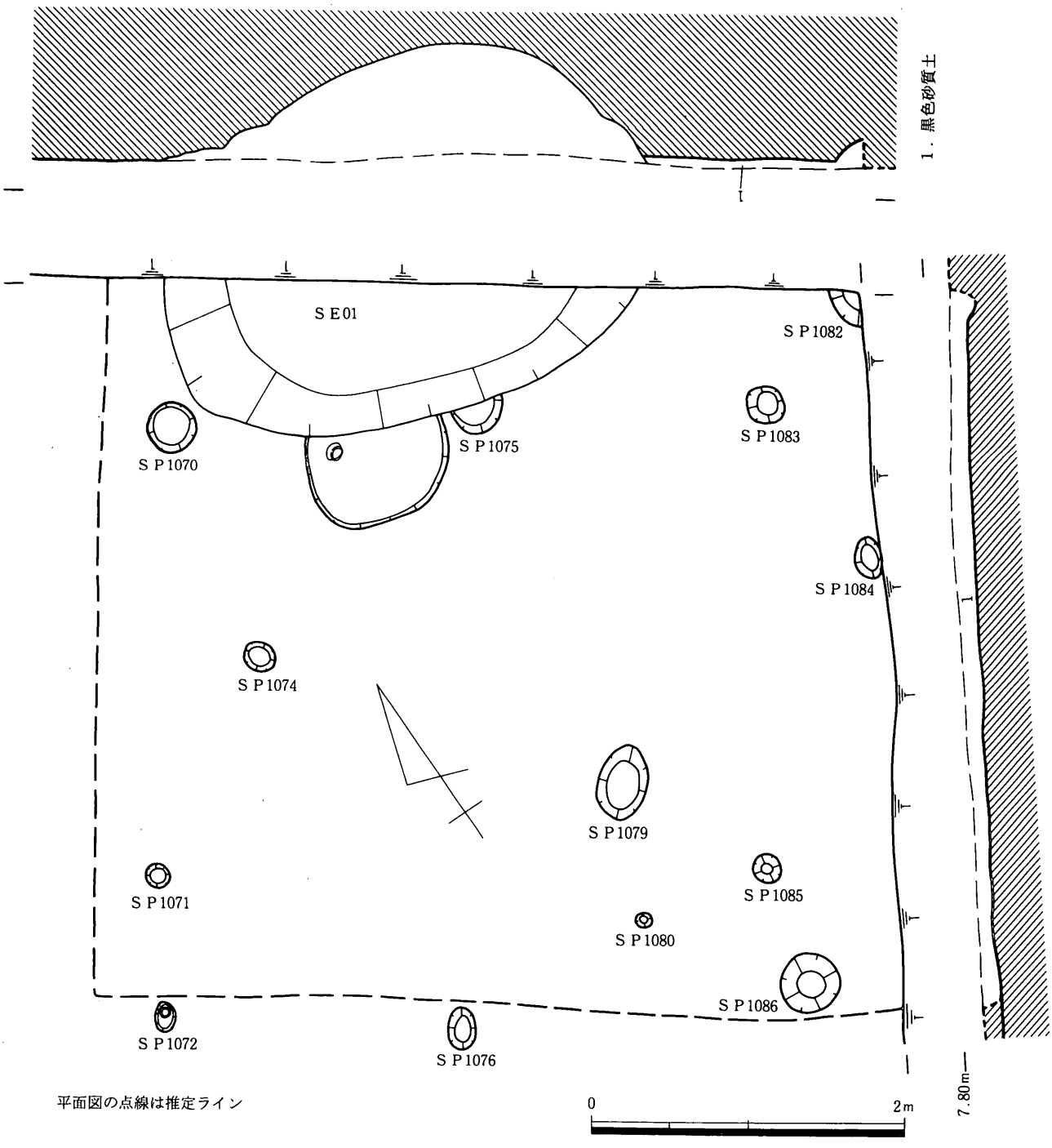


第56図　ＳＨ02平・断面図

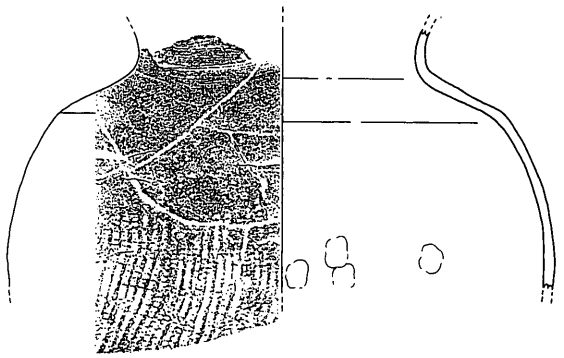
埋土は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土で主柱穴と思われるピットを１つ検出している。床面からは土師器片が出土しているほか，小型丸底壺も出土している。しかしながら須恵器は１点も出土していない。

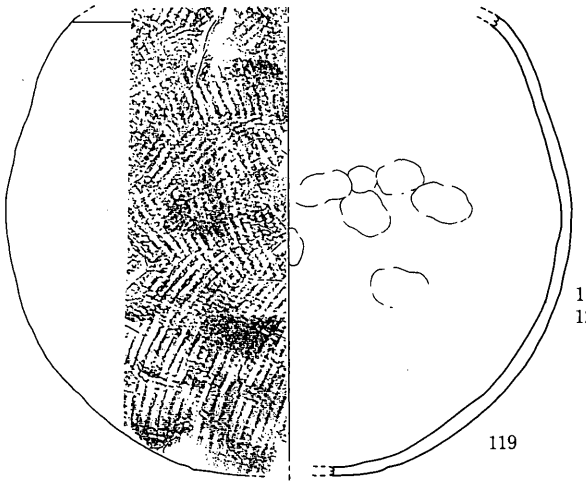
第58図126・128はこの竪穴住居跡から出土した小型丸底壺である。法量・製作技法や胎土・焼成もＳＨ01出土のものと酷似する。

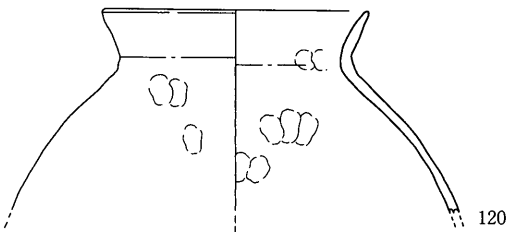
したがって，この竪穴住居跡もＳＨ01と同じく古墳時代前～中期ごろの所産であると思われる。

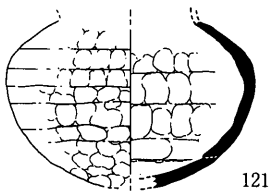


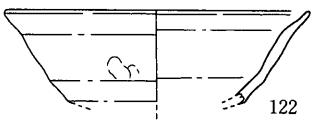
第57図　SH01平・断面図

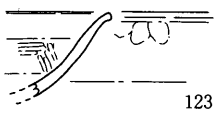


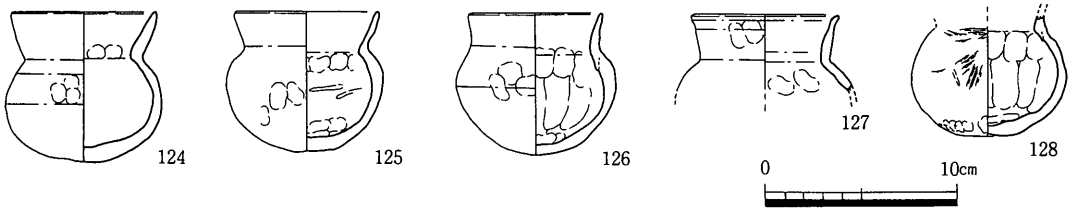








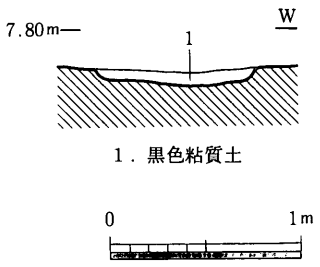




第58図　SH01・02出土遺物実測図

ＳＤ06（第59図，図版29(2)）

Ｇ１南調査区の中央やや西よりの部分で検出した南東から北西に向かって流れる溝状遺構である。幅80cm，深さ10cmを測り，埋土は黒色粘質土の単一層である。埋土中からは土師器片が出土している。この埋土はＳＨ01・ＳＨ02の埋土とも一致し，この溝状遺構も古墳時代前～中期頃に機能していたものと思われる。

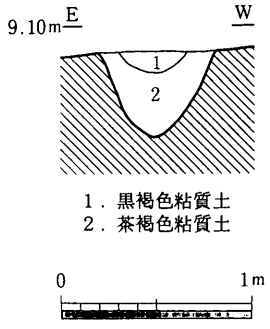


第59図　ＳＤ06土層断面図

ＳＤ07（第60図，図版30(1)）

調査区中央やや東よりの部分で検出した溝状遺構である。ＳＲ10・11より方向がやや東に向いており，調査時に設定したグリッドの基準線にほぼ合致する。幅約１m，深さ約50cmを測り，断面はＶ字形を呈する。埋土は褐色粘質土で黒っぽい上層と茶色を呈する下層に二分される。

遺物は出土しなかったが，埋土の類似性からＳＲ10・11と同じく古墳時代後期（６Ｃ末～７Ｃ初頭）に埋没したものと思われる。

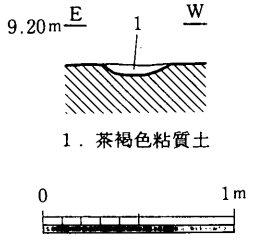


第60図　ＳＤ07土層断面図

ＳＤ08（第61図，図版30(2)）

ＳＤ07の東側で検出した溝状遺構である。ＳＤ07とほぼ同じ方向，埋土を呈するが，北側でやや東側に向きを変える。幅は30～40cm，深さは約10cmと検出した深さは非常に浅い。北側では，削平のため，検出することができなかった。

遺物は全く出土していないが，埋土の類似性からみてＳＤ07と同じ時期に埋没したものと思われる。



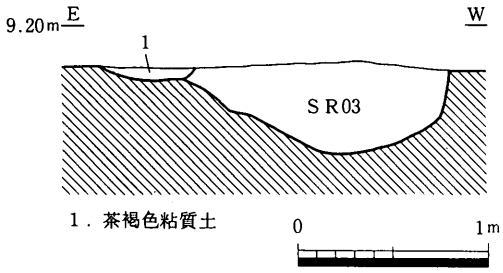
第61図　ＳＤ08土層断面図

ＳＤ09（第62図，図版31）

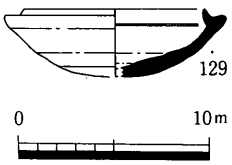
ＳＤ08の東側で検出した溝状遺構である。ＳＤ08とほぼ同じ方向，埋土を呈する。幅は40～50cm，深さは約10cmを測り，非常に浅い。

埋土中から須恵器の杯身が出土している（第63図，129）。129は狭い底部から緩やかに立ち上がる杯身である。口縁部の受け部はやや厚く短い。外面のヘラ削り調整は底部には

及んでおらず，法量も小さい。したがって，この杯身は古墳時代後期ごろのものと思われる。このことから，この溝状遺構は古墳時代後期（６Ｃ末～７Ｃ初頭）に埋没したものと思われる。



第62図　ＳＤ09土層断面図



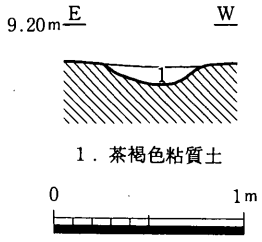
第63図　ＳＤ09出土遺物実測図

ＳＤ10（第64図，図版32(1)）

ＳＤ09の東側で検出した溝状遺構である。ＳＤ09と方向，埋土ともに酷似している。幅は約50cm，深さは約10cmである。後世の削平を受けているらしく，残りは非常に悪い。

遺物は全く出土していないが，方向・埋土等からみてＳＤ09と同じく古墳時代後期ごろに埋没したものと思われる。

これら古墳時代後期ごろに埋没したものと思われる溝状遺構群（ＳＤ07～ＳＤ11）は，当該時期の居住域が付近で見つかっていないこと，のちのちまで水田域として耕作が行われていたことなどからみて潅漑用水路もしくは農業用排水路として機能していたものと思われる。

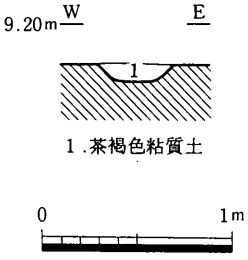


第64図　ＳＤ10土層断面図

ＳＤ11（第65図，図版32(2)）

Ａ地区の東部分で検出した溝状遺構である。ＳＲ10・11とほぼ同じ方向に向かって流れる。幅は約40cm，深さは約10cmで，後世の削平により残存状況は極めて悪く，延長約15ｍほどしか検出し得なかった。

遺物は全く出土しなかったが，方向等からみてＳＲ10・11などと同じく古墳時代後期ごろに埋没したものと思われる。

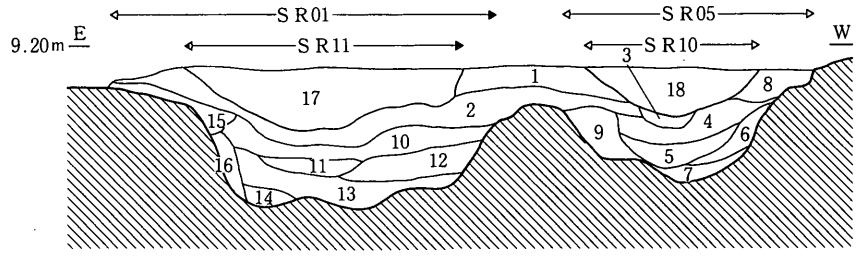


第65図　ＳＤ11土層断面図

ＳＲ10（第66図，図版33）

Ａ地区中央部で検出した溝状遺構である。南西から北東方向へ流れ，幅は平均して約１m，最大約1.2mを測る。北側では若干狭まる。深さは平均して約30cm，最も深いところで約40cmを測る。断面は緩やかなＵ字形を呈し，埋土は黒褐色シルト混砂質土の単一層である。

遺物は全く出土しなかったが，その方向，埋土の類似性等からみてＳＤ07～ＳＤ11と同じく古墳時代後期（６Ｃ末～７Ｃ初頭）に埋没したものと思われる。



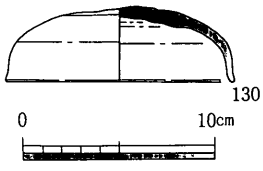
1．茶褐色砂質土　7．黒灰色砂質土　13．淡黒褐色砂質土
2．暗茶褐色砂質土 8．明茶褐色砂質土 14．明黒褐色砂質土
3．黒褐色砂質土　9．黄褐色砂質土　15．灰色粘土
4．茶褐色砂質土　10．褐色砂質土　16．淡黒灰色砂質土
5．暗茶褐色砂質土 11．黒灰色砂層　17．黒褐色粘質土
6．黄白灰色粘土　12．暗褐色砂質土　18．黒褐色シルト混砂質土

第66図　ＳＲ10・11土層断面図

ＳＲ11（第66図，図版34(1)）

ＳＲ10の西側で検出した溝状遺構である。流れる方向はＳＲ10とほぼ同じである。幅は平均して約1.2m，最大約1.6mを測る。深さは平均約20cm，最も深いところで約40cmを測る。調査区中央やや北よりの部分で東西二つの流路に分岐する。断面は緩やかなＵ字形を呈し，埋土は黒褐色粘質土の単一層である。埋土中から土師器片，須恵器片が出土している。

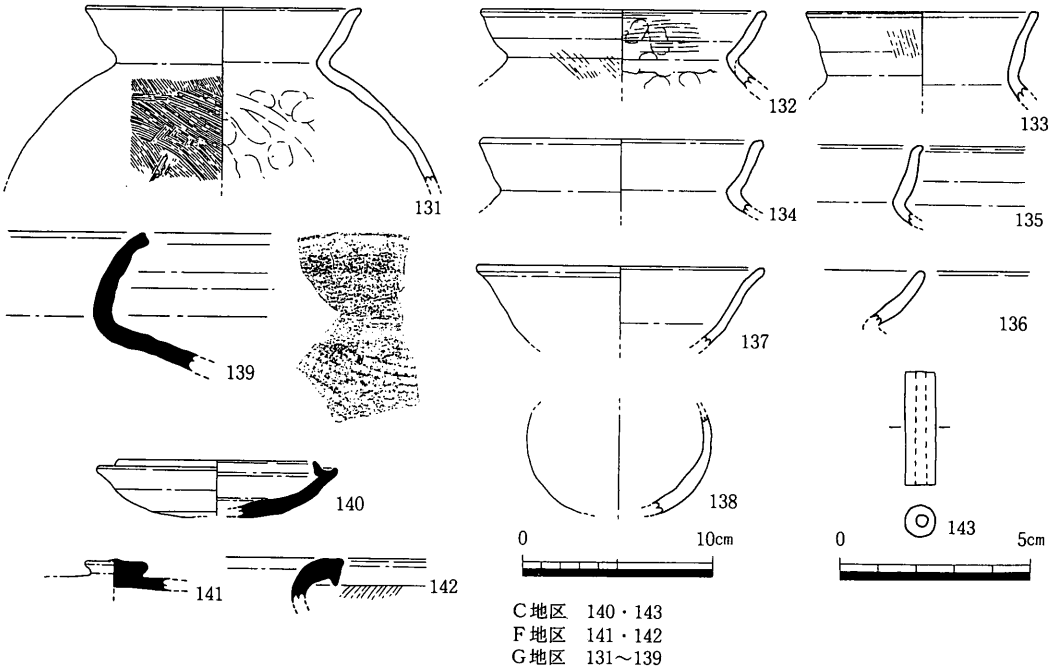
第67図130はこの自然河川から出土した須恵器の杯蓋である。やや丸みを帯びた天井部から大きく屈曲しほぼ真下に向く口縁部をもつ。口縁端部はわずかに外方に折り曲げ，丸くおさめている。外面のヘラ削り調整は天井部にまでは及んでいない。やはり古墳時代後期のものと思われる。この遺物の特徴から，ＳＲ11は古墳時代後期（６Ｃ末～７Ｃ初頭）に埋没したものと思われる。



第67図　ＳＲ11出土遺物実測図

包含層出土の遺物（第68図）

ここでは各地区の包含層から出土した遺物のうち，古墳時代に属するものを報告する。131～136は土師器甕の口縁部である。いずれも球形を呈する体部にくの字状にわずかに内彎しながら外反する口縁部が付く。口縁端部をわずかに折り曲げるものが多い。137は土師器高杯の口縁部である。やや内彎気味に立ち上がり少し外方に折り曲げている。138は小型の壺の体部である。139～142は須恵器である。139は甕の口縁部である。体部には格子目のタタキ調整が顕著に認められる。口縁部は強いナデ調整により成形されている。140は杯身，141は杯蓋の破片である。扁平なつまみが付く。142は壺の口縁部である。143はC地区包含層から出土した管玉である。淡黄茶色を呈し碧玉製である。



第68図　包含層出土遺物実測図(3)

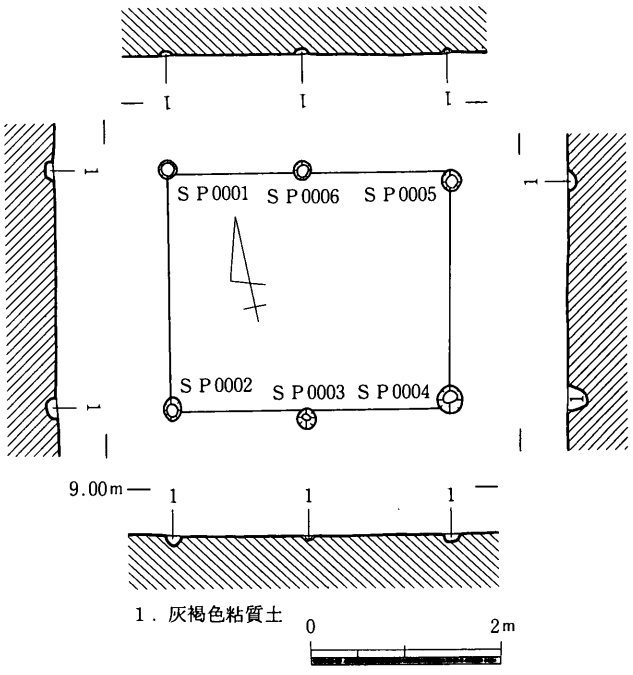
（3）古代の遺構・遺物

六条・上所遺跡では，古代（7世紀～12世紀）に属する遺構は検出できなかった。

（4）中世の遺構・遺物

ＳＢ02（第69図，図版34(2)）

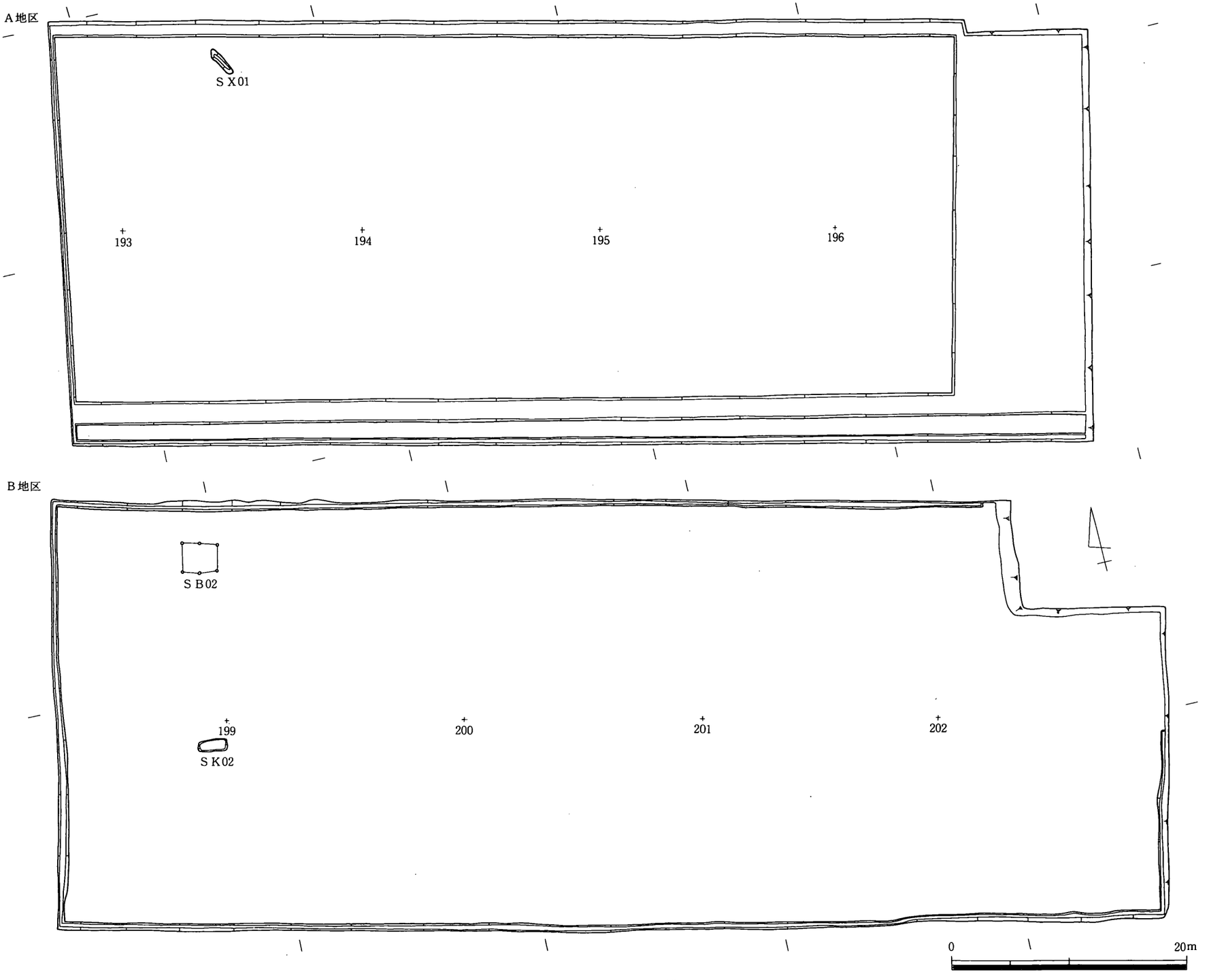
Ｂ地区北西隅の部分で検出した1間×2間の掘立柱建物跡である。桁行の心心間の距離は2.5m，梁間の心心間の距離は1.4m，主軸方向はＮ88°Ｗであり，床面積は7㎡である。柱穴の大きさは平均約30cm，深さ約20cmを測る。埋土は灰褐色粘質土で遺物は全く出土しなかった。しかしながら，主軸方向が現在の地割とほぼ同一方向にあること，周辺の遺構の埋土の類似性（特にＳＫ02）等からみて鎌倉時代ごろのものと思われる。



第69図　ＳＢ02平・断面図

ＳＢ03（第76図，図版35）

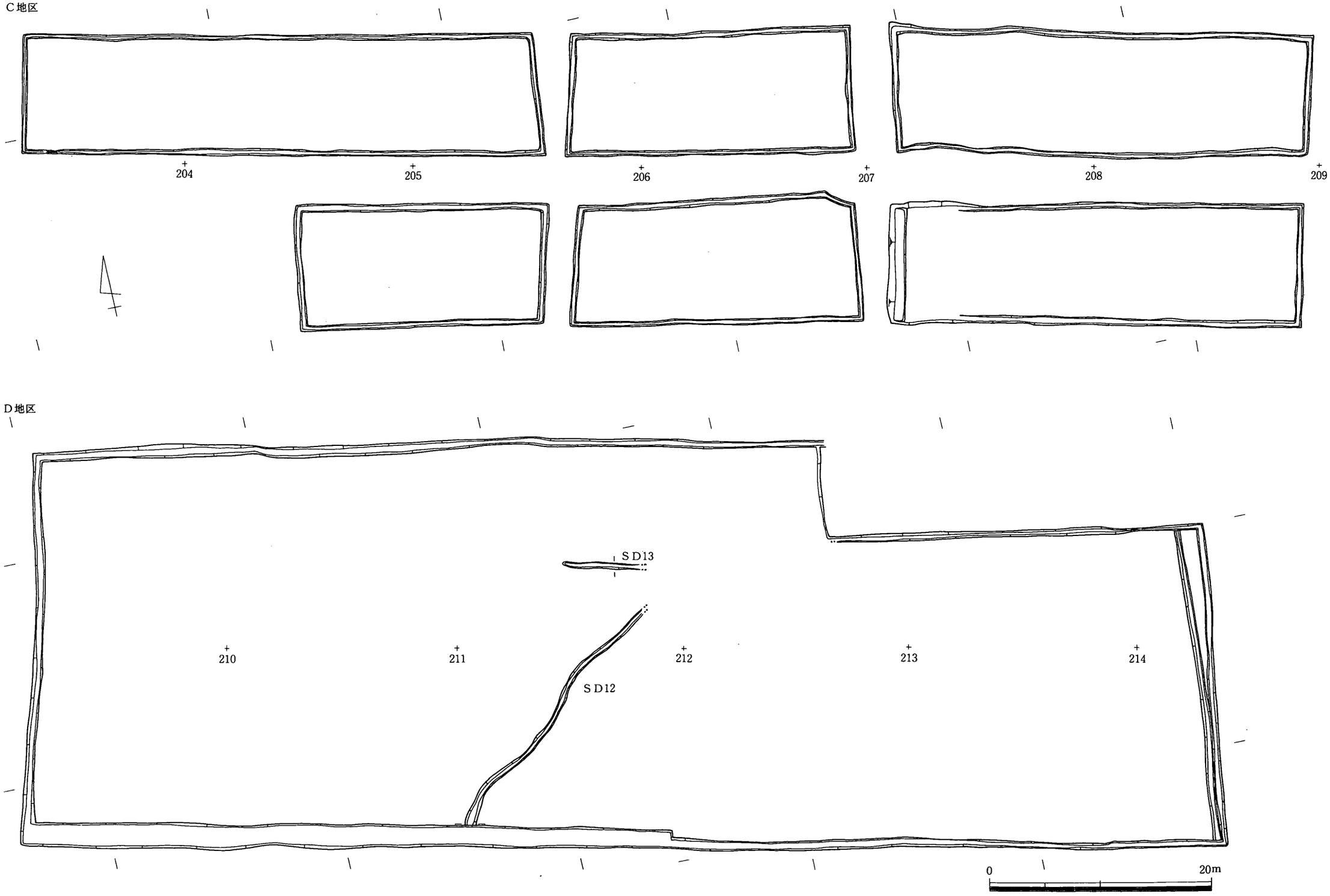
Ｅ地区西部で検出した3間×5間の総柱の掘立柱建物跡である。東南部の柱穴2個は検出できなかった。桁行の心心間の距離は0.9m，梁間の心心間の距離は1.4mで主軸方向はＮ12°Ｅを測る。床面積は約18.4㎡を占める。柱穴の大きさは平均して直径30cm，深さ20cmを測る。埋土は暗褐色砂質土で柱穴内からは多くの遺物が出土している。特に北西部隅から南2番目のＳＰ0025からは，完形の土師器の杯・小皿をはじめ多くの遺物が出土した。第74図はＳＰ0025の平・断面図である。直径25cm，深さ20cmを測り，根石と思われる石と共伴して遺物が出土している。遺物は土師器の杯と小皿のみで根石の上に位置している



第70図　A・B地区中世遺構配置図

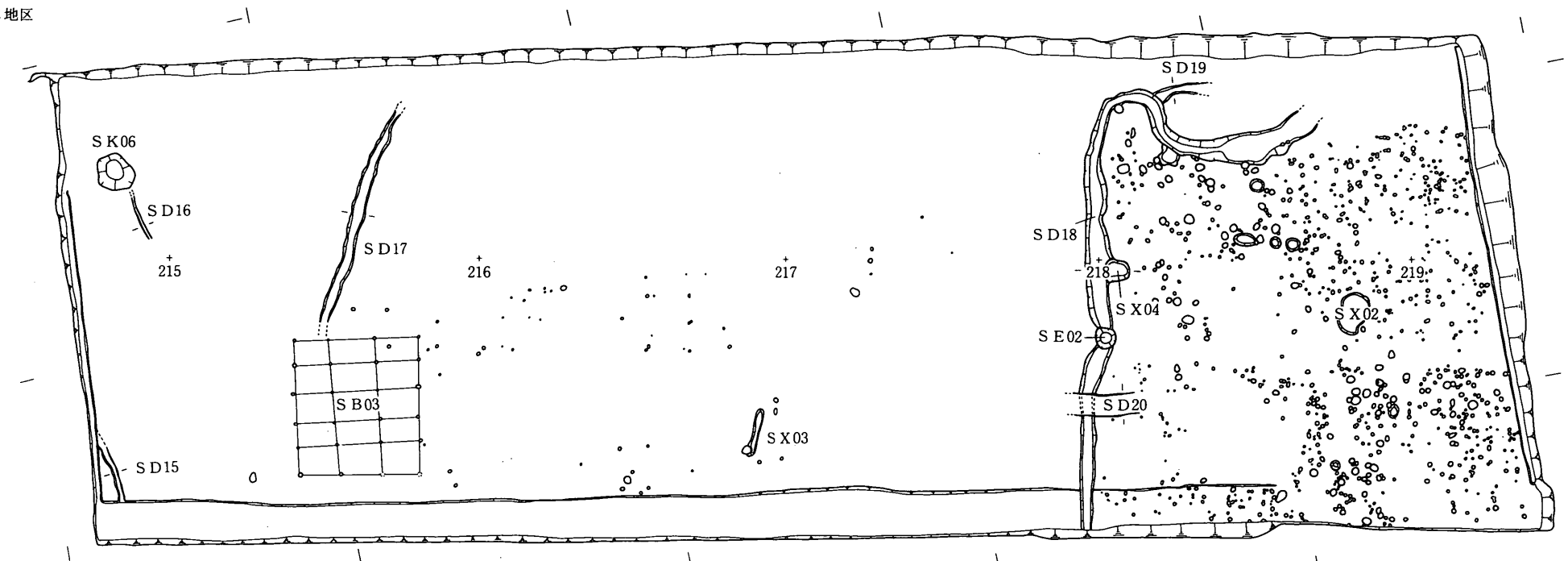
C地区

D地区

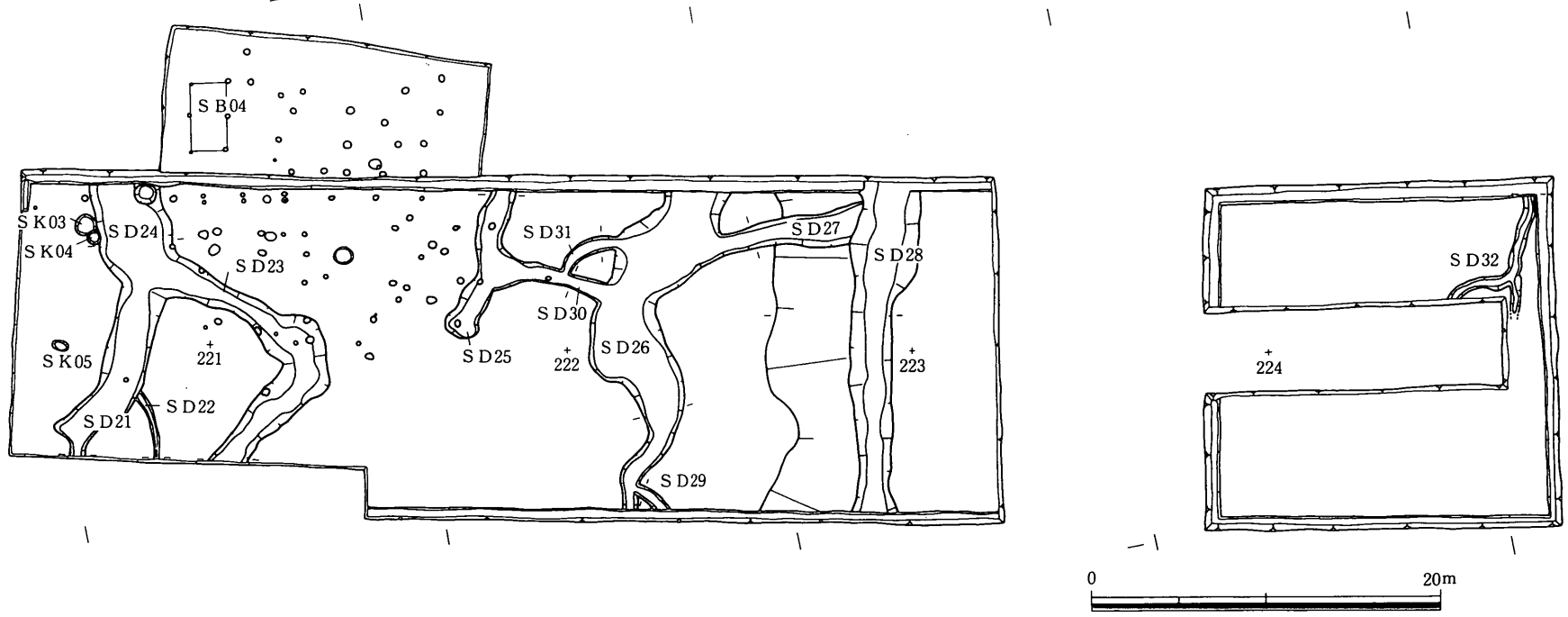


第71図　C・D地区中世遺構配置図

E地区

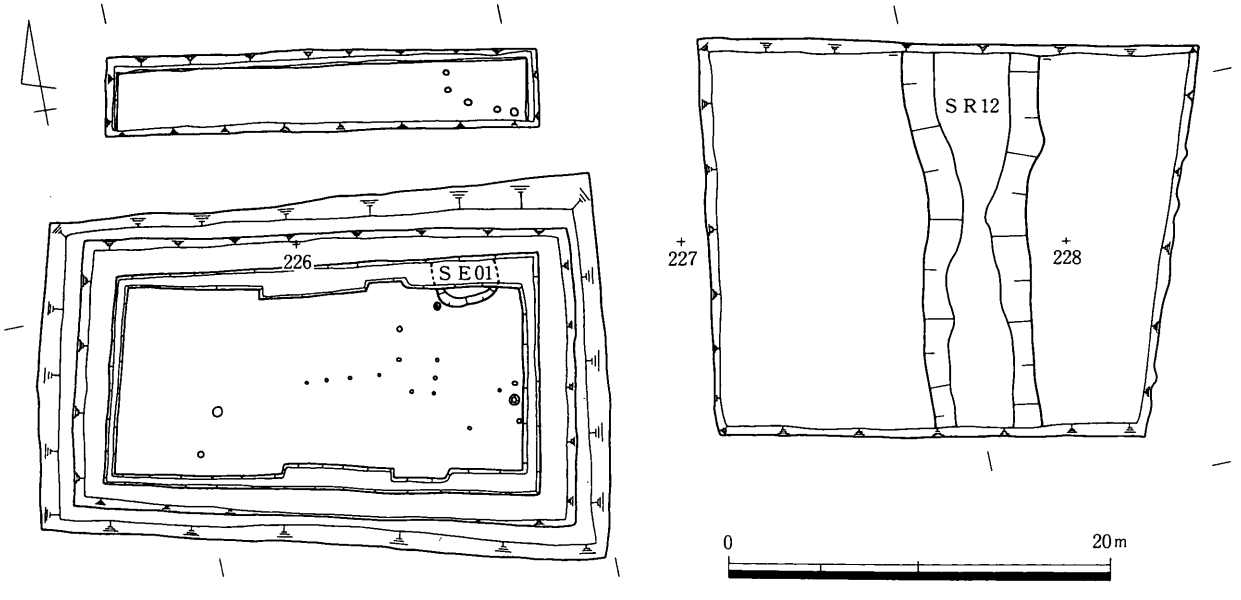


F地区



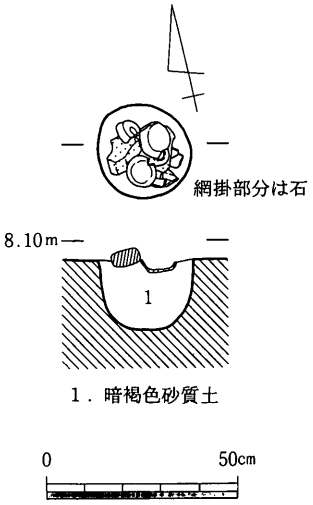
第72図　E・F地区中世遺構配置図

G地区



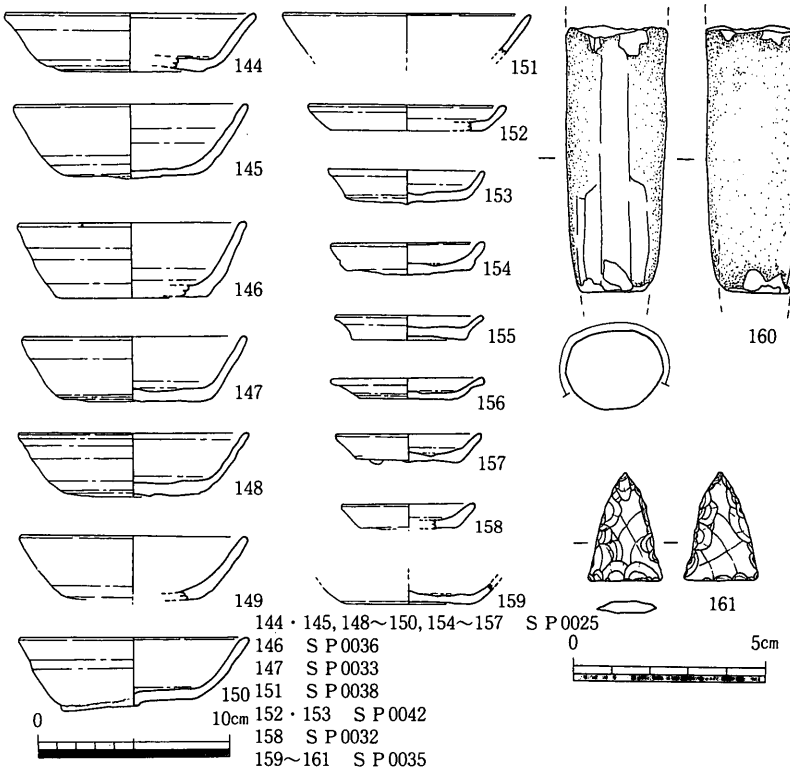
第73図　G地区中世遺構配置図

（第75図144・145，148～150，154～157）。遺物はほとんど上向きの状態で出土している。また，遺物は柱穴検出面に近いところから出土しており，底の部分では出土していない。このように，遺物の遺存状況が良好なこと，検出面に近いところから出土していること等からみてこれらの遺物は柱穴から柱を抜いた後に意図的に埋められたものと思われる。つまり，この建物を廃棄する際に地鎮めの意味で遺物を埋めたものと思われる。

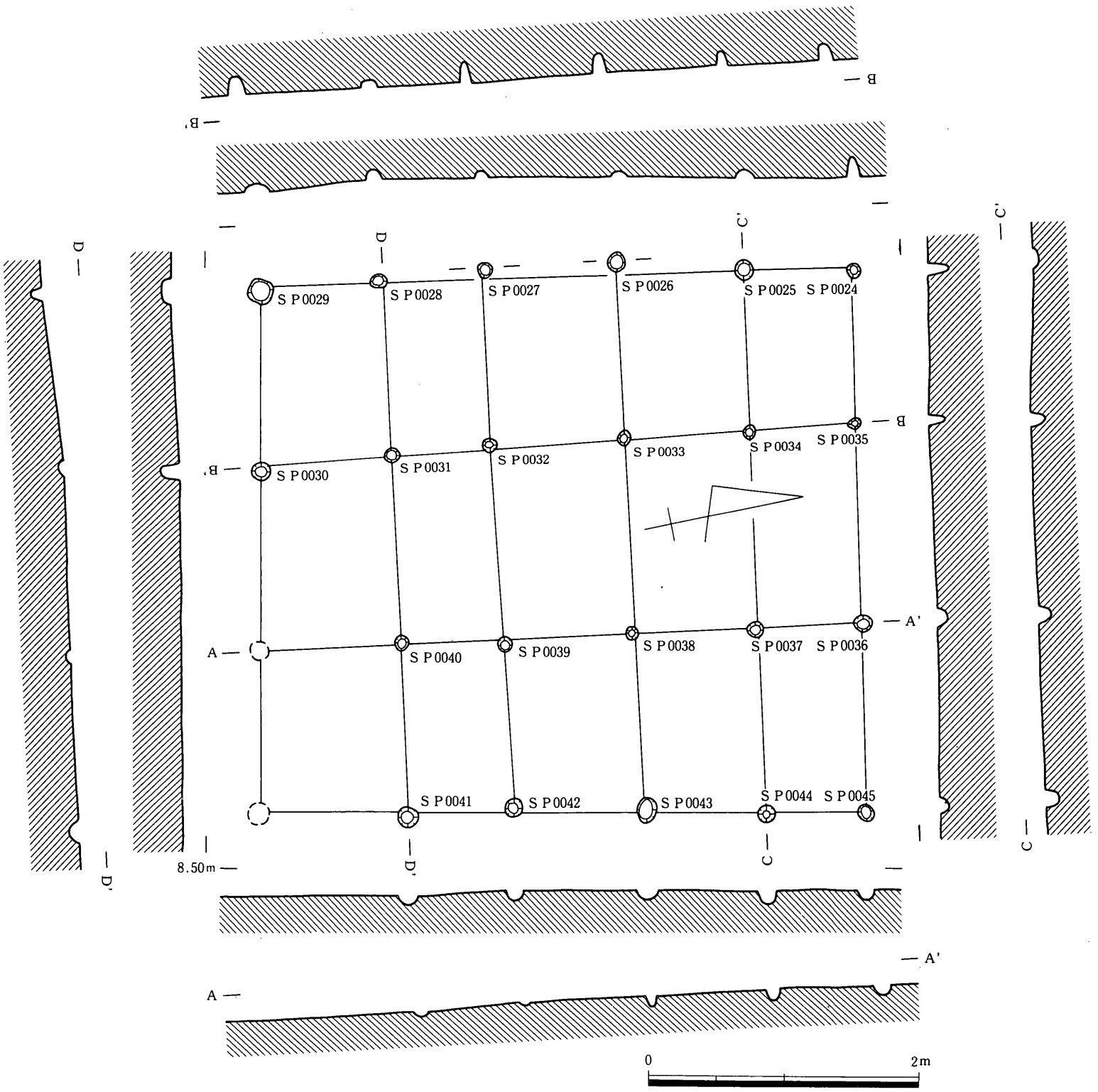


第74図　ＳＰ0025（ＳＢ03）遺物出土状況平・断面図

第75図はＳＢ03から出土した遺物である。144～150は土師器杯である。底部はすべてヘラ切りによるものである。12世紀後半から13世紀前半ごろのものと思われる。151は土師器椀である。152～159は土師器小皿である。やはり底部はすべてヘラ切りである。時期も杯と同じく12世紀後半から13世紀前半ごろのものと思われる。160は砥石である。ＳＰ0035から出土した。手に持って使用していたと考えられ，先端に５㎜幅程度の使用痕が顕著に認められる。161は平基式の石鏃である。柱穴を掘った土に混入していたものと考えられる。



第75図　ＳＢ03出土遺物実測図

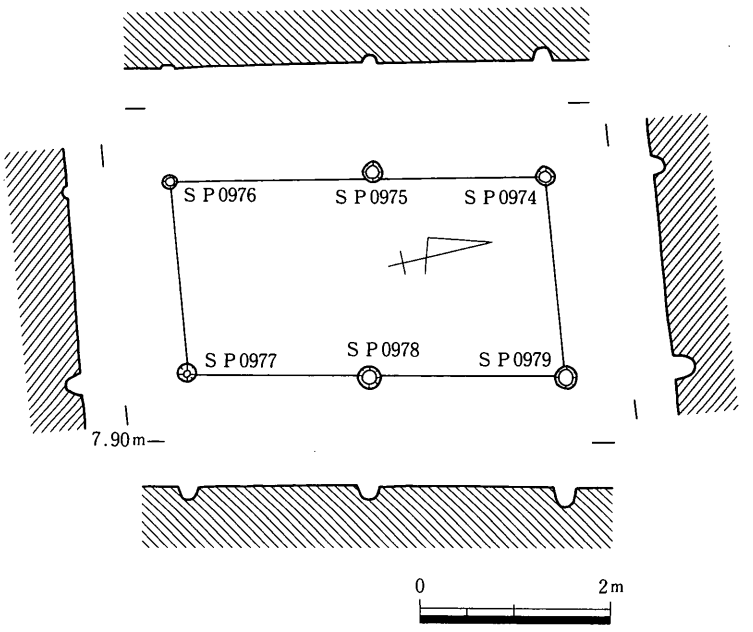


第76図　ＳＢ03平・断面図

以上のことからＳＢ03は12世紀後半から13世紀前半ごろにその機能を失ったものと考えられる。

ＳＢ04（第77図，図版37(2)）

Ｆ地区の北側へ拡張した部分で検出した１間×２間の掘立柱建物跡である。桁行の心心間の距離は1.8ｍ，梁間の心心間の距離は２ｍであり，床面積は７㎡を測る。柱穴の大きさは，平均して直径20㎝，深さ15㎝である。柱穴の埋土は灰褐色粘土の単一層であることから，一連の溝状遺構と同時期に機能していたものと思われる。



第77図　ＳＢ04平・断面図

Ｅ地区ピット群（図版38(1)）

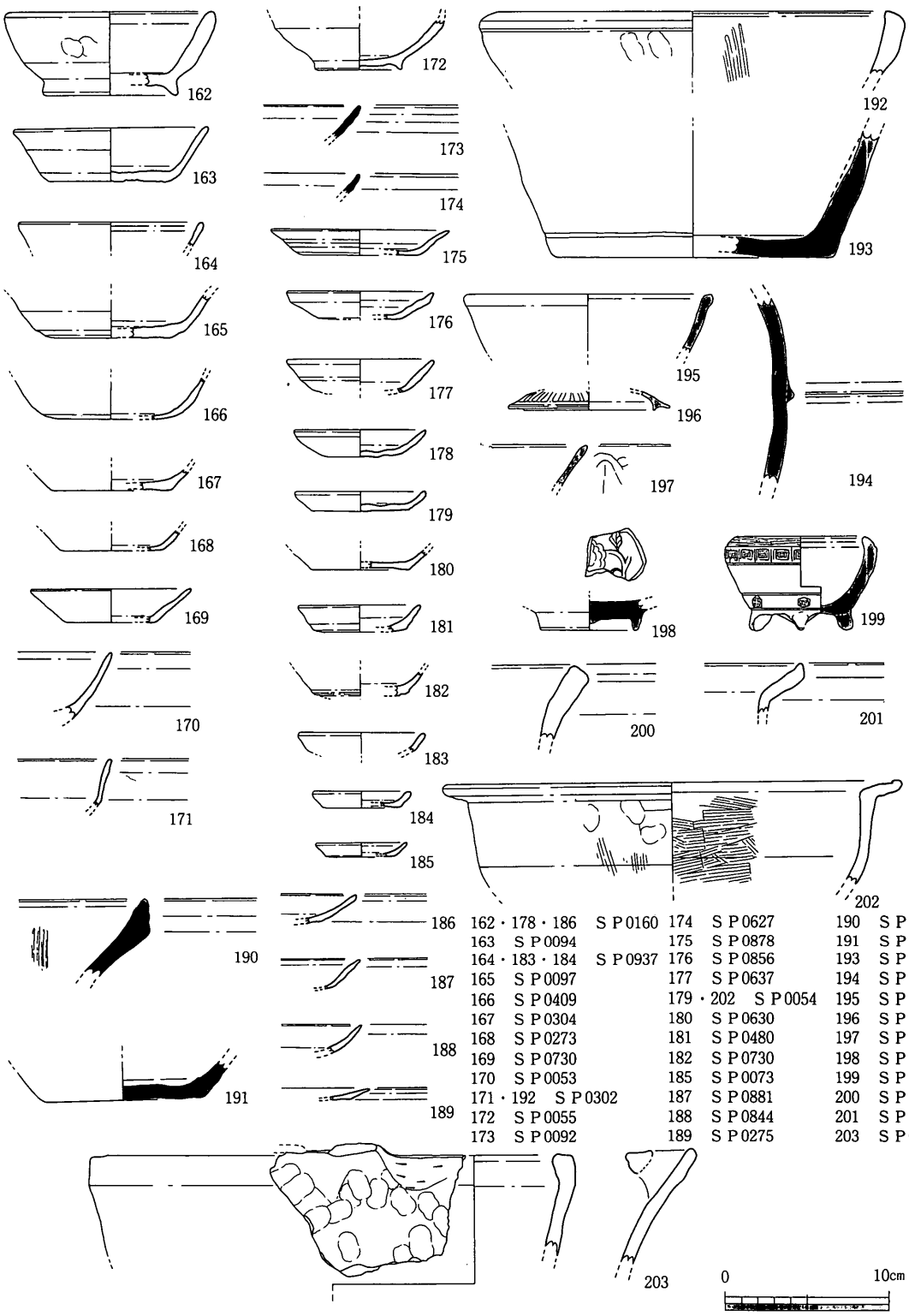
Ｅ地区では広い範囲にわたって，多数のピットが検出できた。そのうちの大部分はＳＤ18に囲繞された範囲に属するが，その他調査区ほぼ中央部や西部にも若干集中している部分がうかがわれる。ピットの埋土は大別して暗褐色砂質土，青灰色砂質土，茶褐色砂質土の３つに分類できる。また，このピット群は何棟かの掘立柱建物跡を構成するものと思われるが，復元し得なかった。

第78図～第81図は，このピット群から出土した遺物である。

162は高台付の杯である。

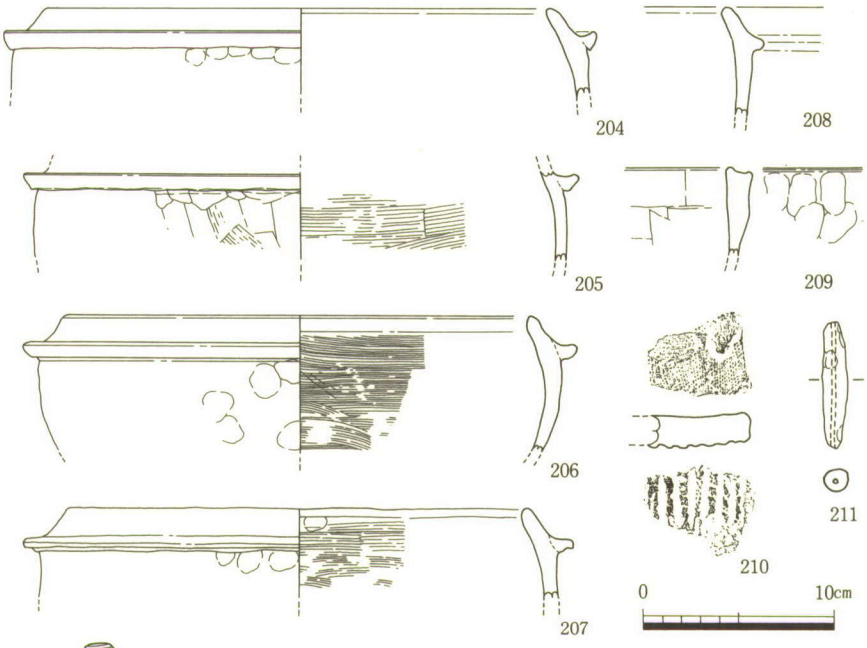
163～171は土師器杯である。

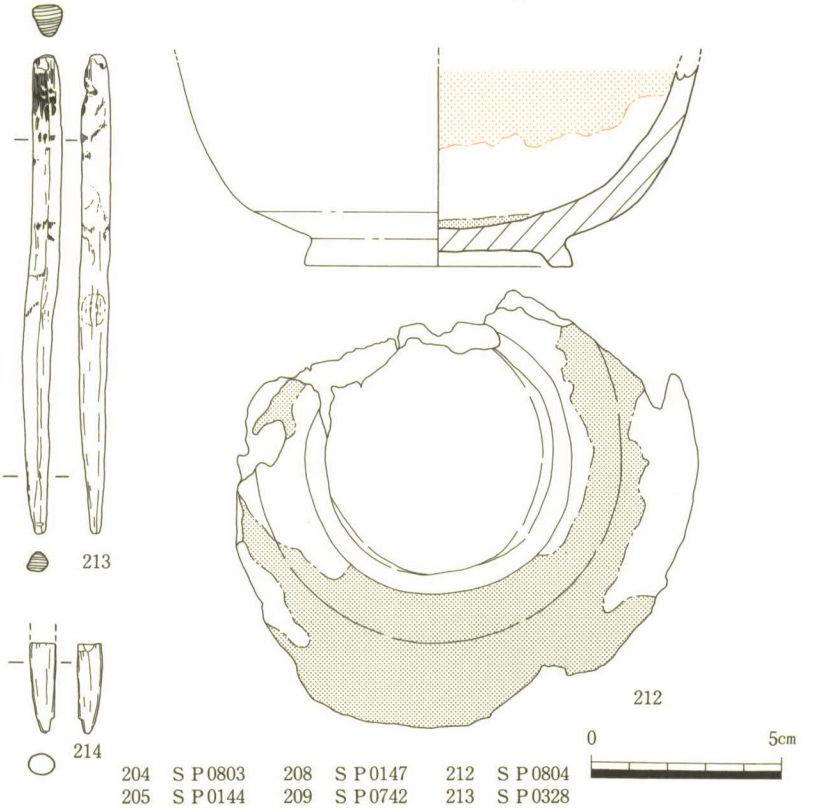
172は土師器椀である。



162・178・186	S P0160	174	S P0627	190	S P0804
163	S P0094	175	S P0878	191	S P0550
164・183・184	S P0937	176	S P0856	193	S P0959
165	S P0097	177	S P0637	194	S P0125
166	S P0409	179・202	S P0054	195	S P0758
167	S P0304	180	S P0630	196	S P0128
168	S P0273	181	S P0480	197	S P0799
169	S P0730	182	S P0730	198	S P0902
170	S P0053	185	S P0073	199	S P0286
171・192	S P0302	187	S P0881	200	S P0477
172	S P0055	188	S P0844	201	S P0641
173	S P0092	189	S P0275	203	S P0584

第78図　E地区ピット群出土遺物実測図(1)





204	S P 0803	208	S P 0147	212	S P 0804
205	S P 0144	209	S P 0742	213	S P 0328
206	S P 0133	210	S P 0740	214	S P 0584
207	S P 0359	211	S P 0417		

第79図　E地区ピット群出土遺物実測図(2)

173・174は須恵器椀である。

175～189は土師器小皿である。

190は須恵器擂鉢の口縁部である。

191は須恵器の底部である。

192は土師質擂鉢である。内面に卸目が認められる。

193は須恵器の底部である。

194は須恵器の体部である。

195～198は輸入磁器である。195・197・198は椀，196は合子の蓋であると思われる。

199は瓦質の香炉である。短い脚部が3ヶ所に付く。口縁部やや下方に雷門，体部下方外面に丸に十字のスタンプ文が刻まれている。

200～203は土鍋である。

204～209は土釜である。

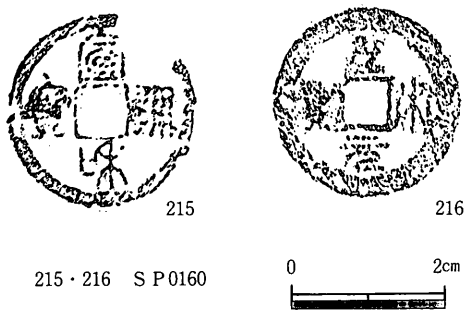
210は平瓦片である。須恵質で焼成が非常に良い。凸面に荒い縄目のタタキが顕著に認められること，側縁をヘラ削りしていることから綾南町陶の十瓶山古窯跡群で生産されたものであると考えられる。

211は管状土錘である。

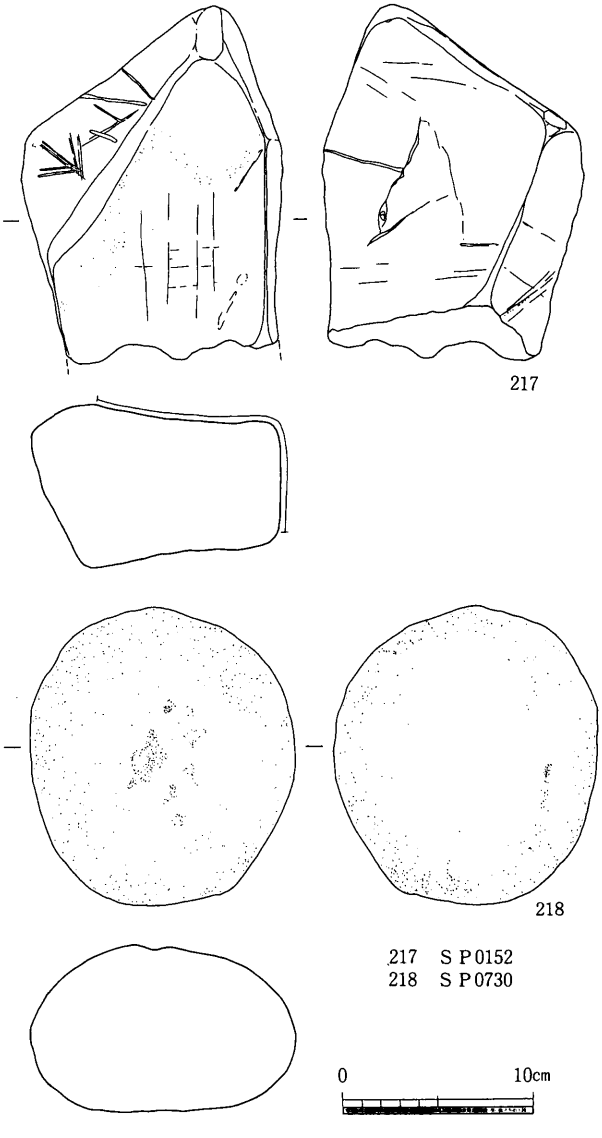
212は木器の椀である。内外面ともに漆を塗布している。

213は細長い木器である。用途は不明である。

214は骨角器である。形状からみてヤス等の漁労具であると思われる。



第80図　E地区ピット群出土遺物実測図(3)



第81図　E地区ピット群出土遺物実測図(4)

215•216はＳＰ0160から出土した古銭である。２枚出土しており，215は宣和通宝（初鋳1119年）であると思われる。216は判読しにくいが，文字の種類は215に酷似する。しかしながら文字の配列が異なっており，あるいは宣和通宝の私鋳銭かもしれない。

217は砥石である。安山岩製で平坦な面に使用していたと考えられる擦痕が顕著に認められる。218は磨石である。ほぼ円形を呈し，中央にわずかにつぶれたような痕跡が認められる。

これらから，このピット群は14世紀～15世紀ごろに埋没したものと思われる。また，ＳＰ0025のように遺存状態が良好な遺物が出土していることから建物を廃棄する際の地鎮めの祭祀をうかがわせる。

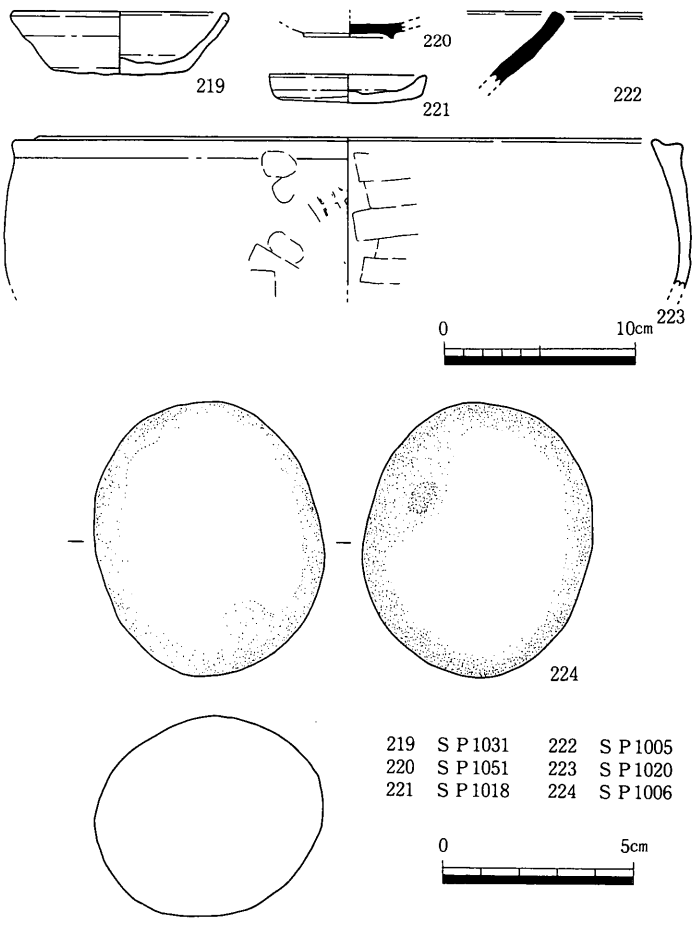
Ｆ地区ピット群（図版40(2)）

Ｆ地区でもＳＤ21とＳＤ26にはさまれた狭い地域にピットが約100個ほど集中して検出できた。このうち，従来の調査区と拡張区との境界に沿って，１列に並ぶピットもあり，あるいは柵列を構成していたのかも知れない。

第82図はＦ地区のピット群から出土した遺物である。219は土師器杯である。220は須恵質土器の椀の破片である。高台の部分しか残っていない。

221は土師器小皿である。ほぼ直立する口縁部をもち，立ち上がりは低い。

222は須恵器のこね鉢であ



第82図　Ｆ地区ピット群出土遺物実測図

る。

223は土師質土鍋である。口縁部がわずかに内彎し，内側につまみ出している。外面に指押さえの痕跡が認められる。

224は磨石である。砂岩製でわずかに楕円形を呈している。

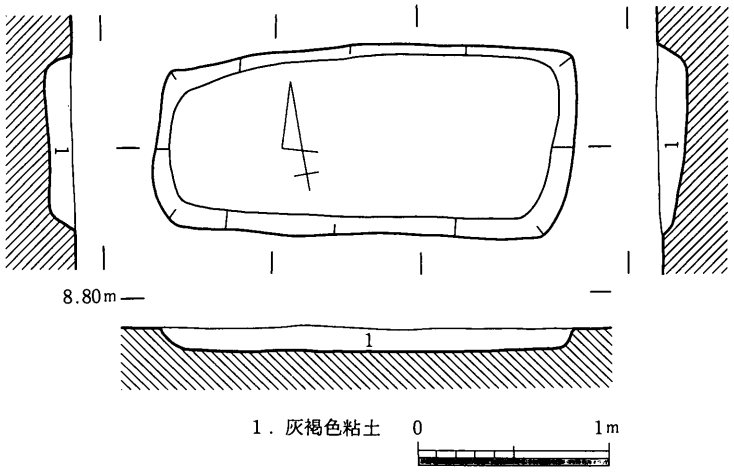
ＳＫ02（第83図，図版42(2)）

Ｂ地区南西部で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸2.2m，短軸１m，深さ15cmを測る。埋土は灰褐色の粘土と砂質土が混じり合ったような状態であった。

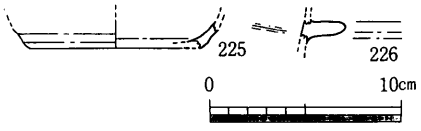
埋土中からは陶磁器片や瓦片などが出土している。

第84図はこの土坑から出土した遺物である。225は土師器杯の底部である。

226は土師質土鍋の鍔の部分である。遺物の観察からみてこの土坑は鎌倉時代前半（13世紀）ごろのものと思われる。



第83図　ＳＫ02平・断面図

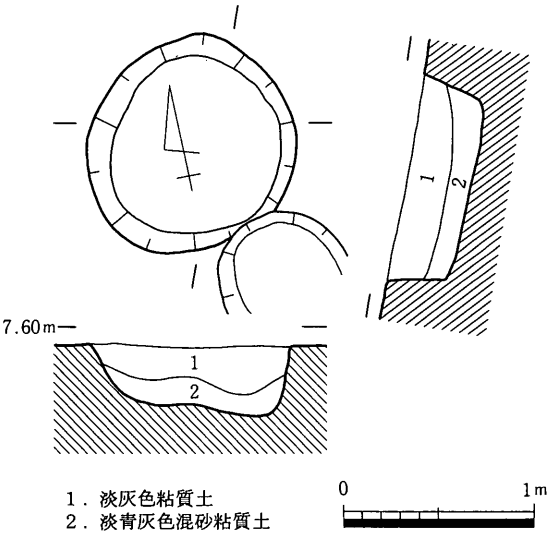


第84図　ＳＫ02出土遺物実測図

この土坑はその形態等からみて，土坑墓の可能性も考えられる。

ＳＫ03（第85図）

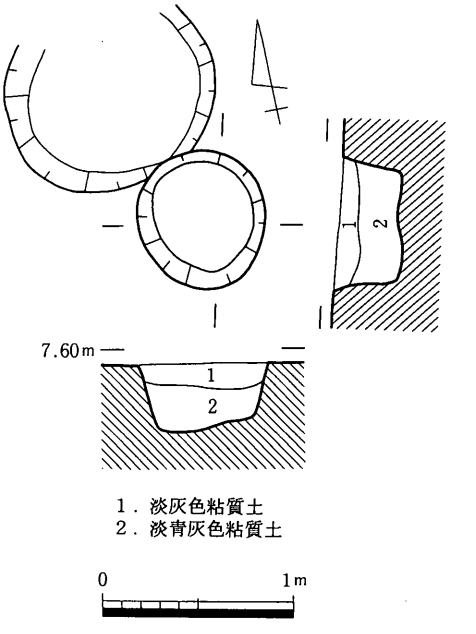
ＳＤ21の西側で検出した円形を呈する土坑である。直径1.2ｍ，深さ40㎝を測る。埋土は淡青灰色粘質土と淡灰褐色粘質土の２層に大別できる。南側の一部がＳＫ04に破壊されており，ＳＫ04に先行するものである。遺物は出土しなかったが，埋土からみてＳＤ21などと同じく中世ごろに埋没したものと思われる。



第85図　ＳＫ03平・断面図

ＳＫ04（第86図）

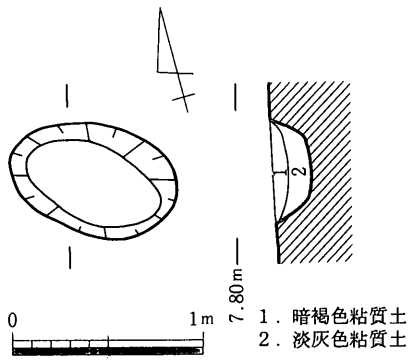
ＳＫ03のすぐ南側で検出した土坑である。円形を呈し，北部でＳＫ03を若干破壊している。直径50㎝，深さ40㎝を測り，埋土はＳＫ03と同じく色調の違う粘質土の２層が堆積している。遺物は出土しなかったが，埋土からみてＳＤ21などと同じ時期に機能していたものと思われるが，切り合い関係からみて若干ＳＫ03の方が，先行するものと思われる。



第86図　ＳＫ04平・断面図

ＳＫ05（第87図，図版43(2)）

ＳＤ21の西側で検出した楕円形を呈する土坑である。長径90㎝，短径60㎝，深さ20㎝を測る。埋土は，小礫を含む淡灰色粘質土と暗褐色粘質土の２層に大別できる。遺物は出土しなかったが，他の遺構の状況からみてこの土坑も中世ごろに埋没したものと思われる。

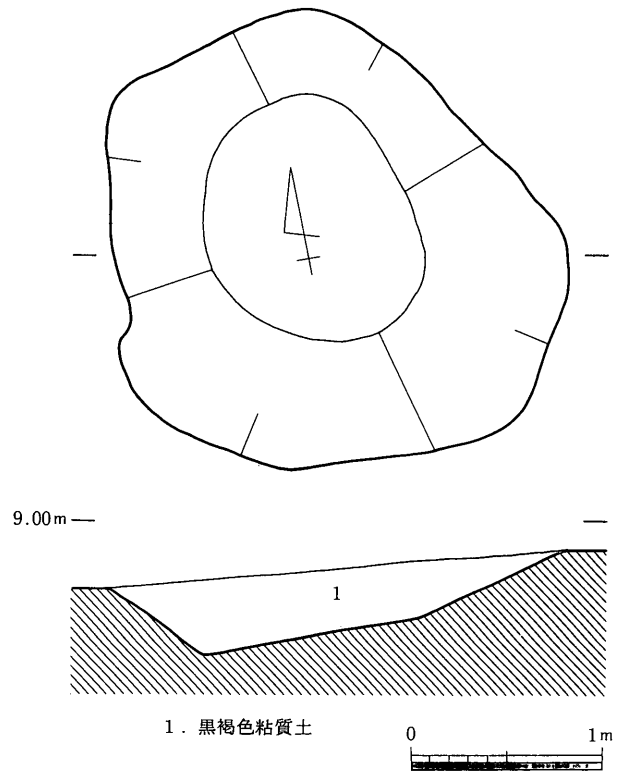


第87図　ＳＫ05平・断面図

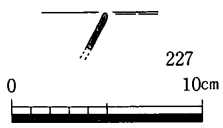
ＳＫ06（第88図）

Ｅ地区北西隅で検出した土坑である。直径2.2ｍの不整円形を呈し，深さ約40㎝を測る。形状からみて井戸の可能性も考えられる。埋土は黒褐色粘質土の単一層で少量ではあるが，須恵器・土師器等が出土している。

第89図はＳＫ06から出土した遺物である。227は須恵器杯の口縁部である。



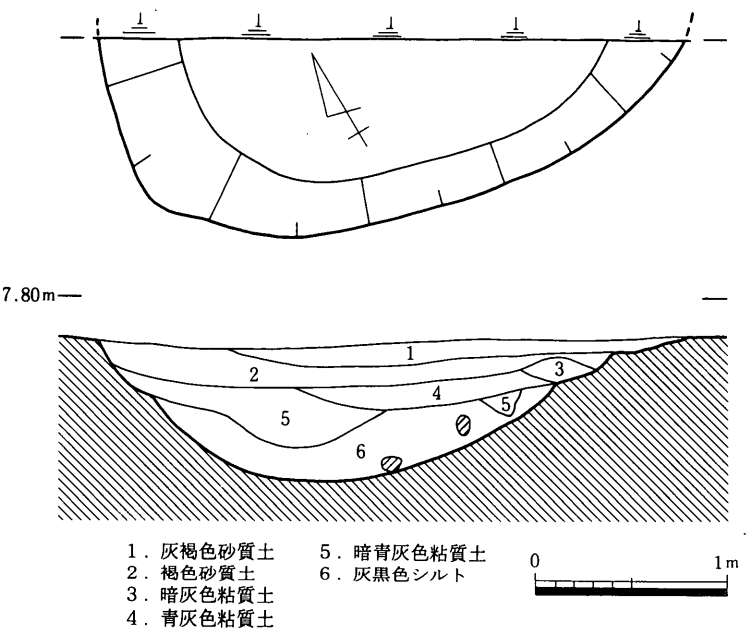
第88図　ＳＫ06平・断面図



第89図　ＳＫ06出土遺物実測図

ＳＥ01（第90図，図版44(1)）

Ｇ１南調査区北東部で検出した大型の土坑である。掘り方の形状等からみて素掘の井戸であると考えられる。検出した部分はＳＨ01内で，北半分は調査区外へ続くため，調査できなかったが，確認した部分で直径３ｍ，深さ70㎝を測る。埋土は褐色を呈する砂質土，粘質土，シルトの３層に大別できる。このうち，最下層のシルト層から大型の鍋等の土師質土器が出土した。



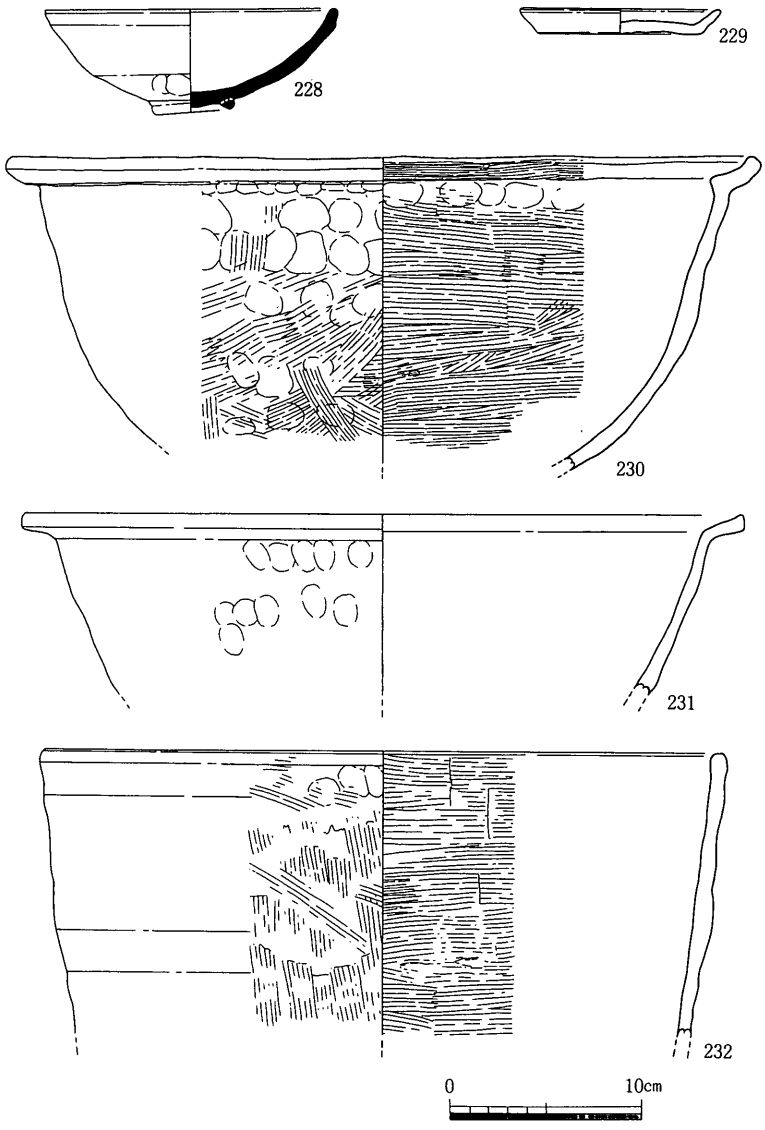
第90図　ＳＥ01平・断面図

第91図はこの井戸から出土した遺物である。228は瓦質土器椀である。高台は細い粘土紐を無造作に貼り付けている。器壁は厚手で，作りはしっかりしている。綾南町の十瓶山古窯跡群で生産されたものであると考えられる。229は土師器小皿である。

230・231は土師質土鍋である。いずれも口縁端部を外方に折り曲げるもので230の方がわずかに深い。内外面ともに指押さえののち，粗い刷毛目調整を丁寧に行っている。

232は土師質土器である。直立する口縁部であり，用途としては何らかの容器が考えられる。胎土・調整は230と酷似する。

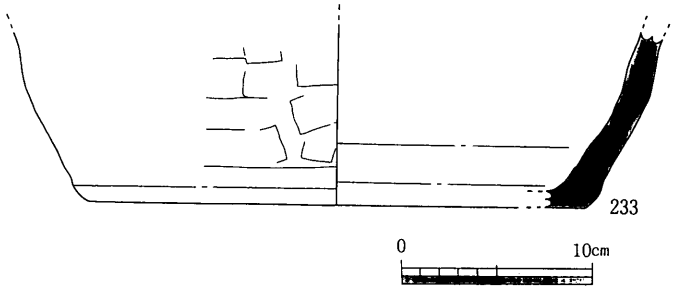
したがって，この井戸は瓦質土器の特徴から鎌倉時代ごろに埋没したものと思われる。



第91図　ＳＥ01出土遺物実測図

ＳＸ02（第93図）

Ｅ地区東部のピット群のほぼ中央部で検出したややいびつなヒョウタン形を呈する遺構である。長径2.7m，短径0.9m，深さ20cmを測る。埋土はピット群と同じ暗青灰色砂質

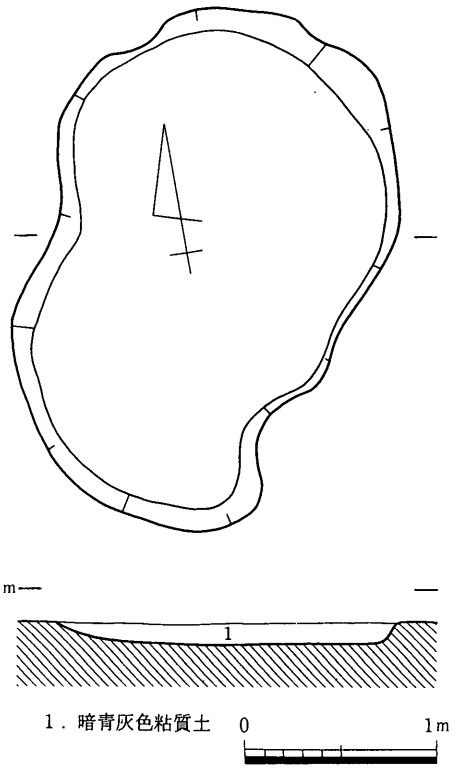


第92図　ＳＸ02出土遺物実測図

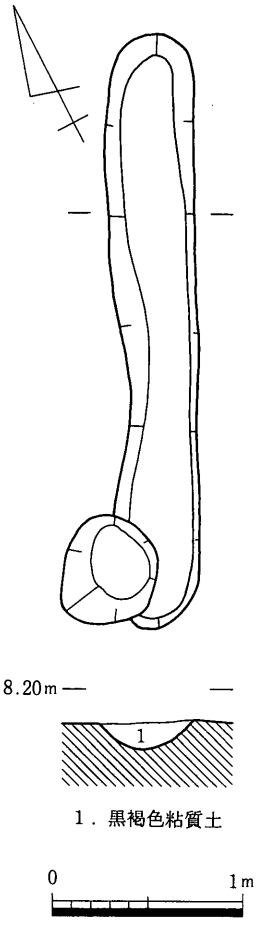
土の単一層である。埋土中からは量的には少ないが，土師器・陶器等が出土している。

第92図はＳＸ02から出土した遺物の実測図である。233は壺または甕の底部である。胎土・色調・調整等からみて備前焼であると思われる。

これらより，この遺構は中世前半ごろに埋没したものと思われる。



第93図　ＳＸ02平・断面図



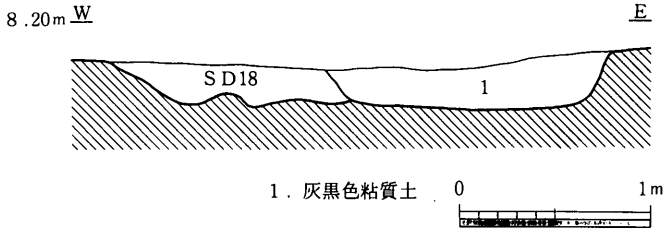
第94図　ＳＸ03平・断面図

ＳＸ03（第94図）

Ｅ地区中央部やや南よりの部分で検出した長楕円形を呈する遺構である。長径2.4m，短径0.4m，深さ30cmを測る。埋土は黒褐色粘質土の単一層であり，遺物は砥石が一点出土した。埋土や他の遺構の状況からみて中世に属する遺構であると思われるが，多くのピット等の埋土と異なり，また，南側がピットにより破壊されていることから，これらのピット群に先行するものと思われる。

ＳＸ04（第95図）

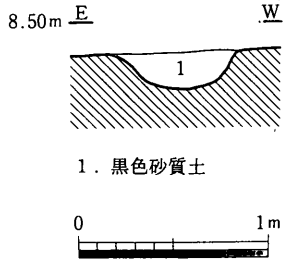
Ｅ地区中央部でＳＤ18を破壊している円形を呈する遺構である。直径約1.2ｍで埋土は灰黒色粘質土の単一層である。



第95図　ＳＸ04土層断面図

ＳＤ12（第96図，図版45(1)）

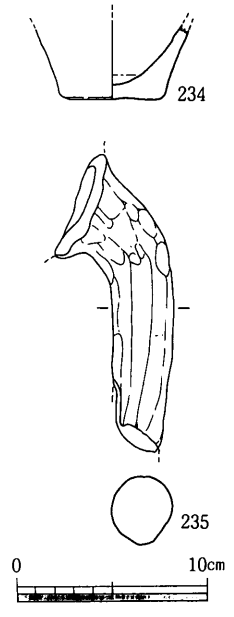
Ｄ地区中央やや西よりの部分で検出した南西から北東方向へ流れる溝状遺構である。後世の削平のため，北側約１／４は検出できなかった。幅は70cm，深さ20cmを測り，埋土は黒色砂質土の単一層である。



第96図　ＳＤ12土層断面図

第97図は埋土中から出土した遺物である。234は壺の底部である。235は土師質土釜の脚部である。中世前半ごろのものと思われる。

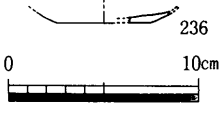
したがって，この溝状遺構は中世前半，鎌倉時代ごろに埋没したものと思われる。



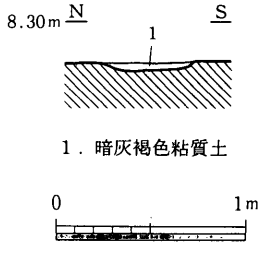
第97図　ＳＤ12出土遺物実測図

ＳＤ13（第98図，図版45(2)）

ＳＤ12の北側で検出した溝状遺構である。現在の地割に直交する方向に流れる。後世の削平により，延長約６ｍほどしか検出できなかった。検出した部分での幅は45cm，深さは10cmほどである。埋土は暗灰褐色粘質土で土師器片が少量出土している。第99図236はこの溝状遺構から出土した遺物である。土師器小皿である。中世前半ごろのものであると思われる。



第99図　ＳＤ13出土遺物実測図

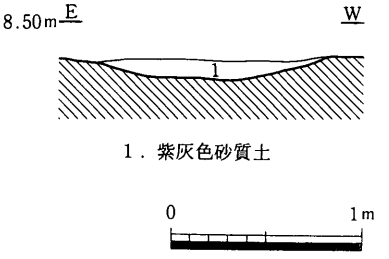


第98図　ＳＤ13土層断面図

したがって，この溝状遺構は中世前半，鎌倉時代ごろに埋没したものと思われる。

ＳＤ14（第100図，図版46）

Ｄ地区東端の部分で検出した，現在の地割に平行して流れる溝状遺構である。すぐ東側は条里制の坪界線に比定されている市道である(1)。この部分は土層の堆積が複雑で何度も溝状遺構が付け変えられたことを示唆している。ＳＤ14はその中でも最下層にあたる部分で幅1.4ｍ，深さ20㎝を測る。埋土は紫灰色砂質土で遺物は土師器の細片がわずかに出土したのみであった。土師器は杯・小皿の破片でその特徴から中世ごろのものと思われる。したがって，この溝状遺構は当該時期に埋没したものと思われる。



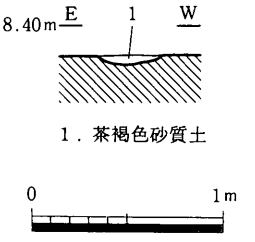
第100図 ＳＤ14土層断面図

なお，ＳＤ14の下層で，条里制の初源形態を示すような溝状遺構や遺物等は検出できなかった。

(1)「讃岐国弘福寺領の調査　弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書」高松市教育委員会　1992

ＳＤ15（第101図，図版47(1)）

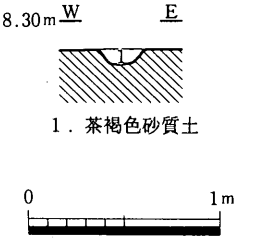
Ｅ地区南西隅を南北にかすめる溝状遺構である。幅30㎝，検出した深さ10㎝で遺存状況は悪い。茶褐色砂質土の単一の埋土を持ち，遺物は出土しなかった。埋土はＳＢ03の柱穴と同一であり，このことからこの溝状遺構も中世前半ごろに埋没したものと思われる。



第101図 ＳＤ15土層断面図

ＳＤ16（第102図，図版47(2)）

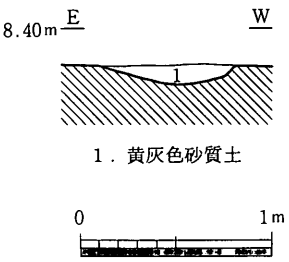
ＳＫ06の南側で検出した溝状遺構である。遺存状況が非常に悪く，延長約５ｍほどしか検出できなかった。検出した部分の幅は20㎝，深さは15㎝を測る。埋土はＳＤ15と同じ茶褐色砂質土の単一層である。遺物は出土しなかったが，埋土等からみてＳＤ15と同じく，中世前半ごろに埋没したものと思われる。



第102図 ＳＤ16土層断面図

ＳＤ17（第103図，図版48(1)）

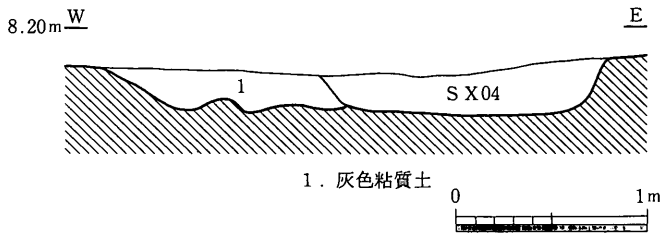
ＳＢ03の北側で検出した南西から北東に向かって流れる溝状遺構である。後世の削平のため，南側は検出できなかった。検出した部分の幅は65㎝，深さは15㎝を測る。埋土は黄灰色砂質土の単一層で遺物は出土しなかった。埋土等からみてこの溝状遺構は中世前半ごろに埋没したものと思われる。



第103図 ＳＤ17土層断面図

ＳＤ18（第104図，図版48(2)）

Ｅ地区東部で検出した幅1.5m，深さ40㎝の溝状遺構である。Ｅ地区東部のピット群を囲繞するように，南から北へ向かって流れ，調査区北部でほぼ90°東へ振る。後世の削平のため，東側で消滅する。埋土は灰色粘質土の単一層である。埋土中からは多量の土器や石器，金属器が出土した。



第104図 ＳＤ18土層断面図

第105・106図は，ＳＤ18から出土した遺物である。

237～241は土師質こね鉢，擂鉢である。口縁端部を内側に拡張するもの（237)があり，238～241には卸目が認められる。

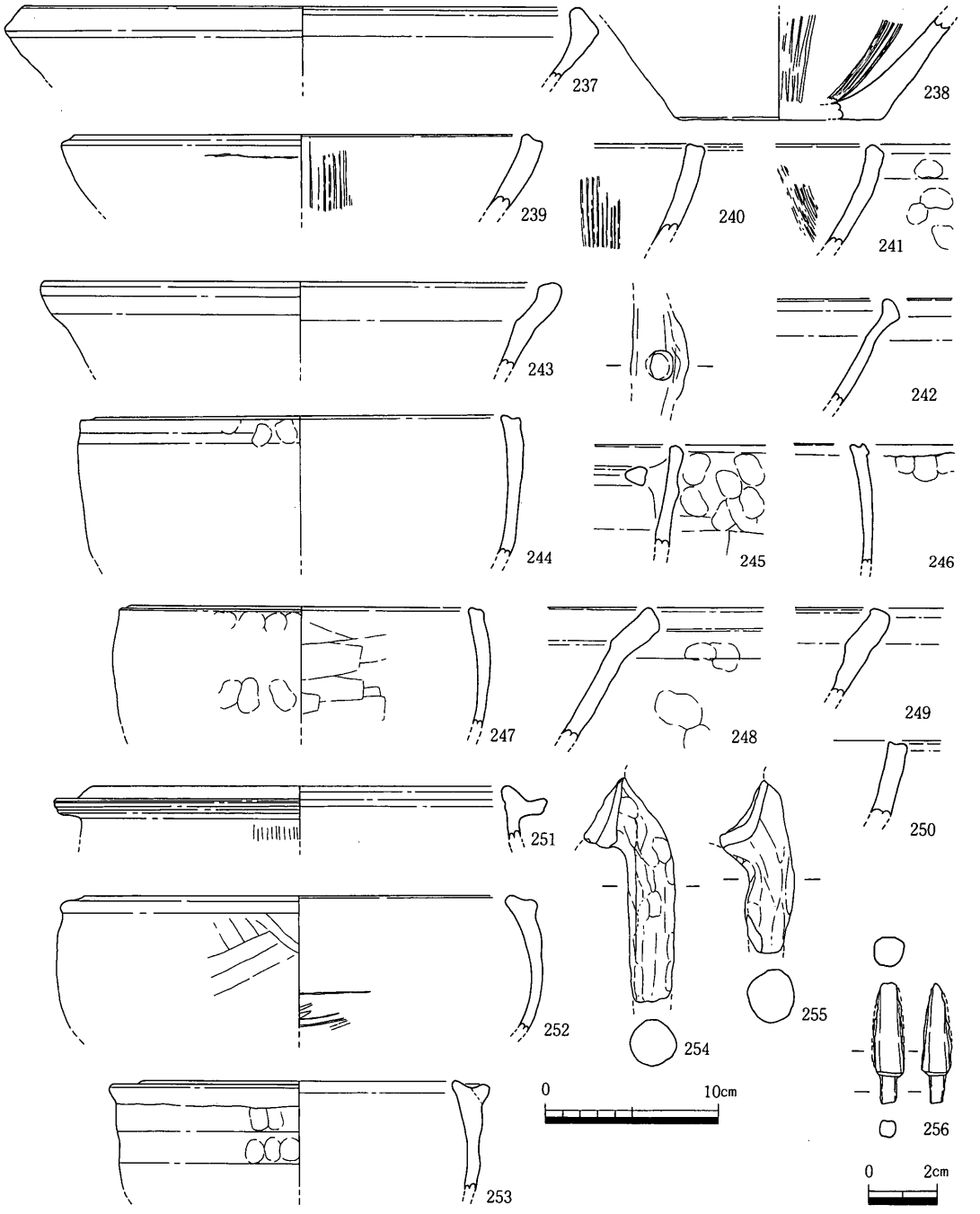
242～249は土師質土鍋である。口縁端部が一旦外反するもの（242・243），体部が内彎しながら口縁部にいたるもの（244～247）と外反するもの（248・249）がある。体部が内彎するものには口縁端部にわずかに鍔状のものが認められるもの（244・246）がある。

250～255は土師質土釜である。口縁端部がやや外反するもの（250），体部が内彎しながら口縁部にいたるもの（251～253）とがある。254・255は，中世に一般的に認められる三足付土釜の脚部である。

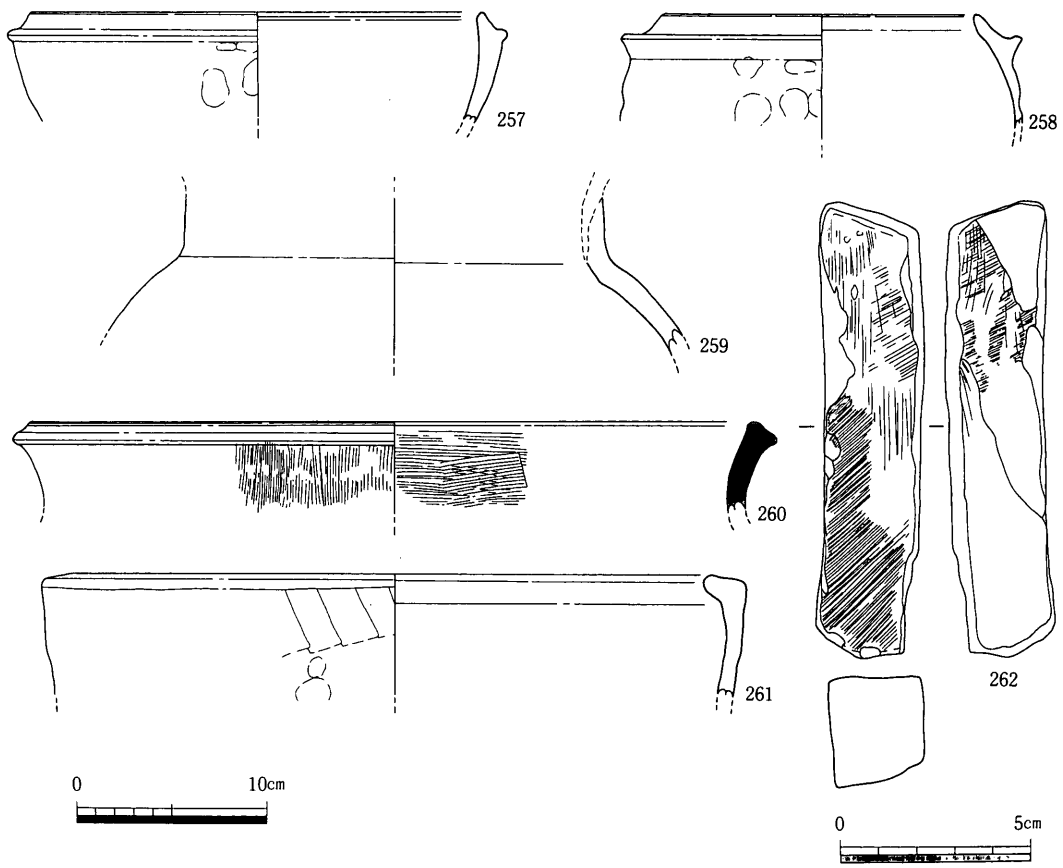
256は金属器である。形状からみて鉄鏃であると思われる。

257・258も土師質土釜である。口縁端部には鍔が付く。外面には指押さえの痕跡が顕著に認められる。

259は土師器の壺の頸部である。



第105図　ＳＤ18出土遺物実測図(1)



第106図　ＳＤ18出土遺物実測図(2)

260は須恵器の壺の口縁部である。焼成状態が不良で断面は淡褐色を呈する。外面および内面にはわずかに刷毛目調整の痕跡が認められる。

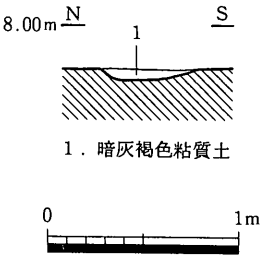
261は土師質の土器の口縁部である。

262は砥石である。安山岩製で擦痕が顕著に認められる。

その他にも図化し得なかったが，主として鍋，釜類の破片が多く出土している。皿・杯・椀といった供膳形態を示す遺物がほとんど出土していない。柱穴中からは大型の煮沸形態を示す遺物がほとんど出土していないことを考えあわせると，中世の土器の廃棄方法の一端を示すものかも知れない。以上よりこの溝状遺構は鎌倉時代ごろに機能し，中世後半ごろに埋没したものと思われる。

ＳＤ19（第107図，図版49(2)）

Ｅ地区北部で検出した溝状遺構である。ＳＤ18との切り合い関係ははっきりせず，北東部へ派生する溝状遺構で，幅50㎝，深さ20㎝を測る。後世の削平のため，北側では検出できなかった。埋土は暗灰色粘質土の単一層である。埋土中からは土器等が出土した。



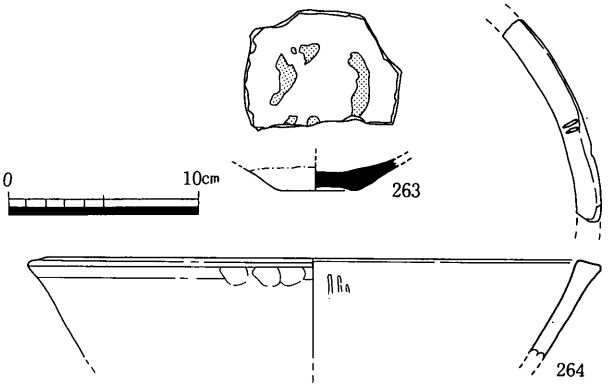
第107図 ＳＤ19土層断面図

第108図は，ＳＤ19から出土した遺物である。

263は陶器の底部である。重ね焼きをした痕跡がうかがえる。

264は土師質土鍋である。体部は直線的に外方へ張り出し，端部は若干肥厚する。端部上面にはわずかに刻み目を施す。

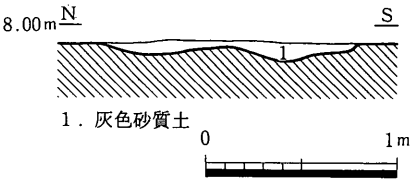
これらより，この溝状遺構は中世後半ごろから近世にかけて埋没したものと思われる。



第108図 ＳＤ19出土遺物実測図

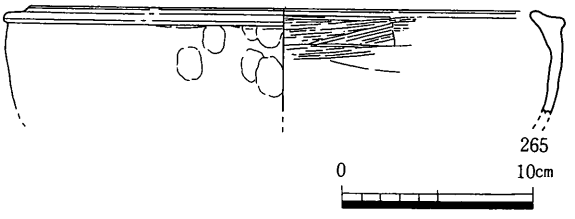
ＳＤ20（第109図）

Ｅ地区南東部で検出したＳＤ18と重なる溝状遺構である。ＳＤ18と直交し，切り合い関係は不明である。後世の削平のため，遺存状況は悪く，幅2.1m，深さ30㎝を測り，延長約５ｍほどしか検出できなかった。埋土は灰色砂質土の単一層で埋土中から土器等が出土した。



第109図 ＳＤ20土層断面図

第110図265は，ＳＤ20から出土した土師質土釜である。内彎する体部に，わずかに鍔状の突帯が巡る口縁部をもつ。

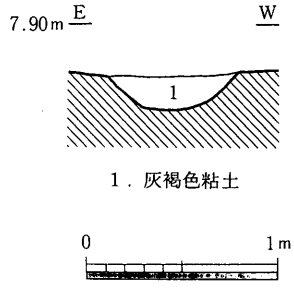


第110図 ＳＤ20出土遺物実測図

これらより，この溝状遺構は中世後半ごろに埋没したものと思われる。

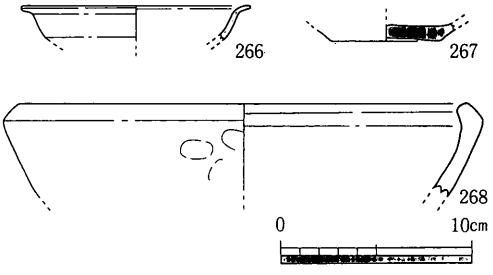
ＳＤ21・23・24（第111・113・115図，図版50）

Ｆ地区西部で検出した溝状遺構である。ＳＤ21とＳＤ23が合流してＳＤ24に流入する。合流部での土層の堆積状況に切り合い関係は認められず，したがって同一の溝状遺構と判断した。ＳＤ23はＳＤ21の東側を南西から北東に向かって流れるが，途中で約90°西偏して，ＳＤ24へと流れる。幅は南側（ＳＤ21）で80cm，深さ20cmを測り，ＳＤ23部分で幅2.2m，深さ20cm，北側（ＳＤ24）部分で幅４m，深さ45cmを測る。埋土はＳＤ21とＳＤ24は灰褐色粘土の単一層であるが，ＳＤ23は灰褐色砂層と粘土の２層に大別される。



第111図　ＳＤ21土層断面図

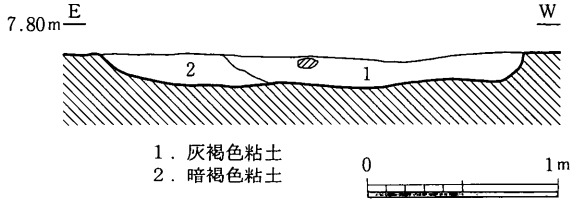
第112図はＳＤ21から出土した遺物である。266・267は陶器の口縁部と底部の破片である。268は土師質のこね鉢の口縁部である。外面には指押さえの痕跡が若干認められる。



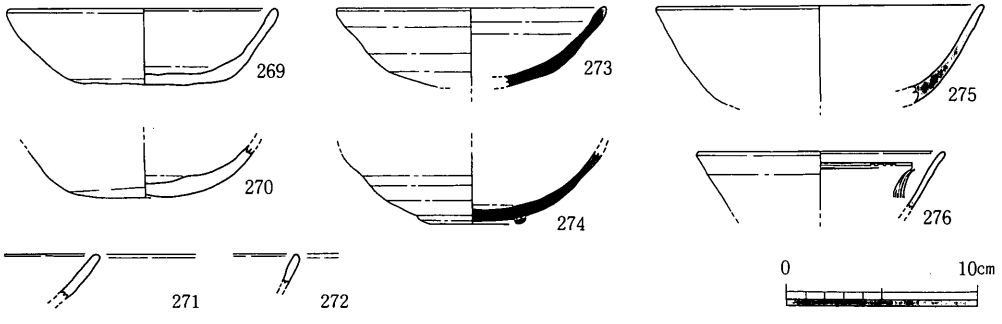
第112図　ＳＤ21出土遺物実測図

第114図はＳＤ23から出土した遺物である。269～272は土師器杯である。273・274は瓦質土器椀である。273には高台が認められないが，274と同様元来は付いていたものと思われる。

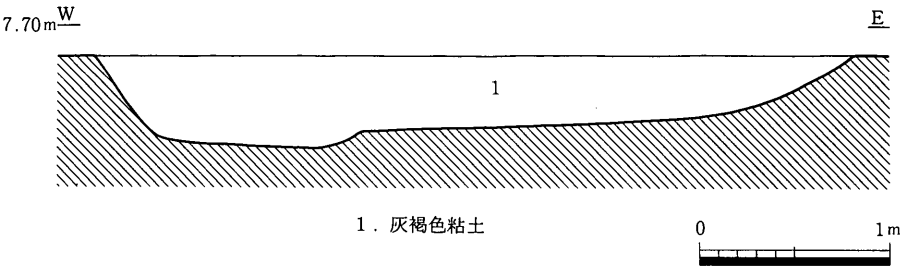
275・276は青磁椀である。275は底部からやや内彎気味に立ち上がる口縁部をもつ。276はやや外反する口縁部をもつ。内面には花弁様の陰刻が施されている。



第113図　ＳＤ23土層断面図



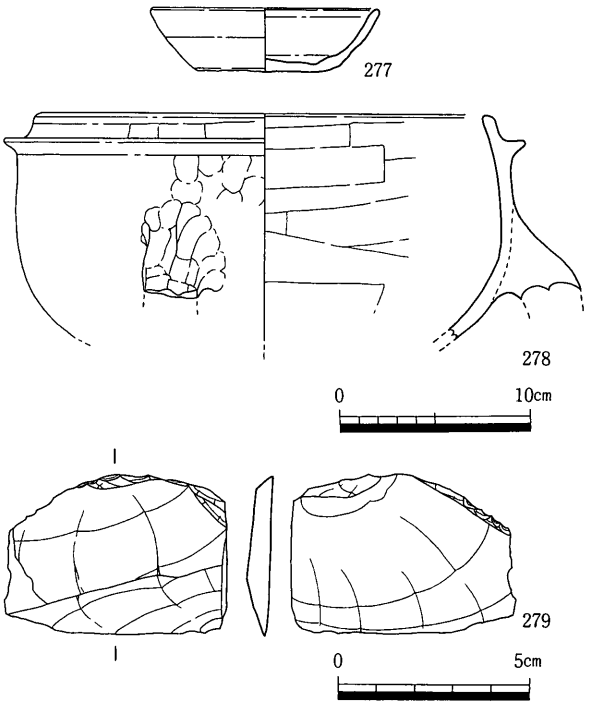
第114図　ＳＤ23出土遺物実測図



第115図　ＳＤ24土層断面図

第116図はＳＤ24から出土した遺物である。277は土師器の杯である。278は土釜である。いわゆる三足付土釜で口縁下部に鍔状の突帯をもつ。279は石器である。サヌカイト製のスクレイパーであると思われる。埋土に混入していたものと思われる。

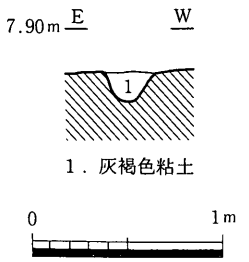
以上のことから，ＳＤ21・23・24は中世前半，つまり鎌倉時代ごろに機能していたものであると思われる。



第116図　ＳＤ24出土遺物実測図

ＳＤ22（第117図，図版50(1)）

ＳＤ21の東側を南から北へ流れる溝状遺構である。幅約30cm，深さ約20cmを測り，ＳＤ21へ流入する。埋土はＳＤ21と同じく灰褐色粘土の単一層である。遺物は出土していないが，埋土その他の状況から判断して，ＳＤ21等と同じ時期に機能していたものであると思われる。

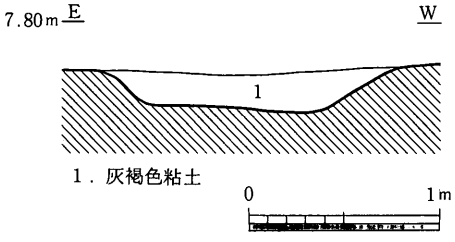


第117図　ＳＤ22土層断面図

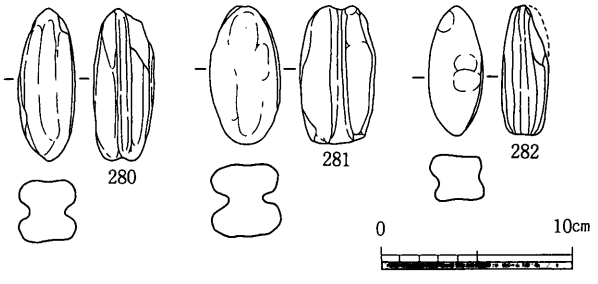
ＳＤ25～27・29～31（第118～125図，図版51(1)）

Ｆ地区ほぼ中央部で検出した溝状遺構である。概ね南から北へ流れるが，複雑な流路を構成するため，主として遺物を取り上げた部分を中心に遺構番号を区別した。

ＳＤ25はこの一連の溝状遺構のうち，もっとも西部を南北に流れる溝状遺構である。途中でＳＤ26より分岐してきたＳＤ30と合流する。幅1.4m，深さ20cmを測る。埋土は灰褐色粘土の単一層である。第119図はＳＤ25より出土した遺物である。

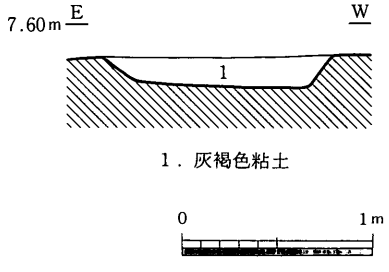


第118図 ＳＤ25土層断面図



第119図 ＳＤ25出土遺物実測図

ＳＤ26はこの一連の溝状遺構のうち，もっとも規模の大きい溝状遺構である。南側は非常に狭いが調査区中央部および北側では幅が拡張されている。幅は1.2m，深さ20cmを測る。調査区中央部でＳＤ25の方へ流れるＳＤ30（幅90cm，深さ20cm）を分岐させる。ＳＤ30はＳＤ25に至るまでにＳＤ30の方へ戻るＳＤ31（幅70cm，深さ20cm）を分岐させる。また，ＳＤ26は調査区北部で東側のＳＤ28へ合流するＳＤ27（幅1.2m，深さ20cm）を分岐させる。



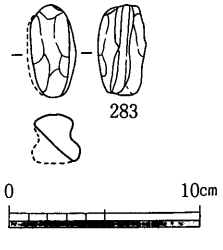
第120図 ＳＤ26土層断面図

ＳＤ29は，調査区南部でＳＤ26に合流する溝状遺構である。幅70cm，深さ20cmを測る。

この一連の溝状遺構の埋土はすべて灰褐色粘土の単一層であり，埋土中からは土師器や有溝土錘等が出土している。

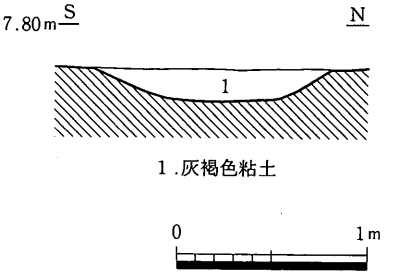
第119図はＳＤ25から出土した遺物である。 280～282は有溝土錘である。いずれも断面がエの字状を呈する。

第121図はＳＤ26から出土した遺物である。283も有溝土錘である。

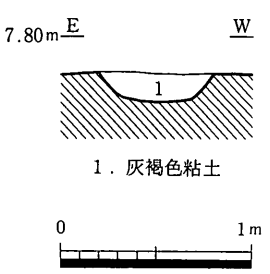


第121図 ＳＤ26出土遺物実測図

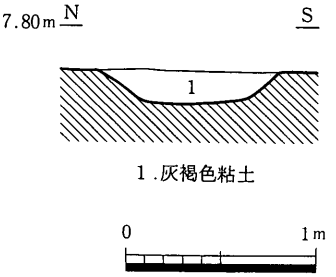
有溝土錘は中世ごろに最も多くみられる土錘で網の一方に結び，もう一方に浮を結ぶ刺し網漁等に用いられた。よって，この一連の溝状遺構も該期に機能していたものと思われる。



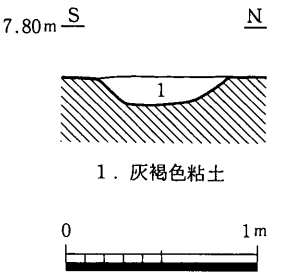
第122図 ＳＤ27土層断面図



第123図 ＳＤ29土層断面図



第124図 ＳＤ30土層断面図

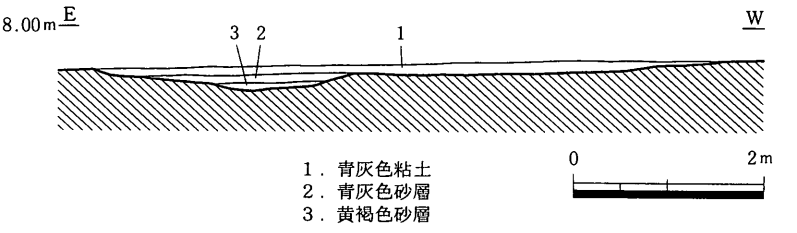


第125図 ＳＤ31土層断面図

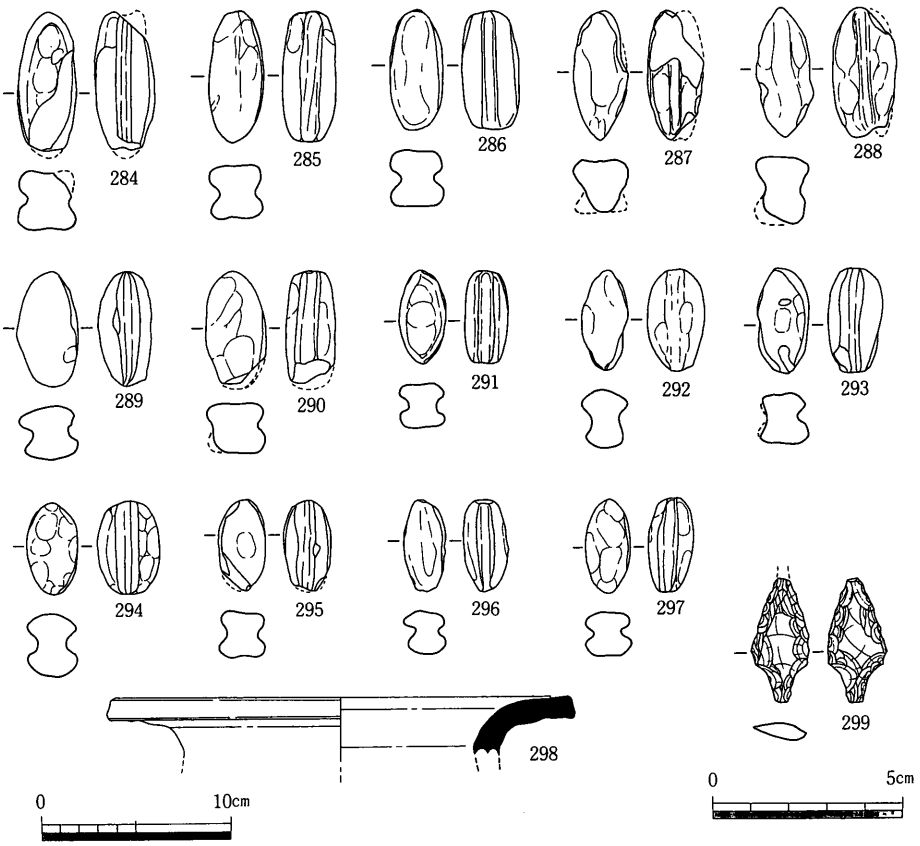
ＳＤ28（第126図，図版51(2)）

Ｆ地区中央部やや東よりの部分で検出した溝状遺構である。検出当初は幅が３ｍ，深さ10cmほどの湿地状を呈していたが，その下層に幅1.1ｍ，深さ20cmの溝状遺構が検出された。この下層の溝状遺構にＳＤ27が合流し，その後湿地状を呈するようになったものと思われる。下層の埋土はやはり，灰褐色粘土であり，上層は砂質土である。遺物はすべて下層から出土しているが，圧倒的に有溝土錘が多い。この溝状遺構からは15点出土している。

第127図はこの溝状遺構から出土した遺物である。284～297は有溝土錘である。いずれも断面エの字状を呈する。大きさにややばらつきがみられ，これが網の種類によるものかどうかは不明である。298は須恵器壺の口縁部である。大きく外方へ張りだし，口縁端部に面をもつ。299は埋土中に混入していたと思われる石鏃である。サヌカイト製の凸基式のものであ



第126図 ＳＤ28土層断面図

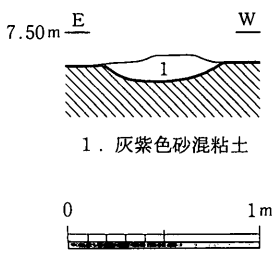


第127図　ＳＤ28出土遺物実測図

る。また，包含層出土として報告している有溝土錘のほとんどはこのＳＤ28周辺で出土しており，この地域周辺で漁業を生業として活動していた集落の存在を示唆するものである。

ＳＤ32（第128図，図版52(2)）

Ｆ地区東側の調査時にＦ２・Ｆ３地区と呼称していた調査区の東端を南西から北東へかすめる溝状遺構である。２条あったものが調査区中央付近で１つに合流する。幅60㎝，深さ20㎝を測る。埋土は砂を含む灰紫色砂混粘土の単一層で遺物は出土しなかった。埋土からみて，他の溝状遺構群と同じく中世ごろに埋没したものと思われる。



第128図　ＳＤ32土層断面図

ＳＲ12（第129図，図版53(1)）

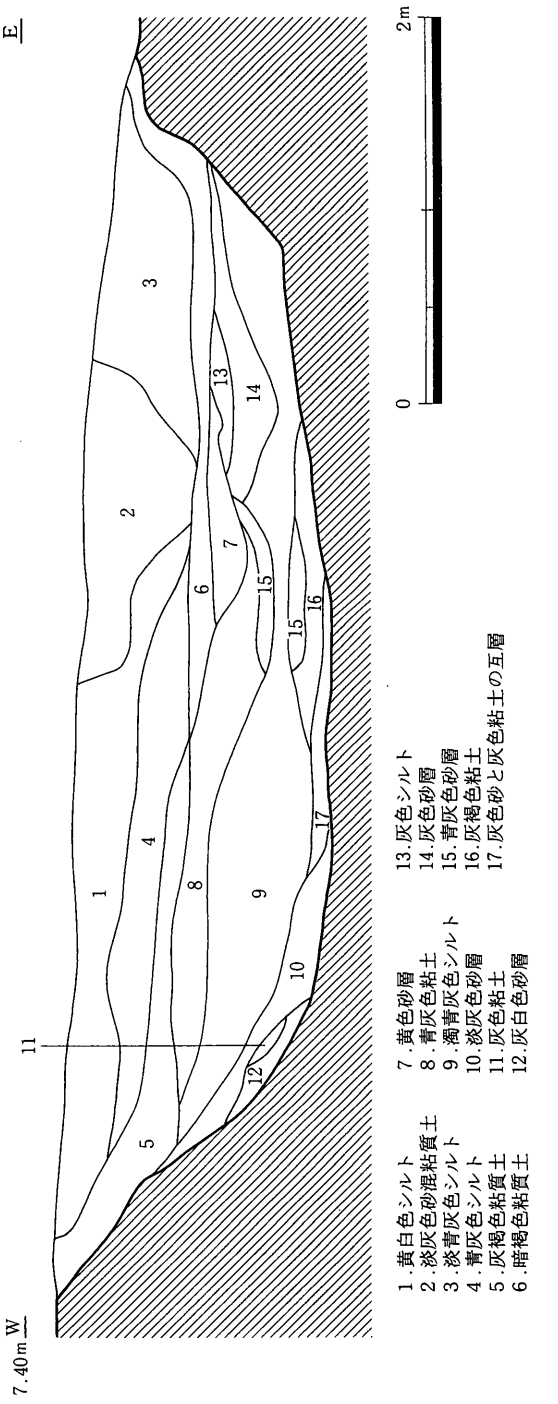
ＳＲ09の東側を流れる自然河川である。上層には古川の氾濫原である洪水砂層が厚く堆積しており，検出面の標高はおよそ７ｍである。検出面での幅は約6.5ｍ，深さは約1.4ｍを測る。埋土は複雑に堆積しているが，概ね砂質土，粘質土，シルトの３層に大別できる。このうち下２層から多量の土師質の土器が出土している。

第130図はこの自然河川から出土した遺物である。

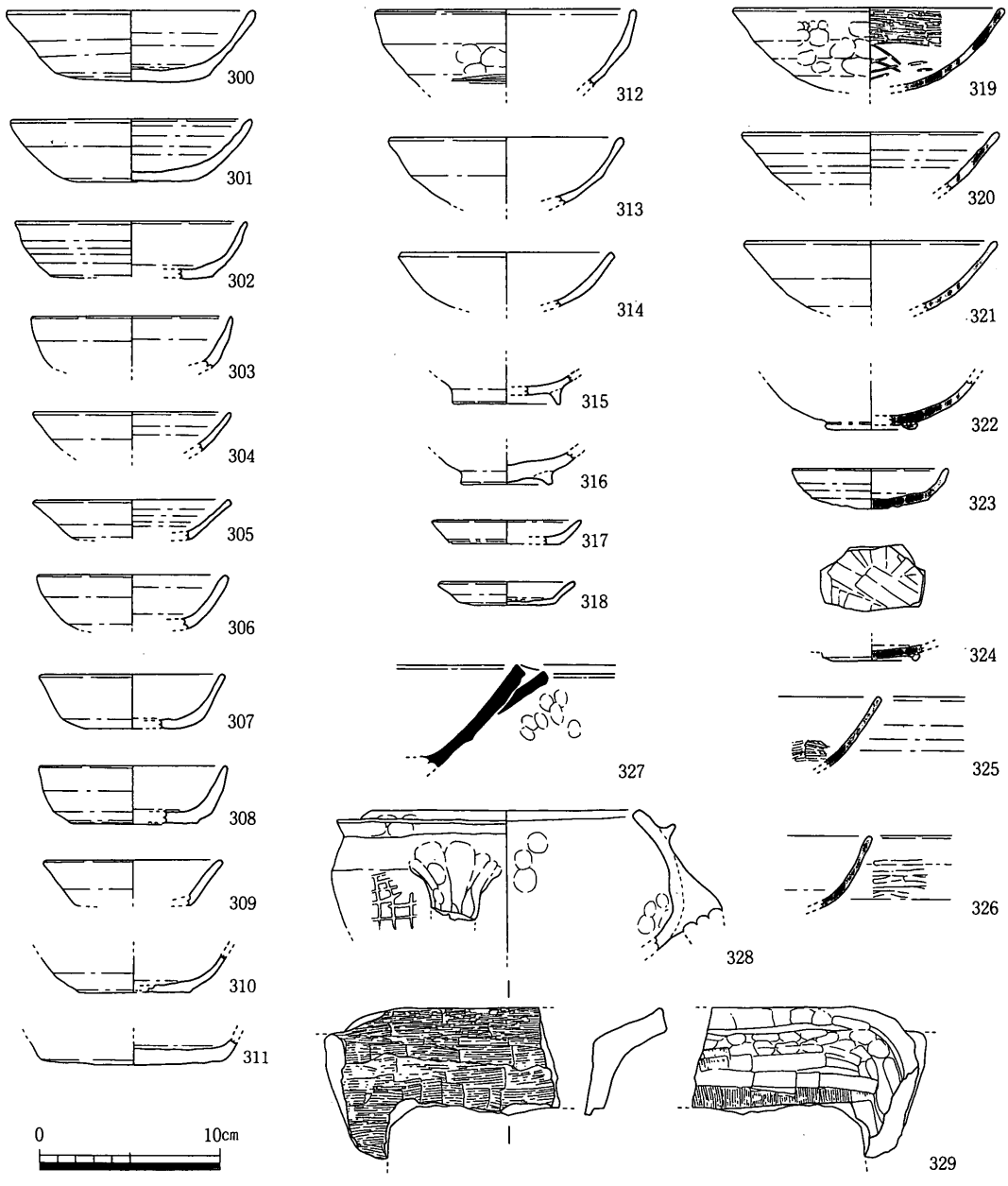
300～311は土師器杯である。口縁端部を丸くおさめるものとやや尖り気味にするものとがある。312～316は土師器椀である。椀は瓦器にプロポーション，法量が酷似しており，瓦器と同じ技法によって製作されたことがわかる。315・316は高台部分である。

317・318は土師器小皿である。319～322は瓦器椀である。319は外面に指押さえの痕跡が顕著で内面には丁寧なヘラミガキ調整がなされている。口縁端部はやや丸くおさめている。320は直線的に外方に立ち上がる体部から口縁部にいたるものである。321は口径に比べ，深さがやや浅い。322は底部である。いずれも畿内産のものである。

323は瓦質土器の小皿である。324は底部である。内面にヘラの痕跡が顕著に認められる。325・326も瓦器椀の口縁部である。327は須恵器こね鉢の口縁部である。片口



第129図　ＳＲ12土層断面図



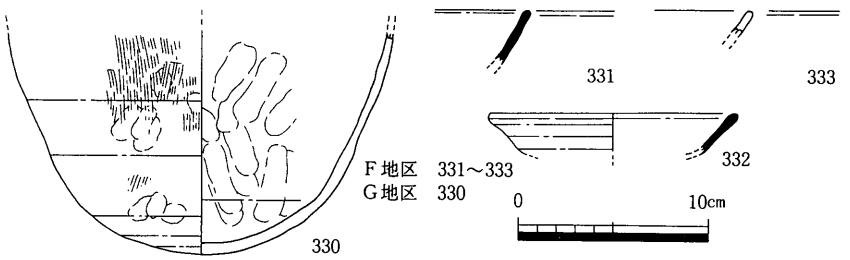
第130図　ＳＲ12出土遺物実測図

が付いている。 328は土師質の土釜である。いわゆる三足付きの土釜である。329は土師質の竈である。焚き口の上部であると思われる。これらの遺物はいずれも中世前半，鎌倉時代ごろのものであると思われる。したがって，この自然河川が中世ごろに機能しており，当時の古川の最深部であることがうかがわれる。当時の古川はこのあたりで氾濫を繰り返していたのであろう。

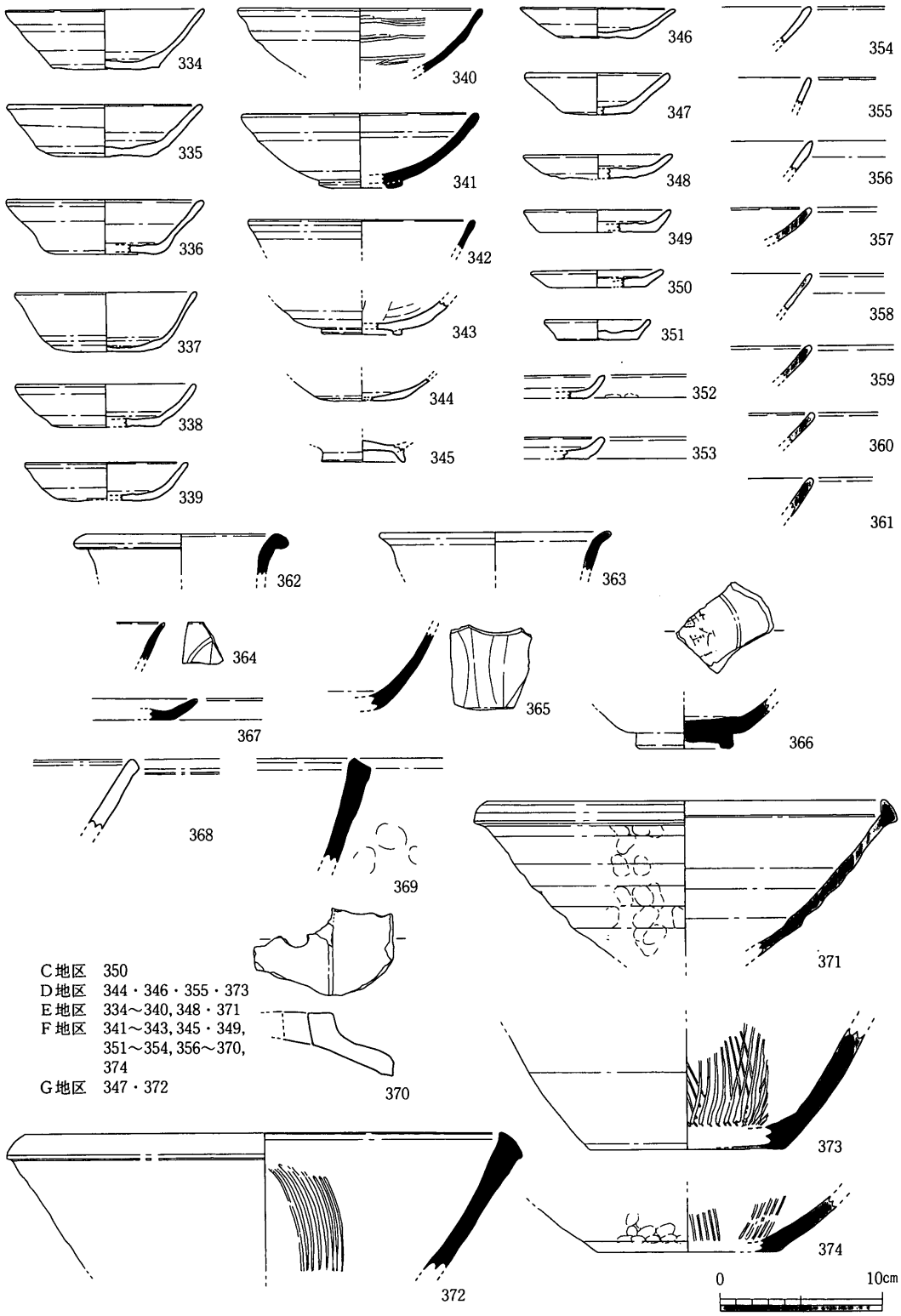
包含層出土の遺物（第131図～第135図）

330はG地区包含層より出土した土師質土鍋である。内面には指押さえの痕跡が顕著に認められる。外面には，指押さえののち刷毛目調整を行っている。331～333は杯もしくは椀の口縁部である。331・332は須恵器である。334～339は土師器杯である。内彎する体部をもつものと外反する体部をもつものが認められる。340～342は瓦質土器の椀である。やや内彎気味の体部に丸くおさめる口縁部をもつ。胎土・焼成等からみて綾南町陶で製作されたものであろう。343～345は土師器の底部である。346～353は土師器小皿である。354～356は土師器椀の口縁部である。357～361は瓦器もしくは瓦質土器の椀の口縁部である。362～366は青磁の口縁部である。362・363は壺である。362は玉縁状の口縁部をもつ。363は丸くおさめる口縁部をもつ。364～366は青磁椀である。364・365には外面にしのぎ蓮弁が刻まれている。 366には底部内面に「金玉満堂」という刻印が押されている。368・369・371～374はこね鉢および擂鉢である。372～374には卸目が刻まれている。370は丸瓦の玉縁部分である。375～380は土鍋および土釜である。383～386は土釜の脚部である。端部まで直線的に下りる385と脚部端を外方につまみ出す383・386とがある。387は擂鉢である。388は壺の口縁部である。389は備前焼の壺である。把手状の突起が3つ付くいわゆる三耳壺である。口縁端部は肥厚し，玉縁状を呈する。肩部が張りだし，底部は平底である。外面上半部に黄緑色の自然釉がかかる。底部内面に指押さえが認められる。390も備前焼の壺の底部である。焼成温度が低いためか淡い赤褐色を呈する。391も備前焼の壺である。内面にはヘラ削り調整と指押さえがみられる。392・393も備前焼の壺の口縁部である。玉縁状の口縁をもつ。394は砥石である。安山岩製と思われる。使用頻度が高かったものと思われ，擦痕が顕著に認められる。

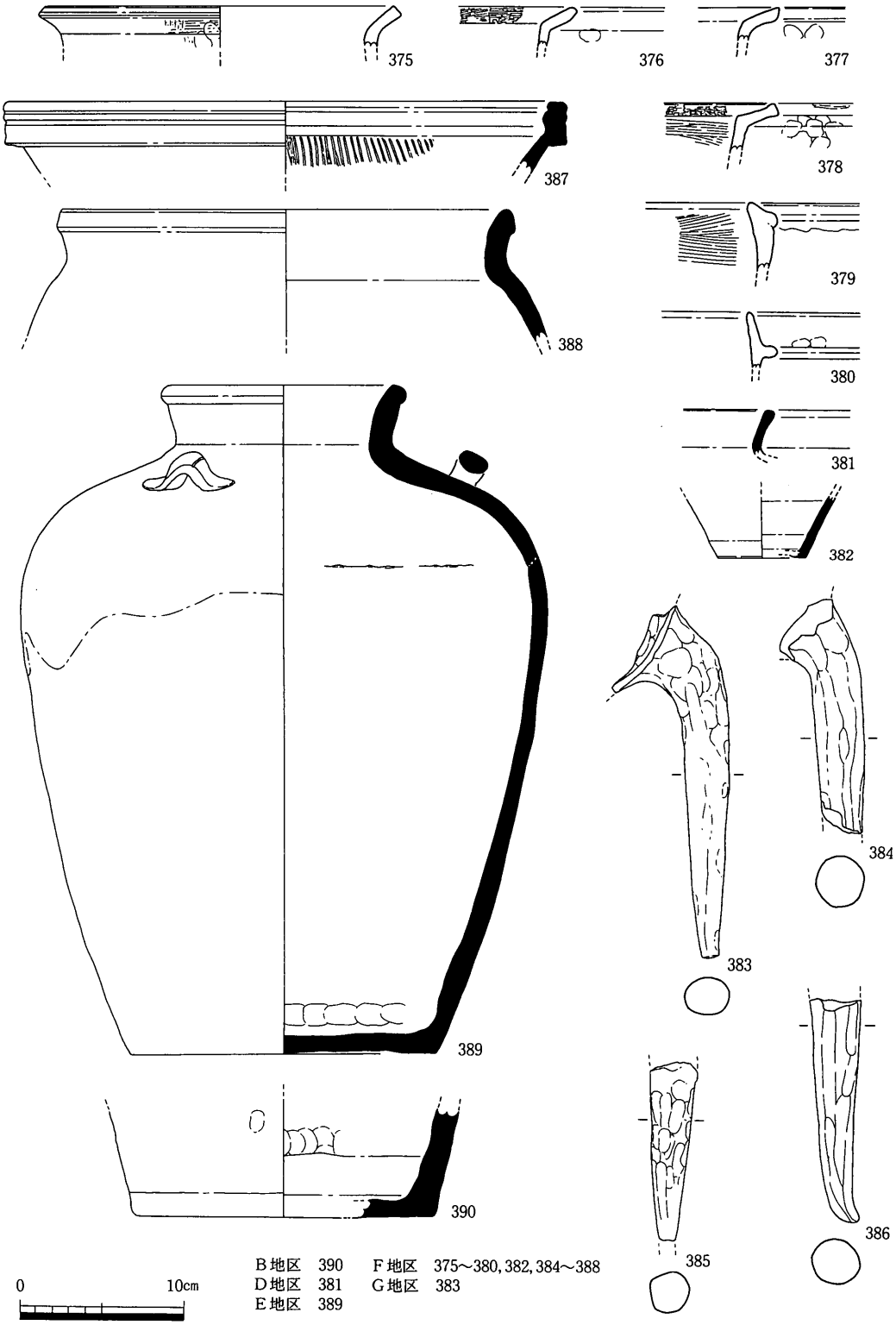
395・396は木器である。396は曲物の蓋であると思われる。397～422は有溝土錘である。すべてF地区から出土した。423・424は古銭である。423は天嬉通宝（初鋳1017年），424は洪武通宝（初鋳1368年）である。



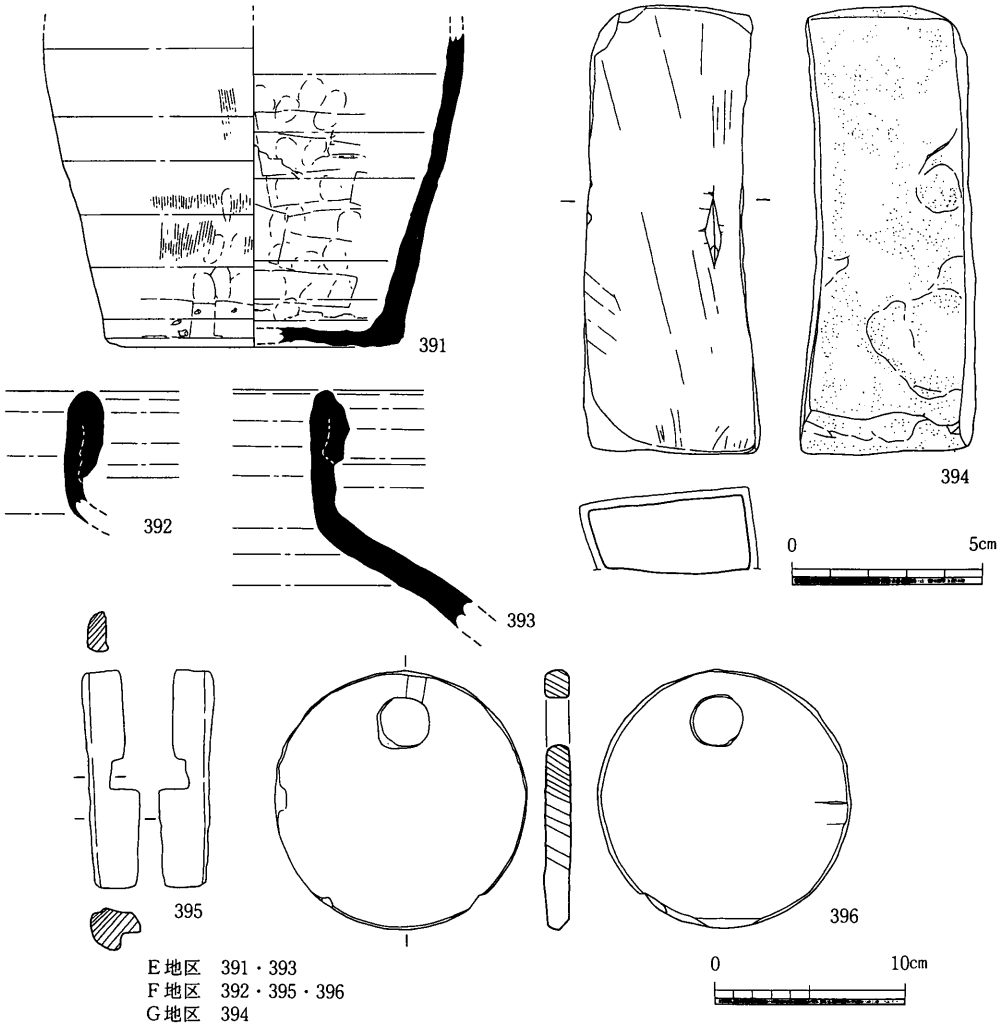
第131図 包含層出土遺物実測図(4)



第132図 包含層出土遺物実測図(5)

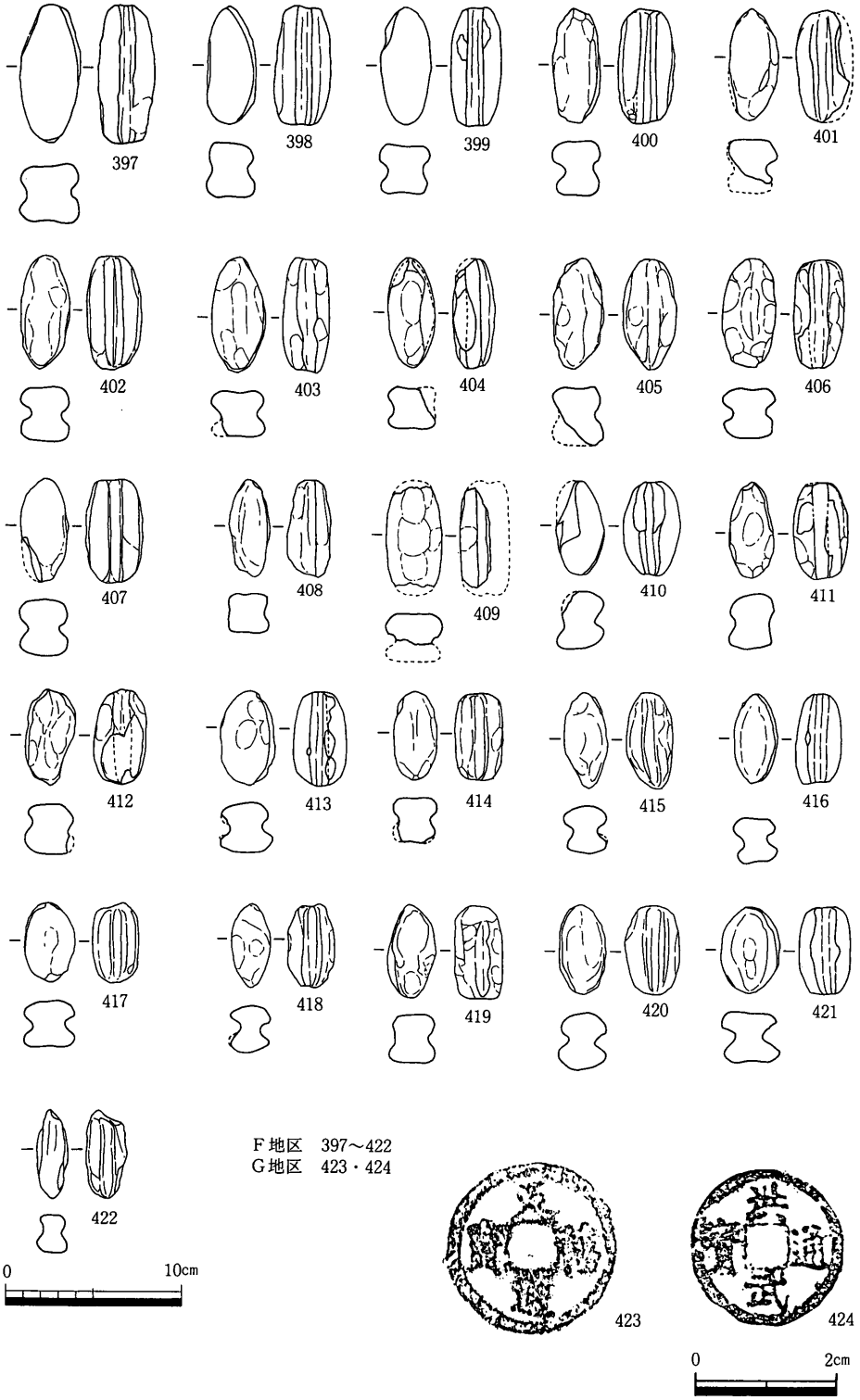


第133図 包含層出土遺物実測図(6)



E地区　391・393
F地区　392・395・396
G地区　394

第134図 包含層出土遺物実測図(7)



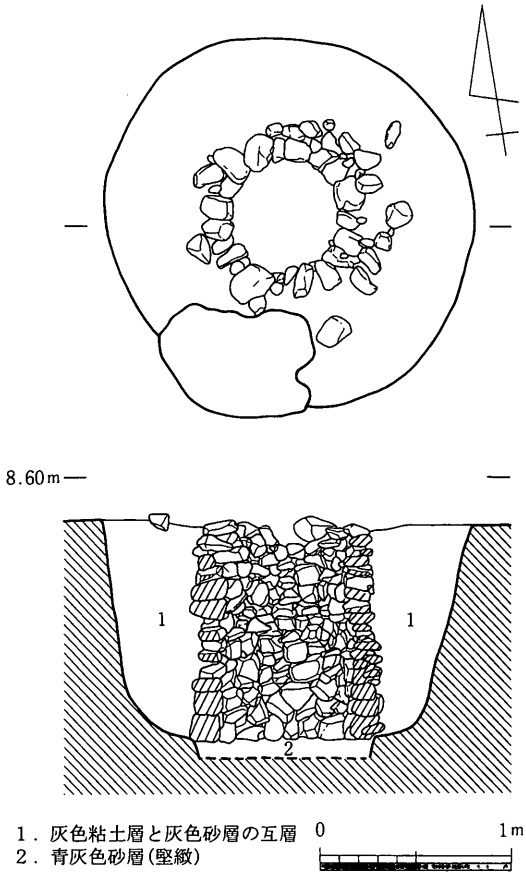
第135図 包含層出土遺物実測図(8)

（5）近世の遺構・遺物

ＳＥ03（第136図，図版54・55）

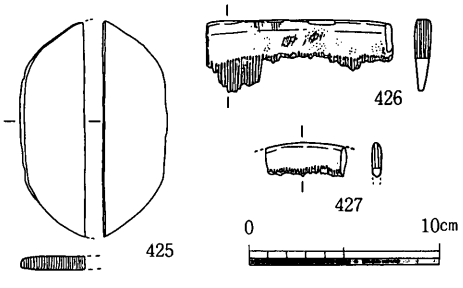
Ｃ地区中央部やや西よりの部分で検出した石組の井戸である。掘り方は直径1.9m，石組の直径は60㎝を測る。深さは1.3m以上である。使用している石は安山岩の割石や砂岩が多くみられた。石組はほぼ直立した状態で組まれており，裏込の土には灰色粘土と堅緻な灰色砂層とを使用していた。最下層には非常に堅く締まった青灰色砂層がみられ，調査時にも激しい湧水がみられた。水質はいわゆる「かなけ水」と呼ばれる薄い褐色を呈する鉄分の非常に多いもので，飲料には不適である。おそらく，農業用の水を確保するための井戸であったものと推測される。

裏込の土からは，土師器・陶磁器片や木製品・金属器が出土した。第137図はこの井戸から出土した遺物である。425は曲物もしくは桶物の蓋であると思われる。



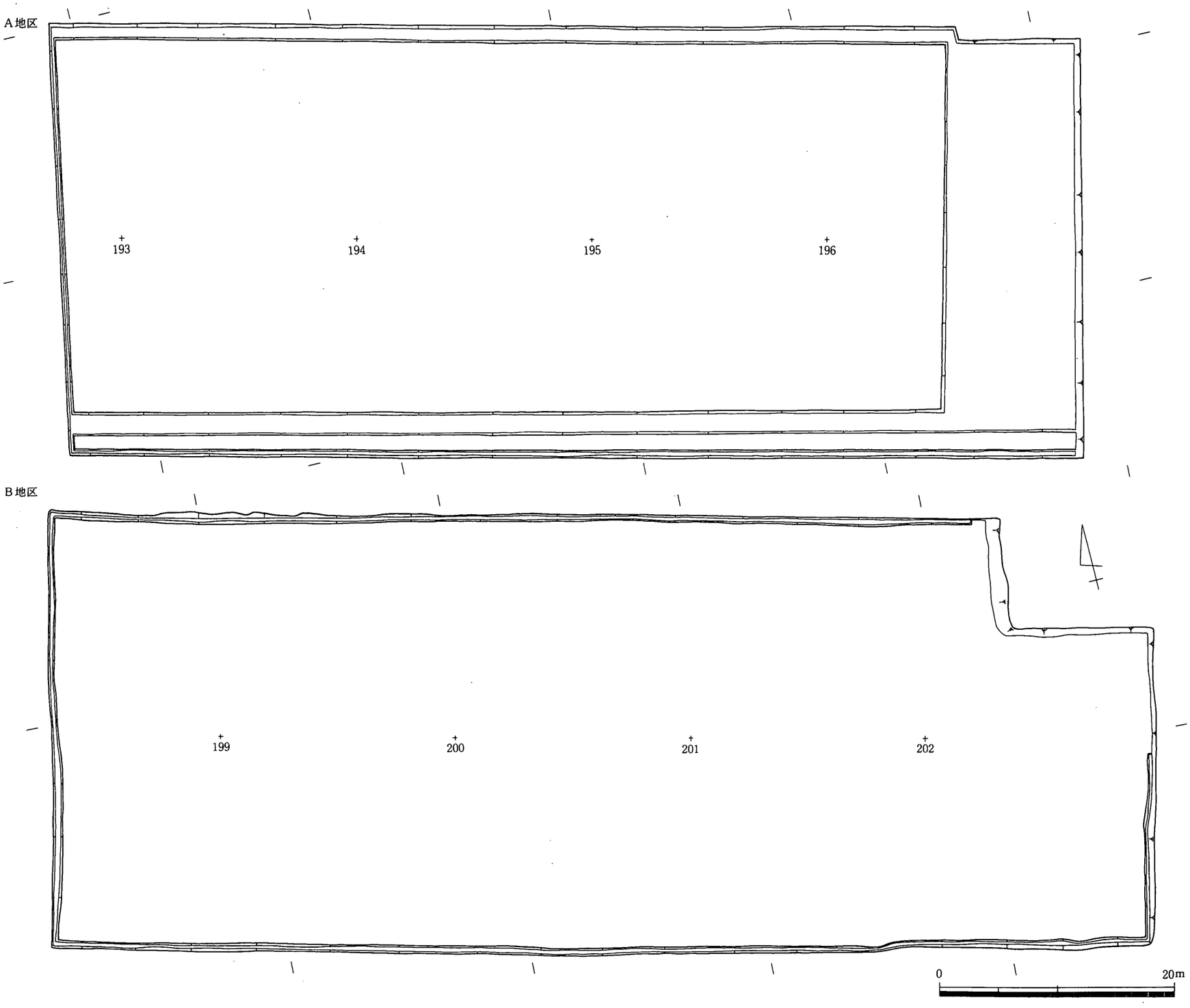
第136図 ＳＥ03平・断面図

426・427は横櫛である。櫛はケガレをハラうものとして古来より使用されたものであり，この場合もそういった祭祀の一端をうかがわせるものである。材質は不明であるが，おそらく柘植もしくはしきみであろう。この他に真鍮製のキセルも出土している。



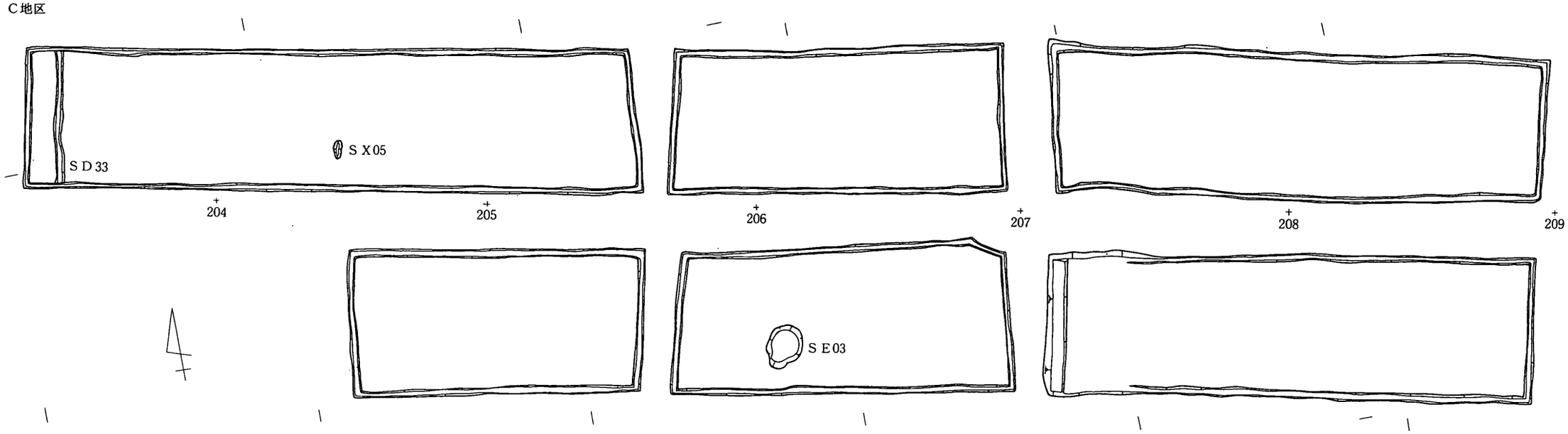
第137図 ＳＥ03出土遺物実測図

図化し得なかったが陶磁器等の遺物の観察からこの井戸は近世末期（江戸時代末期）ごろの所産であるものと思われる。

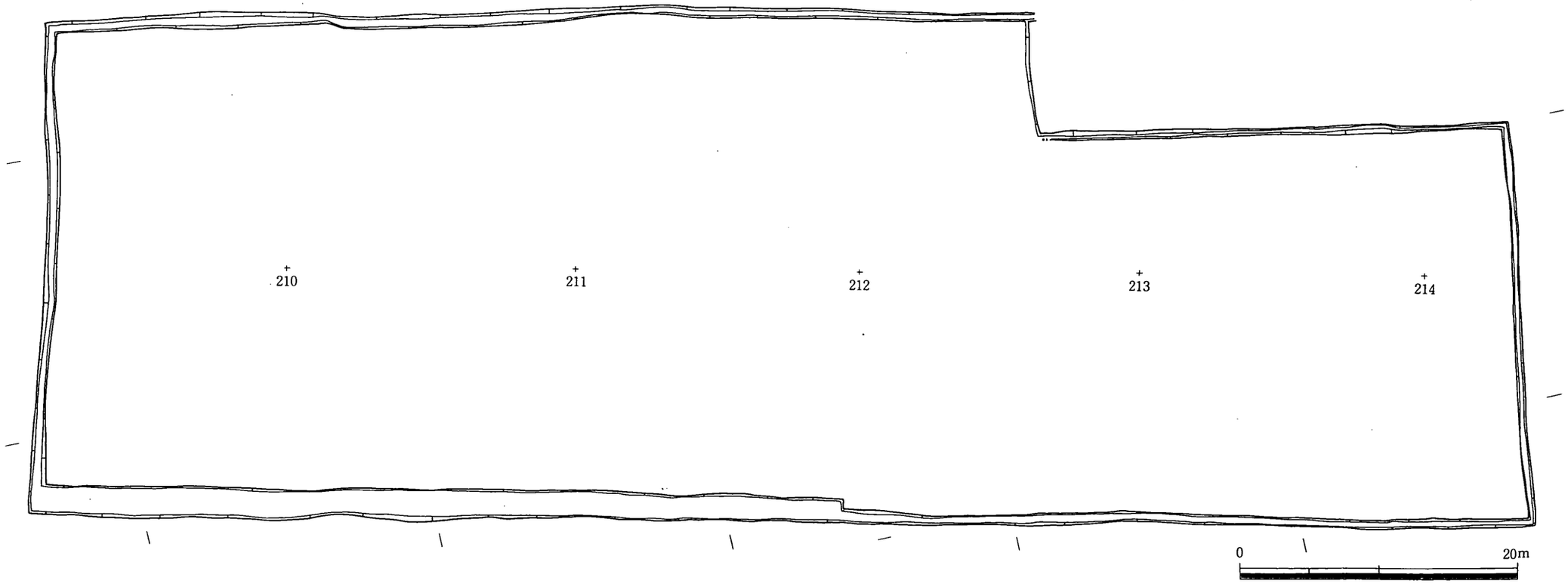


第138図 A・B地区近世遺構配置図

C地区

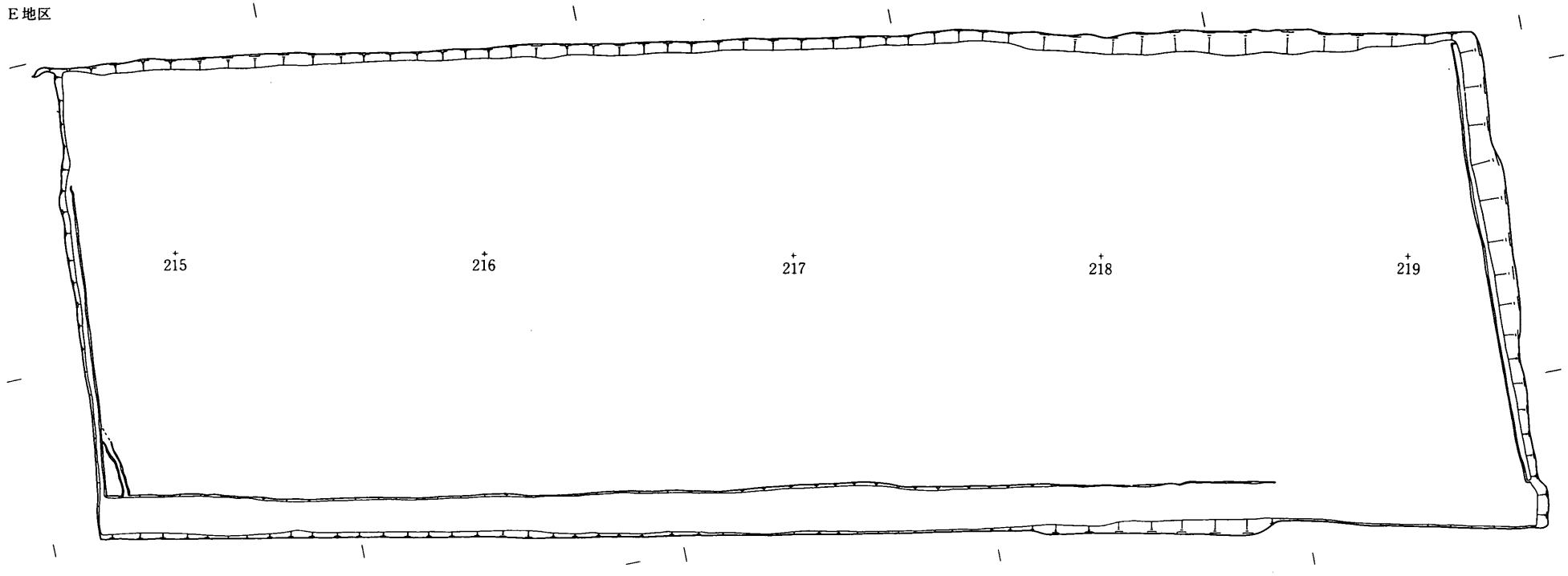


D地区

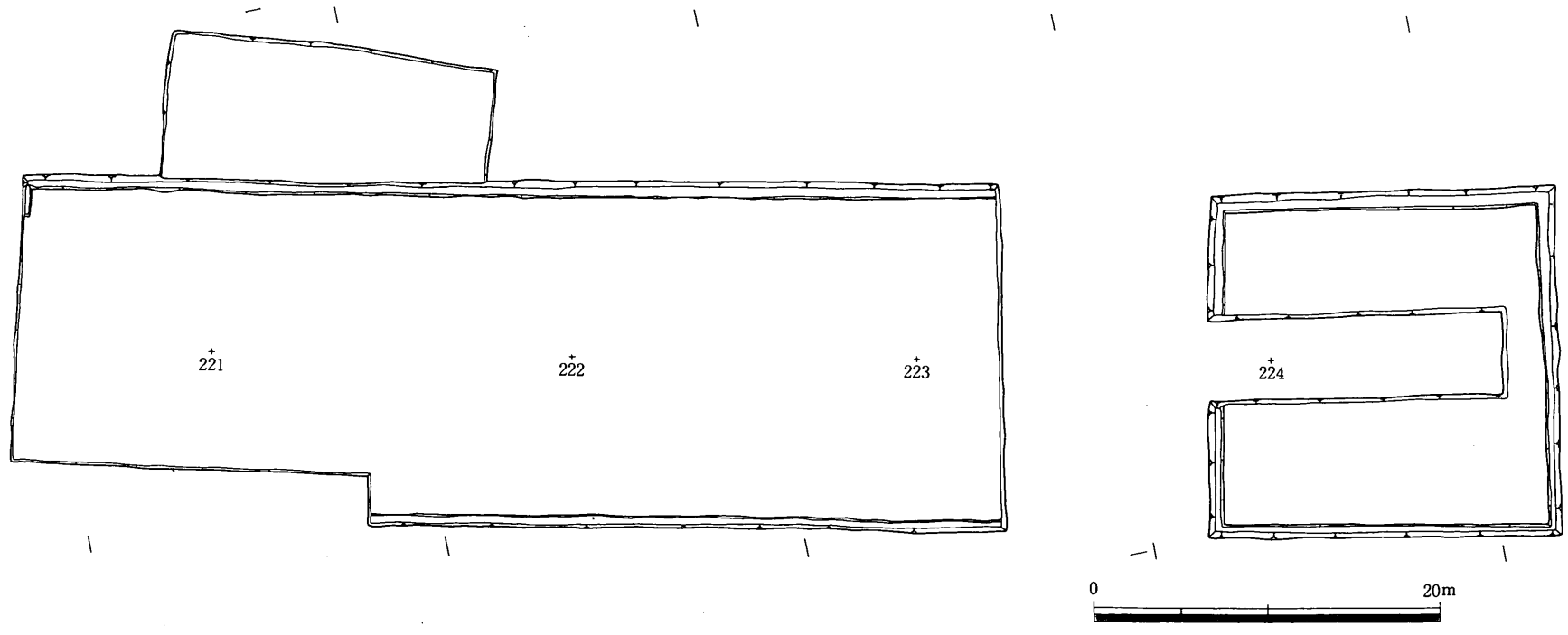


第139図 C・D地区近世遺構配置図

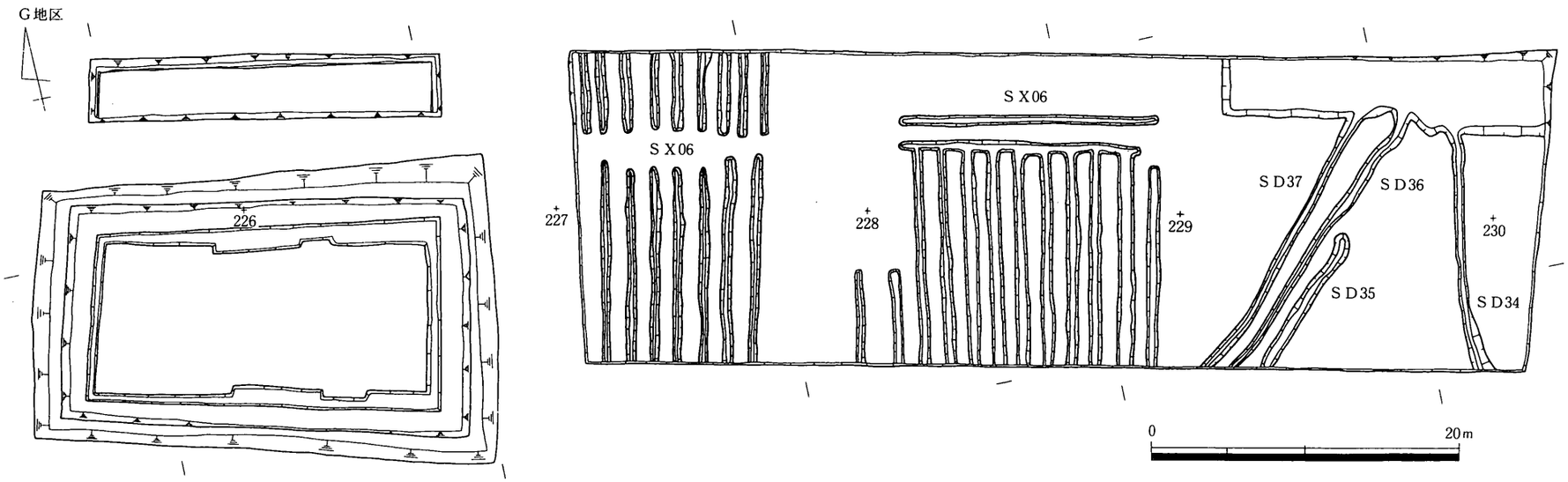
E地区



F地区



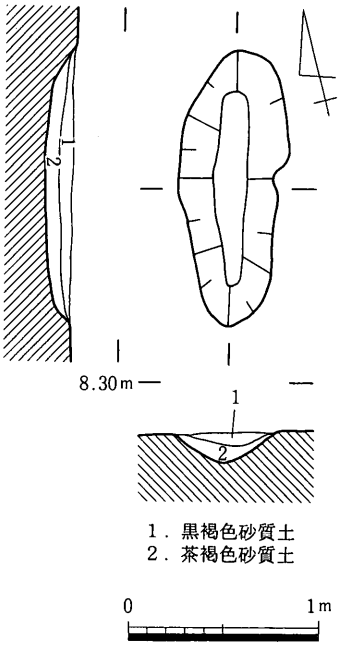
第140図 E・F地区近世遺構配置図



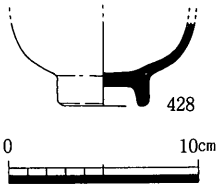
第141図 G地区近世遺構配置図

ＳＸ05（第142図）

Ｃ地区北西部で検出した長楕円形を呈する不明遺構である。長軸1.4m，短軸50cm，深さ15cmを測る。埋土は色調の違いで２層に分けられるが土質的には砂質土である。埋土中から陶磁器片が１点だけ出土している（第143図428）。高台付の椀である。直立気味の体部をもつ。肥前陶磁であると思われ，時期は江戸時代後期以降の物であると思われる。したがって，この遺構は近世後期ごろの所産であると思われる。



第142図　ＳＸ05平・断面図



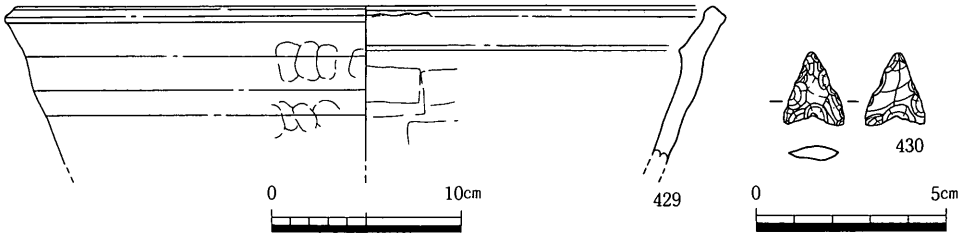
第143図　ＳＸ05出土遺物実測図

ＳＸ06（図版56(1)）

Ｇ２地区中央部から西端にかけて溝状遺構が平行して並ぶ遺構である。状況からみて畠の畝間の溝状遺構であると思われるため，ここではすべて一括してＳＸ06と称することにする。各溝状遺構の幅は平均して50cm，深さ10cmほどで埋土は黄白色砂層の単一層である。溝状遺構間の距離は平均して約１ｍほどである。つまり，作物を植える畝の幅が約１ｍあったということである。

第144図はこの畝状遺構から出土した遺物である。429は土師質の土鍋である。430は埋土中に混入していた石鏃である。サヌカイト製の凹基式のものである。その他，肥前産と思われる染付の破片等も出土しており，時期は江戸時代末期ごろのものと思われる。

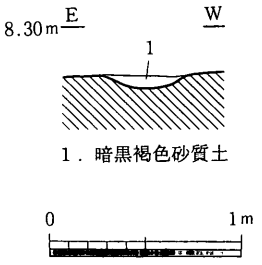
したがって，この遺構も近世ごろのものであると思われる。



第144図　ＳＸ06出土遺物実測図

ＳＤ33（第145図，図版56(2)）

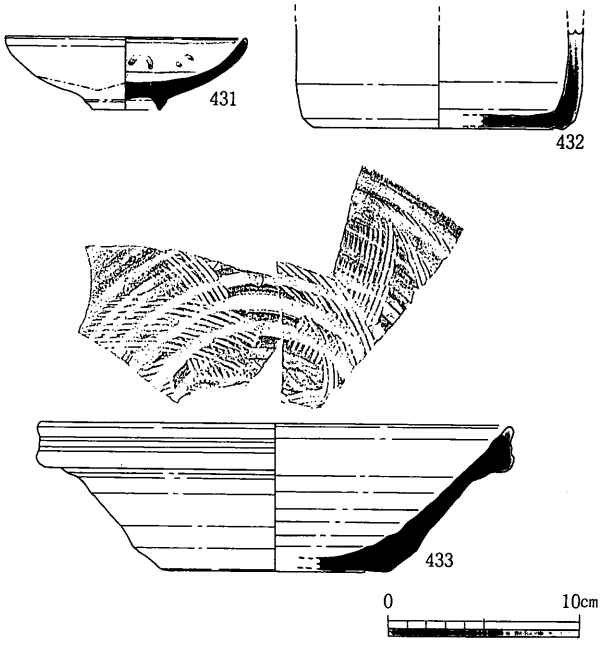
Ｃ地区西部で検出した溝状遺構である。現在の地割とほぼ同じ方向に流れる。幅40cm，深さ10cmを測る。埋土は暗黒褐色砂質土の単一層である。埋土中から土師器・陶磁器の破片が出土している。



第145図　ＳＤ33土層断面図

第146図はこの溝状遺構から出土した遺物である。431は陶器皿である。外面には釉がかかる。高台部分に釉はかかっていない。432は備前焼の壺の底部であると思われる。433は備前焼の擂鉢である。内面全体に卸目が認められる。

これらの遺物からこの溝状遺構は近世後期（江戸時代後期）ごろの所産であると思われる。



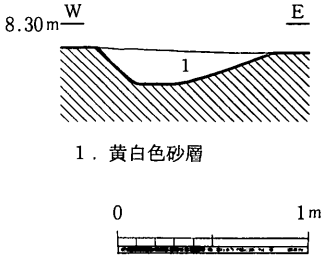
第146図　ＳＤ33出土遺物実測図

ＳＤ34（第147図）

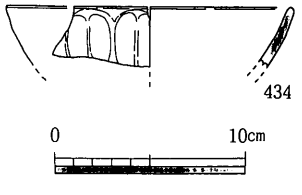
Ｇ２地区東端の部分を南から北へ向かって流れる溝状遺構である。幅90cm，深さ20cmを測る。埋土は黄白色砂層の単一層である。埋土中より陶磁器片が出土した。

第148図434はこの溝状遺構から出土した遺物である。青磁椀で外面にはしのぎ蓮弁が刻まれている。

埋土および周辺の遺構の在り方からみてこの溝状遺構は近世ごろのものであると思われる。



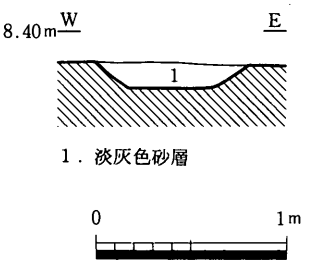
第147図　ＳＤ34土層断面図



第148図　ＳＤ34出土遺物実測図

ＳＤ35（第149図）

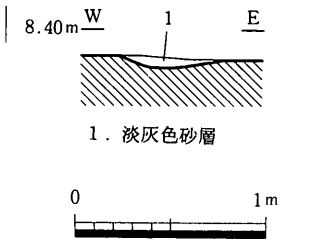
Ｇ２地区東側で検出した南西から北東へ流れる溝状遺構である。幅80cm，深さ20cmを測る。埋土は淡灰色砂層の単一層であり，陶磁器片が少量出土した。埋土等からみてこの溝状遺構も近世ごろのものであると思われる。



第149図　ＳＤ35土層断面図

ＳＤ36（第150図）

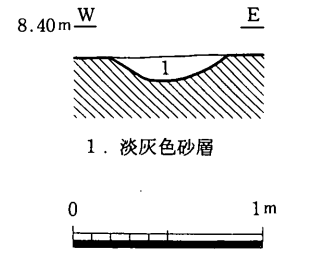
ＳＤ35の西側で検出したＳＤ35に平行して流れる溝状遺構である。幅50cm，深さ10cmを測り，埋土はやはり淡灰色砂層の単一層である。埋土中より陶磁器片が少量出土している。埋土等からみてこの溝状遺構も近世ごろのものであると思われる。



第150図　ＳＤ36土層断面図

ＳＤ37（第151図）

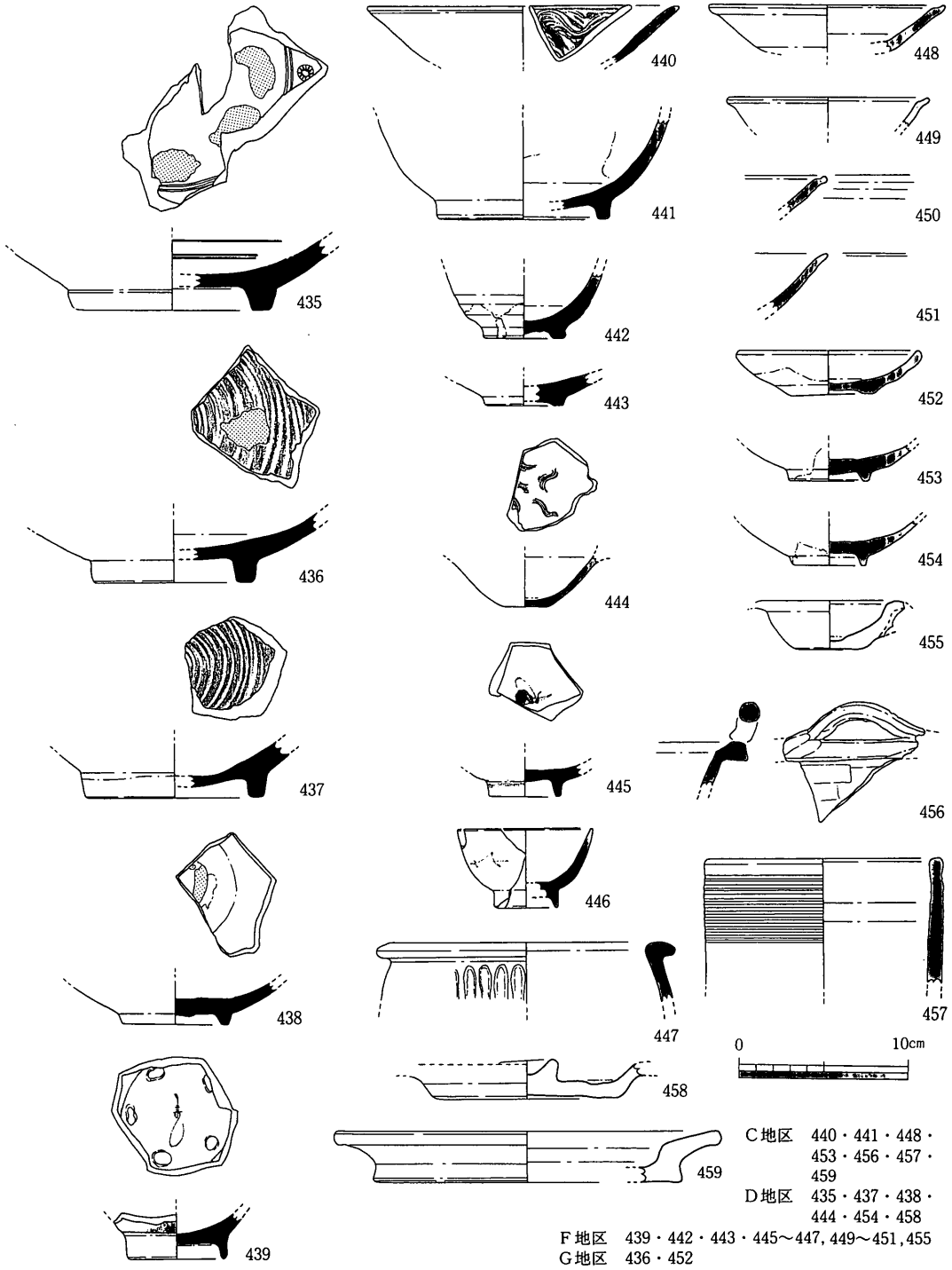
ＳＤ36の西側で検出したＳＤ36に平行して流れる溝状遺構である。幅60cm，深さ20cmを測り，埋土はやはり淡灰色砂層の単一層である。遺物は出土しなかった。埋土からみてこの溝状遺構も近世ごろのものと思われる。



第151図　ＳＤ37土層断面図

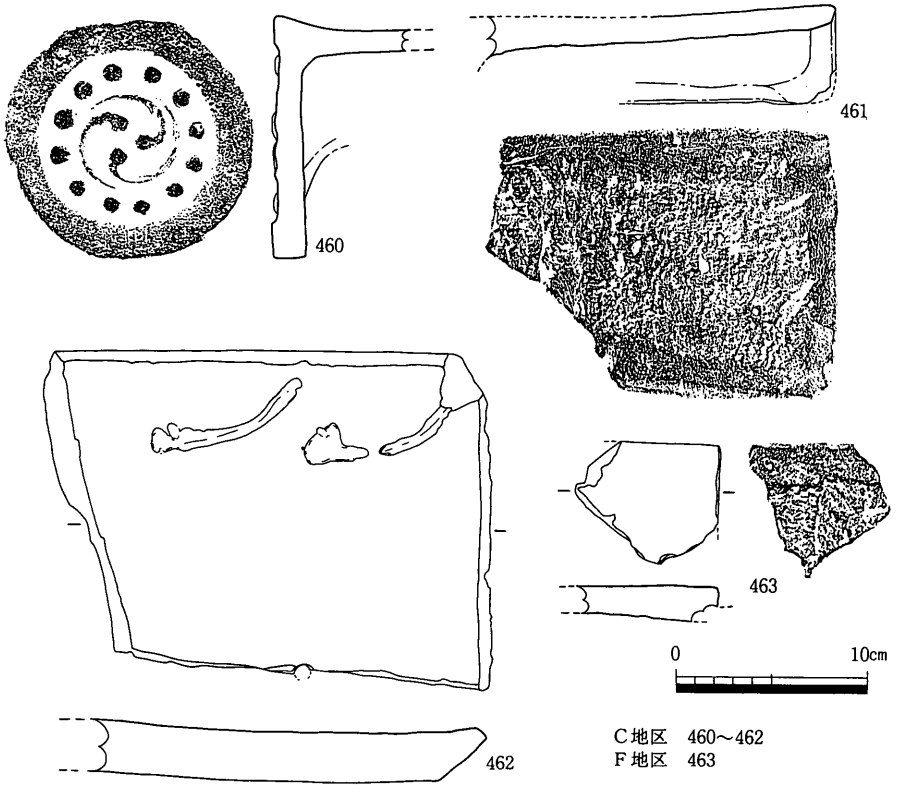
包含層出土の遺物（第152図～第154図）

ここでは，各地区の包含層から出土した遺物のうち，近世のものと思われるものを報告する。435～437は陶器椀である。いずれも肥前産のものであると思われる。435・436には砂目積の痕跡が認められる。436・437はいずれも刷毛目唐津と呼ばれるものである。438・439は肥前産の染付である。439にはトチンの痕跡が認められる。440～446は陶器椀である。440はいわゆる刷毛目唐津と呼ばれるものである。447～454は陶磁器である。447は青磁である。外面にはしのぎ蓮弁が刻まれている。456は瓦質土器の土釜である。把手を口縁部に貼り付けている。458・459はいわゆる消壺の蓋ではないかと思われる土師器である。460～463は瓦である。460は巴文の軒丸瓦である。巴文の周囲には12個の珠文が巡らされて

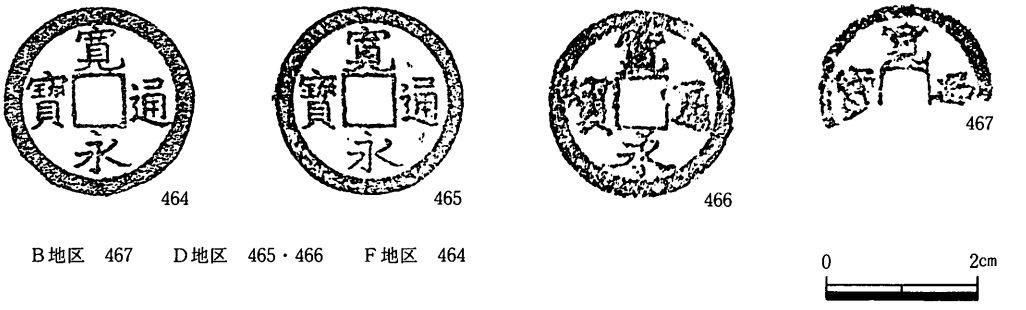


C地区　440・441・448・453・456・457・459
D地区　435・437・438・444・454・458
F地区　439・442・443・445～447, 449～451, 455
G地区　436・452

第152図 包含層出土遺物実測図(9)



第153図 包含層出土遺物実測図(10)



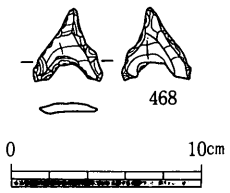
第154図 包含層出土遺物実測図(11)

いる。焼成は良好でいわゆるいぶし焼きをしている。461は丸瓦である。破片の先端部の形状からみて軒丸瓦であると思われる。玉縁はない。462は平瓦である。463は丸瓦の玉縁部分である。屋根と紐合するための円孔の一部がわずかながら認められる。464～467は古銭である。いずれも寛永通宝である。裏面に波文のあるものは認められない。字体の特徴からみて 464・465は明暦２年（1656）以前のいわゆる「古寛永」であろう。

（6）その他の遺構・遺物

ＳＫ07（図版57(1)）

ＳＤ39の東側で検出した南北方向に長軸を持つ楕円形を呈する土坑である。長径1.8m，短径１m，深さ25cmを測る。埋土はＳＤ38・39と同じく赤燈色砂質土であり，近代以降の陶磁器片や埋土中に混入していたと思われる凹基式のサヌカイト製の石鏃（第155図468）等が出土している。



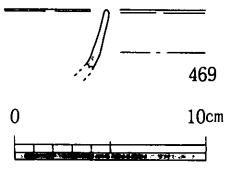
第155図 ＳＫ07出土遺物実測図

したがって，この土坑は近代以降のごく新しい時期の土坑であると思われる。

ＳＫ08（図版57(1)）

ＳＫ07の南東部で検出した楕円形を呈する土坑である。長径1.9m，短径1.5m，深さ35cmを測る。埋土はＳＫ07と同一である。埋土中より陶磁器片が出土している。

第156図469はこの土坑から出土した遺物である。染付片で近代以降のものと思われる。



第156図 ＳＫ08出土遺物実測図

したがって，この土坑も近代以降のごく新しい時期のものと思われる。

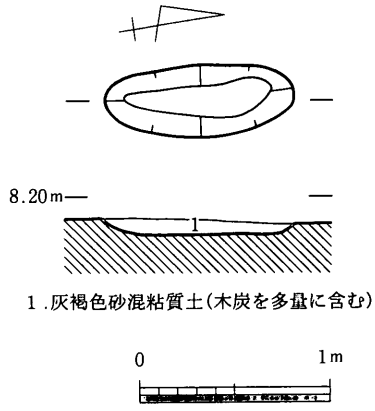
ＳＫ09（図版57(1)）

ＳＫ08のすぐ北側で検出した隅丸長方形を呈する土坑である。長径1.5m，短径１m，深さ18cmを測る。埋土はＳＫ08と同一である。埋土中より陶磁器片が出土している。

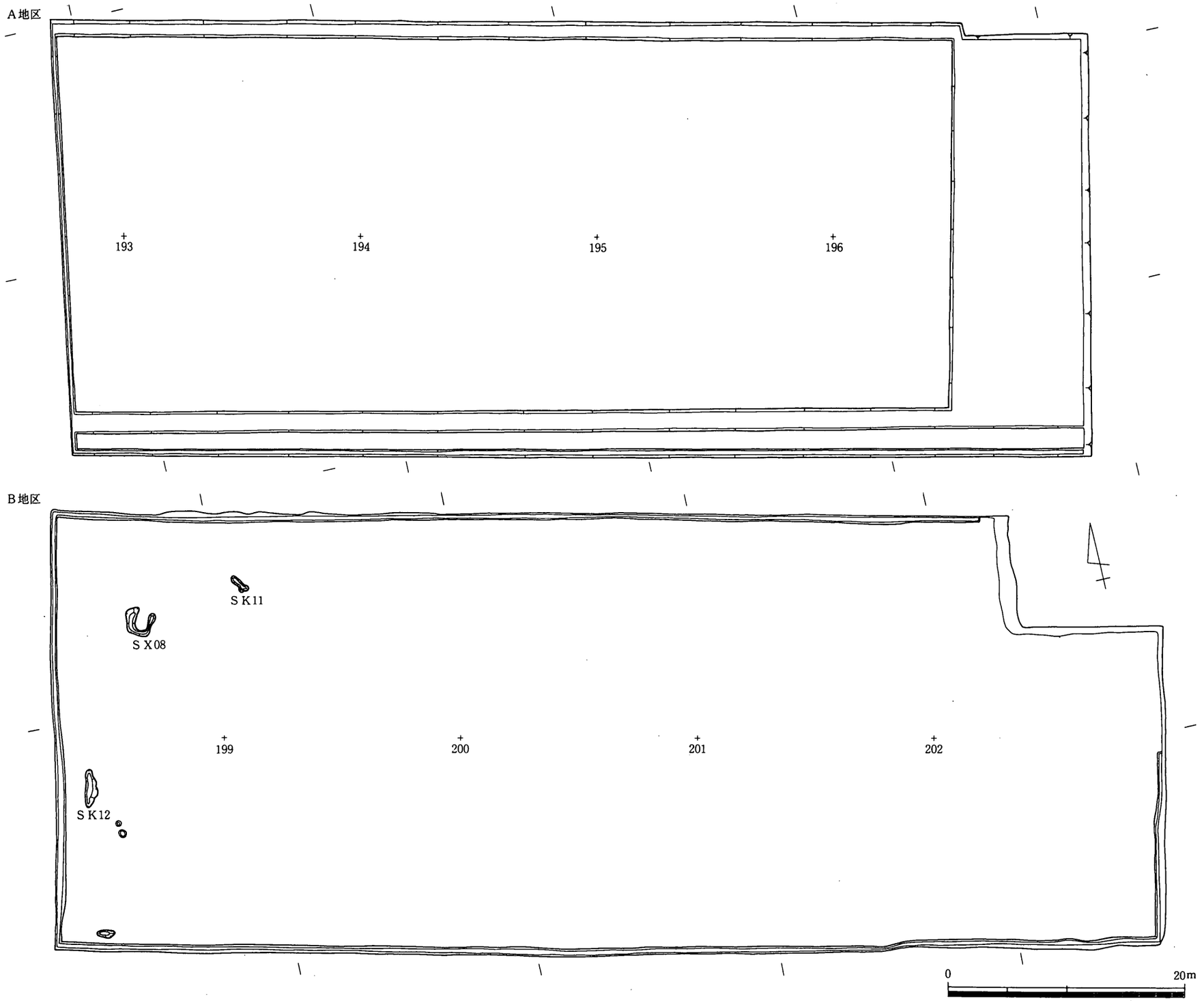
この土坑も近代以降の新しいものであると思われる。

ＳＫ10（第157図，図版57(2)・58(1)）

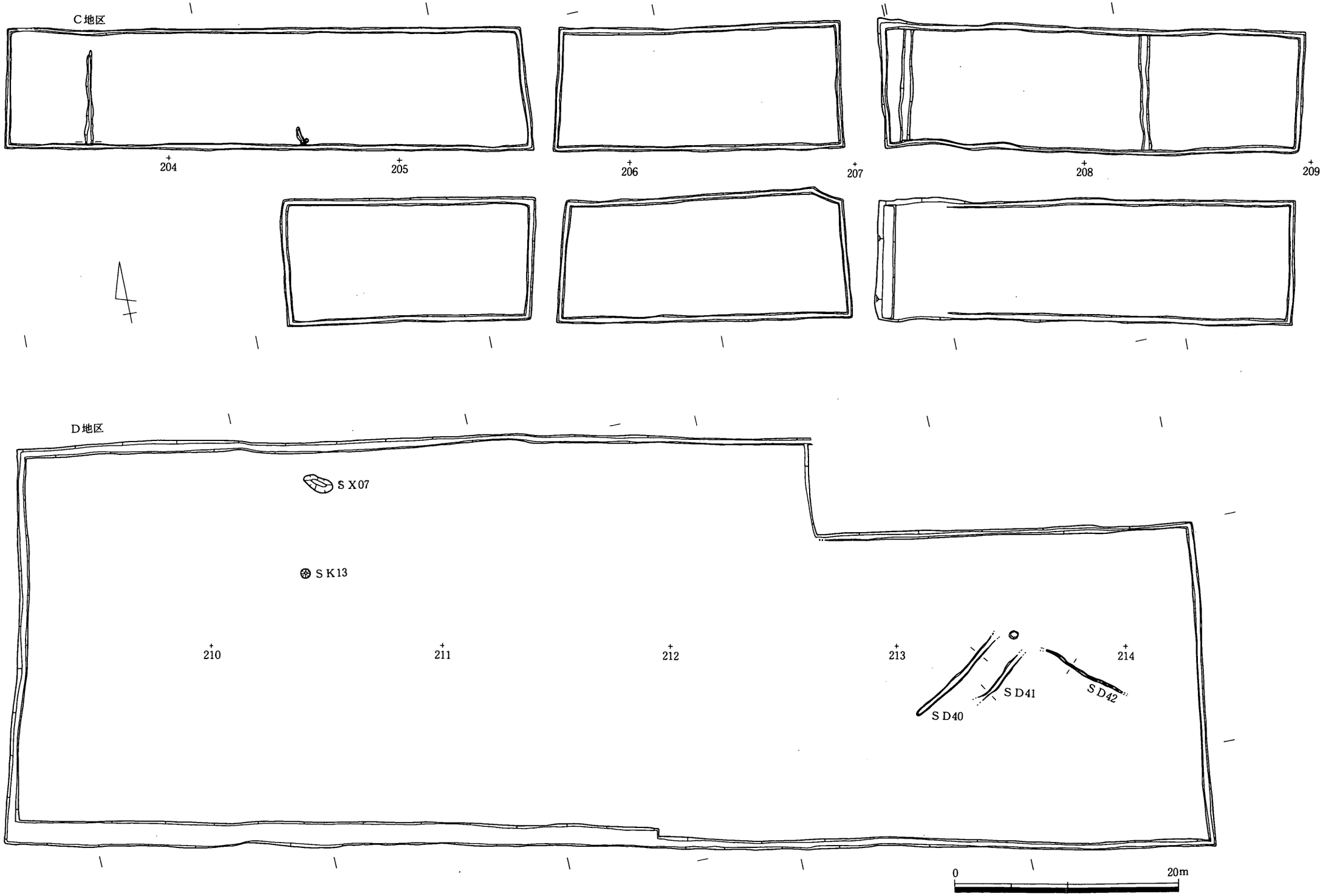
ＳＤ38の西側で検出した楕円形を呈する土坑である。長径１m，短径39cm，深さ10cmを測る。土坑の中には多量の木炭が入っていた。下層の方は周辺の砂と木炭が混じり合った状態であったが，上層は木炭のみが検出された。木炭は表面の観察からするとごく新しいもののように思われる。この土坑も掘り込んでいる面がＳＫ07・08と同一面である



第157図 ＳＫ10平・断面図

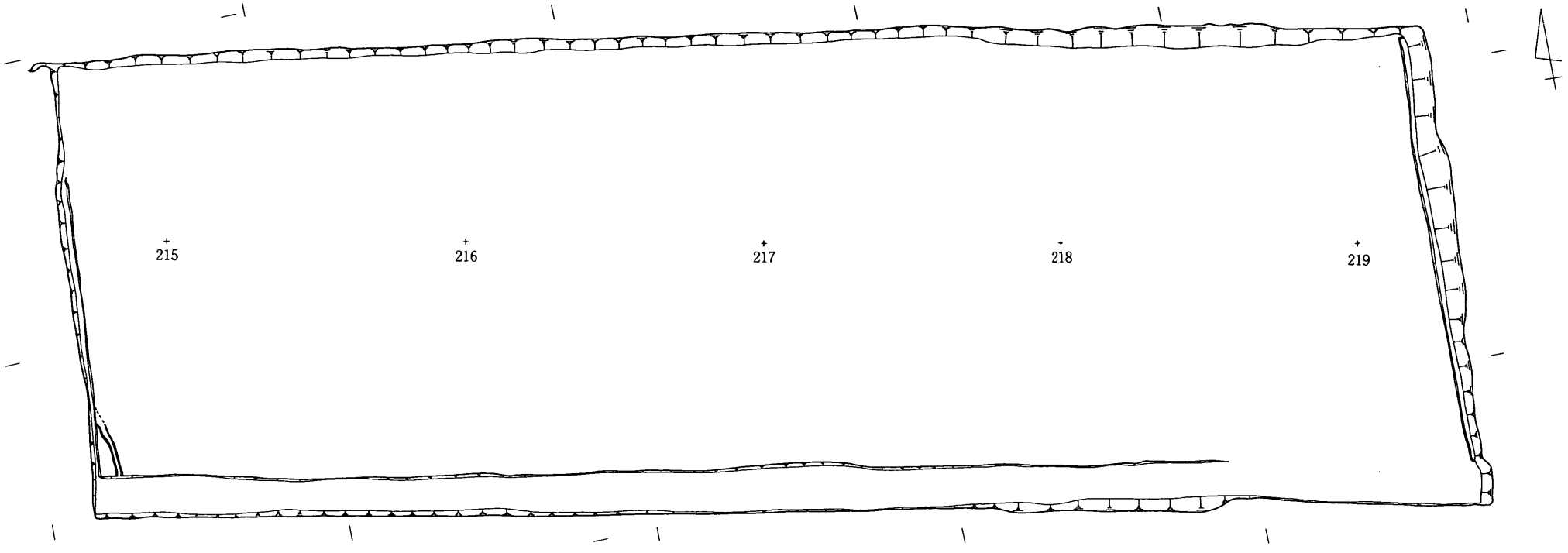


第158図 A・B地区その他の遺構配置図

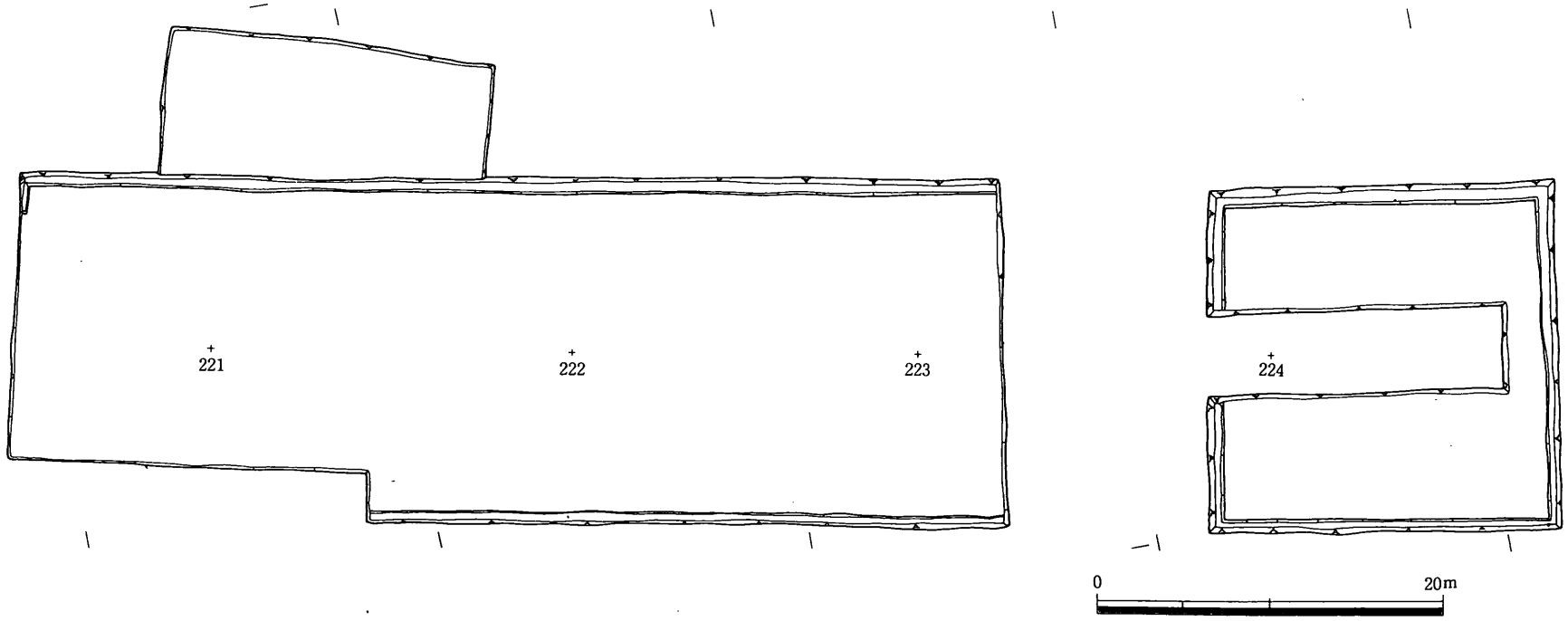


第159図 C・D地区その他の遺構配置図

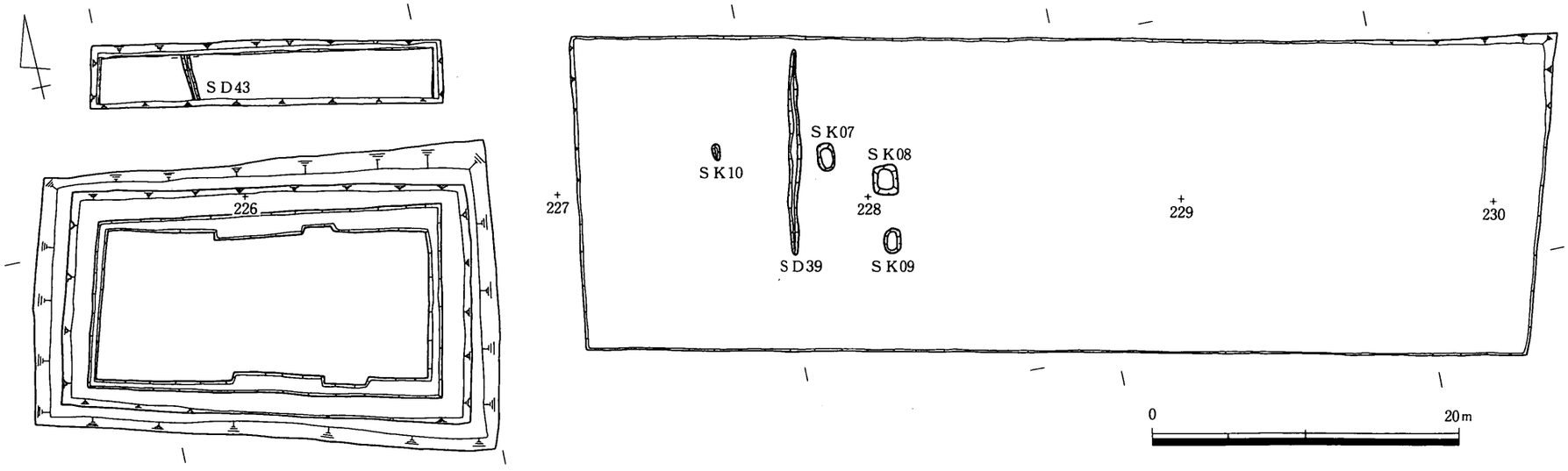
E地区



F地区



第160図 E・F地区その他の遺構配置図



第161図 G地区その他の遺構配置図

ことからごく新しい時期のものであると思われる。

ＳＤ38（図版58(2)）

Ｇ２地区西部を南北に縦断する溝状遺構である。幅50cm，深さ15cmを測り，埋土はＧ２地区の床土となっている赤燈色砂質土であり，ＳＸ06を被覆している黄色砂質土を掘りこんでいることからおそらく近代以降の溝状遺構であると思われる。遺物は出土しなかった。

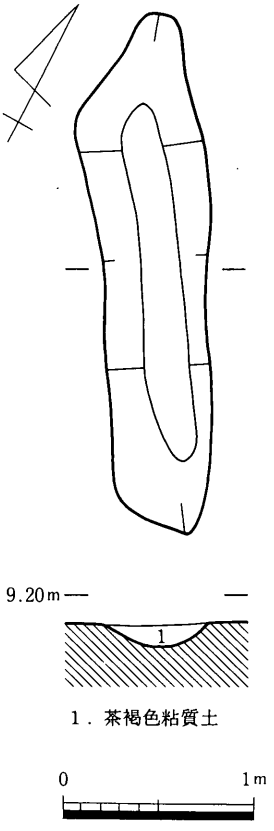
ＳＤ39

ＳＤ38のすぐ東側を流れる溝状遺構である。延長約20ｍで収束している。規模・埋土ともにＳＤ38とほぼ同じであり，同時期の遺構であると思われる。遺物は出土しなかった。

ＳＸ01（第162図）

Ａ地区北西部で検出した長辺約３ｍ，短辺約80cmの長楕円形を呈する遺構である。深さは約10cmで埋土は茶褐色粘質土の単一層である。

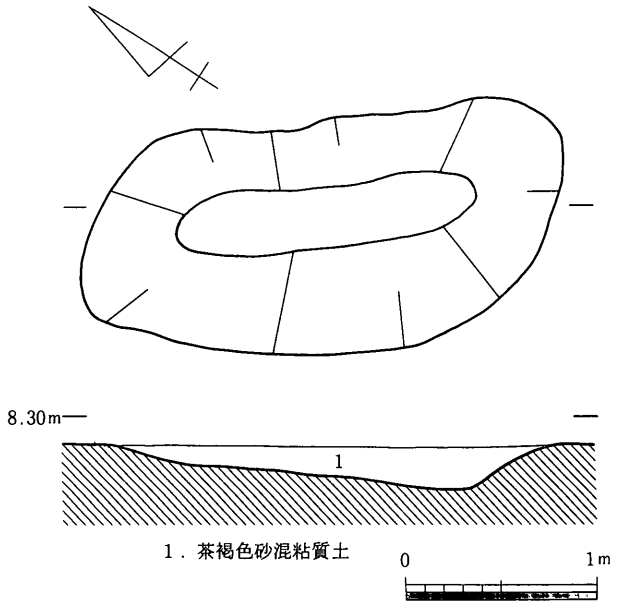
遺物はまったく出土せず，時期・性格等は不明である。あるいは溝状遺構の名残であるかもしれない。



第162図　ＳＸ01平・断面図

ＳＸ07（第163図，図版59(1)）

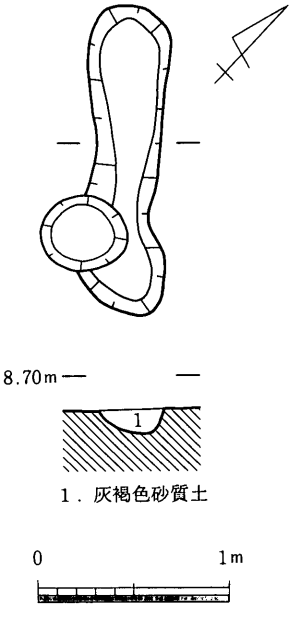
Ｄ地区北西部で検出した長楕円形を呈する遺構である。長軸 2.3ｍ，短軸1.2ｍ，深さ30㎝を測り，南側ほど深い。埋土は茶褐色砂混粘質土の単一層で遺物は出土しなかった。したがって，この遺構の時期・性格等は不明である。



第163図 ＳＸ07平・断面図

ＳＫ11（第164図）

Ｂ地区北西部，ＳＢ02の東側で検出した長楕円形を呈する土坑である。長軸1.6ｍ，短軸30㎝，深さ20㎝を測る。南側の一部をピットに破壊されている。埋土は，灰褐色砂質土の単一層で遺物は全く出土しなかった。したがって，この遺構の時期・性格等は不明である。



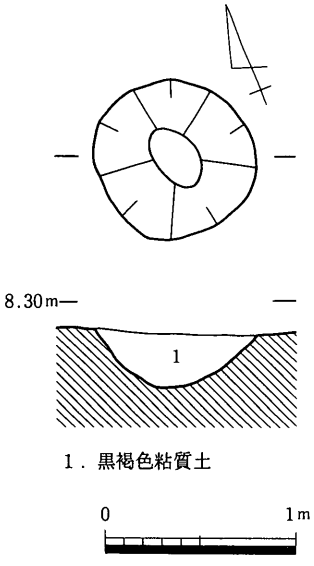
第164図 ＳＫ11平・断面図

ＳＫ12（第165図，図版59(2)）

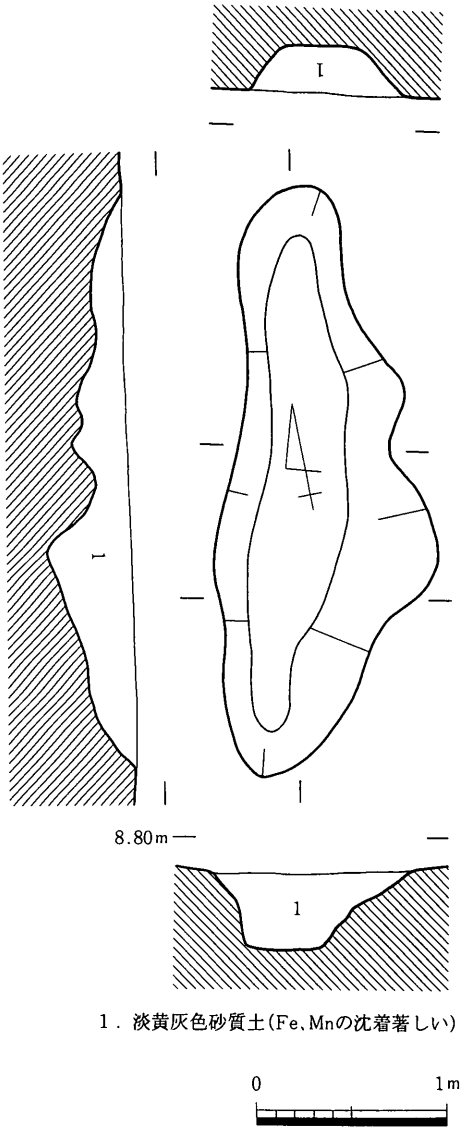
Ｂ地区南西部で検出した南北方向に長い不定形の土坑である。長軸は3.1ｍ，短軸は１ｍ，深さは40㎝を測る。埋土は淡黄灰色砂質土の単一層である。遺物は全く出土していないため，時期・性格等は不明である。

ＳＫ13（第166図）

Ｄ地区西部で検出した円形を呈する土坑である。直径80㎝，深さは30㎝を測る。断面はレンズ状を呈する。埋土は黒褐色粘質土の単一層で遺物は出土しなかった。したがって，この土坑の時期・性格等は不明である。



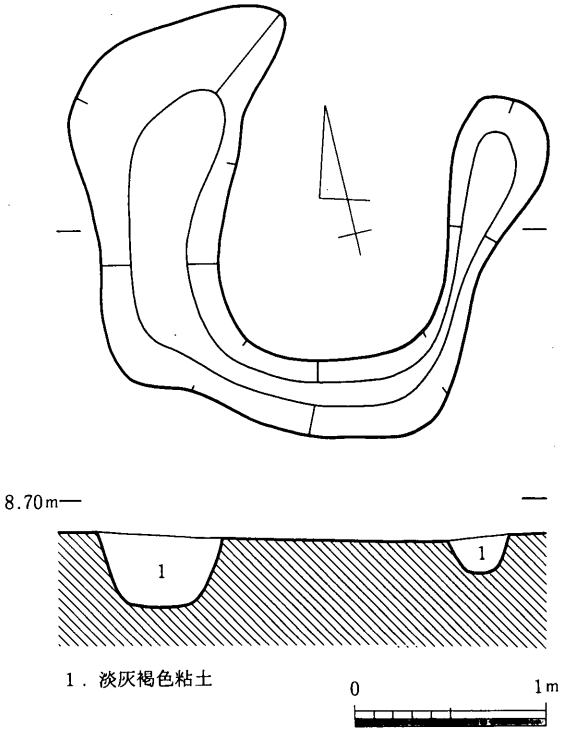
第166図 ＳＫ13平・断面図



第165図 ＳＫ12平・断面図

ＳＸ08（第167図，図版60(1)）

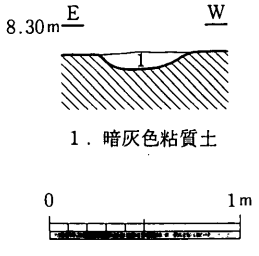
ＳＢ02の南側で検出した遺構である。溝状の遺構が半円形を呈するように巡る遺構であり，西側が幅も広く深い。西側は幅50cm，深さ30cm，東側は幅30cm，深さ20cmを測る。埋土は淡灰褐色粘土の単一層で，遺物は全く出土しなかった。したがって，この遺構の時期・性格等は不明である。



第167図 ＳＸ08平・断面図

ＳＤ40（第168図）

Ｄ地区東部で検出した溝状遺構である。南西から北東方向へ流れる。幅は約50cm，深さは20cmである。後世の削平により，南側と北側は検出できず，約10ｍほどしか検出できなかった。埋土は暗灰色粘質土で遺物は出土しなかった。したがって，この溝状遺構の時期等は不明である。

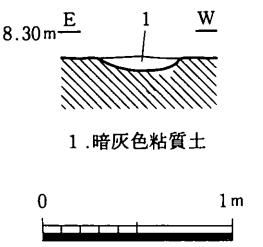


第168図 ＳＤ40土層断面図

ＳＤ41（第169図）

ＳＤ40の東側を流れる溝状遺構である。後世の削平により，延長約５ｍほどしか検出で

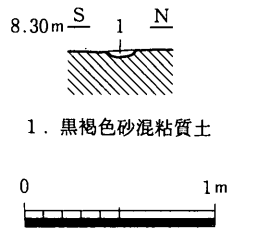
きなかった。ＳＤ40とほぼ同じ方向に流れ，幅40cm，深さ10cmを測る。埋土は暗灰色粘質土で遺物は出土しなかった。したがって，この溝状遺構の時期等は不明である。



第169図　ＳＤ41土層断面図

ＳＤ42（第170図）

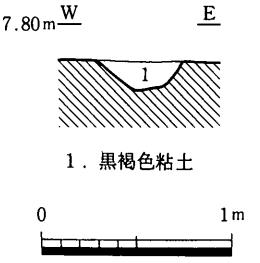
ＳＤ41の東側をＳＤ40・41と直交するように流れる溝状遺構である。やはり，後世の削平により，延長約７ｍほどしか検出できなかった。検出部分での幅は15cm，深さは10cmに満たない。埋土は黒褐色砂混粘質土の単一層で遺物は出土しなかった。したがって，この溝状遺構の時期は不明である。



第170図　ＳＤ42土層断面図

ＳＤ43（第171図，図版60(2)）

Ｇ１北調査区西よりの部分で検出した南から北へ向かって流れる溝状遺構である。幅40cm，深さ15cmを測る。遺物は素焼の土器片が少量出土したのみで時期を特定するまでには至らなかった。



第171図　ＳＤ43土層断面図

第 4章　自然科学的分析

第 1 節　六条・上所遺跡出土韓式土器および初期須恵器の蛍光Ｘ線分析

奈良教育大学　　三辻　利一

（1）　はじめに

大庭寺窯が見つけられるまでは陶質土器と初期須恵器の識別は考古学的形式論で十分可能であると思われていた。しかし，1992年に形式的には陶質土器と見分けがつかない須恵器を焼成した窯跡が大阪陶邑の一角で見つけられ，考古学者を驚かせた。大庭寺１・２号窯の発見である。

一方，筆者は天理市教育委員会の泉武氏が研究のため韓国から持ち帰った韓国内の窯跡出土の陶質土器片を多数分析して，その化学特性を陶邑産の須恵器のそれと比較した結果，韓国産の陶質土器にはCa，Sr量が多く，両者の相互識別が可能であることがわかってきた。それ以来，日本国内の古墳から出土する陶質土器については，その破片を分析し，その胎土が韓国のものか，それとも，陶邑内のものかに関する研究が進められることになった。

本報告では，香川県の六条・上所遺跡出土の韓式土器および，初期須恵器とみられる硬質土器の蛍光Ｘ線分析の結果について報告する。

（2）分析法と分析結果

試料片はすべて，従来どおり，表面を研磨して自然灰釉等の付着物を除去してのち，タングステンカーバイト製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉砕された。粉末試料は塩化ビニール製リングを枠にして，内径20㎜，厚さ３～５㎜の錠剤試料を作成し，蛍光Ｘ線分析用試料とした。

蛍光Ｘ線分析には波長分散型の全自動式のスペクトロメーター（理学電機製3270型機）を使用した。この装置には48個の試料を同時に装填できる自動試料交換機が連結されている。筆者は毎日，48個の試料の分析を行っているが，この中には常に，標準試料として，岩石標準試料ＪＧ－１が１点含まれている。ＪＧ－１は標準試料であると同時に，各元素

の蛍光X線ピークが一定の強度を保持していることを確かめるモニターとしての役割も果たしている。

また，須恵器の素材粘土中には Al_2O_3 と SiO_2 を合わせて80%以上含んでいる点で，ＪＧ－１と類似している。マトリックスが類似している点で，須恵器の蛍光X線分析の標準試料としてＪＧ－１は最適である。

分析値はマハラノビスの汎距離を計算するときの便宜上，ＪＧ－１による標準化値で表示することにした。

第５表には，今回分析した10点の試料の分析値を示してある。第５表をみると，とくに，K，Ca，Fe，Rbの４因子ではNo.１，２の試料は他の試料とは異なることがわかる。

ここで，K，Ca，Fe，Rbの長石系４因子を使い，いくつかの母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値を計算してみた。

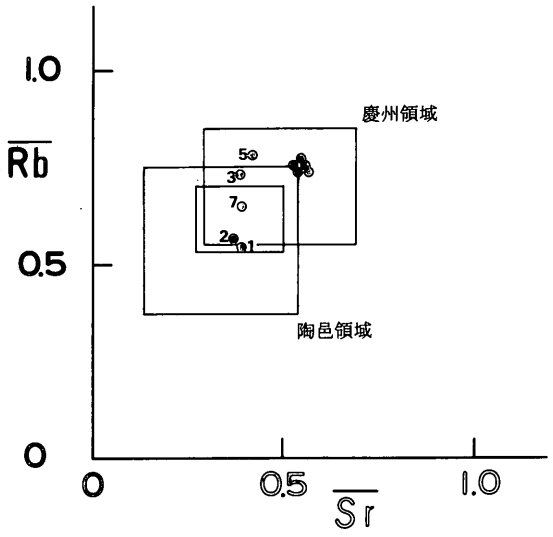
ここで，母集団について説明しておく。大庭寺群は，大阪陶邑内の初期須恵器の窯であり，菰池南群も大庭寺群よりもう少し年代が下がった陶邑内の初期須恵器の窯である。いずれも，100点の試料をもって母集団とした。大阪陶邑群は大庭寺窯，菰池南窯を除く初期須恵器から10世紀代までの，陶邑内の数十基の窯から出土した81点の試料で母集団とした。一方，韓国では日本ほど，窯跡の発掘調査は進んでいないが，慶州市周辺では望星里窯群，上辛里窯群，徳山里窯群の分析データが出ている。これらはいずれも類似した化学特性をもっており，慶州群としてまとめられる。伽耶諸国のうち，高霊の大伽耶の窯が余草里窯である。この外，陜川の碁湲堤窯の陶質土器の化学特性が求められているが，ここでは内谷洞群，余草里群，慶州群を母集団として採用した。金官伽耶の窯跡は目下のところ未発見であるが，あるはずである。筆者は連山洞古墳群の陶質土器が金官伽耶の製品であると考えている。

以上が今回使用した母集団であるが，韓国側の母集団の試料数は30～50点程度であった。４因子を使い，この程度の試料を使ったとき，５%の危険率をかけたHotellingのＴ２検定によると，母集団への帰属条件は $D^2(X) \leqq 10$ である。D(X) は（X）窯群の重心からのマハラノビスの汎距離である。各母集団からの D^2 値の計算値は第６表にまとめられている。

$D^2(X) \leqq 10$ を母集団への帰属条件とすると，No.１，２はどの母集団にも対応しないことになる。これに対して，No.３～10は慶州群か陶邑群に対応する。

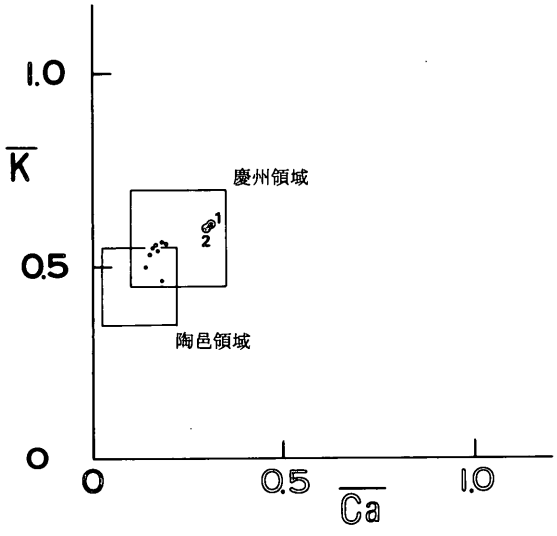
ここで，この結果を分布図上にプロットして，D^2 値と比較することにした。第172図に

はRb－Sr分布図を示す。№1，2，3，7は陶邑領域にも入るが，むしろ，慶州領域の中心部に分布する。他の6点の試料は陶邑領域には分布せず，慶州領域に分布する。第173図にはK－Ca分布図を示す。この図では№1，2の2点の試料は陶邑領域には分布せず，慶州領域に分布する。他の8点の試料は陶邑と慶州両領域が重複する領域に分布した。



第172図 Rb－Sr分布図

第6表の結果と，第172・173図より，№1，2の2点は陶邑産ではないと判断される。勿論，これまで出されている香川県内の初期須恵器の窯である宮山窯や三谷三郎池窯の製品とも対応しない。K，Ca量が多いところから，未発掘の韓国内の窯を産地として推定しておく。



第173図 K－Ca分布図

№3～10はD^2値からは慶州群産か大阪陶邑産と推定される。しかし，図第172・173図を比較すると，陶邑産というよりは韓国産の陶質土器である可能性の方が大きいように思われる。

以上の結果，№1，2は陶質土器である。また，№3～10も陶質土器の可能性が大きいと推定しておく。その場合，№1，2は陶質土器でも，№3～10までの陶質土器とは異なる産地のものである。

第5表　分析値

番号	番号	出土遺構	器　種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
1	118	SH01	甕	0.611	0.311	2.86	0.539	0.387	0.279
2	119	SH01	甕	0.603	0.297	2.88	0.573	0.370	0.279
3	121	SH01	壺	0.495	0.140	1.68	0.731	0.394	0.300
4	87	SR09	不明	0.550	0.165	2.14	0.735	0.542	0.311
5	85	SR09	不明	0.533	0.147	1.54	0.776	0.418	0.313
6	83	SR09	不明	0.559	0.190	2.13	0.750	0.550	0.294
7	80	SR09	不明	0.463	0.181	2.16	0.645	0.388	0.235
8	84	SR09	不明	0.561	0.189	2.14	0.739	0.562	0.318
9	86	SR09	不明	0.542	0.169	2.16	0.755	0.549	0.302
10	82	SR09	不明	0.546	0.163	2.14	0.756	0.536	0.318

第6表　各母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値

番号	大庭寺群	狐池群	阪陶邑群	内谷洞群	余草里群	慶州群	推定産地	
1	170	230	56	28	72	19	陶邑以外	
2	150	210	51	22	60	15	陶邑以外	
3	22	28	2.7	9.4	15	4.1	陶邑	慶州群
4	66	150	8.7	12	17	4.3	慶州群	陶邑
5	36	40	3.8	9.2	16	4.9	陶邑	慶州群
6	61	140	6.7	10	15	3.7	慶州群	陶邑
7	9.3	25	3.7	7.2	12	2.4	慶州群	陶邑
8	64	160	7.5	11	14	3.7	慶州群	陶邑
9	75	160	10	15	22	5.6	慶州群	陶邑
10	71	150	9.0	14	21	5.3	慶州群	陶邑

第５章　考察およびまとめ

第１節　六条・上所遺跡出土の韓式系土器について

六条・上所遺跡では調査対象地東側の部分のＧ地区ＳＨ01およびＳＨ02から韓式系土器と思われる赤褐色を呈する軟質の土器と灰色を呈する硬質の土器が出土している。これらは，共伴する土器の観察から古墳時代前～中期ごろ，つまり，４～５世紀代という年代観が得られた。また，蛍光Ｘ線による胎土分析の結果，朝鮮半島で製作された可能性が高いという結論をいただいた。本稿では，これらの結果をふまえ，また，その他の出土例をも検討しながら六条・上所遺跡における韓式系土器を考察する。

１．はじめに　－用語の整理から－

「韓式系土器」の定義として最も明解かつ的確なのは，植野浩三氏[1]の意見であろう。植野氏は「韓式土器」を朝鮮半島で製作され，かつ日本国内で出土した土器の総称で焼成温度の違いから軟質土器・硬質土器に分類される，また，「韓式系土器」は，「韓式土器」の製作技法により朝鮮半島以外の地で製作された土器としている。ここでも基本的にはこの定義に従うとともに，その色調をも含んで赤褐色軟質土器・灰色硬質土器と称することにする。

２．六条・上所遺跡出土の韓式系土器

六条・上所遺跡出土の韓式系土器には赤褐色軟質土器と灰色硬質土器とがある。第58図に示すもののうち，118と119が赤褐色軟質土器，　121が灰色硬質土器である。118は大型の壺の頸部から体部に至る部分である。復原してみると，体部の上の方，肩の部分で張っており，国産の土器とそのプロポーションが一致しないことがわかる。大きさは最大径29㎝，頸部径15㎝を測る。

外面は一面に格子目タタキが認められる。詳細に観察してみるとタタキ目の切り合い関係から一定の法則に基づいて調整が施されているのがわかる。すなわち，格子状のタタキ板を若干斜めにし，そのまま横方向に叩きながらずらしている。タタキ目調整は体部の上

から約1／3のところより下部に認められる。

また，体部には3本の沈線も認められる。これはタタキ調整が終った後，ヘラ状工具により施文されたものと思われる。内面には丁寧なナデ調整が認められるが，これはタタキ調整の当て具による調整を消すためのものと思われる。大阪府大東市メノコ遺跡からは出土した韓式系土器と共伴して当て具と思われる無文の土製の円形を呈する土器片が出土している。(2)

119はやはり，大型の壺の体部である。下半部しか残存していないため，器高は不明であるが，最大径は31cmである。

外面はやはりタタキ調整が全面にわたり施されている。このタタキ調整もある一定の法則に従っている。すなわち，格子状のタタキ板を斜めに当て，そのまま横方向にずらしている。しかし，タタキ板を当てる方向を90°に近いくらいに変えているため，格子の方向が交互に認められる。118にみられたような沈線は認められない。

内面もやはり丁寧なナデ調整が施されている。また，118にも119にも指頭圧痕が若干認められる。

また，両者とも赤燈色を呈し，焼成状態は極めて良好であり，両者とも黒斑が認められる。内面には煤のようなものの付着も認められる。

以上のことより，118と119は同一の胎土・製作技法により作られた土器であるとみて差し支えないであろう。また，同時期の国内の土器と比較しても焼成の状態，色調・製作技法・プロポーション等の相違など純国産の土器と，あらゆる面で異なるといってもよいであろう。また，胎土分析の結果，この土器の胎土は朝鮮半島産のものに酷似することからこの2つの土器はまさしく朝鮮半島で製作された「韓式土器」であると言えるだろう。

次に121であるが，これは灰色硬質土器である。小型の壺もしくは甕の体部であると思われる。復原すると，最大径は14cmとなる。口縁部まで残ってないので器高は不明である。外面は丁寧なナデ調整によってケズリ調整の痕跡が消されているのが特徴的である。内面には指頭圧痕が顕著である。特に下半部においては明瞭に認められ，丁寧に作られていることがわかる。焼成状態も非常に堅緻で胎土も細かい。胎土分析の結果，この胎土はやはり朝鮮半島産のものと酷似しており，輸入された可能性が高い。

以上の結果，六条・上所遺跡出土の「韓式系土器」は「韓式土器」であることが確認された。このことはこの土器の出土した竪穴住居跡に居住していた一族が渡来人と密接な関係にあったか，また，渡来人そのものであったことを示唆するものである。

3．その他の出土例（香川県内）

現在まで確実に「韓式系土器」が出土している遺跡は大川郡長尾町に所在する尾崎西遺跡，三豊郡詫間町の船越遺跡，観音寺市村黒町の村黒遺跡など７遺跡である。

・尾崎西遺跡(3)

尾崎西遺跡は大川郡長尾町に所在する。この遺跡は南側からの丘陵部と平野部との境にあたり，弥生時代～古墳時代の円形周溝墓や横穴式石室を主体部に持つ古墳を数基検出している。出土した土器は韓式系土器のうち，硬質土器である陶質土器および赤褐色軟質土器である。出土遺構は自然河川で，土師器・須恵器が共伴している。陶質土器は，やや灰色がかかった橙色を呈し，精製された胎土を用い，焼成状態は良好である。胎土が橙色を呈しているのは焼成時に酸素過剰の状態であったものと思われる。調整は，外面にタタキ調整の痕跡が顕著であり，その後ヘラ状工具による沈線と丁寧なナデ調整を施している。内面はいずれも非常に丁寧なナデ調整を行っている。赤褐色軟質土器は口縁部から頸部に至る部分のものであるが，やや灰色がかっている。頸部からほぼ直角に外方へ張りだし，口縁端部はやや角張っている。底部は残存していないが，類例からみて平底が付くものであると思われる。

その他には，甑の把手と思われるものも出土している。

・船越遺跡(4)

船越遺跡は三豊郡詫間町大浜船越に所在する。高地性集落として著名な遺跡である紫雲出山の東南部の海浜にあたり，湾をなす入江の砂堆に立地する。遺跡は南半分で縄文土器の包含層が，北半分で古墳時代から奈良時代にかけての土器の包含層が認められる。

出土した韓式系土器は陶質土器と思われる灰色を呈するものや赤褐色を呈する軟質の土器（朝鮮半島では金海式土器に続く瓦質土器と呼ばれているものである。）の破片がある。陶質土器は体部外面を縄蓆文により調整し，そののち，ヘラ状工具による沈線を２条巡らしている。赤褐色軟質土器はやはり体部片であるが，三角形の突帯が巡っている。その他に須恵器の高杯・杯蓋等が出土している。時期は５世紀代のものであると思われる。

・村黒遺跡[5]

村黒遺跡は観音寺市村黒町に所在する遺跡で洪積台地の先端部に立地する。標高は7m前後を測る。現在は遺跡の中心部を東西にJR予讃線が横断しており，線路沿いの土手には土師器や須恵器の散布が認められる。「観音寺市史」[6]には土師器・須恵器の出土のほか埴輪の出土が記されている。店舗新築の際に採集された土器には5世紀後半代の須恵器が多量に認められる。これは，直線距離にして北方約2kmの三豊郡豊中町に所在する宮山窯跡で製作されたものがほとんどである。また，なかには格子目のタタキ目をもつ赤褐色軟質土器も数点あり，韓式系土器がこの地域にも及んでいたことが示唆される。

・観智院林出土陶質土器[7]

善通寺市善通寺町有岡付近から戦前に出土したと伝えられているものであり，出土値は特定されていない。

土器はいずれも陶質で高杯の蓋と身のセットと甕である。高杯の蓋は輪状のつまみを持つもので上面には2条の沈線で区画した中に矢羽状に列点文を施している。高杯の身は体部が直線的に外方へ張りだし受け部の立ち上がりが長い。脚部は短く，断面三角形の突帯が2条ほど巡る。台形の透かしを三方に配する。また，体部外面にヘラ記号のような沈線状の模様が2条認められる。

甕は体部はほぼ球形を呈しており，やや外方へ立ち上がる頸部をもち，真横に広がる口縁部へと続く。口縁端部は丸く収めている。いずれも5世紀代のものであると思われる。

・西福寺出土陶質土器[8]

坂出市西庄町西福寺から出土したと伝えられるものであるが，出土地は特定されていない。古代の山城として著名な史跡城山の北麓にあたり，付近には箱式石棺を主体とする弘法寺山古墳群等の中期古墳の分布が知られている。

土器は戦前の採集品であり，陶質土器および須恵器である。すべて体部の破片である。陶質土器は外面に細かい平行タタキ目による調整が認められ，そののちヘラ状工具による沈線が2条巡っている。これらは須恵器にはあまり見ることのできないもので陶質土器であると考えられる。

◦平等寺山出土土器(9)

香川郡香南町由佐から出土したものである。香南町は緩やかな丘陵と開析谷が連続する地形を呈する。開析谷にはため池が多く所在し，音谷池などの池岸には多くの須恵器窯が古墳時代を通じて操業していた。

出土した土器は標高30m前後の丘陵部であるらしく，須恵器や鉄製品が共伴して出土している。これらの出土状況からみて本採集品は古墳の副葬品であった可能性が高い。採集された土器は灰色を呈する硬質土器であり，短く「コ」の字形に開く頸部から口縁部を持つ。底部はやや球形を呈する。体部は縄蓆文によるタタキ目調整が顕著に認められる。底部には格子目のタタキ目が認められる。内面には丁寧なナデ調整が認められる。これらの特徴からみていわゆる陶質土器であると考えられる。共伴する須恵器からみて5～6世紀代のものであると思われる。

◦荒神島遺跡(10)

香川郡直島町荒神島に所在する。荒神島は岡山県玉野市と直島に挟まれた周囲約4㎞の無人島である。平地は少なく，急峻な尾根が多数存在する。また，風雨による花崗岩の侵食が激しい。遺跡は島の北側の入江の奥の斜面と入江の周辺に所在する。入江の東側の低い尾根上には箱式石棺を主体とする古墳が所在する。なお，この箱式石棺は現在露出している。入江を巡る砂堆には製塩土器が多数散布している。注目すべきは入江の奥の斜面である。緩やかなこの斜面上には多数の土師器・須恵器が散布しており，また手捏土器や鉄製品，滑石製有孔円盤や滑石製扁平勾玉，勾玉等が多量に採集されている。また，和銅開珎も出土している。出土遺物からみる限り，古墳時代から奈良時代にかけての祭祀遺跡であることがうかがわれる。恐らく海上交通の安全を祈願するものであったであろう。

出土した土器の中に陶質土器と思われる須恵質の台付壺がある。体部外面には縄蓆文によるタタキ目調整が認められ，そののちに沈線を巡らしている。5～6世紀代のものであると思われる。

4．おわりに

これまで，六条・上所遺跡出土の韓式系土器およびその他の県内の出土例をみてきたが，六条・上所遺跡出土以外の出土例はいずれも表面採集もしくは自然河川内の出土であり，その時期の特定が非常に困難である。しかし，共伴する資料等からみていずれも古墳時代中期以降のものであることは間違いのないところであろう。六条・上所遺跡出土の韓式系土器は共伴する土師器（特に小型丸底壺）や、須恵器と共伴しないことから4世紀末～5世紀代にかけてのものであり，現在までのところ県内で最も古い韓式系土器であると言えよう。また，竪穴住居跡という生活に即した遺構から出土していることも現在までのところ県内唯一の例であると言える。

今後，この種の土器の出土例は増えると思われ，古墳時代の国際交流の実態が明らかになるものと思われる。その際には，朝鮮半島での出土土器との比較検討，初期須恵器の窯跡との関連（六条・上所遺跡の場合，南方の三谷三郎池西岸窯跡で活動していた工人の位置付け）などが大きな課題となろう。この問題についてはまた別の機会に触れることにしたい。

註 (1) 植野浩三「韓式系土器の名称」(『韓式系土器研究Ⅰ』韓式系土器研究会　1987)

(2) 中遠健一「大東市メノコ遺跡出土の韓式系土器」(『韓式系土器研究Ⅳ』韓式系土器研究会　1993)

(3) 『県道高松長尾大内線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　尾崎西遺跡』(財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　1992)

(4) 『弥生・古墳時代の大陸系土器の諸問題』(埋蔵文化財研究会，1987)
『陶質土器の国際交流』(大谷女子大学資料館編，柏書房　1989)

(5) (4)に同じ

(6) (4)に同じ

(7) (4)に同じ

(8) (4)に同じ

(9) (4)に同じ

(10) (4)に同じ

第2節　まとめ

六条・上所遺跡は東西約800mにも及ぶ範囲を有する遺跡であるが，先述のとおり，その性格によって大きく3つの地域に分けられる。すなわち，西隣の林・坊城遺跡の東端から続く微高地上のA～B地域，礫層上のC～D地域，東側の古川の氾濫原およびその周辺にあたるE～G地域の3つの地域である。ここでは，まとめとして各地域の遺構の在り方を時代を追って概観したい。

1．A～B地域

この地域は林・坊城遺跡から続く黄色粘土を地山とする地域である。この地域で最初に遺構が認められるのは弥生時代後期である。竪穴住居跡等の人々の生活の痕跡を示すような遺構は認められない。検出した遺構は主として自然河川および溝状遺構である。これらは全てほぼ同じ方向へ流れている。おそらく，灌漑用の水資源を確保するためのものであったと思われる。

このような状況は古墳時代に入っても存続する。古墳時代には溝状遺構群の方向が前時代に比べ，やや西よりに変化しているが，その機能に大差はないものと思われる。

中世に入ると，灌漑用の水路はみられなくなる。集落も認められない。わずかに掘立柱建物跡がみられるのみである。

2．C～D地域

この地域はA～B地域の地山である黄色粘土の下層に広がる礫層が表層まで及んでおり，これが地山となっている。したがって，遺構・遺物ともに非常に希薄であった。

弥生時代にはわずかに掘立柱建物跡と溝状遺構がみられるのみである。集落域の縁辺部であったと推測される。

その後は若干の溝状遺構があるのみで，近世に入り，井戸が1基掘られる。石組の井戸で湧水量は多い。

また，D地区東端で現在の地割に平行に流れる中世～近世の溝状遺構を数条，重なりあった状態で検出した。D地区とE地区との境の道路は条里制の痕跡を示すものではないかという見解があり，D地区の溝状遺構群は高松平野における条里制の研究に役立つものであると思われる。

3．E～G地域

この地域はF地区東部分から古川の氾濫原上の遺構群とその下層の遺構群とに大別できる。まず，下層の遺構群としては弥生時代～古墳時代に流れていた自然河川がある。これはG地区を南北に横切る形で検出し，おそらく旧古川ともいうべき河川であろう。河川の西側では古墳時代中期の竪穴住居跡を2棟検出している。この竪穴住居跡からは，県内で初めて，いわゆる韓式系土器が須恵器を伴わず出土しており，須恵器の渡来前後に何らかの形で讃岐と朝鮮半島との交流があったことを示唆している。

中世に入ると，旧古川は古墳時代のそれより若干東側へ移動している。そして，旧古川の西側には大規模な集落が営まれていたようである。数多くの柱穴群がそれを如実に物語っている。ここに居住していた人々は旧古川を利用して瀬戸内海で漁をしていたと思われ，F地区からは多量の有溝土錘が出土している。また，出土する土器には綾南町陶で作られたものや畿内産の瓦器，大型品として備前焼，輸入陶磁器等がみられ，当時の生活の水準の高さを示している。

ところが，中世後半から近世になると，旧古川の大規模な氾濫が起こったことが粗砂層の堆積でわかった。近世にはこの氾濫原上に集落が営まれることはなく，畑として利用されていたと考えられる。

以上みてきたように，六条・上所遺跡周辺は弥生時代後期ごろから人々の生活が始まり，古代ごろに中断がみられるものの，中世にその最盛期を迎え，旧古川の氾濫と共に衰退していったものと考えられる。

付　表

第７表　土器・陶磁器観察表
第８表　瓦観察表
第９表　石器観察表
第10表　木器観察表
第11表　金属器・骨角器観察表
第12表　ピット一覧表

第７表凡例

残存率　径を測定した部位と，径に対する残存率を記した。

色調　『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編）を基準とし，色名を記載した。

土器胎土　含有物とその大きさを記載した。

大きさは　小・・径0.5㎜以下　中・・径0.6～1.0㎜　大・・径1.1㎜以上とした。

第7表　土器・陶磁器観察表

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
1	SK01	弥生土器 壺	口縁部完存	26.5cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目 内:刷毛目,指押さえ	外:にぶい黄橙(10YR6／2)＋にぶい褐(7.5YR5／4) 内:にぶい黄橙(10YR7／3) 断:にぶい褐(7.5YR5／4)	白色砂粒（小）微量 金雲母（中）多量	
2	SK01	弥生土器 壺	口縁部完存	25.0cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目 内:ナデ,指押さえ	外:浅黄橙(7.5YR8／3) 内:橙(5YR7／6) 断:にぶい橙(7.5YR7／4)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	
3	SK01	弥生土器 甕	口縁部15%	16.7cm	-	-	外:刷毛目,摩滅 内:横ナデ,ナデ	外:明黄褐(10YR6／6) 内断:にぶい黄橙(10YR6／4)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	
4	SK01	弥生土器 甕	口縁部95%	13.8cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目,ナデ,摩滅 内:横ナデ,ナデ,指押さえ,摩滅	にぶい橙(7.5YR5／4)	白色砂粒（小）多量 茶色砂粒（小）多量	
5	SK01	弥生土器 甕	口縁部50%	15.7cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目,ナデ 内:横ナデ,指押さえ	黄褐(10YR5／6)＋灰黄褐(10YR4／2)	白色砂粒（大）微量 雲母（中）少量 赤色粒子（大）微量	
6	SK01	弥生土器 甕	口縁部50%	13.0cm	-	-	外:ナデ,刷毛目 内:指押さえ,ナデ	外:にぶい褐(7.5YR5／3) 内断:にぶい褐(7.5YR6／3)	白色砂粒（中）少量 灰色砂粒（中）少量 雲母（中）微量	
7	SK01	弥生土器 甕	口縁部95%	14.2cm	-	-	外:刷毛目,ナデ,タタキ 内:ナデ,指押さえ	にぶい黄褐(10YR5／4)	白色砂粒（中）少量 茶色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）少量	
8	SK01	弥生土器 甕	体部小片	-	-	-	外:横ナデ,刷毛目 内:ナデ,指押さえ	外:にぶい黄褐(10YR5／4) 内断:にぶい黄橙(10YR6／4)	透明砂粒（大）少量	
9	SK01	弥生土器 甕	口縁部30%	14.6cm	-	-	外:横ナデ,タタキ,刷毛目 内:横ナデ,ヘラ削り	外:にぶい黄橙(10YR6／3) 内:にぶい黄(2.5Y6／3)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（大）少量 赤色粒子（大）微量	
10	SK01	弥生土器 甕	口縁部35%	17.0cm	-	-	外:横ナデ,ナデ,摩滅,指押さえ,タタキ 内:指押さえ,ナデ,摩滅	外:黄褐(10YR5／6)＋にぶい黄褐(10YR5／3) 内断:黄褐(10YR5／6)	透明砂粒（中）微量 白色砂粒（小）多量 茶色砂粒（小）多量	
11	SK01	弥生土器 甕	底部完存	-	-	4.2cm	外:ナデ 内:指押さえ,板ナデ	外:にぶい褐(7.5YR5／4) 内断:にぶい黄褐(10YR5／4)	白色砂粒（大）多量	
12	SK01	弥生土器 甕	底部完存	-	-	3.0cm	外:タタキ,刷毛目 内:指押さえ,刷毛目	外内:にぶい黄橙(10YR6／4) 断:浅黄(2.5Y7／3)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量	
13	SK01	弥生土器 壺	底部20%	-	-	9.6cm	外:摩滅 内:指押さえ,指ナデ	外:橙(7.5YR7／6) 内:にぶい黄橙(10YR7／3) 断:オリーブ褐(2.5Y4／3)	透明砂粒（小）少量 白色砂粒（小）少量	
14	SK01	弥生土器 高杯	ほぼ完形	23.2cm	14.7cm	15.2cm	外:ナデ,絞り目,刷毛目,穿孔(4ヶ所) 内:摩滅	橙(7.5YR6／6)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（大）少量 赤色粒子（大）少量	
15	SK01	弥生土器 高杯	脚部完存	23.0cm	13.6cm	15.0cm	外内:摩滅,穿孔(2穴ずつ3ヶ所)	外内:橙(7.5YR6／6) 断:褐灰(10YR5／1)	白色砂粒（大）多量	
16	SK01	弥生土器 高杯	杯部15%	22.0cm	-	-	外:横ナデ 内:摩滅	外:黒褐(2.5Y3／1) 内断:にぶい黄褐(10YR5／4)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	
17	SK01	土師器 高杯	脚部70%	16.6cm	8.5cm	11.4cm	外:刷毛目,ナデ 内:ナデ	にぶい黄橙(10YR6／4)＋にぶい褐(7.5YR5／4)	白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（大）少量	
18	SK01	弥生土器	ほぼ完形	20.2cm	9.9cm	6.4cm	外内:指押さえ,刷毛目	外:にぶい橙(7.5YR7／3)	白色砂粒（大）多量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
		片口鉢						内：にぶい赤褐（５ＹＲ４／４）	灰色砂粒（大）多量 赤色粒子（小～中）多量	
19	SK01	弥生土器 鉢	口縁部15%	20.0cm	-	-	外:指押さえ,板ナデ 内:ナデ	外断:にぶい黄橙(10YR6／4)＋褐灰(10YR4／1) 内:にぶい黄橙(10YR6／4)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	
20	SK01	弥生土器 鉢	口縁部85%	8.8cm	3.3cm	-	外内:指押さえ	にぶい黄褐(10YR5／4)	白色砂粒（中）微量 灰色砂粒（中）微量 雲母（中）少量 赤色粒子（大）微量	
21	SD02	弥生土器 高杯	杯部15%	-	-	-	外内:ナデ	外断:明赤褐(2.5YR5／6) 内:灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
22	SD04	弥生土器 甕	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ	外:明褐(7.5YR5／6) 内:にぶい黄橙(10YR7/4) 断:褐灰(10YR6／1)	白色砂粒（大）少量 雲母（小）微量	
23	SD04	弥生土器 鉢	口縁部小片	-	-	-	外:摩滅 内:横ナデ	外:灰黄(2.5Y6／2) 内:にぶい黄(2.5Y6／4) 断:黒褐(2.5Y3／2)	白色砂粒（中）多量 黒色砂粒（小）少量 灰色砂粒（大）少量	
24	SD04	弥生土器	底部小片	-	-	-	外:指押さえ 内:ナデ	外内:にぶい黄橙(10YR6／4) 断:にぶい黄橙(10YR5／3)	白色砂粒（小）少量 黒色砂粒（小）少量	
25	SR01	弥生土器 壺	口縁部10%	17.7cm	-	-	外内:ナデ	灰白(2.5Y8／2)	透明砂粒（大）少量 灰色砂粒（中）微量 赤色粒子（中）微量	
26	SR01	弥生土器 壺	口縁部小片	-	-	-	外:竹管文,鋸歯文,摩滅 内:ナデ,摩滅	外内:浅黄橙(10YR8/3) 断:黒褐(2.5Y3／2)	白色砂粒（大）微量 茶色砂粒（中）微量	
27	SR01	弥生土器 壺	口縁部小片	-	-	-	外:鋸歯文,竹管文 内:ナデ	外:橙(7.5YR6／6) 内:浅黄橙(10YR8／4) 断:褐灰(10YR5／1)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）微量 赤色粒子（大）微量	
28	SR01	弥生土器 壺	口縁部15%	14.3cm	-	-	外内:摩滅	にぶい黄褐(10YR5/3)	白色砂粒（小）少量 角閃石（小）多量	
29	SR01	弥生土器 甕	口縁部25%	11.5cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目 内:横ナデ,指押さえ,ナデ	外:灰黄(2.5YR6／2) 内:にぶい黄橙(10YR7／2～10YR7/3)＋灰黄(2.5Y6/2) 断:黄灰(2.5Y4/1)	白色砂粒（中）少量 角閃石（小）少量	
30	SR01	弥生土器 甕	口縁部10%	20.7cm	-	-	外内:ナデ	にぶい黄(2.5Y6／3)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量	
31	SR01	弥生土器 甕	口縁部10%	14.0cm	-	-	外内:ナデ	外:にぶい黄褐(10YR5／4) 内:にぶい黄(2.5Y6／3) 断:褐(10YR4／4)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（大）少量	
32	SR01	弥生土器 壺	底部50%	-	-	6.6cm	外内:摩滅	外:にぶい黄橙(10YR7／3) 内断:灰(5Y5／1)	白色砂粒（中）少量	
33	SR01	弥生土器 高杯	脚部すそを欠く	-	-	-	外:摩滅,穿孔(7ヶ所以上) 内:絞り目,摩滅	外:灰黄褐(10YR6／2)＋にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR6／4) 断:褐灰(10YR5／1)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 茶色砂粒（大）少量 角閃石（中）微量	
34	SR01	弥生土器 高杯	脚部すそを欠く	-	-	-	外:ナデ, 摩滅 内:摩滅,絞り目	外:にぶい黄橙(10YR6／4) 内:明褐(7.5YR5／6) 断:灰黄(2.5Y6/2)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（中）多量 金雲母（中）微量	
36	SR02	弥生土器	口縁部小片	-	-	-	外内:摩滅	橙(7.5YR6／6)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（大）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
37	SR02	弥生土器 高杯	口縁部小片	-	-	-	外内:摩滅	外:橙(7.5YR6／6) 内:にぶい橙(7.5YR6／4) 断:灰白(10R8／2)	白色砂粒（大）少量	
38	SR03	弥生土器 壺	口縁部小片	-	-	-	外:摩滅,横ナデ,沈線,刺突文 内:摩滅	外:浅黄(2.5Y7／3) 内断:7.5YR7／4)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（大）微量	
39	SR03	弥生土器 甕	頸部20%	-	-	-	外:摩滅 内:指ナデ,ヘラ削り	外:にぶい黄(2.5Y6／3) 内:暗灰黄(2.5Y5／2) 断:黒褐(2.5Y3／1)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 茶色砂粒（大）少量	
40	SR03	弥生土器 高杯	口縁部40%	14.1cm	-	-	外内:摩滅,横ナデ	外内:にぶい黄橙(10YR7／3) 断:にぶい黄橙(10YR6／4)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（中）微量 赤色粒子（大）微量	
41	SR03	弥生土器 鉢	底部75%	11.9cm	4.5cm	-	外内:摩滅	外:黄灰(2.5Y6／1) 内:黒褐(2.5Y3／1) 断:黒褐(2.5Y3／1)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量	
42	SR03	弥生土器 高杯	筒部完存	-	-	-	外:摩滅 内:摩滅,絞り目	浅黄橙(7.5YR8／4)	茶色砂粒（中）微量	
43	SR06／07	弥生土器 壺	口縁部5%	17.6cm	-	-	外:横ナデ,凹線 内:横ナデ	外内:にぶい黄橙(10YR6／3) 断:黒褐(10YR3／1)	黒色砂粒（大）少量 角閃石（大）少量	
44	SR06／07	弥生土器 壺	底部完存	-	-	5.0cm	外内:摩滅	灰黄(2.5Y7／2)	白色砂粒（中～大）多量	
45	SR07	弥生土器 壺	破片	-	-	-	外:横ナデ,櫛描き沈線文,波状文 内:摩滅	外断:灰白(2.5Y7.1) 内:灰白(2.5Y8／2)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	
46	SR07	土師器 壺	体部40%	-	-	-	外:ナデ,刷毛目 内:指押さえ,ナデ	外内:灰黄(2.5YR7／2) 断:黄灰(2.5YR4／1)	透明砂粒（大）多量	
47	SR07	弥生土器	底部完存	-	-	6.6cm	外内:ナデ	外:黄褐(2.5Y5／3) 内:にぶい黄橙(2.5Y6／3) 断:黄褐(2.5Y3／2)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量	
49	SR09	弥生土器 壺	口縁部小片	-	-	-	外:摩滅,沈線 内:摩滅	外:浅黄(2.5Y7／3) 内断:淡黄(2.5Y8／3)＋黒褐(2.5Y3／1)	白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（中）多量	
50	SR09	弥生土器 壺	頸部10%	-	-	-	外:ナデ,摩滅,沈線 内:ナデ,摩滅	外断:オリ-ブ黒(7.5Y3/1)＋浅黄(2.5Y7/3)	白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	
51	SR09	弥生土器 壺	口縁部60%	24.2cm	-	-	外内:横ナデ	淡黄(2.5Y8／3)＋暗オリ-ブ褐(2.5Y3／3)	透明砂粒（中）微量 白色砂粒（中）少量	
52	SR09	弥生土器 壺	口縁部15%	22.3cm	-	-	外内:横ナデ,刷毛目	外:暗灰黄(2.5Y4／2) 内:オリ-ブ褐(2.5Y4／3) 断:黒褐(2.5Y3／1)	白色砂粒（小）微量	
53	SR09	弥生土器 壺	口縁部15%	20.7cm	-	-	外内:横ナデ	外内:浅黄(2.5Y7／4) 断:黄灰(2.5Y4／1)	白色砂粒（中）少量 金雲母（小）微量	
54	SR09	弥生土器 壺	口縁部60%	17.1cm	-	-	外:横ナデ,ナデ 内:指押さえ,横ナデ,ヘラ削り,ナデ	外:浅黄(2.5Y7／4) 内:にぶい黄(2.5Y6／4) 断:オリ-ブ褐(2.5Y4／3)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 茶色砂粒（小）微量	
55	SR09	弥生土器 甕	口縁部20%	15.6cm	-	-	外内:横ナデ	外内:にぶい褐(7.5YR5／4)外:黄灰(2.5Y6／1)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 角閃石（中）少量	
56	SR09	弥生土器 甕	口縁部50%	13.0cm	-	-	外:横ナデ,タタキ 内:刷毛目,ヘラ削り	外内:灰黄(2.5Y7／2)＋橙(7.5YR6／6) 断:黄灰(2.5Y4／1)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）少量 赤色粒子（大）微量	
57	SR09	弥生土器 甕	口縁部小片	-	-	-	外内:摩滅	外:にぶい橙(7.5YR6／4) 内:にぶい褐(7.5YR6	白色砂粒（小）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
								／3）断:黄灰(2.5Y6／1)		
58	SR09	弥生土器 壺	底部50%	-	-	10cm	外:摩滅 内:指ナデ	外:にぶい黄(2.5Y6／3) 内:浅黄(2.5Y7／3) 断:灰黄(2.5Y6／2)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 黒色砂粒（大）多量	
59	SR09	弥生土器 甕	底部50%	-	-	9.4cm	外:指押さえ 内:板ナデ	外:暗灰黄(2.5Y5／2) 内断:灰オリ-ブ(5Y6／2)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	
60	SR09	弥生土器 壺	底部50%	-	-	8.4cm	外:板ナデ 内:調整不明	外:にぶい赤褐(5YR5／3) 内断:暗灰黄(2.5Y5／2)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 黒色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量 赤色粒子（大）微量	
61	SR09	弥生土器 高杯	口縁部10%	15.9cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目 内:横ナデ	にぶい橙(7.5YR6／4)	白色砂粒（大）少量 黒色砂粒（中）微量 雲母（中）少量	
62	SR09	弥生土器 高杯	口縁部小片	-	-	-	外内:横ナデ	外:にぶい黄橙(7.5YR7/4)＋橙(5YR6／6) 内:にぶい黄橙(10YR7／4) 断:にぶい橙(7.5YR7／4)	透明砂粒（中）少量 茶色砂粒（中）少量	
63	SR09	弥生土器 高杯	杯部60%	-	-	-	外:板ナデ,指押さえ,刷毛目 内:刷毛目	外:にぶい黄(2.5Y6／4) 内:にぶい黄橙(10YR6／4) 断:黒褐(10YR5／1)	白色砂粒（中～大）多量 灰色砂粒（中～大）多量 雲母（中）微量	
64	SR09	弥生土器 高杯	杯部完存	-	-	-	外:刷毛目 内:摩滅	外断:灰黄(2.5Y6／2)＋暗灰黄(2.5Y5／2)	白色砂粒（中～大）少量 灰色砂粒（中～大）少量	
65	SR09	弥生土器 高杯	杯の稜線部40%	-	-	-	外:摩滅,指押さえ,指ナデ,刷毛目 内:刷毛目,板ナデ,指押さえ,絞り目	外:灰黄(2.5Y6／2) 内:にぶい黄(2.5Y6／3)＋赤褐(5YR4／6) 断:褐灰(10YR4／1)	透明砂粒（大）多量 黒色砂粒（大）多量 金雲母（中）微量 赤色粒子（大）微量	
66	SR09	弥生土器 高杯	底部20%	-	-	13.0cm	外:刷毛目,横ナデ 内:ナデ,横ナデ	暗灰黄(2.5Y5／2)＋にぶい赤褐(5YR5／4)	白色砂粒（中～大）多量 灰色砂粒（中～大）多量	
70	SR09	土師器 甕	口縁部完存	12.2cm	18.4cm	8.8cm	外:ナデ,ヘラ磨き,刷毛目 内:刷毛目,ヘラ磨き,指押さえ,指ナデ,板ナデ	浅黄(2.5Y7／3)	白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	
71	SR09	土師器 甕	口縁部5%	9.3cm	-	-	外:刷毛目,ナデ 内:横ナデ	にぶい黄褐(10YR5／4)	白色砂粒（中）微量 黒色砂粒（小）少量	
72	SR09	土師器 甕	口縁部5%	14.1cm	-	-	外内:ナデ	外内:灰黄(2.5Y7／2) 断:黄灰(2.5Y4／1)	白色砂粒（小）微量 雲母（小）微量	
73	SR09	土師器 甕	口縁部20%	13.1cm	-	-	外内:横ナデ	外内:にぶい黄橙(10YR6／4) 断:褐灰(10YR4／1)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）多量	
74	SR09	土師器 甕	口縁部15%	13.2cm	-	-	外内:横ナデ	外:にぶい黄橙(10YR6／4) 内:浅黄(2.5Y7／3) 断:黒褐(2.5Y3／1)	白色砂粒（小）多量	
75	SR09	土師器 高杯	口縁部10%	19.1cm	-	-	外:横ナデ 内:摩滅	黄褐(2.5Y5／3)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 角閃石（小）少量	
76	SR09	土師器 高杯	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ	にぶい黄褐(10YR5／4)＋橙(5YR6／6)	白色砂粒（中）微量 黒色砂粒（中）微量 雲母（中）微量	
77	SR09	土師器 高杯	杯部50%	-	-	-	外:横ナデ 内:横ナデ	外:にぶい赤褐(5YR4／3) 内:灰黄褐(10YR5／2)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
								断：橙（5YR6／6）		
78	SR09	土師器 高杯	脚部75%	-	-	11.8cm	外:横ナデ,摩滅,退化凹線文 内:横ナデ,摩滅	にぶい褐(7.5YR5／3)	白色砂粒（小）少量 茶色砂粒（小）多量	
79	SR09	土師器 高杯	底部50%	-	-	9.8cm	外:板ナデ 内:ヘラ削り,横ナデ	外:灰黄(2.5Y6／2)＋にぶい橙(7.5YR6／4) 内:にぶい黄橙(10YR7／2)＋にぶい橙(7.5YR5／3) 断:灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（大）少量	
80	SR09	須恵器 杯蓋	口縁部小片	-	-	-	外:回転ナデ,回転ヘラ削り 内:回転ナデ	外:灰(5Y4／1) 内:灰白(N7／0) 断:褐灰(7.5YR5／1)	白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
81	SR09	須恵器 杯身	口縁部30%	12.8cm	4.2cm	6.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り 内:回転ナデ	灰(5Y6／1)	透明砂粒（小）少量 白色砂粒（小）少量	
82	SR09	須恵器 もしくは 陶質土器	体部20%	-	-	-	外:指押さえ,ナデ 内:横ナデ,指押さえ	外:灰(10Y4／1) 内:灰(10Y5／1) 断:灰褐(5YR5／2)	白色砂粒（小）微量	
83	SR09	須恵器 もしくは 陶質土器	体部小片	-	-	-	外内:ナデ,指押さえ	外:暗オリーブ灰(2.5GY4／1) 内:灰(7.5Y5／1) 断:灰褐(7.5YR5／2)	白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
84	SR09	須恵器 もしくは 陶質土器	体部小片	-	-	-	外内:ナデ	外:オリーブ黒(5Y3／1)＋灰白(5Y8／1) 内:灰(N6／0) 断:灰褐(7.5YR5／2)	白色砂粒（小）微量	
85	SR09	須恵器 もしくは 陶質土器	底部小片	-	-	-	外内:ナデ	外内:灰(N6／0) 断:褐灰(10YR6／1)	黒色砂粒（小）微量 灰色砂粒（小）微量	
86	SR09	須恵器 もしくは 陶質土器	体部小片	-	-	-	外:指押さえ,回転ナデ 内:回転ナデ	外:灰(10Y4／1)＋黄灰(2.5Y6／1) 内:灰(N5／0) 断:灰褐(5YR5／2)	白色砂粒（小）微量	
87	SR09	須恵器 もしくは 陶質土器	体部小片	-	-	-	外:指押さえ,ナデ 内:回転ナデ	外:灰(5Y5／1) 内:灰(10Y4／1) 断:灰褐(5YR4／2)	白色砂粒（小）微量	
88	包含層	弥生土器 壺	体部小片	-	-	-	外:摩滅,貼付け突帯 内:摩滅	灰白(2.5Y8／2)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	
89	包含層	弥生土器 壺	口縁部小片	-	-	-	外内:横ナデ	外:橙(7.5YR6／6) 内:にぶい橙(7.5YR6／4) 断:灰オリ-ブ(5Y6／2)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 黒色砂粒（大）少量	
90	包含層	弥生土器 長頸壺	口縁部10%	18.0cm	-	-	外内:摩滅	外内:にぶい黄橙(10YR6／4) 断:灰オリーブ(5Y6／2)	白色砂粒（中）多量 灰色砂粒（中）多量 赤色粒子（中～大）少量	
91	包含層	弥生土器 壺	口縁部25%	15.8cm	-	-	外内:横ナデ	暗灰黄(2.5Y4／2)	白色砂粒（大）多量	
92	包含層	弥生土器 甕	口縁部10%	14.0cm	-	-	外内:横ナデ	にぶい黄褐(10YR5／4)	白色砂粒（中）微量 黒色砂粒（中）微量 雲母（小）微量	
93	包含層	弥生土器 甕	口縁部10%	12.0cm	-	-	外:摩滅 内:指押さえ	黄褐(10YR5／6)	黒色砂粒（中）多量 灰色砂粒（中）多量	
94	包含層	弥生土器 甕	口縁部15%	15.1cm	-	-	外内:摩滅	外内:明赤褐(2.5YR5／6) 断:黄褐(2.5Y5／3)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
95	包含層	弥生土器 甕	口縁部15%	14.2cm	-	-	外:摩滅 内:横ナデ,ヘラ削り	灰黄(2.5Y6／2)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	
96	包含層	弥生土器	口縁部小片	-	-	-	外内:摩滅	外:にぶい褐(7.5YR5／4)	透明砂粒（大）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
		甕						内:褐(7.5YR4／6) 断:にぶい黄橙(10YR6／4)	白色砂粒（大）少量	
97	包含層	弥生土器 甕	口縁部小片	-	-	-	外内:摩滅	外断:にぶい黄褐(10YR5／4) 内:褐(7.5YR4／6)	白色砂粒（小）微量	
98	包含層	弥生土器 甕	口縁部小片	-	-	-	外内:横ナデ	にぶい黄褐(10YR5／4)	白色砂粒（中）微量 黒色砂粒（中）微量 雲母（小）微量	
99	包含層	弥生土器 甕	口縁部小片	-	-	-	外:刷毛目,ナデ 内:ナデ,指押さえ	外:にぶい褐(7.5YR5／4) 内:にぶい黄褐(10YR4／3) 断:明赤褐(2.5YR5／6)	白色砂粒（大）少量 雲母（小）少量	
100	包含層	弥生土器	底部45%	-	-	7.7cm	外内:ナデ	外内:にぶい黄褐(10YR5／4) 断:暗灰黄(8.5Y4／2)	白色砂粒（小）微量 茶色砂粒（小）微量	
101	包含層	弥生土器	底部小片	-	-	-	外内:ナデ	外:暗灰黄(2.5Y4／2) 内断:にぶい黄褐(10YR5／4)	白色砂粒（中）少量	
102	包含層	弥生土器	底部20%	-	-	6.0cm	外:ナデ,ヘラ削り 内:ナデ	外内:赤褐(5YR4／6) 断:黄灰(2.5Y4／1)	白色砂粒（中）少量 雲母（小）少量	
103	包含層	弥生土器 甕	底部完存	-	-	6.0cm	外内:摩滅,焼成後穿孔	外:にぶい橙(7.5YR7／3) 内断:暗灰黄(2.5Y5／2)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	
104	包含層	弥生土器 高杯	脚部15%	-	-	20.0cm	外:横ナデ 内:ナデ,ヘラ削り	にぶい黄褐(10YR5／4)	白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（小～中）多量 角閃石（中）少量	
105	包含層	円盤状土製品	95%	-	1.0cm	-	ナデ,摩滅	上面:オリーブ黒(5Y3／1) 下面:灰黄(2.5Y6／2)	白色砂粒（小）微量 灰色砂粒（小）多量	
118	SH01	韓式系土器 甕	肩部25%	-	-	-	外:板ナデ,タタキ 内:横ナデ,指押さえ,ナデ	外:橙(7.5YR6／6)＋にぶい黄橙(10YR6／4) 内:橙(7.5YR6／6)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（大）少量	
119	SH01	韓式系土器 甕	体部20%	-	-	-	外:格子目タタキ 内:横ナデ,指押さえ	外:にぶい赤褐(5YR5／4) 内:にぶい橙(7.5YR6／4) 断:明赤褐(5YR5／6)	白色砂粒（大）多量 黒色砂粒（中）少量	
120	SH01	土師器 甕	口縁部15%	13.7cm	-	-	外:横ナデ,指押さえ 内:摩滅,指押さえ	外:明赤褐(2.5YR5／6) 内:橙(7.5YR6／6) 断:灰黄褐(10YR6／2)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（大）微量 茶色砂粒（大）微量 赤色粒子（大）微量	
121	SH01	陶質土器 甕	体部50%	-	-	-	外:指頭痕,横ナデ 内:指押さえ,指ナデ	外:灰(N4／0～N6／0) 内:灰(N6／0) 断:灰褐(7.5YR4／2)	赤色粒子（小）微量	
122	SH01	土師器 高杯	口縁部50%	16.0cm	-	-	外:回転ナデ,指押さえ 内:回転ナデ	外:淡黄(2.5Y8／3)＋橙(7.5YR7／6) 内:橙(5YR7／6) 断:にぶい黄橙(10YR7／3)	灰色砂粒（中～大）多量	
123	SH01	土師器 高杯	口縁部小片	-	-	-	外:回転ナデ,指押さえ 内:回転ナデ,ヘラ磨き	外:明赤褐(5YR5／6)＋にぶい黄褐(10YR5／4) 内断:赤褐(5YR4／6)	白色砂粒（小～中）多量	
124	SH01	土師器 小型丸底壺	完形	7.5cm	7.8cm	-	外内:横ナデ,ナデ,指押さえ	外内:にぶい赤褐(5YR5／4)	白色砂粒（小）多量 灰色砂粒（小）少量	
125	SH01	土師器 小型丸底壺	口縁部60%	7.3cm	7.2cm	-	外:横ナデ,指押さえ,ナデ 内:横ナデ,指押さえ,ナデ,ヘラ磨き	外:にぶい赤褐(5YR5／4)＋褐灰(10YR4／1)	透明砂粒（大）少量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
								内断：黒褐（10YR3／2）		
126	SH02	土師器 小型丸底壺	口縁部60%	7.0cm	7.4cm	2.5cm	外内:横ナデ,指頭痕,指ナデ	内断外:浅黄(2.5Y7／3)＋橙(5YR6／6)＋灰黄褐(10YR5／2) 内:にぶい黄橙(10YR6／3)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 赤色粒子（中）微量	
127	SH01	土師器 小型丸底壺	口縁部40%	7.8cm	-	-	外内:指押さえ,横ナデ	外:にぶい黄(2.5Y6／3)＋明褐(7.5YR5／6) 内:にぶい黄橙(10YR6／4) 断:灰黄褐(10YR4／2)	白色砂粒（中～大）多量 灰色砂粒（中～大）多量	
128	SH02	土師器 小型丸底壺	口縁部以外完存	-	-	-	外:タタキ,指押さえ 内:指ナデ,指押さえ	外内:淡黄(2.5Y8／3)＋にぶい橙(7.5YR6／4) 断:黒褐(2.5Y3／1)	透明砂粒（中）多量 白色砂粒（中）多量 黒色砂粒（中）多量 赤色粒子（大）微量	
129	SD09	須恵器 杯身	口縁部40%	9.4cm	3.5cm	4.4cm	外:回転ナデ,ヘラ削り 内:回転ナデ,指ナデ	灰白(N7／0)	白色砂粒（中）多量	
130	SR11	須恵器 杯蓋	口縁部35%	12.0cm	3.9cm	6.3cm	外:回転ナデ,ヘラ切り,ナデ 内:回転ナデ,ナデ	外:灰(N6／0～N5／0) 内断:灰(N6／0)	白色砂粒（中）少量	
131	包含層	土師器 甕	口縁部70%	14.4cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目 内:横ナデ,指押さえ,指ナデ	外:にぶい褐(7.5YR5／4) 内:にぶい黄橙(10YR5／3) 断:褐灰(10YR4／1)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量	
132	包含層	土師器 甕	口縁部75%	15.0cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目 内:指押さえ,刷毛目,ナデ	灰黄褐(10YR5／2)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（中～大）多量 角閃石（小）微量	
133	包含層	土師器 壺	口縁部20%	6.0cm	-	-	外:横ナデ,摩滅,刷毛目 内:横ナデ,摩滅	にぶい黄橙(10YR7／3)	白色砂粒（小）微量 茶色砂粒（小）多量	
134	包含層	土師器 甕	口縁部20%	14.5cm	-	-	外内:横ナデ	外:にぶい黄橙(10YR7／4) 内断:にぶい黄褐(10YR5／3)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	
135	包含層	土師器 甕	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ	外:浅黄(2.5Y7／4) 内:にぶい橙(7.5YR6／4) 断:灰黄褐(10YR5／2)	白色砂粒（大）多量 雲母（小）少量	
136	包含層	土師器 甕	口縁部小片	-	-	-	外内:横ナデ	外:にぶい橙(7.5YR6／4) 内断:浅黄橙(10YR8／3)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 赤色粒子（小）微量	
137	包含層	土師器 高杯	口縁部15%	15.0cm	-	-	外内:横ナデ	外内:明赤褐(2.5YR5／6) 断:黒褐(10YR3／1)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量	
138	包含層	土師器 小型丸底壺	体部小片	-	-	-	外内:ナデ	外内:灰黄(2.5Y6／2)＋黒褐(2.5Y3／1) 断:黒褐(2.5Y3／1)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量	
139	包含層	須恵器 甕	口縁部小片	-	-	-	外:回転ナデ,ナデ,自然釉 内:回転ナデ,格子目タタキ	外:暗灰(N3／0) 内:灰(N6／0) 断:灰(N5／8)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	
140	包含層	須恵器 杯身	口縁部20%	10.2cm	-	-	外:回転ナデ,ヘラ削り 内:回転ナデ	灰白(N7／0)	白色砂粒（中）微量	
141	包含層	須恵器 蓋	つまみ部分完存	-	-	-	外内:ナデ	外:灰(N5／0) 内:灰(N6／0) 断:暗オリーブ灰(2.5GY3／1)	白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	
142	包含層	須恵器 壺	口縁部小片	-	-	-	外:回転ナデ,刷毛目 内:回転ナデ	外内:灰白(N7／0)＋灰(N6／0) 断:にぶい橙(7.5YR6／4)	白色砂粒（小）微量	
144	SP0025	土師器 杯	口縁部50%	13.2cm	3.5cm	7.8cm	外:回転ナデ,仕上げナデ 内:回転ナデ	外内:にぶい黄橙(10YR7／2)＋橙(7.5YR7／6)	白色砂粒（小～大）少量 雲母（小）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
								断:にぶい橙（7.5YR7／4）	赤色粒子（小～大）多量	
145	SP0025	土師器 杯	口縁部20%	12.0cm	3.9cm	7.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り,板状圧痕 内:回転ナデ	橙(5YR7／6)＋灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（中）微量 白色砂粒（中）微量 赤色粒子（中）微量	
146	SP0036	土師器 杯	口縁部15%	11.9cm	3.9cm	7.9cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	外:明黄褐(10YR7／6)＋にぶい黄橙(10YR7／3) 内:浅黄橙(10YR8／3) 断:にぶい黄橙(10YR6／4)	白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量 雲母（小）微量	
147	SP0033	土師器 杯	口縁部50%	11.8cm	3.3cm	8.1cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	灰白(2.5Y8／2)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
148	SP0025	土師器 杯	口縁部25%	11.9cm	3.3cm	7.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	外:淡黄(2.5Y8／2)＋橙(5YR6／6) 内断:灰白(10YR8／2)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 金雲母（小）微量 赤色粒子（小）少量	
149	SP0025	土師器 杯	口縁部40%	11.6cm	-	-	外:回転ナデ,仕上げナデ 内:回転ナデ	橙(5YR7／6)＋灰白(2.5Y8／2)	透明砂粒（大）微量 赤色粒子（中）少量	
150	SP0025	土師器 杯	口縁部50%	12.0cm	3.8cm	6.8cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7／4)	白色砂粒（小）多量 金雲母（中）微量 赤色粒子（中）多量	
151	SP0038	土師器 杯	口縁部10%	12.8cm	-	-	回転ナデ	橙(7.5YR7／6)	透明砂粒（小）少量 白色砂粒（小）少量 灰色砂粒（小）少量 赤色粒子（中）少量	
152	SP0042	土師器 小皿	口縁部10%	10.4cm	1.8cm	8.0cm	外:回転ナデ,ナデ 内:回転ナデ	橙(5YR6／6)	白色砂粒（小）多量 赤色粒子（小～中）多量	
153	SP0025	土師器 小皿	口縁部60%	8.2cm	1.8cm	6.3cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7／4)	白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
154	SP0025	土師器 小皿	口縁部50%	7.8cm	1.7cm	6.6cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8／4)＋橙(7.5YR7／6)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 金雲母（小）微量 赤色粒子（中）少量	
155	SP0025	土師器 小皿	口縁部90%	7.5cm	1.3cm	5.9cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	外内:灰白(10YR8／2)＋明黄褐(10YR7／6) 断:灰白(10YR8／1)	透明砂粒（大）微量 茶色砂粒（中）微量 雲母（中）少量	
156	SP0025	土師器 小皿	口縁部50%	8.1cm	1.1cm	5.0cm	外:回転ナデ,ヘラ切り 内:回転ナデ	灰白(10YR8／1)	透明砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
157	SP0025	土師器 小皿	口縁部65%	7.6cm	1.6cm	5.4cm	外:回転ナデ,ヘラ切り,ナデ 内:回転ナデ,ナデ	にぶい橙(5YR6／4)	白色砂粒（小）多量 黒色砂粒（小）多量 赤色粒子（小～中）多量	
158	SP0032	土師器 小皿	底部20%	-	-	-	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	橙(7.5YR6／6)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 赤色粒子（中）少量	
159	SP0035	土師器 小皿	底部50%	-	-	7.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8／6)	白色砂粒（中）少量 灰色砂粒（大）少量 赤色粒子（大）多量	
162	SP0160	土師器 高台付杯	口縁部25%	13.0cm	5.0cm	8.2cm	外:指押さえ,ナデ,回転ナデ 内:回転ナデ,ナデ	外:橙(7.5YR7／6)＋灰白(7.5YR8／2) 内:橙(2.5YR6／6) 断:淡橙	白色砂粒（中）多量 灰色砂粒（大）多量 雲母（小）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
								(5YR8/3)		
163	SP0094	土師器 杯	口縁部完存	11.7cm	3.3cm	7.4cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ,仕上げナデ	外内:橙(7.5YR7/6)	雲母(中) 微量 赤色粒子(大) 少量	
164	SP0937	土師器 杯	口縁部10%	11.0cm	-	-	外内:回転ナデ	外内:浅黄(2.5Y8/3)	白色砂粒(中) 微量	
165	SP0097	土師器 杯	底部40%	-	-	8.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内断:にぶい黄橙(10YR7/3)+にぶい橙(5YR6/4)	透明砂粒(小) 微量 白色砂粒(小) 微量	
166	SP0409	土師器 杯	底部20%	-	-	8.3cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	透明砂粒(小) 微量 白色砂粒(小) 微量 赤色粒子(小) 微量	
167	SP0304	土師器 杯	底部5%	-	-	7.0cm	外内:摩滅	橙(5YR7/6)	白色砂粒(小) 微量 茶色砂粒(小) 少量	
168	SP0273	土師器 杯	底部15%	-	-	6.0cm	外:回転ナデ,ヘラ切り 内:回転ナデ,摩滅	淡黄(2.5Y8/3)	白色砂粒(小) 微量 茶色砂粒(小) 多量	
169	SP0730	土師器 杯	口縁部10%	9.6cm	2.0cm	5.4cm	外:回転ナデ,ヘラ切り 内:回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)+灰白(10YR8/2)	透明砂粒(小) 微量	
170	SP0053	土師器 杯	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	外内:浅黄橙(10YR8/4)+橙(7.5YR7/6) 断:橙(7.5YR7/6)	透明砂粒(中) 微量 白色砂粒(中) 微量 赤色粒子(大) 微量	
171	SP0302	土師器 杯	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	灰白(10YR8/2)	透明砂粒(中) 少量 白色砂粒(中) 少量	
172	SP0055	土師器 椀	底部50%	-	-	5.2cm	外:回転ナデ 内:ナデ	外内:灰白(2.5Y8/2) 断:黄灰(2.5Y4/1)	黒色砂粒(小) 微量	
173	SP0092	須恵器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	外:灰白(2.5Y7/1) 内:褐灰(10YR6/1) 断:灰白(10YR7/1)	白色砂粒(小) 微量 黒色砂粒(小) 微量	
174	SP0627	須恵器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	外:灰(5Y6/1)+暗灰(N3/0)+灰白(5Y8/1) 内:暗灰(N3/0) 断:灰白(5Y8/1)	白色砂粒(中) 微量	
175	SP0878	土師器 小皿	口縁部10%	11.0cm	1.5cm	7.7cm	外:回転ナデ,ヘラ切り,仕上げナデ 内:回転ナデ	外内:にぶい橙(7.5YR7/3)+灰黄(2.5Y7/2) 断:にぶい橙(7.5YR7/3)	白色砂粒(中) 微量	
176	SP0856	土師器 小皿	口縁部20%	8.9cm	-	5.0cm	外:回転ナデ,ヘラ切り,ナデ 内:回転ナデ	外内:橙(5YR6/6)+にぶい黄橙(10YR7/2) 断:橙(5YR6/6)	透明砂粒(小) 微量 白色砂粒(小) 微量 赤色粒子(小) 微量	
177	SP0637	土師器 小皿	口縁部5%	9.1cm	-	-	外内:回転ナデ	橙(5YR6/6)	白色砂粒(小) 少量 茶色砂粒(小) 多量	
178	SP0160	土師器 小皿	口縁部80%	8.0cm	1.5cm	4.0cm	外:回転ナデ,ナデ,ヘラ切り 内:回転ナデ,ナデ	外:橙(7.5R7/6)+浅黄橙(10YR8/3) 内断:灰白(2.5Y8/2)	白色砂粒(小) 微量	
179	SP0054	土師器 小皿	底部40%	8.1cm	1.1cm	6.0cm	外:回転ナデ,ヘラ切り 内:回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	白色砂粒(小) 微量 黒色砂粒(小) 微量 赤色粒子(小) 微量	
180	SP0630	土師器 小皿	底部30%	-	-	6.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ,仕上げナデ	外内:浅黄橙(7.5YR8/4) 断:にぶい橙(7.5YR7/4)	白色砂粒(小) 微量	
181	SP0480	土師器 小皿	口縁部20%	7.2cm	1.6cm	5.7cm	摩滅	浅黄橙(10YR8/3)	透明砂粒(大) 微量 白色砂粒(中) 微量 雲母(中) 少量	
182	SP0730	土師器	底部15%	-	-	6.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:	外断:灰白(5Y7/1) 内:	白色砂粒(小) 微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
		杯					回転ナデ	灰(5Y5／1)		
183	SP0937	土師器 小皿	口縁部5%	7.5cm	-	-	外内:回転ナデ	灰白(2.5Y8／2)	白色砂粒（小）微量	
184	SP0937	土師器 小皿	口縁部25%	5.9cm	1.0cm	4.8cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7／3)	白色砂粒（小）微量	
185	SP0073	土師器 小皿	口縁部20%	5.4cm	-	4.2cm	外:回転ナデ,ヘラ切り 内:回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7／2)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 赤色粒子（小）少量	
186	SP0160	土師器 小皿	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7／4)	茶色砂粒（小）微量	
187	SP0881	土師器 小皿	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	にぶい橙(5YR6／4)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 赤色粒子（小）微量	
188	SP0844	土師器 小皿	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	外断:淡黄(2.5Y8／3) 内:橙(7.5YR7／6)	白色砂粒（大）微量	
189	SP0275	土師器 小皿	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ,摩滅	にぶい黄橙(10YR7／2)	白色砂粒（小）微量 灰色砂粒（小）少量	
190	SP0804	須恵器 擂鉢	口縁部小片	-	-	-	外:横ナデ,ナデ 内:卸目	外:灰(5Y5／1)＋灰(5Y6／1) 内:暗灰(N3／0) 断:白灰(N7／0)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 黒色砂粒（大）多量	
191	SP0550	須恵器 こね鉢	底部50%	-	-	9.6cm	外内:横ナデ,ナデ	外:灰白(5Y7／1) 内:灰白(5Y7／2) 断:灰白(7.5Y7／1)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
192	SP0302	土師質土器 擂鉢	口縁部15%	26.0cm	-	-	外:ナデ,指押さえ 内:ナデ,卸目	外内:浅黄(2.5Y7／3)＋灰黄(2.5Y6／2) 断:浅黄(2.5Y7／3)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（中～大）多量	
193	SP0959	須恵器 壺	底部30%	-	-	17.1cm	外:横ナデ,自然釉 内:ナデ	外:オリーブ灰(2.5GY6／1)＋黒(2.5GY2／1) 内:黒褐(7.5YR3／1) 断:灰(N5／0)	透明砂粒（中）微量 白色砂粒（中）微量	
194	SP0125	須恵器 壺	体部小片	-	-	-	外:回転ナデ,貼付け突帯, 内:回転ナデ,ナデ	外:褐灰(5YR4／1)＋(10YR5／1) 内:灰褐(5YR4／2 5YR5／2) 断:灰褐(5YR5／2)＋灰(5Y4／1)	白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）少量	
195	SP0758	青磁 椀	口縁部5%	-	-	-	外内:施釉	釉:明緑灰(10GY7／1) 断:灰白(10Y7／1)	黒色粒子（小）少量 精緻	
196	SP0128	青磁 合子蓋	口縁部10%	10.0cm	-	-	外:蓮弁文線刻,施釉 内:回転ナデ,施釉	釉:明オリーブ灰(5GY7／1) 断:灰白(5Y8／1)	精緻	
197	SP0799	青磁 椀	口縁部小片	-	-	-	外:鎬蓮弁,施釉 内:施釉	釉:オリーブ灰(5GY6／1) 断:灰白(10Y7／1)	黒色粒子（小）少量 精緻	
198	SP0902	青磁 椀	底部20%	-	-	5.9cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り,施釉 内:陰刻花文,施釉	外内:灰褐(7.5YR4／2) 断:明褐灰(7.5YR7／1)＋灰(5Y5／1)	精緻	
199	SP0286	瓦質土器 香炉	口縁部50%	7.8cm	5.6cm	6.1cm	外:ヘラ磨き,沈線 による雷文,ナデ,六角十字のスタンプ文,指押さえ 内:回転ナデ	外内:黒(2.5Y2／1) 断:灰白(2.5Y7／1)	白色砂粒（小）微量 茶色砂粒（小）微量	
200	SP0477	土師質土器 土鍋	口縁部小片	-	-	-	外:摩滅 内:横ナデ	外断:にぶい橙(5YR6／4) 内:灰(5Y5／1)	透明砂粒（大）多量	
201	SP0641	土師質土器 土鍋	口縁部小片	-	-	-	外内:横ナデ,摩滅	にぶい黄橙(10YR7／2)	白色砂粒（小）少量 茶色砂粒（小）多量 灰色砂粒（小）多量 赤色粒子（小）微量	
202	SP0054	土師質土	口縁部5%	28.0cm	-	-	外:横ナデ,指押さえ,刷毛目	外:灰黄褐(10YR5／2)	透明砂粒（大）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
		器　土鍋					内:横ナデ, 刷毛目	内断:灰黄(2.5Y7／2)		
203	SP0584	土師質土器　土鍋	口縁部15%	27.5cm	-	-	外:ヘラ削り,指押さえ 内:横ナデ	外:黒褐(10YR3／1) 内断:にぶい黄橙(10YR7／3)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）微量 灰色砂粒（大）少量	
204	SP0803	土師質土器　土釜	口縁部10%	26.0cm	-	-	外:横ナデ,指押さえ 内:横ナデ	にぶい黄橙(10YR5／4)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（大）微量 金雲母（中）微量	
205	SP0144	土師質土器　土釜	羽部15%	-	-	-	外:横ナデ,板状刷毛目 内:刷毛目	外:浅黄橙(10YR8／3)＋にぶい黄橙(10YR6／3) 内:にぶい黄橙(10YR7／3) 断:にぶい黄橙(10YR6／4)	透明砂粒（中）多量 白色砂粒（中）多量 茶色砂粒（中）微量 灰色砂粒（中）多量	
206	SP0133	土師質土器　土釜	口縁部5%	24.0cm	-	-	外:横ナデ,指押さえ 内:刷毛目,ナデ	外:橙(5YR6／6)＋にぶい黄橙(10YR7／4) 内:橙(5YR6／6) 断:にぶい褐(7.5YR6／3)	白色砂粒（中）少量	
207	SP0359	土師質土器　土釜	口縁部10%	23.6cm	-	-	外:横ナデ,指押さえ 内:指押さえ,刷毛目	外断:灰黄褐(10YR6／2) 内:褐灰(10YR4／1)	白色砂粒（中）少量 金雲母（小）微量	
208	SP0147	土師質土器　土釜	口縁部小片	-	-	-	外:ナデ,摩滅 内:横ナデ	外:灰黄(2.5Y7／2) 内断:灰白(2.5Y8／2)	透明砂粒（中）微量 雲母（小）微量	
209	SP0742	土師質土器　土釜	口縁部小片	-	-	-	外:指押さえ 内:板ナデ	外:にぶい褐(7.5YR5／3) 内:にぶい橙(7.5YR7／4) 断:にぶい褐(10YR7／3)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 金雲母（小）微量	
211	SP0417	管状土錘	完形	-	-	-	外:ナデ,指押さえ	外:灰白(5Y7／1)	灰色砂粒（小）微量	11.7g
219	SP1031	土師器　杯	口縁部25%	11.0cm	3.4cm	7.1cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ,仕上げナデ	浅黄橙(10YR8／3)	透明砂粒（中）少量 茶色砂粒（中）少量	
220	SP1051	須恵質土器　椀	底部完存	-	-	4.6cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:ナデ	青灰(5PB6／1)	白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（中～大）微量	
221	SP1017	土師器　小皿	口縁部95%	8.2cm	-	-	外:回転ナデ,ナデ,回転ヘラ切り,摩滅 内:ナデ,摩滅	外断:灰黄(2.5Y7／2) 内:浅黄(2.5Y7／4)	白色砂粒（小）多量 黒色砂粒（小）微量	
222	SP1018	須恵器　こね鉢	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ	外:灰(5Y4／1) 内:灰(7.5Y6／1) 断:灰白(5Y8／2)	白色砂粒（中）少量	
223	SP1020	土師質土器　土鍋	口縁部10%	35.0cm	-	-	外:ナデ,指押さえ,格子目タタキ,板ナデ 内:板ナデ	外内:浅黄(2.5Y7／3)＋黄灰(2.5Y4／1) 断:灰黄(2.5Y7／2)	灰色砂粒（大）多量	
225	SK02	土師器　杯	底部10%	-	-	10.0cm	外内:ナデ	明黄褐(10YR6／6)	灰色砂粒（大）多量 雲母（小）多量	
226	SK02	土師質土器　土鍋	破片	-	-	-	外:ナデ,指押さえ 内:刷毛目	灰(5Y5／1)	白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（大）少量	
227	SK06	須恵器　椀	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ,摩滅	外断:灰白(2.5Y8／1) 内:黒褐(2.5Y3／1)	茶色砂粒（小）微量 灰色砂粒（小）少量	
228	SE01	瓦質土器　椀	口縁部45%	15.1cm	-	4.0cm	外:横ナデ,ナデ,指押さえ 内:横ナデ	灰白(5Y7／1)	白色砂粒（小）少量 黒色砂粒（小）少量	
229	SE01	土師器　小皿	底部50%	-	-	8.5cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ,仕上げナデ	外内:灰白(5Y7／2)＋灰(5Y6／1) 断:灰白(5Y7／2)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量	
230	SE01	土師器　土鍋	口縁部ほぼ完存	38.2cm	-	-	外内:横ナデ,指押さえ,刷毛目	外内:灰黄(2.5Y6／2)＋黒褐(2.5Y3／1)	白色砂粒（大）少量 金雲母（中）微量	
231	SE01	土師質土器　土鍋	口縁部15%	37.4cm	-	-	外:横ナデ,指押さえ 内:横・斜ナデ	外:にぶい黄橙(10YR6／4) 内:にぶい黄褐(10	透明砂粒（大）微量 茶色砂粒（大）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
								YR5／3) 断:灰白(2.5Y 7／1)	灰色砂粒（中）微量 雲母（中）微量	
232	SE01	土師質土器	口縁部10%	36.0cm	-	-	外:ナデ,指押さえ,刷毛目 内:刷毛目	外:灰黄(2.5Y7／2)＋暗灰黄(2.5Y5／2) 内:灰黄褐(10YR4／2) 断:褐灰(10YR5／1)	白色砂粒（中）多量 灰色砂粒（大）少量	
233	SX02	備前焼 壺	底部10%	-	-	-	外内:板ナデ	外:灰(N5／0) 内:黄灰(2.5Y4／1) 断:灰褐(5YR4／2)	白色砂粒（大）少量 黒色砂粒（大）少量 赤色粒子（大）少量	
234	SD12	壺？	底部35%	-	-	5.2cm	外内:摩滅	外:にぶい黄橙(10YR6／4) 内断:にぶい黄(2.5Y5／3)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	
235	SD12	土師質土器 土釜	脚部85%	-	-	-	外内:指押さえ,板ナデ	外:にぶい黄橙(10YR7／2)＋橙(5YR6／6) 内断:にぶい黄橙(10YR7／2)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 雲母（中）少量	
236	SD13	土師器 小皿	底部25%	-	-	5.0cm	外内:回転ナデ,摩滅	外内:灰白(2.5Y8／2) 断:明黄褐(10YR6／6)	茶色砂粒（小）微量	
237	SD18	土師質土器 こね鉢	口縁部10%	38.2cm	-	-	外:ナデ 内:横ナデ	灰白(2.5Y7／1)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（大）少量	
238	SD18	土師質土器 擂鉢	底部30%	-	-	12.2cm	外:摩滅 内:ナデ,卸目	にぶい黄橙(10YR6／4)	透明砂粒（中）多量 白色砂粒（中）少量	
239	SD18	土師質土器 擂鉢	口縁部5%	26.2cm	-	-	外:横ナデ,摩滅 内:横ナデ,卸目	外断:にぶい橙(7.5YR7／3) 内:橙(5YR7／6)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）微量 黒色砂粒（中）少量	
240	SD18	土師質土器 擂鉢	口縁部小片	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ,卸目	にぶい橙(7.5YR7／3～7.5YR7／4)	白色砂粒（大）少量 茶色砂粒（大）少量	
241	SD18	土師質土器 擂鉢	口縁部小片	-	-	-	外:指押さえ 内:ナデ,卸目	外内:灰(5Y6／1)＋オリーブ黒(5Y3／1) 断:灰(5Y6／1)	透明砂粒（中）微量 白色砂粒（中）微量	
242	SD18	土師質土器 土鍋	口縁部小片	-	-	-	外内:横ナデ,ナデ	明赤褐(2.5YR5／6)	透明砂粒（中）多量 白色砂粒（中）多量 黒色砂粒（中）多量	
243	SD18	土師質土器 土鍋	口縁部10%	29.6cm	-	-	外:ナデ 内:横ナデ	外:にぶい橙(7.5YR7／3) 内:にぶい橙(7.5YR7／4) 断:灰白(10YR8／2)	白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）少量	
244	SD18	土師質土器 土鍋	口縁部10%	25.6cm	-	-	外:指押さえ,ナデ 内:ナデ	外:灰褐(7.5YR4／2) 内断:にぶい橙(7.5YR7／4)	透明砂粒（大）少量	
245	SD18	土師質土器 土鍋	つまみ部分	-	-	-	外:回転ナデ,板ナデ,指押さえ 内:回転ナデ	外:明赤褐(2.5YR5／6) 内:にぶい橙(5YR7／4) 断:黄灰(2.5Y5／1)	白色砂粒（大）少量 黒色砂粒（中）少量 灰色砂粒（大）多量	
246	SD18	土師質土器 土鍋	口縁部小片	-	-	-	外:指押さえ,ナデ 内:横ナデ	外内:にぶい黄橙(10YR7／4) 断:にぶい橙(7.5YR6／4)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 黒色砂粒（大）少量 赤色粒子（大）少量	
247	SD18	土師質土器 土鍋	口縁部15%	21.2cm	-	-	外:ナデ,指押さえ 内:板ナデ	外内:にぶい黄橙(10YR7／4) 断:にぶい黄橙(10YR7／3)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（中）少量	
248	SD18	土師質土器 土鍋	口縁部小片	-	-	-	外:横ナデ,指押さえ 内:横ナデ	灰黄(2.5Y7／2)	黒色砂粒（中）少量 雲母（中）微量	
249	SD18	土師質土器 土鍋	口縁部小片	-	-	-	外:摩滅 内:横ナデ	外:にぶい褐(7.5YR6／3) 内:にぶい褐(7.5YR6／3)	白色砂粒（中）多量 雲母（中）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
								＋灰黄褐（10YR／2）断：にぶい黄褐（10YR82）		
250	SD18	土師質土器 土釜	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ,摩滅	外:にぶい黄褐（10YR5／3）内断:灰白（10YR8／2）	白色砂粒（小）多量 茶色砂粒（小）多量	
251	SD18	土師質土器 土釜	口縁部10%	22.1cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目 内:横ナデ	浅黄(2.5Y7／3)	白色砂粒（中）少量	
252	SD18	土師質土器 土釜	口縁部5%	27.7cm	-	-	外:横ナデ,板ナデ 内:横ナデ,刷毛目	浅黄(2.5Y7／3)	透明砂粒（中）微量 雲母（小）少量	
253	SD18	土師質土器 土釜	口縁部20%	18.0cm	-	-	外:ナデ,摩滅,指押さえ 内:ナデ,摩滅	外:灰黄褐(10YR6／2) 内断:にぶい黄橙(10YR7／2)	白色砂粒（中）少量 灰色砂粒（小）多量	
254	SD18	土師質土器 土釜	脚部85%	-	-	-	外:指押さえ,板ナデ	外断:灰黄(2.5Y6／2) 内:灰黄(2.5Y7／2)	白色砂粒（小）少量 黒色砂粒（小）少量 雲母（小）微量	
255	SD18	土師質土器 土釜	脚部90%	-	-	-	外:指押さえ,板ナデ	外:灰黄(2.5Y7／2) 内断:淡黄(2.5Y8／3)	白色砂粒（中）多量 黒色砂粒（中）多量	
257	SD18	土師質土器 土釜	口縁部10%	23.4cm	-	-	外:ナデ,指押さえ 内:ナデ	外:灰黄褐(10YR5／2)＋黒褐(10YR3／1) 内:にぶい橙(7.5YR7／3) 断:明赤褐(5YR5／6)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）多量	
258	SD18	土師質土器 土釜	口縁部10%	16.0cm	-	-	外:横ナデ,指押さえ 内:横ナデ	外:浅黄(2.5Y7／3)＋にぶい黄褐(10YR5／3) 内:橙(7.5YR6／6) 断:にぶい黄橙(10YR7／2)	白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）少量	
259	SD18	土師器 壺	頸部10%	-	-	-	外:横ナデ,ナデ 内:剥落,摩滅	外内:灰白(2.5Y8／2) 断:黄灰(2.5Y6／1)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 茶色砂粒（大）多量 黒色砂粒（大）多量	
260	SD18	須恵器 壺	口縁部10%	19.0cm	-	-	外:横ナデ,刷毛目 内:刷毛目	外:にぶい黄橙（10YR7／2～10YR7／4）内:橙(5YR7／6) 断:黄灰(2.5Y6／1)	透明砂粒（小）少量 白色砂粒（小）少量 赤色粒子（小）少量	
261	SD18	土師質土器 火舎	口縁部10%	33.2cm	-	-	外:ナデ,指押さえ,摩滅,板ナデ 内:ナデ,摩滅	外内:にぶい黄橙(10YR7／3) 断:にぶい橙(7.5YR6／4)	白色砂粒（中）多量 茶色砂粒（小）多量	
263	SD18	陶器 皿	底部75%	-	-	4.0cm	外:回転ナデ,ナデ,ヘラ切り 内:回転ナデ,施釉,砂目積	断:にぶい橙(7.5YR6／4) 釉:白	黒色砂粒（小）多量	
264	SD19	土師質土器 土鍋	口縁部15%	30.0cm	-	-	外:ナデ,指押さえ 内:ナデ,卸目	外内:灰黄(2.5Y7／2) 断:にぶい黄橙(10YR6／4)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	
265	SD20	土師質土器 土釜	口縁部10%	26.4cm	-	-	外:刷毛目,ナデ 内:横ナデ,指押さえ	外:にぶい褐(7.5YR5／3) 内:褐(7.5YR4／3) 断:にぶい赤褐(5YR5／4)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 金雲母（中）少量 赤色粒子（中）少量	
266	SD21	陶器 皿	口縁部10%	12.0cm	-	-	外内:施釉	釉:透明 断:灰白(2.5Y8／2)	精緻	
267	SD21	磁器 皿	底部50%	-	-	5.6cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:ナデ,施釉	釉:オリーブ灰（2.5GY6／1）断:灰白(2.5Y8／1)	茶色砂粒（小）少量	
268	SD21	土師質土器 こね鉢	口縁部5%	23.3cm	-	-	外:横ナデ,指押さえ 内:横ナデ,摩滅	にぶい黄橙(10YR7／4)	透明砂粒（中）微量 白色砂粒（中）微量 灰色砂粒（中）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
									雲母（中）少量	
269	SD23	土師器 杯	口縁部20%	13.9cm	4.0cm	7.5cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ,仕上げナデ	灰白(10YR8／2)	茶色砂粒（中）微量	
270	SD23	土師器 杯	底部完存	-	-	7.7cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ,仕上げナデ	浅黄橙(10YR8／3)	茶色砂粒（大）少量	
271	SD23	土師器 杯	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	内断:にぶい橙(7.5YR7／3)	黒色砂粒（中）微量	
272	SD23	土師器 杯	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	外断:浅黄(2.5Y7／3) 内:橙(7.5YR7／6)	白色砂粒（中）微量	
273	SD23	瓦質土器 椀	口縁部15%	14.0cm	-	-	外内:回転ナデ,ナデ	灰(5Y6／1)	白色砂粒（小）微量 茶色砂粒（小）少量	
274	SD23	瓦質土器 椀	底部完存	-	-	5.6cm	外:回転ナデ 内:ナデ	外:灰白(2.5Y7／1) 内:褐灰(10YR6／1) 断:灰白(2.5Y8／1)	灰色砂粒（中）少量	
275	SD23	青磁 椀	口縁部10%	17.0cm	-	-	外内:回転ナデ,施釉	釉:オリ-ブ灰(2.5GY6／1) 断:灰白(10Y7／1)	精緻	
276	SD23	青磁 椀	口縁部25%	13.0cm	-	-	外:施釉 内:櫛描文,施釉	釉:灰オリ-ブ(5Y6／2) 断:灰(5Y6／1)	精緻	
277	SD24	土師器 杯	口縁部40%	11.8cm	3.3cm	7.5cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ,仕上げナデ	にぶい黄橙(10YR7／3)	黒色砂粒（小）微量	
278	SD24	土師質土器 土釜	口縁部10%	23.2cm	-	-	外:板ナデ,横ナデ,指押さえ 内:板ナデ	外:灰黄褐(10YR6／2) 内:灰黄褐(10YR5／2) 断:灰白(10YR7／1)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）少量	
280	SD25	有溝土錘	ほぼ完形	-	7.9cm	-	指押さえ	にぶい黄橙(10YR7／3)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	73.2g
281	SD25	有溝土錘	完形	-	7.2cm	-	指押さえ	灰白(10YR8／2)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	109.1g
282	SD25	有溝土錘	80%	-	6.7cm	-	ナデ,指押さえ,摩滅	灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（中）多量 白色砂粒（小）多量	46.5g
283	SD26	有溝土錘	全体の60%	-	-	-	ナデ,指押さえ	浅黄(2.5Y7／3)	透明砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	18.8g
284	SD28	有溝土錘	ほぼ完形	-	-	-	指押さえ,ナデ	灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 黒色砂粒（大）多量	69.4g
285	SD28	有溝土錘	完形	-	6.7cm	-	指押さえ,ナデ	淡黄(2.5Y8／3)	透明砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	59.5g
286	SD28	有溝土錘	ほぼ完形	-	6.1cm	-	指押さえ	にぶい黄(2.5Y7／4)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	60.7g
287	SD28	有溝土錘	85%	-	6.6cm	-	指押さえ	黄褐(10YR5／6)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量	45.1g
288	SD28	有溝土錘	75%	-	6.6cm	-	指押さえ	淡黄(2.5Y8／3)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 茶色砂粒（中）微量	52.6g
289	SD28	有溝土錘	完形	-	5.9cm	-	ナデ,指押さえ,摩滅	淡黄(2.5Y8／3)	白色砂粒（中～大）微量 茶色砂粒（小）多量	47.7g
290	SD28	有溝土錘	ほぼ完形	-	-	-	指押さえ,ナデ	灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	49.4g
291	SD28	有溝土錘	完形	-	4.8cm	-	指押さえ,ナデ	にぶい黄(2.5Y6／3)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）少量	26.4g
292	SD28	有溝土錘	完形	-	5.2cm	-	指押さえ	浅黄(2.5Y7／4)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（小）少量	31.6g

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
293	SD28	有溝土錘	90%	-	5.4cm	-	指押さえ	淡黄(2.5Y8/3)	茶色砂粒（大）少量 黒色砂粒（大）少量 雲母（小）微量	39.2g
294	SD28	有溝土錘	完形	-	4.8cm	-	指押さえ,ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量	42.6g
295	SD28	有溝土錘	85%	-	4.7cm	-	指押さえ	浅黄(2.5Y7/4)	茶色砂粒（大）少量 黒色砂粒（大）少量 雲母（小）微量	28.9g
296	SD28	有溝土錘	85%	-	4.8cm	-	指押さえ	灰黄(2.5Y7/2)	白色砂粒（中）少量 茶色砂粒（中）少量	24.3g
297	SD28	有溝土錘	完形	-	5.8cm	-	指押さえ,ナデ	にぶい黄(2.5Y6/4)	透明砂粒（小）多量	27.1g
298	SD28	須恵器 壺	口縁部10%	23.8cm	-	-	外内:横ナデ	外内:灰(N6/0) 断:灰白(N7/0)	雲母（小）微量	
300	SR12	土師器 杯	口縁部完存	13.5cm	4.0cm	7.5cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り,仕上げナデ 内:回転ナデ,仕上げナデ	外内:灰黄(2.5Y7/2)＋にぶい橙(7.5Y7/4)	透明砂粒（大）微量 雲母（中）微量	
301	SR12	土師器 杯	口縁部45%	13.2cm	3.4cm	7.6cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り,ナデ 内:回転ナデ	橙(5YR7/6)	透明砂粒（小）少量 白色砂粒（小）少量 赤色粒子（大）少量	
302	SR12	土師器 杯	口縁部30%	12.9cm	-	9.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	灰白(2.5Y8/1)	透明砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
303	SR12	土師器 杯	口縁部10%	11.0cm	-	-	外内:回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）少量	
304	SR12	土師器 杯	口縁部20%	11.0cm	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ,ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	赤色粒子（小～中）微量	
305	SR12	土師器 杯	口縁部15%	10.7cm	-	-	外内:回転ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（大）微量 灰色砂粒（中）微量	
306	SR12	土師器 杯	口縁部20%	10.4cm	-	-	外内:回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2～10YR7/4)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 灰色砂粒（中）少量 赤色粒子（大）少量	
307	SR12	土師器 杯	底部70%	9.9cm	3.0cm	7.0cm	外:回転ナデ,摩滅,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	外:灰黄(2.5Y7/2)＋灰褐(5YR6/2) 内:灰黄(2.5Y7/2)＋橙(5YR7/6) 断:灰黄(2.5Y7/2)	透明砂粒（大）微量 灰色砂粒（中）少量 赤色粒子（大）微量	
308	SR12	土師器 杯	底部25%	10.2cm	3.2cm	7.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	外内:にぶい黄橙(10YR7/3) 断:灰黄(2.5Y7/2)	白色砂粒（中）微量	
309	SR12	土師器 杯	口縁部30%	10.0cm	-	-	外内:回転ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)＋橙(7.5YR6/6)	白色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量 雲母（小）微量	
310	SR12	土師器 杯	底部20%	-	-	6.2cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ,仕上げナデ	灰白(2.5Y8/2)	透明砂粒（中）微量 白色砂粒（中）微量 灰色砂粒（中）微量 赤色粒子（中）微量	
311	SR12	土師器 杯	口縁部25%	-	-	10.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り,摩滅,ナデ 内:回転ナデ,ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	白色砂粒（中）微量 茶色砂粒（小）少量 黒色砂粒（小）少量	
312	SR12	土師器 椀	口縁部15%	14.1cm	-	-	外:回転ナデ,指押さえ,ヘラ磨き 内:ナデ	灰黄(2.5Y7/2)＋黄灰(2.5Y5/1)	黒色砂粒（中）微量	
313	SR12	土師器 椀	口縁部25%	12.7cm	-	-	外内:回転ナデ,ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（大）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
									雲母（小）少量	
314	SR12	土師器 椀	口縁部15%	11.6cm	-	-	外:回転ナデ,摩滅 内:ナデ	浅黄橙(10YR8／3)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（中）微量 茶色砂粒（中）微量 黒色砂粒（中）微量	
315	SR12	土師器 椀	底部15%	-	-	6.1cm	外内:回転ナデ	浅黄橙(10YR8／3)	透明砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
316	SR12	土師器 椀	底部40%	-	-	4.8cm	外:回転ナデ,仕上げナデ 内:仕上げナデ	浅黄(2.5Y7／3)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（中）微量 灰色砂粒（中）微量	
317	SR12	土師器 小皿	口縁部15%	8.3cm	1.3cm	6.1cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り 内:回転ナデ	灰白(2.5Y8／2)	黒色砂粒（小）微量 雲母（小）微量	
318	SR12	土師器 小皿	口縁部30%	7.6cm	1.3cm	5.4cm	外:回転ナデ,ヘラ切り,ナデ 内:回転ナデ,ナデ	浅黄橙(10YR8／3)	透明砂粒（大）少量 赤色粒子（小～中）多量	
319	SR12	瓦器 椀	口縁部15%	14.9cm	-	-	外:回転ナデ,指押さえ 内:ヘラ磨き,ナデ,暗文	灰(5Y6／1)	白色砂粒（中）微量	
320	SR12	瓦器 椀	口縁部50%	14.2cm	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ,ナデ	灰白(5Y8／1)	灰色砂粒（大）多量	
321	SR12	瓦器 椀	口縁部20%	14.0cm	-	-	外:回転ナデ,ナデ 内:ナデ	外内:灰(N6／0)＋暗灰(N3／0) 断:灰白(5Y7／1)	白色砂粒（中～大）多量灰色砂粒（中～大）多量	
322	SR12	瓦器 椀	底部40%	-	-	4.2cm	外:ナデ,横ナデ 内:ナデ	灰白(5Y7／1)	灰色砂粒（中）微量	
323	SR12	瓦質土器 小皿	底部20%	8.7cm	6.4cm	2.2cm	外:回転ナデ,ヘラ切り,ナデ 内:回転ナデ,ナデ	外:オリーブ黒(5Y3/1)＋灰(5Y4/1)内:オリーブ黒(5Y3/1)断:灰(5Y4/1)	白色砂粒（小～中）多量	
324	SR12	瓦質土器 椀	底部70%	-	-	5.4cm	外:回転ナデ,ヘラナデ,ナデ 内:板ナデ	灰白(N7／0)	白色砂粒（大）微量 灰色砂粒（中）多量	
325	SR12	瓦器 椀	口縁部小片	-	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ,ヘラ磨き	外内:灰白(N8/0)＋暗灰(N3/0) 断:灰白(N8/0)	灰色砂粒（中）少量	
326	SR12	瓦器 椀	口縁部小片	-	-	-	外:回転ナデ,ヘラ磨き 内:回転ナデ	灰白(5Y7／1)	透明砂粒（大）微量	
327	SR12	須恵器 こね鉢	口縁部小片	-	-	-	外:ナデ,指押さえ 内:回転ナデ,ナデ	外:灰(5Y4／1) 内断:灰白(7.5Y7／1)	灰色砂粒（小）多量	
328	SR12	土師質土器 土釜	口縁部50%	14.6cm	-	-	外:ナデ,指押さえ,摩滅,格子目タタキ 内:ナデ,指押さえ,摩滅	外内:灰黄(2.5Y7／2) 断:灰白(2.5Y7／1)	白色砂粒（小）多量	
329	SR12	土師質土器 竈	前面ひさし部分	-	-	-	外:指押さえ,ナデ,板ナデ,刷毛目 内:刷毛目	外:黄灰(2.5Y4／1)＋にぶい黄(2.5Y6／3) 内:にぶい黄(2.5Y6／3)＋暗灰黄(2.5Y4／2) 断:黄灰(2.5Y6／1)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（大）少量	
330	包含層	土師質土器 土鍋	底部ほぼ完存	-	-	5.0cm	外:指ナデ,指押さえ,刷毛目,ナデ 内:指ナデ	外:浅黄(2.5Y7／3) 内:灰黄(2.5Y6／2) 断:黄灰(2.5Y4／1)	透明砂粒（中～大）多量 白色砂粒（中）多量	
331	包含層	須恵器杯もしくは椀	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	灰白(5Y7／1)	白色砂粒（小）微量 茶色砂粒（小）微量	
332	包含層	須恵器杯もしくは椀	口縁部10%	13.0cm	-	-	外:回転ナデ,ナデ 内:ナデ	灰(5Y6／1)	白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（中）多量	
333	包含層	黒色土器杯もしくは椀	口縁部小片	-	-	-	摩滅	外内:オリーブ黒(5Y3／1) 断:灰白(5Y8／1)	透明砂粒（大）微量 雲母（小）微量	
334	包含層	土師器杯もしくは椀	口縁部15%	12.3cm	3.6cm	6.6cm	外:回転ナデ 内:回転ナデ,ヘラ切り	外:灰黄(2.5Y6／2) 内断:灰黄褐(10YR5／2)	透明砂粒（小）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
335	包含層	土師器 杯	口縁部65%	12.0cm	3.2cm	6.9cm	外:回転ナデ,ヘラ切り,仕上げナデ 内:回転ナデ,ナデ	外:橙(7.5YR6/6) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	灰色砂粒（小～中）多量 赤色粒子（中～大）少量 角閃石（中）微量	
336	包含層	土師器 杯	口縁部30%	12.0cm	3.3cm	5.9cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り 内:回転ナデ	外:浅黄橙(10YR8/4) 内:浅黄橙(10YR8/3)＋橙(7.5YR7/6) 断:浅黄橙(10YR8/3)	透明砂粒（中）微量 茶色砂粒（中）微量	
337	包含層	土師器 杯	口縁部25%	11.0cm	3.6cm	6.9cm	外:回転ナデ,回転ヘラ切り,ナデ 内:回転ナデ	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内断:にぶい黄橙(10YR7/2)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）少量 赤色粒子（大）微量	
338	包含層	土師器 杯	底部30%	10.9cm	2.6cm	6.7cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り 内:回転ナデ	外:灰白(2.5Y8/2) 内断:浅黄橙(7.5YR8/4)	白色砂粒（中）微量 赤色粒子（中）微量	
339	包含層	土師器 杯	口縁部25%	9.9cm	2.3cm	6.1cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り 内:回転ナデ	外断:灰白(2.5Y8/2) 内:灰黄(2.5Y7/2)	黒色砂粒（小）微量	
340	包含層	瓦質土器 椀	口縁部15%	-	-	-	外:指押さえ,ナデ 内:ナデ,ヘラ磨き	外内:暗灰(N3/0) 断:灰白(5Y8/1)	白色砂粒（小）微量 茶色砂粒（小）微量	
341	包含層	瓦質土器 椀	口縁部15%	14.6cm	4.5cm	5.0cm	外内:回転ナデ,ナデ	外内:灰白(5Y8/1)＋灰(5Y4/1) 断:灰白(5Y7/1)	白色砂粒（大）少量 灰色砂粒（小～中）多量	
342	包含層	瓦質土器 椀	口縁部5%	14.0cm	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ,ナデ	外:灰(5Y4/1) 内:灰白(5Y7/1)＋灰(5Y4/1) 断:灰白(5Y8/1)	白色砂粒（中）多量 灰色砂粒（中）多量	
343	包含層	土師器 椀	底部30%	-	-	4.5cm	外:摩滅 内:板ナデ	灰白(2.5Y8/2)	白色砂粒（中）微量	
344	包含層	土師器 杯	底部25%	-	-	5.2cm	外内:回転ナデ	黄橙(7.5YR7/8)	白色砂粒（中）少量 赤色粒子（中）少量	
345	包含層	土師器 椀	底部70%	-	-	5.0cm	外:ナデ 内:回転ナデ	外内:灰白(2.5Y8/2) 断:黒褐(2.5Y3/1)	灰色砂粒（小）少量	
346	包含層	土師器 小皿	口縁部30%	9.3cm	1.8cm	5.0cm	外:回転ナデ,ヘラ切り 内:回転ナデ	橙(7.5YR6/6)	透明砂粒（中）微量 白色砂粒（中）微量	
347	包含層	土師器 小皿	口縁部25%	8.7cm	2.5cm	4.1cm	外:ナデ,回転ヘラ切り 内:ナデ	外内:浅黄橙(10YR8/3)＋橙(7.5YR7/6) 断:橙(7.5YR7/6)	茶色砂粒（小）微量	
348	包含層	土師器 小皿	口縁部25%	9.1cm	1.5cm	4.7cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り 内:回転ナデ	外:橙(5YR6/6) 内断:浅黄橙(10YR8/3)＋橙(5YR6/6)	白色砂粒（中）微量 茶色砂粒（中）微量	
349	包含層	土師器 小皿	底部20%	9.0cm	1.4cm	7.0cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り 内:回転ナデ,仕上げナデ	外内:にぶい黄橙(10YR6/4) 断:灰白(2.5Y8/2)	黒色砂粒（小）微量	
350	包含層	土師器 小皿	底部15%	7.8cm	1.0cm	6.0cm	外:摩滅,回転ヘラ切り 内:摩滅	外断:浅黄橙(10YR8/3) 内:橙(7.5YR7/6)	透明砂粒（大）少量	
351	包含層	土師器 小皿	底部35%	6.4cm	1.2cm	4.9cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り 内:回転ナデ,仕上げナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	白色砂粒（中）少量	
352	包含層	土師器 小皿	口縁部小片	-	-	-	外:ナデ,指押さえ,ヘラ切り 内:ナデ	浅黄(2.5Y7/4)	透明砂粒（大）微量 茶色砂粒（小）微量	
353	包含層	土師器 小皿	底部小片	-	-	-	外:ナデ,回転ヘラ切り 内:ナデ	外:浅黄橙(10YR8/3) 内断:橙(7.5YR6/6)	茶色砂粒（小）微量	
354	包含層	土師器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	灰白(5Y7/1)	白色砂粒（小）微量	
355	包含層	土師器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	外:灰白(10YR7/1)＋にぶい橙(7.5YR6/4) 内断:灰白(10YR7/1)	透明砂粒（小）少量 白色砂粒（小）少量 赤色粒子（小）少量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
356	包含層	土師器 椀	口縁部小片	-	-	-	外:回転ナデ 内:摩滅	外内:灰白(5Y7／1) 断:灰白(5Y8／1)	白色砂粒（小）微量	
357	包含層	瓦器 もしくは 瓦質土器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	外:灰白(5Y7／2)＋灰(5Y5／1) 内断:灰白(5Y7／2)	白色砂粒（小）微量 茶色砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
358	包含層	瓦器 もしくは 瓦質土器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	外内:灰白(5Y8／1)＋灰(5Y4／1) 断:灰白(5Y8／1)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	
359	包含層	瓦器 もしくは 瓦質土器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ	外内:灰白(7.5Y7／1)＋灰(N5／0) 断:灰白(N7／0)	白色砂粒（小）微量 茶色砂粒（小）微量	
360	包含層	瓦器 もしくは 瓦質土器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ	外内:灰白(5Y8／1)＋オリ-ブ黒(5Y3／1)	白色砂粒（小）微量 灰色砂粒（小）少量	
361	包含層	瓦器 もしくは 瓦質土器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ	外内:灰白(5Y8／1)＋灰(5Y5／1) 断:灰白(5Y8／1)	透明砂粒（小）微量	
362	包含層	青磁 壺	口縁部15%	11.7cm	-	-	外内:回転ナデ,施釉	釉:オリーブ灰(2.5GY6／1) 断:灰白(2.5GY8	透明砂粒（中）微量	
363	包含層	青磁 壺	口縁部20%	14.3cm	-	-	外内:ナデ,施釉	釉:オリーブ灰(10Y5／2) 断:灰白(N8／0)	精緻	
364	包含層	青磁 椀	口縁部小片	-	-	-	外:施釉 内:施釉,鎬蓮弁	釉:明緑灰(7.5GY7／1) 断:灰白(7.5Y7／1)	白色砂粒（小）少量	
365	包含層	青磁 椀	体部小片	-	-	-	外:施釉,鎬蓮弁 内:施釉	釉:明オリーブ灰(2.5GY7／1) 断:灰白(N7／0)	精緻	
366	包含層	青磁 椀	底部25%	5.6cm	-	-	外:回転ナデ,施釉,回転ヘラ削り 内:回転ナデ,押印(化粧土),施釉	外:灰(N6／0) 釉:灰オリーブ(7.5Y5／1) 断:灰白(5Y8／1)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	
367	包含層	青磁 皿	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ,施釉	釉:明緑灰(10GY7／1) 断:灰白(5Y8／1)	茶色砂粒（中）微量	
368	包含層	土師質土器 こね鉢	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ	外内:灰(5Y5／1) 断:灰白(5Y7／1)	透明砂粒（小）微量 雲母（小）微量	
369	包含層	瓦質土器 こね鉢	口縁部小片	-	-	-	外:ナデ,指押さえ 内: ナデ	外内:暗灰(N3／0) 断:灰白(5Y8／1)	透明砂粒（大）微量	
371	包含層	須恵器 こね鉢	口縁部10%	26.0cm	-	-	外:回転ナデ,指押さえ,ナデ 内:回転ナデ,ナデ,摩滅	灰(7.5Y5／1)	白色砂粒（小～中）多量 灰色砂粒（大）少量	
372	包含層	備前焼 擂鉢	口縁部15%	29.4cm	-	-	外:横ナデ 内:横ナデ,卸目	外:褐灰(5YR4／1) 内:暗灰(N3／0)＋褐灰(5YR4／1) 断:灰(N6／0)	白色砂粒（中）少量	
373	包含層	備前焼 擂鉢	底部30%	-	-	12.0cm	外:回転ナデ,ナデ 内:卸目	外:灰オリ-ブ(5Y4／2) 内:にぶい黄褐(10YR5／3)＋にぶい褐(7.5YR5／4) 断:にぶい赤褐(2.5YR5／4)	白色砂粒（中）多量 灰色砂粒（中）多量	
374	包含層	須恵質土器 擂鉢	底部20%	-	-	11.0cm	外:指押さえ,ナデ 内:卸目	外:灰(5Y6／1) 内:灰(N5／0) 断:灰白(5Y7／1)	白色砂粒（中）多量	
375	包含層	土師質土器 土鍋	口縁部10%	22.0cm	-	-	外:横ナデ,指押さえ,刷毛目 内:不明	外:灰黄褐(10YR4／2) 内:灰白(10YR8／2) 断:明褐(7.5YR5／6)	白色砂粒（中）少量 灰色砂粒（中）少量	
376	包含層	土師質土器 土鍋	口縁部小片	-	-	-	外:指押さえ,横ナデ 内:刷毛目	外:にぶい黄(2.5Y6／4) 内断:浅黄(2.5Y7／4)	白色砂粒（小）少量	
377	包含層	土師質土	口縁部小片				外:ナデ,指押さえ 内:摩滅	外:にぶい黄橙(10YR6	灰色砂粒（中）多量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
		器　土鍋						／3）内:黒褐(2.5Y3／1) 断:灰黄(2.5Y7／2)		
378	包含層	土師質土器　土鍋	口縁部小片	-	-	-	外:指押さえ,刷毛目 内:刷毛目	外:暗灰黄(2.5Y5／2)＋橙(7.5YR7／6) 内:灰白(2.5Y8／1)＋暗灰黄(2.5Y4／2) 断:灰白(2.5Y8／1)	透明砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	
379	包含層	土師質土器　土釜	口縁部小片	-	-	-	外:ナデ 内:刷毛目	外内:にぶい橙(7.5YR7／4) 断:灰白(2.5Y7／1)	透明砂粒（小）少量 白色砂粒（小）少量 黒色砂粒（小）少量	
380	包含層	土師質土器　土釜	口縁部小片	-	-	-	外:ナデ,指押さえ 内:ナデ	外内:橙(5YR6／6) 断:黒褐(10YR3／1)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量	
381	包含層	緑釉陶器　壺（三彩か？）	口縁部小片	-	-	-	外:施釉 内:回転ナデ,施釉	釉:緑＋暗オリ-ブ(5Y4／3) 断:にぶい橙(7.5YR6／4)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	
382	包含層	灰釉陶器　壺	底部10%	-	-	5.4cm	外:回転ナデ,施釉 内:回転ナデ	釉:透明 断:灰白(5Y7／1)	灰色砂粒（中）多量	
383	包含層	土師質土器　土釜	脚部完存	-	-	-	外:指押さえ,ナデ 内:指押さえ	にぶい橙(7.5YR6／4)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）少量 金雲母（中）微量	
384	包含層	土師質土器　土釜	脚部一部を欠く	-	-	-	外:指押さえ,ナデ 内:指押さえ	外断:浅黄(2.5Y7／4) 内:灰白(2.5Y8／2)	白色砂粒（小～大）多量	
385	包含層	土師質土器　土釜	脚部ほぼ完存	-	-	-	指押さえ,指ナデ	外:にぶい黄褐(10YR5／4)	白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	
386	包含層	土師質土器　土釜	脚部ほぼ完存	-	-	-	外:ナデ	外:灰白(2.5Y8／2)＋灰黄褐(10YR4／2) 断:黄灰(2.5Y4／1)	透明砂粒（小）微量 雲母（小）微量	
387	包含層	備前焼　擂鉢	口縁部15%	33.6cm	-	-	外:横ナデ, 内:横ナデ,卸目	外:にぶい黄褐(10YR5／3) 内:にぶい褐(7.5YR5／3) 断:明赤褐(5YR5／6)	白色砂粒（中）微量	
388	包含層	亀山焼　壺	口縁部15%	27.1cm	-	-	外:格子目タタキ 内:横ナデ	外内:橙(5YR6／6) 断:黒(7.5Y2／1)	黒色砂粒（小）微量	
389	包含層	備前焼　三耳壺	底部40%	13.4cm	40.6cm	18.5cm	外:横ナデ 内:横ナデ,卸目	外:灰褐(7.5YR4／2) 自然釉:暗オリーブ(5Y4／3) 内:黄灰(2.5Y6／1)＋にぶい黄橙(10YR5／3) 断:黄灰(2.5Y6／1)	白色砂粒（大）微量 茶色砂粒（大）微量	
390	包含層	備前焼　壺	底部10%	-	-	18.0cm	外:ナデ,指押さえ 内:指押さえ,回転ナデ,ナデ	外:灰赤(2.5YR4／2) 内:赤黒(2.5YR2／1) 断:灰赤(2.5YR5／2)	白色砂粒（小）多量 茶色砂粒（小）多量	
391	包含層	備前焼　壺	底部45%	-	-	15.6cm	外:ナデ,指押さえ,刷毛目,ヘラ削り 内:指押さえ,板ナデ	外断:にぶい橙(5YR6／4) 内:にぶい赤褐(5YR5／4)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 茶色砂粒（大）少量 灰色砂粒（大）多量	
392	包含層	備前焼　壺	口縁部小片	-	-	-	外:回転ナデ,ヘラ削り 内:回転ナデ	断:灰褐(5YR6／2) 釉:灰白(2.5Y8／1)	白色砂粒（中～大）多量	
393	包含層	備前焼　壺	口縁部小片	-	-	-	外内:ナデ	外:灰褐(5YR4／2) 内:赤灰(2.5YR5／1)＋灰(N5／0) 断:灰(N5／0)	白色砂粒（小）多量	
397	包含層	有溝土錘	80%	-	7.8cm	-	ナデ	灰白(2.5Y8／2)	白色砂粒（小）多量 灰色砂粒（小）多量	94.8g
398	包含層	有溝土錘	ほぼ完形				ナデ,摩滅	浅黄(2.5Y7／4)	透明砂粒（小）少量	61.0g

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
									黒色砂粒（小）少量	
399	包含層	有溝土錘	90%	6.6cm	-	-	ナデ,摩滅	灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（小）少量 雲母（小）少量	56.3g
400	包含層	有溝土錘	ほぼ完形	-	6.4cm	-	指押さえ	灰白(5Y7／1)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量	60.1g
401	包含層	有溝土錘	55%	-	6.2cm	-	指押さえ	浅黄(2.5Y7／3)	透明砂粒（大）多量 茶色砂粒（中）微量	36.9g
402	包含層	有溝土錘	完形	-	6.3cm	-	指押さえ	淡黄(2.5Y8／3)	透明砂粒（中）多量 白色砂粒（中）多量 茶色砂粒（中）多量	60.2g
403	包含層	有溝土錘	85%	-	-	-	指押さえ,指ナデ	外断:浅黄(2.5Y7／3)	透明砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	54.0g
404	包含層	有溝土錘	ほぼ完形	-	6.2cm	-	指押さえ,ナデ	浅黄(2.5Y7／3)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	39.8g
405	包含層	有溝土錘	65%	-	-	-	指押さえ	外断:灰白(2.5Y8／2)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量	46.4g
406	包含層	有溝土錘	ほぼ完形	-	6.0cm	-	指押さえ,ナデ	浅黄(2.5Y7／3)	白色砂粒（中～大）多量　黒色砂粒（中～大）多量　灰色砂粒（中～大）多量	57.0g
407	包含層	有溝土錘	80%	-	5.8cm	-	指押さえ	にぶい黄(2.5Y6／4)	白色砂粒（大）微量 茶色砂粒（大）微量	50.3g
408	包含層	有溝土錘	80%	-	-	-	指押さえ	オリーブ褐(2.5Y4／3)	透明砂粒（大）多量 黒色砂粒（小）微量	31.2g
409	包含層	有溝土錘	50%	-	-	-	指押さえ,ナデ	外:灰白(2.5Y8／2) 断:にぶい黄(2.5Y6／4)	透明砂流（大）多量 白色砂粒（大）多量 金雲母（中）微量	34.0g
410	包含層	有溝土錘	70%	-	3.2cm	-	ナデ,摩滅	灰黄(2.5Y7／2)	灰色砂粒（小）多量	41.8g
411	包含層	有溝土錘	ほぼ完形	-	5.5cm	-	指押さえ,ナデ	にぶい黄(2.5Y6／4)	透明砂粒（大）少量 白色砂粒（大）少量 金雲母（小）微量	41.7g
412	包含層	有溝土錘	ほぼ完形	-	5.2cm	-	指押さえ,ナデ	浅黄(2.5Y7／4)	透明砂粒（大）多量 白色砂粒（中）多量 灰色砂粒（大）多量	41.6g
413	包含層	有溝土錘	90%	-	5.3cm	-	指押さえ	灰白(2.5Y8／2)	透明砂粒（大）微量 茶色砂粒（大）微量 黒色砂粒（小）少量 雲母（小）微量	48.6g
414	包含層	有溝土錘	ほぼ完形	-	4.9cm	-	指押さえ	灰白(5Y8／1)	透明砂粒（大）少量 黒色砂粒（大）少量	36.6g
415	包含層	有溝土錘	ほぼ完存	-	-	-	指押さえ	にぶい黄(2.5Y6／4)	透明砂粒（大）多量	31.1g
416	包含層	有溝土錘	完形	-	5.0cm	-	ナデ	明黄褐(2.5Y7／6)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（小）微量	31.7g
417	包含層	有溝土錘	完形	-	-	-	指押さえ	灰白(2.5Y8／2)＋灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（中）少量	35.4g
418	包含層	有溝土錘	ほぼ完形	-	4.8cm	-	指押さえ	灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（中）多量 茶色砂粒（中）多量 黒色砂粒（中）多量	26.7g
419	包含層	有溝土錘	ほぼ完形	-	5.2cm	-	指押さえ,ナデ	浅黄(2.5Y7／4)	透明砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	39.7g
420	包含層	有溝土錘	完形	-	5.0cm	-	指押さえ	灰黄(2.5Y7／2)	透明砂粒（中）多量 白色砂粒（中）多量	41.6g

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
421	包含層	有溝土錘	完形	-	4.9cm	-	外:指押さえ,ナデ	浅黄橙(10YR8／4)＋橙(7.5YR7／6)	透明砂粒（中）微量 白色砂粒（小）微量	43.4g
422	包含層	有溝土錘	75%	-	-	-	指押さえ	にぶい黄(2.5Y6／3)	透明砂粒（大）多量 雲母（小）少量	18.3g
428	SX05	陶器 椀	底部完存	-	-	4.2cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り,施釉 内:回転ナデ,施釉	釉:浅黄(2.5Y7／4) 断:淡黄(2.5Y8／3)	白色砂粒（小）微量	
429	SX06	土師質土器 土鍋	口縁部5%	38.0cm	-	-	外:ナデ,指押さえ 内:ナデ,板ナデ	外:橙(7.5YR7／6) 内断:浅黄橙(10YR8／4)	白色砂粒（大）多量 灰色砂粒（大）多量	
431	SD33	陶器 皿	口縁部50%	12.7cm	3.7cm	3.6cm	外:施釉,回転ナデ 内:施釉,染付,蛇の目釉剥	釉:明オリ-ブ(5GY7／1) 断:灰白(N8／0)	透明砂粒（小）微量 黒色砂粒（小）微量	
432	SD33	備前焼 壺	底部25%	-	-	13.0cm	外:回転ナデ,ヘラ削り,ナデ 内:回転ナデ	外内:灰(7.5Y4／1) 断:灰赤(2.5YR5／2)	白色砂粒（中）多量 灰色砂粒（中）多量	
433	SD33	備前焼 擂鉢	口縁部15%	25.0cm	7.6cm	12.2cm	外:回転ナデ,ヘラ切り,ナデ 内:回転ナデ,卸目	外内:暗赤灰(10R3／1) 断:明褐灰(7.5YR7／1)	白色砂粒（中～大）多量	
434	SD34	青磁 椀	口縁部10%	14.8cm	-	-	外:回転ナデ,蓮弁文 内:回転ナデ,施釉,貫入	釉:緑灰(7.5GY7／1) 断:灰(N7／0)	精緻	
435	包含層	唐津 椀	底部40%	-	-	10.2cm	外:回転ナデ,削り出し高台 内: 施釉,砂目積	外:赤(10R5／6) 内釉:灰白(5Y8／2) 断:橙(5YR6／6)	白色砂粒（中）微量 赤色粒子（中）微量	
436	包含層	唐津 椀	底部40%	-	-	9.1cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り,ナデ 内:回転ナデ,施釉,砂目積	釉:灰白(2.5YR8／1) 断:灰褐(5YR6／2)	白色砂粒（中）少量	
437	包含層	唐津 椀	底部15%	-	-	9.7cm	外:回転ナデ,施釉 内:施釉	外釉:灰黄褐(10YR4／2) 内釉:淡黄(5Y8／3) 断:橙(2.5YR6／6)	白色砂粒（小）微量	
438	包含層	白磁 椀	底部15%	-	-	4.1cm	外:施釉 内:施釉,蛇の目釉剥,砂目積	釉:明緑灰(10GY8／1) 断:灰白(5Y8／1)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	
439	包含層	磁器 椀	底部完存	-	-	5.9cm	外:染付,施釉 内:染付,施釉,ハマ熔着痕	釉:透明 断:白	精緻	
440	包含層	唐津 椀	口縁部20%	18.0cm	-	-	外内:回転ナデ,施釉	釉:灰黄褐(10YR4／3) 断:灰白(10YR7／1)	白色砂粒（中）微量	
441	包含層	陶器 椀	底部35部	-	-	10.0cm	外内：横ナデ、施釉	外釉:褐（7.5YR4／3) 内釉:灰オリーブ(5Y5／3) 断:灰褐（5YR4／2)	白色砂粒（小）微量	
442	包含層	陶器 椀	底部55部	-	-	4.9cm	外:回転ナデ,ナデ,ヘラ削り 内:回転ナデ	外:灰黄褐（10YR5／2) 釉:黒褐（2.5Y3／2) 断:灰（5Y5／1)	精緻	
443	包含層	唐津 椀	底部45%	-	-	4.6cm	外:回転ナデ 内:回転ナデ,施釉,砂目積	外断:にぶい橙(7.5YR7／4) 釉:灰白(2.5Y8／1)	白色砂粒（小）微量	
444	包含層	須恵質土器 椀	底部60%	-	-	2.8cm	外:回転ナデ,糸切り 内:回転ナデ	外:暗灰(N3／0)＋白灰(N7／0)＋灰褐(7.5YR4／2) 内:灰(N4／0)＋灰白(N7／0) 断:灰白(N7／0)	透明砂粒（小）微量 白色砂粒（小）微量	
445	包含層	磁器 椀	底部60%	-	-	4.2cm	外内:染付,施釉	釉:透明 断:灰白(N8／0)	精緻	
446	包含層	磁器 椀	口縁部30%	7.8cm	4.6cm	3.6cm	外:回転ナデ,染付,施釉 内:回転ナデ,施釉	釉:透明 断:灰白(N8／0)	黒色粒子（小）少量	
447	包含層	青磁 薬壺	口縁部10%	17.6cm	-	-	外内:施釉	釉:暗オリーブ(7.5Y4／3) 断:灰白(5Y8／1)	精緻	
448	包含層	唐津 溝縁皿	口縁部5%	14.0cm	-	-	外内:回転ナデ,施釉	釉:オリーブ灰(10Y6／2) 断：にぶい黄橙(2.5Y6／3)	精緻	
449	包含層	唐津 溝縁皿	口縁部10%	6.0cm	-	-	外内:回転ナデ,施釉	釉:オリーブ灰(2.5GY6／1) 断:灰白(7.5Y7／1)	白色砂粒（小）微量	

番号	出土位置	器種	残存率	口径	器高	底径	整形の特徴	色調	胎土	備考
450	包含層	唐津 溝縁皿	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ,施釉	釉:透明 断:灰白(7.5Y7/1)	白色砂粒（小）微量黒色砂粒（小）微量	
451	包含層	陶器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:施釉	釉:灰オリーブ(7.5Y5/2) 断:灰白(7.5Y7/1)	精緻	
452	包含層	唐津 皿	口縁部40%	10.5cm	2.6cm	4.9cm	外:回転ナデ,施釉 内:回転ナデ,施釉,ハマ熔着痕	釉:透明 断:にぶい黄橙(10YR7/3)	茶色砂粒（小）微量	
453	包含層	陶器 椀	底部完存	-	-	4.7cm	外:回転ナデ,回転ヘラ削り,施釉 内:回転ナデ,施釉,蛇の目釉剥	外釉:浅黄(7.5Y7/3) 内釉:暗緑灰(5G4/1) 断:灰白(5Y8/1)	白色砂粒（小）微量	
454	包含層	磁器 椀	底部50%	-	-	4.4cm	外:回転ナデ,施釉,回転ヘラ削り 内:回転ナデ,施釉,蛇の目釉剥	釉:明緑灰(7.5GY8/1) 断:灰白(N8/0)	精緻	
455	包含層	土師器 鉢	底部35%	-	2.8cm	4.1cm	外:横ナデ,ナデ 内:横ナデ	外:淡黄(2.5Y8/3)＋明褐(7.5YR5/6) 内断:橙(7.5YR7/6)	透明砂粒（大）微量 白色砂粒（小）微量	
456	包含層	瓦質土器 土釜	口縁部小片	-	-	-	外:横ナデ,板ナデ 内:横ナデ	外:暗灰(N3/0) 内:灰(N6/0) 断:灰白(5Y8/1)	白色砂粒（小）微量	
457	包含層	陶器 壺	口縁部40%	13.8cm	-	-	外:回転ナデ,沈線内:回転ナデ	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内断:にぶい赤褐(5YR5/3)	透明砂粒（中）多量 白色砂粒（中）多量 黒色砂粒（中）多量	
458	包含層	土師器 消壺の蓋	つまみ部完存	-	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ,ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	白色砂粒（中）少量 金雲母（中）微量	
459	包含層	土師器 消壺の蓋	口縁部15%	22.4cm	-	-	内外:横ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	透明砂粒（中）少量 白色砂粒（中）少量 黒色砂粒（中）少量	
469	SK08	磁器 椀	口縁部小片	-	-	-	外内:回転ナデ,施釉,貫入	釉:透明 断:灰白(5Y7/2)	黒色砂粒（小）少量 精緻	

第8表　瓦観察表

番号	出土遺物	器種	筒部長	玉縁長	筒部径	玉縁径	厚さ	整形の特徴	色調	胎土	備考
210	SP0740	平瓦	-	-	-	-	1.3cm	凹:布目 凸:縄目タタキ	灰(N5/0)	透明砂粒(大)少量 白色砂粒(大)少量	
37C	包含層	丸瓦	-	3.8cm	-	5.0cm	2.0cm	凸:ヘラ削り,ナデ 凹:縄目タタキ	凸凹:黒(N1.5/0) 断:灰(N5/0)	透明砂粒(大)多量 白色砂粒(大)多量	
460	包含層	軒丸瓦	-	-	-	-	1.1cm	凸凹:指ナデ	凸凹:灰(5Y5/1) 断:灰白(5Y8/1)	透明砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)少量	
461	包含層	軒丸瓦	-	-	5.5cm	-	1.3cm	凸:板ナデ 凹:縄目タタキ	凸凹:暗灰(N3/0)＋灰(N4/0～N6/0)	透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)微量	
462	包含層	平瓦	-	-	-	-	2.7cm	凹凸:ヘラ削り,ナデ	凹凸:灰(5Y4/1) 断:灰白(5Y7/1)	灰色砂粒(大)多量	
463	包含層	丸瓦	-	-	13.0cm	-	1.7cm	凸:ナデ 凹:ヘラ削り,ナデ	凹:暗灰(N3/0) 凸:暗灰(N3/0) 断:灰白(7.5Y7/1)	灰色砂粒(小)微量	

第9表　石器観察表

番号	出土位置	器種	現存長	最大幅	最大厚	材質	重量	備考
35	SR01	磨石	12.4cm	7.5cm	4.5cm	安山岩	720.6g	
48	SR07	石庖丁	6.5cm	4.5cm	0.7cm	サヌカイト	28.0g	
67	SR09	砥石	7.8cm	6.3cm	1.9cm	安山岩	193.2g	
68	SR09	砥石	9.1cm	4.5cm	1.5cm	安山岩	106.0g	
69	SR09	打製石斧	5.3cm	3.3cm	0.7cm	安山岩	15.0g	
106	包含層	石匙	3.0cm	7.2cm	0.6cm	サヌカイト	10.7g	
107	包含層	石庖丁	4.7cm	4.6cm	0.9cm	安山岩	27.0g	
108	包含層	石庖丁	3.9 cm	4.4cm	0.4cm	サヌカイト	13.4g	
109	包含層	石鏃	3.0cm	1.1cm	0.4cm	サヌカイト	1.1g	
110	包含層	石鏃	2.3cm	1.5cm	0.3cm	サヌカイト	0.8g	
111	包含層	石鏃	1.6cm	1.5cm	0.3cm	サヌカイト	0.6g	
112	包含層	石鏃	2.0cm	1.1cm	0.3cm	サヌカイト	0.5g	
113	包含層	石鏃	3.7cm	1.3cm	0.5cm	サヌカイト	2.1g	
114	包含層	石鏃	2.6cm	1.7cm	0.3cm	サヌカイト	1.7g	
115	包含層	石鏃	1.8cm	1.2cm	0.2cm	サヌカイト	0.4g	
116	包含層	打製石斧	17.3cm	7.0cm	1.3cm	サヌカイト	240.9g	
117	包含層	磨石	10.5cm	10.4cm	8.3cm	砂岩	1157.7g	
143	包含層	管玉	3.0cm	0.8cm	0.9cm	碧玉	3.5g	
160	SP0035	砥石	7.0cm	2.6cm	2.0cm	片岩	79.0g	
161	SP0035	石鏃	3.1cm	1.9cm	0.3cm	サヌカイト	1.8g	
217	SP0152	砥石	17.5cm	13.6cm	8.4cm	安山岩	2930.0g	
218	SP0730	磨石	15.5cm	13.8cm	8.7cm	砂岩	2485.0g	
224	SP1006	磨石	7.2cm	6.0cm	5.2cm		296.4g	
262	SD18	砥石	11.7cm	2.7cm	2.8cm	安山岩	182.1g	
279	SD24	スクレイパー	5.9cm	4.2cm	7.5cm	サヌカイト	24.2g	
299	SD28	石鏃	3.2cm	1.5cm	0.4cm	サヌカイト	1.7g	
394	包含層	砥石	11.6cm	4.4cm	1.9cm	安山岩	194.6g	
430	SX06	石鏃	2.0cm	1.6cm	0.3cm	サヌカイト	0.8g	
468	SK07	石鏃	1.9cm	1.8cm	0.3cm	サヌカイト	0.6g	

第10表　木器観察表

番号	出土位置	器種	現存長	最大幅	最大厚	木取り	材質	備考
212	SP0160	漆椀	口径不明	器高不明	底径7.0cm	心持材		
213	SP0328	不明木製品	25.0cm	1.5cm	1.5cm	柾目取		
395	包含層	部材	11.3cm	2.6cm	2.1cm	板目取		
396	包含層	蓋	11.6cm	13.2cm	1.3cm	柾目取		
425	SE03	蓋	11.2cm	3.4cm	0.7cm	柾目取		
426	SE03	横櫛	9.7cm	3.7cm	0.9cm	板目取	広葉樹	
427	SE03	横櫛	4.2cm	1.3cm	5.0cm	板目取		

第11表　金属器・骨角器観察表

番号	出土位置	器種	現存長	最大幅	最大厚	材質	備考
214	SP0584	骨角器　ヤス	2.3cm	0.7cm	0.5cm	骨	
215	SP0160	古銭　宣和通宝	直径2.5cm	-	0.1cm	銅	
216	SP0160	古銭　宣和通宝	直径2.4cm	-	0.2cm	銅	
256	SD18	鉄鏃	3.5cm	0.9cm	0.9cm	鉄	
423	包含層	古銭　天嘉通宝	直径2.4cm	-	0.2cm	銅	
424	包含層	古銭　洪武通宝	直径2.2cm	-	0.2cm	銅	
464	包含層	古銭　寛永通宝	直径2.5cm	-	0.2cm	銅	
465	包含層	古銭　寛永通宝	直径2.5cm	-	0.2cm	銅	
466	包含層	古銭　寛永通宝	直径2.5cm	-	0.2cm	銅	
467	包含層	古銭　寛永通宝	直径1.3cm	-	0.1cm	銅	

第12表　ピット一覧表

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
B	0001	18	10					SB02	
B	0002	24, 17	15					SB02	
B	0003	20	10					SB02	
B	0004	26	19					SB02	
B	0005	20	12					SB02	
B	0006	20	11					SB02	
B	0007	44	12						
B	0008	45	43						
B	0009	63	51						
C	0010	32	6						
C	0011	32	6						
C	0012	32	7						
C	0013	24	9	弥生土器				SB01	
C	0014	24	0	弥生土器・甕				SB01	
C	0015	24	12					SB01	
C	0016	22	20	弥生土器				SB01	
D	0017	68	7						
D	0018	28	7						
D	0019	45	10						
D	0020	40	6						
D	0021	28							
D	0022	25	6						
E	0023	70, 50	16						
E	0024	19	11					SB03	
E	0025	31, 26	11	土師器・杯・小皿	144, 145, 148, 149, 150, 154, 155, 156, 157			SB03	
E	0026	26	6					SB03	

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0027	21	10					SB03	
E	0028	25	15					SB03	
E	0029	39	13					SB03	
E	0030	28, 24	28					SB03	
E	0031	22	12					SB03	
E	0032	21	30	土師器・杯，石	158			SB03	
E	0033	22, 16	33	土師器・杯	147			SB03	
E	0034	20	23	土師器・杯，白磁・椀				SB03	
E	0035	18, 16	26	土師器・小皿，石	159, 160, 161			SB03	
E	0036	27, 23	17		146			SB03	
E	0037	22	18	瓦質土器・椀				SB03	
E	0038	20	16		151			SB03	
E	0039	20	11	土師器，石				SB03	
E	0040	19	10					SB03	
E	0041	27	23					SB03	
E	0042	24	13	土師器・杯・小皿	152, 153			SB03	
E	0043	39, 30	28					SB03	
E	0044	25	21	土師器・杯				SB03	
E	0045	25	14					SB03	
E	0046	24	20						
E	0047	29	21						
E	0048	22, 20	10						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0049	20	26						
E	0050	19	23						
E	0051	25, 23	17						
E	0052	22	39						
E	0053	19	17	土師器・小皿	170				
E	0054	26	26	土師質土器・土釜	179, 202				
E	0055	26	28		172				
E	0056	28, 24	29						
E	0057	30	33						
E	0058	15	17						
E	0059	15	20						
E	0060	20, 16	29						
E	0061	18, 14	13						
E	0062	25, 20	11						
E	0063	23, 15	20						
E	0064	15	14						
E	0065	15	18						
E	0066	20, 16	13						
E	0067	15	13						
E	0068	17	13						
E	0069	40	10						
E	0070	25	14						
E	0071	20	14						
E	0072	27	18	土師器・小皿					
E	0073	34	19	備前焼	185				
E	0074	15	5						
E	0075	30, 25	24						
E	0076	27	25						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0077	55	16						
E	0078	30, 20	10	土師器・杯					
E	0079	15	26						
E	0080	20	20						
E	0081	15	21						
E	0082	20	27						
E	0083	25, 20	10						
E	0084	30	13						
E	0085	30	25						
E	0086	21	18						
E	0087	30	19						
E	0088	25	26						
E	0089	25	14						
E	0090	55, 44	31						
E	0091	32	29						
E	0092	25, 20	23		173				
E	0093	25	21	土師器・杯					
E	0094	20	20		163				
E	0095	15	26						
E	0096	50	25						
E	0097	40, 30							
E	0098	35							
E	0099	27	10	土師器・杯					
E	0100	65, 52	27	土師器・小皿					
E	0101	30, 25	11	土師質土器・土鍋, 須恵器					

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0102	18	21						
E	0103	20	15	土師器					
E	0104	21	17						
E	0105	15	5						
E	0106	61, 49	17	土師質土器・土鍋					
E	0107	22	11						
E	0108	76, 30	11						
E	0109	55	12						
E	0110	25	15						
E	0111	18	14						
E	0112	15	15						
E	0113	28	18	土師質土器・土釜					
E	0114	23	8						
E	0115	17	28						
E	0116	75	16						
E	0117	24, 20	16	土師質土器・土釜					
E	0118	23	26						
E	0119	23	19	土師器・小皿					
E	0120	27	10						
E	0121	62, 44	20	土師質土器・土釜					
E	0122	30	20						
E	0123	35	20						
E	124	50	22						
E	0125	48, 40	14		194				
E	0126	26	17	土師器・小皿					

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0127	20	18						
E	0128	23	20	土師器・小皿	196				
E	0129	47, 33	25						
E	0130	57	24	土師質土器・土鍋, 土師器・杯					
E	0131	27, 23	22	土師器・小皿					
E	0132	19	15						
E	0133	21	21	土師質土器・土鍋, 土師器・小皿	206				
E	0134	30	26						
E	0135	28	23	土師質土器・土釜					
E	0136	30, 24	23	土師質土器・土鍋					
E	0137	25	16						
E	0138	30, 20	24						
E	0139	38	25						
E	0140	28	11						
E	0141	20, 15	13						
E	0142	26	24						
E	0143	30	12						
E	0144	26	12		205				
E	0145	58	14						
E	0146	29	12						
E	0147	48, 41	9	土師質土	208				

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
				器。土鍋，土師器。杯					
E	0148	27,22	23	土師器。小皿					
E	0149	56	34						
E	0150	46	14						
E	0151		32	土師質土器。土釜					
E	0152	24, 20	23		217				
E	0153	25	9						
E	0154	35	11						
E	0155	38	31						
E	0156	64	27	土師質土器。土鍋					
E	0157	38, 25	19						
E	0158	30	31	備前焼					
E	0159	35	12						
E	0160	68, 62	38	土師質土器。土鍋 擂鉢	162, 178, 186, 215, 216				
E	0161	25	8						
E	0162	25	14						
E	0163	30, 26	24	土師器					
E	0164	36, 27	28	備前焼					
E	0165	23	19						
E	0166	31	25						
E	0167	22	16						
E	0168	56, 50	37	備前焼					
E	0169	55	31						
E	0170	22	11						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0171	15	7						
E	0172	42, 36	27	土師質土器・土鍋					
E	0173	21	28						
E	0174	144, 75	36						
E	0175	35, 29	32	備前焼，土師質土器・土釜，土師器・杯					
E	0176	61, 48	38	備前焼，土師質土器・土鍋擂鉢					
E	0177	27	14						
E	0178	43	19	土師器					
E	0179	43, 30	32						
E	0180	32	32						
E	0181	27	12						
E	0182	16	7						
E	0183	23	11						
E	0184	20	12						
E	0185	25	16						
E	0186	26	12						
E	0187	23	44						
E	0188	35	28						
E	0189	28	18						
E	0190	20	15						
E	0191	20	14						
E	0192	42	17	土師器・					

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
				杯					
E	0193	43	26						
E	0194	39	36						
E	0195	51	18						
E	0196	40	19						
E	0197	27	14						
E	0198	35, 25	10						
E	0199	58	18						
E	0200	43	11						
E	0201	28	18						
E	0202	65	12						
E	0203	30	15						
E	0204	30	7						
E	0205	34, 28	24						
E	0206	19	11						
E	0207	15	11						
E	0208	24	18						
E	0209	24, 12	16	土師質土器・土釜					
E	0210	37	29						
E	0211	34	21	土師器・杯					
E	0212	20	8						
E	0213	20, 15	13						
E	0214	12	16						
E	0215	15, 10	7						
E	0216	14	4						
E	0217	25	16						
E	0218	27	15						
E	0219	21	10						
E	0220	17	11						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0221	55, 40	18	土師器					
E	0222	34, 25	18						
E	0223	46	29						
E	0224	25	25						
E	0225	19	21						
E	0226	20	17						
E	0227	34	12						
E	0228	21	12						
E	0229	14	11						
E	0230	21	18						
E	0231	24	24	備前焼					
E	0232	26, 20	16						
E	0233	19	22						
E	0234	16	17						
E	0235	29, 22	13						
E	0236	22	16						
E	0237	16	6						
E	0238	29, 25	18						
E	0239	20, 16	13	骨，土師器					
E	0240	16	14	土師器・小皿					
E	0241	20	17						
E	0242	13	12						
E	0243	28, 22	15						
E	0244	14	7						
E	0245	13	9						
E	0246	20	11						
E	0247	25	19						
E	0248	25	18						
E	0249	25	20						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0250	30, 24	8						
E	0251	21	14						
E	0252	18	11	土師質土器・土釜					
E	0253	20	16						
E	0254	29	14						
E	0255	20	6						
E	0256	39	18						
E	0257	20	6						
E	0258	22, 20	20						
E	0259	21	19						
E	0260	25	14						
E	0261	30	16						
E	0262	24	18						
E	0263	27, 20	17						
E	0264	24	16						
E	0265	18	13						
E	0266	18	13						
E	0267	19	12						
E	0268	27	22	土師器・杯					
E	0269	27, 20	21	土師器・杯					
E	0270	20	13						
E	0271	34	18						
E	0272	20	19						
E	0273	40, 34	31	青磁，土師器	168				
E	0274	22	17						
E	0275	20	18		189				
E	0276	30	23	焼土					

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0277	22	21						
E	0278	23	9						
E	0279	36	13	土師器・杯					
E	0280	24, 20	16	青磁					
E	0281	16	10						
E	0282	16	9						
E	0283	19	14						
E	0284	26	15						
E	0285	24	11						
E	0286	28	14		199				
E	0287	25	15						
E	0288	25	16						
E	0289	25	11						
E	0290	20	18						
E	0291	20	18						
E	0292	20	18						
E	0293	36	18						
E	0294	23	11						
E	0295	31	19						
E	0296	32	9						
E	0297	35	8						
E	0298	26	22						
E	0299	90, 43	23						
E	0300	15	18						
E	0301	16	8						
E	0302	36	21		171, 192				
E	0303	20	17						
E	0304	26	18		167				
E	0305	35	11						
E	0306	16	4						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0307	28	10						
E	0308	30	29						
E	0309	23	7						
E	0310	33	22						
E	0311	46	16						
E	0312	46	22						
E	0313	45	14						
E	0314	90, 78	14	陶器，土師質土器・土釜					
E	0315	38	25	土師質土器・土釜					
E	0316	41	26						
E	0317	20	21						
E	0318	48	22	土師器，須恵器					
E	0319	28	19						
E	0320	23	19						
E	0321	25	2						
E	0322	28, 20	22						
E	0323	53	17						
E	0324	26	15						
E	0325	62	12						
E	0326	26	21						
E	0327	75	32						
E	0328	26, 20	19		213				
E	0329	22	24						
E	0330	20	22						
E	0331	29	7						
E	0332	25	20						
E	0333	24	26						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0334	30	9						
E	0335	19	18						
E	0336	40	39						
E	0337	30	14						
E	0338	25	18						
E	0339	30	16						
E	0340	25	14						
E	0341	26	19						
E	0342	27	22						
E	0343	91	43						
E	0344	25	13						
E	0345	20	22						
E	0346	32	26						
E	0347	33	28						
E	0348	22	41						
E	0349	24	5						
E	0350	29	15						
E	0351	25	21						
E	0352	28	4						
E	0353	39	17						
E	0354	31	19						
E	0355	17	21						
E	0356	20	20						
E	0357	32, 26	25						
E	0358	22	20						
E	0359	27	25		207				
E	0360	28	23						
E	0361	41	20						
E	0362	26	12						
E	0363	30	18						
E	0364	25	19						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0365	25	12						
E	0366	23	16						
E	0367	25	11						
E	0368	35, 20	15						
E	0369	33	17						
E	0370	20	18						
E	0371	21	18						
E	0372	24	14						
E	0373	34, 28	23						
E	0374	22	13						
E	0375	32	17						
E	0376	32	16						
E	0377	21	12						
E	0378	18	15						
E	0379	21	13						
E	0380	20	18						
E	0381	16	14						
E	0382	18	8						
E	0383	30	19						
E	0384	20	10						
E	0385	15	16						
E	0386	23	25						
E	0387	21	15	土師器・杯					
E	0388	18	32						
E	0389	23	30						
E	0390	21	15						
E	0391	23	20						
E	0392	28	29						
E	0393	40, 23	21						
E	0394	35	8						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0395	24	25						
E	0396	26	26						
E	0397	36	20						
E	0398	36	28						
E	0399	20	6						
E	0400	40, 21	40						
E	0401	17	14						
E	0402	36, 11	13						
E	0403	35	12						
E	0404	21	15						
E	0405	48	35						
E	0406	20	14						
E	0407	26	10						
E	0408	53, 13	28						
E	0409	18	8	土師器・杯	166				
E	0410	20	29						
E	0411	25	24						
E	0412	48, 20	24	骨					
E	0413	28	29						
E	0414	14	8						
E	0415	30, 15	17						
E	0416	25	19						
E	0417	20	16		211				
E	0418	21	11						
E	0419	21	16						
E	0420	28	19	土師器・杯					
E	0421	31	22						
E	0422	16	17						
E	0423	25	15						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0424	46	21						
E	0425	31	18						
E	0426	19	5						
E	0427	36	29						
E	0428	44	28	土師器					
E	0429	20	33						
E	0430	25	17						
E	0431	24, 20	28						
E	0432	27	17						
E	0433	46, 37	12	土師器・杯					
E	0434	21	3						
E	0435	20	5						
E	0436	15	3						
E	0437	26	6	土師器					
E	0438	26	18	土師器・小皿					
E	0439	16	5						
E	0440	35	33						
E	0441	26	14						
E	0442	21	10						
E	0443	40	18						
E	0444	29	24						
E	0445	48, 31	17						
E	0446	35	18						
E	0447	25	18						
E	0448	30	19						
E	0449	30	22						
E	0450	27	17						
E	0451	21	17						
E	0452	28	12						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0453	21	12						
E	0454	20	13						
E	0455	26	16						
E	0456	32	20						
E	0457	29	29						
E	0458	20	5						
E	0459	23	21						
E	0460	27, 21	13						
E	0461	20	5						
E	0462	21	3						
E	0463	20	11						
E	0464	20	3						
E	0465	30	20						
E	0466	23	10						
E	0467	25	23						
E	0468	28	18						
E	0469	31	19						
E	0470	25	19						
E	0471	24	5						
E	0472	23	10						
E	0473	23, 17	8	土師器					
E	0474	16	4						
E	0475	29	22						
E	0476	25	14						
E	0477	44, 32	22		200				
E	0478	18	12						
E	0479	40	10						
E	0480	28	18		181				
E	0481	23	9						
E	0482	23	9						
E	0483	20	7						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0484	32, 26	12	備前焼					
E	0485	31	5						
E	0486	20	8	土師器					
E	0487	23	12						
E	0488	14	6						
E	0489	20	5	土師器					
E	0490	28	13						
E	0491	30	22						
E	0492	13	12						
E	0493	21	20						
E	0494	42, 30	31	土師質土器・土釜, 土師器・杯					
E	0495	30, 13	12						
E	0496	20	8						
E	0497	30	32						
E	0498	20	28	土師器					
E	0499	30	17	石					
E	0500	25	21						
E	0501	32	24						
E	0502	25	23						
E	0503	16	13						
E	0504	20	9						
E	0505	23	6						
E	0506	20	5						
E	0507	20	19						
E	0508	20	13						
E	0509	18	10						
E 1	0510	18, 15	13	土師器・小皿					

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0511	22	14	土師質土器・土釜					
E	0512	20	12						
E	0513	20	4						
E	0514								
E	0515	15	16						
E	0516	20	6						
E	0517	21	29						
E	0518	20	27	瓦質土器					
E	0519	30	5						
E	0520	25	27						
E	0521	20	15						
E	0522	24, 19	6	土師器・小皿					
E	0523	18	6						
E	0524	14	3						
E	0525	20	22						
E	0526	20	17						
E	0527	24	13						
E	0528	33	17						
E	0529								
E	0530	20	8						
E	0531	20	8						
E	0532	23	15						
E	0533	21	10						
E	0534	21	13						
E	0535	20	14						
E	0536	40, 32	23						
E	0537	20	9						
E	0538	20	16						
E	0539	23	14						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0540	26	16						
E	0541	28	7	土師質土器・土釜					
E	0542	21	5						
E	0543	18	4						
E	0544	15	9						
E	0545	16	6						
E	0546	18	9						
E	0547	18	16						
E	0548	20	10						
E	0549	16	9						
E	0550				191				
E	0551	24	28						
E	0552	20	18						
E	0553	24	14						
E	0554	16	18	土師器					
E	0555	20	7						
E	0556	25	20						
E	0557	26	18						
E	0558	39	14	土師器					
E	0559	20	4						
E	0560	15	6						
E	0561	19	8						
E	0562	15	11						
E	0563	20	11						
E	0564	23	7						
E	0565	37	31						
E	0566	15	4						
E	0567	22	17						
E	0568	25	12						
E	0569	22	14						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0570	32	19						
E	0571	31	19						
E	0572	21	11						
E	0573	29	15						
E	0574	25	13						
E	0575	25	8						
E	0576	25	8						
E	0577	25	8						
E	0578	17	14						
E	0579	20	15						
E	0580	29, 15	4						
E	0581	21	14						
E	0582	20	12	土師質土器・土釜					
E	0583	23	12						
E	0584	17	13	備前焼，土師器	203, 212				
E	0585	25	18						
E	0586	32, 26	18	土師器・小皿					
E	0587	23	1						
E	0588	20	5						
E	0589	27	15						
E	0590	20	13						
E	0591	15	3						
E	0592	14	16						
E	0593	20	7						
E	0594	17	10						
E	0595	28	6						
E	0596	28	10						
E	0597	19	16						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0598	24	24	土師器					
E	0599	30	13						
E	0600	30, 20	14						
E	0601	20	14						
E	0602	25	23						
E	0603	30	28						
E	0604	25	8						
E	0605	18	6						
E	0606	34	8						
E	0607	21	6						
E	0608	18	8						
E	0609	31	4						
E	0610	30	37						
E	0611	25	10						
E	0612	27	11						
E	0613	20	13						
E	0614	15	15						
E	0615	13	19	土師器・小皿					
E	0616	23	17						
E	0617	26	17						
E	0618	21	8						
E	0619	26	20						
E	0620	20	13						
E	0621	32	10						
E	0622	13	6						
E	0623	25	13						
E	0624	30	24						
E	0625	26	17						
E	0626	30	18						
E	0627	36, 30	31		174				

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0628	21	9						
E	0629	22	8	土師器					
E	0630	20	6		180				
E	0631	20	15						
E	1632	25	23						
E	0633	16	6						
E	0634	15	5						
E	0635	18	10						
E	0636	20	12						
E	0637	26	31	土師器	177				
E	0638	28	21						
E	0639	23	9						
E	0640	17	17						
E	0641	26	18		201				
E	0642	20	4						
E	0643	38	29						
E	0644	30	27						
E	0645	18	18						
E	0646	36	23	土師器・小皿					
E	0647	23	21						
E	0648	26	15						
E	0649	25	14						
E	0650	22	14	土師質土器・土釜					
E	0651	25	22						
E	0652	26, 21	19						
E	0653	28	10						
E	0654	28	11						
E	0655	28	13						
E	0656	20	14						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0657	22	15	瓦質土器・こね鉢土師器					
E	0658	19	9						
E	0659	40	20						
E	0660	20	6						
E	0661	21	7						
E	0662	16	6						
E	0663	17	12						
E	0664	48	2						
E	0665	36	37						
E	0666	27	6						
E	0667	26	10	土師器・杯					
E	0668	27	14						
E	0669	20	6						
E	0670	28	3						
E	0671	39, 23	11						
E	0672	18	14						
E	0673	32, 26	28						
E	0674	32, 23	17						
E	0675	38, 34	32	土師器					
E	0676	21	15						
E	0677	31	38						
E	0678	25	16						
E	0679	20	11						
E	0680	20	16						
E	0681	29	12						
E	0682	34	13						
E	0683	27	16						
E	0684	32	38						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0685	31	19						
E	0686	34	22						
E	0687	32	36						
E	0688	32, 27	35						
E	0689	24	26						
E	0690	23	4						
E	0691	21	6						
E	0692	20	6						
E	0693	32	30	土師質土器・土釜					
E	0694	32	27						
E	0695	30	33						
E	0696	20	29						
E	0697	20	31						
E	0698	45, 28	13						
E	0699	15	5						
E	0700	34, 24	26	土師質土器・土釜					
E	0701	42	33						
E	0702	18	6						
E	0703	16	16						
E	0704	23	23						
E	0705	28	32						
E	0706	19	8						
E	0707	29, 24	12	土師器					
E	0708	28	18	土師器					
E	0709	23	19						
E	0710	28	7						
E	0711	15	12						
E	0712	43	19						
E	0713	31	37						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0714	59	15						
E	0715	35	32						
E	0716	18	11	土師器					
E	0717	17	18	土師器					
E	0718	15	12						
E	0719	10	12						
E	0720	25	9						
E	0721	19	6						
E	0722	20	18						
E	0723	35, 20	11						
E	0724	29	12						
E	0725	25	17						
E	0726	32	23						
E	0727	22	17	瓦質土器					
E	0728	20	3						
E	0729	28	22						
E	0730	61, 50	49		169, 182, 218				
E	0731	50	30						
E	0732	38	42						
E	0733	58	44						
E	0734	29	31						
E	0735	33	23						
E	0736	29	21						
E	0737	23	16	土師質土器・土釜					
E	0738	20	16						
E	0739	22	15						
E	0740	50, 38	35	土師器	210				
E	0741	54	19						
E	0742	52	21	土師器	209				

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0743	66, 54	10	土師質土器・土釜					
E	0744	30	23						
E	0745	35	10						
E	0746	36	42	土師器・杯					
E	0747	38	41						
E	0748	65	10						
E	0749	45	50						
E	0750	36	24						
E	0751	35	28						
E	0752	43	46						
E	0753	93, 63	45						
E	0754	28	10						
E	0755	23	12						
E	0756	43	39						
E	0757	21	16						
E	0758	30, 24	30		195				
E	0759	28	10						
E	0760	21	27						
E	0761	26	19						
E	0762	22	25						
E	0763	31	28						
E	0764	30	9	土師器・小皿，瓦質土器					
E	0765	26	25	土師器・小皿					
E	0766	30	16	備前焼，土師器					
E	0767	30	30						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0768	28	20						
E	0769	22	9						
E	0770	50	36	土師質土器・土鍋					
E	0771	45, 36	30	土師器					
E	0772	34	9	土師器					
E	0773	30	32						
E	0774	66	29						
E	0775	26	7						
E	0776	38, 12	23						
E	0777	24	33						
E	0778	20	16						
E	1779	20	16						
E	0780	24	19						
E	0781	24	30						
E	0782	46, 36	33	土師質土器・土釜, 備前焼					
E	0783	15	20						
E	0784	18	17						
E	0785	33	35						
E	0786	53	23						
E	0787	24	29						
E	0788	28	26						
E	0879	28	21						
E	0790	28	16						
E	0791	29	31						
E	0792	25	27						
E	0793	31	30						
E	0794	30	33	土師器					
E	0795	41	33						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0796	40	45	土師器					
E	0797	25	48						
E	0798	45	38						
E	0799	44	32		197				
E	0800	35	32						
E	0801	52	38						
E	0802	40	35	土師器					
E	0803	60, 46	35	土師器	204				
E	0804	38	32		190, 212				
E	0805	34, 24	34	土師質土器・土釜					
E	0806	42	28						
E	0807	35	42						
E	0808	44	35	土師質土器・土鍋					
E	0809	26	36						
E	0810	26	42						
E	0811	26	12						
E	0812	41	34						
E	0813	23	19						
E	0814	20	14						
E	0815	23	17						
E	0816	20	15						
E	0817	20	11						
E	0818	22	15						
E	0819	60	37						
E	0820	22	24	瓦質土器					
E	0821	56, 32	36	備前焼					
E	0822	43	30						
E	0823	28	30						
E	0824	29	19						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0825	39	28						
E	0826	18	18	土師質土器・土釜					
E	0827	31	28						
E	0828	30	20	備前焼					
E	0829	28	28						
E	0830	35, 20	16						
E	0831	32	29						
E	0832	33	26						
E	0833	28, 24	30	備前焼					
E	0834	28	11						
E	0835	18	9	土師器					
E	0836	23	18						
E	0837	18							
E	0838	22	16						
E	0839	17	26						
E	0840	28, 22	20	土師器・小皿					
E	0841	28	20						
E	0842	40	26						
E	0843	38	39						
E	0844	28, 21	27		188				
E	0845	28	18						
E	0846	34	37	土師器・杯					
E	0847	26	30	土師器					
E	0848	20	8	土師器・小皿					
E	0849	28	6						
E	0850	56, 52	28	土師器					
E	0851	41	18						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0852	29	6						
E	0853	24	12						
E	0854	48, 38	25	備前焼					
E	0855	30	22						
E	0856	26, 12	13		176				
E	0857	19	9						
E	0858	30	24						
E	0859	35	12						
E	0860	29	26	備前焼, 土師器					
E	0861	35	27						
E	0862	35	24						
E	0863	28	11						
E	0864	20	11	土師質土器・土釜					
E	0865	31	26						
E	0866	40	30						
E	0867	30	11						
E	0868	28	17						
E	0869	44	16						
E	0870	35	16						
E	0871	18	21	土師質土器・土釜					
E	0872	28	30	土師器					
E	0874	23	14						
E	0875	46, 38	30	土師質土器・土鍋					
E	0876	38	14	土師器					
E	0877	29, 24	28	土師器					
E	0878	20	24		175				
E	0879	32	16						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0880	26, 22	13	土師器					
E	0881	48, 36	27	土師器・杯	187				
E	0882	24, 20	20	土師器・杯					
E	0883	20	12						
E	0884	20	20						
E	0885	63	19, 34						
E	0886	36, 30	16	土師器					
E	0887	35	25						
E	0888	23	18						
E	0889	30	20						
E	0890	34, 26	25	備前焼・壷					
E	0891	23	10						
E	0892	22	12						
E	0893	30	23						
E	0894	25	17						
E	0895	17	15						
E	0896	40	17						
E	0897	18	14						
E	0898	26, 23	22	土師器					
E	0899	18	23	土師器					
E	0900	38, 30	11	土師器・杯					
E	0901	23	13						
E	0902	46	26	土師器・杯	198				
E	0903	25	28	土師器					
E	0904	30	17						
E	0905	25	23						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0906	25	9						
E	0907	20	7						
E	0908	17	4						
E	0909	18	10						
E	0910	25	25						
E	0911	26	29						
E	0912	20	15						
E	0913	21	6						
E	0914	22	14						
E	0915	17	9						
E	0916	25	12						
E	0917	25	21						
E	0918	25	22						
E	0919	23	25						
E	0920	23	28						
E	0921	20	31						
E	0922	20	26						
E	0923	25	18						
E	0924	20	14						
E	0925	36	25						
E	0926	40, 30	28	備前焼					
E	0927	20	19						
E	0928	21	16						
E	0929	24	21						
E	0930	45, 26	16						
E	0931	24, 20	20	土師器					
E	0932	18	14						
E	0933	28	16						
E	0934	21	15						
E	0935	34	16						
E	0936	40, 34	35	土師器					

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0937	44, 35	34	土師器	164, 183, 184				
E	0938	25	13						
E	0939	32	26						
E	0940	24	12						
E	0941	25	16						
E	0942	16	3						
E	0943	18	14						
E	0944	19	23						
E	0945	32	24	石					
E	0946	25	28						
E	0947	40	31						
E	0948	27	33						
E	0949	28	20						
E	0950	17	29						
E	0951	36	12						
E	0952	31	31						
E	0953	29	14						
E	0953			土師器					
E	0954	39	19						
E	0955	27	29						
E	0956	26	36	土師質土器・土釜					
E	0957	24	30	土師器・杯					
E	0958	20	8						
E	0959	36	27	土師器・杯					
E	0960	20	17						
E	0961	25	31	土師器					
E	0962	20	17						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
E	0963	32	24						
E	0964	24	28						
E	0965	21	11						
E	0966	23	15						
E	0967	19	15						
E	0968	22	10	土師器					
E	0969	24	17						
E	0970	41	22						
E	0971	21	14						
E	0972	29	18						
E	0973	35	26						
F	0974	18	12					SB04	
F	0975	20	14					SB04	
F	0976	12	5					SB04	
F	0977	20	17					SB04	
F	0978	24	16					SB04	
F	0979	24	22					SB04	
F	0980	30	27						
F	0981	32	27						
F	0982	28	12						
F	0983	26	24			○			
F	0984	32	52						
F	0985	30	14						
F	0986	18	5						
F	0987	30	53						
F	0988	40	37						
F	0989	40	68						
F	0990	28	25						
F	0991	34	51						
F	0992	36	45						
F	0993	68	12						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
F	0994	30	64						
F	0995	36	15						
F	0996	34	45						
F	0997	42	52						
F	0998	30	48						
F	0999	30	34						
F	1000	32	56						
F	1001	22	17						
F	1002	28	40						
F	1003								
F	1004	34							
F	1005	26	20		222				
F	1006	24	18	土師器	224				
F	1007	22	15						
F	1008	50	45				○		
F	1009	40	43	土師器・杯					
F	1010	58	10			○			
F	1011	26	22						
F	1012	20	15						
F	1013	34	25						
F	1014	24	34						
F	1015	20	12						
F	1016	42	11						
F	1017	26	19						
F	1018	28	15	土師器・杯	221		○		
F	1019	30	28						
F	1020	60	12	土師質土器・土鍋	223				
F	1021	22	10						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
F	1022	46	19						
F	1023	42	23						
F	1024	36	30						
F	1025	22	17						
F	1026	28	8						
F	1027	26	4	土師器					
F	1028	30	16						
F	1029	22	20						
F	1030	40	15						
F	1031	28	26	土師器・杯	219				
F	1032	104	8						
F	1033	22	14						
F	1034	30	23						
F	1035	22	10						
F	1036	14	4						
F	1037	34	40						
F	1038	40	8						
F	1039	32	35				○		
F	1040	38	16				○		
F	1041	24	19	土師器					
F	1042	36	11	土師器・杯					
F	1043	30	16						
F	1044	24	17						
F	1045	20	13						
F	1046	46	35						
F	1047	58	25						
F	1048	40	36						
F	1049	32	16	土師器			○		
F	1050	40	9						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
F	1051	32	42	土師質土器・土釜	220				
F	1052	32	19						
F	1053	18	8						
F	1054	26	2？				○		
G1北	1055	31	9						
G1北	1056	26	12						
G1北	1057	34	7						
G1北	1058	42	8						
G1北	1059	59	21						
G1南	1060	50	13	土師器					
G1南	1061	30	7						
G1南	1062	30	11						
G1南	1063	10	8						
G1南	1064	10	5						
G1南	1065	10	6						
G1南	1066	10	8						
G1南	1067	20	8						
G1南	1068	20	9						
G1南	1069	15	53						
G1南	1070	32	8						
G1南	1071	16	7						
G1南	1072	20	13						
G1南	1073	10	7						
G1南	1074	20	8						
G1南	1075	34	8						
G1南	1076	28	8						
G1南	1077	10	6						
G1南	1078	22	54						
G1南	1079	48	9						
G1南	1080	9	7						

地区名	ピット番号	直径	深さ	出土遺物	遺物番号	柱	根石	掘立柱建物跡	時期
G1南	1081	14	7						
G1南	1082	36	33						
G1南	1083	24	17						
G1南	1084	26	9						
G1南	1085	18	8						
G1南	1086	40	10						
G1南	1087	31	21						
G1南	1088	60	16						
G1南	1089	30	7						

図　　版

(1)A 地区西壁土層断面（東より）

(2)B 地区南壁土層断面（北より）

図版 2

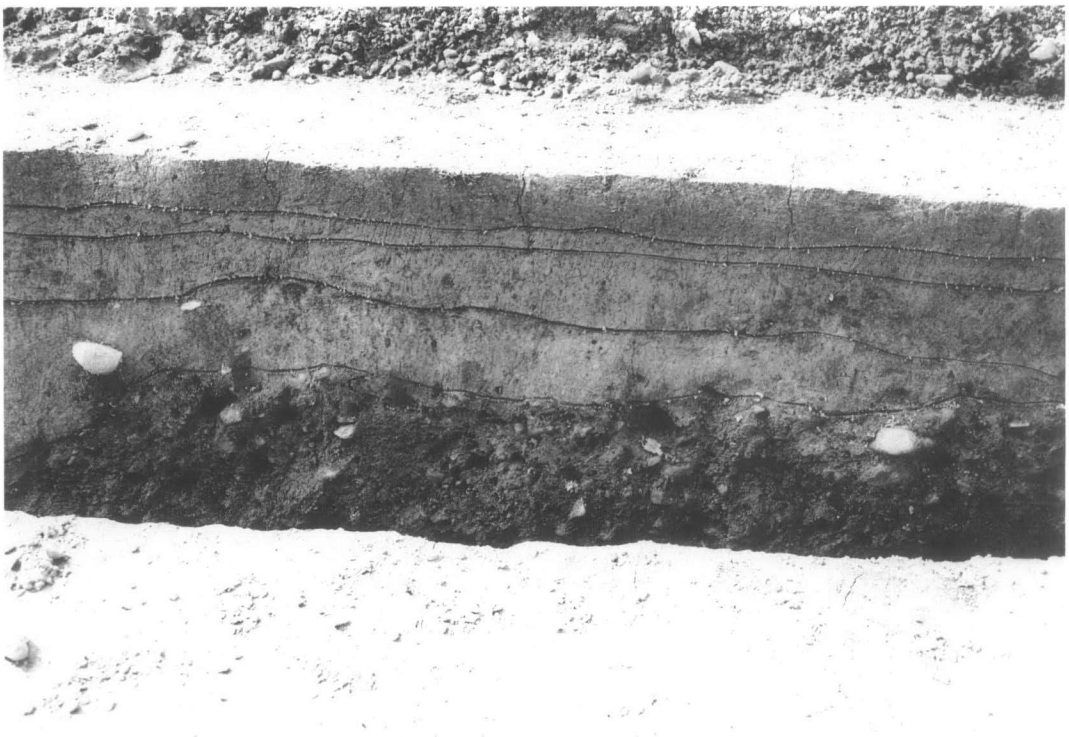
(1)B地区北壁土層断面（南より）

(2)C地区南壁土層断面（北より）

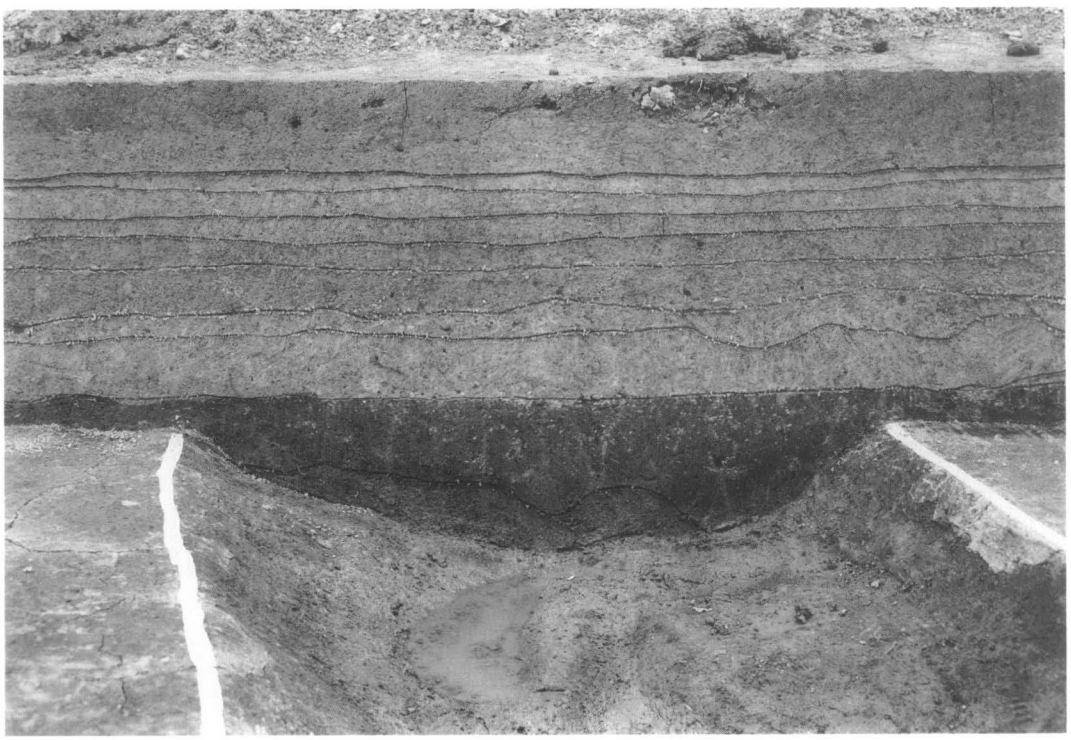
(1)D地区南壁土層断面（北より）

(2)E地区南壁土層断面（北より）

図版 4

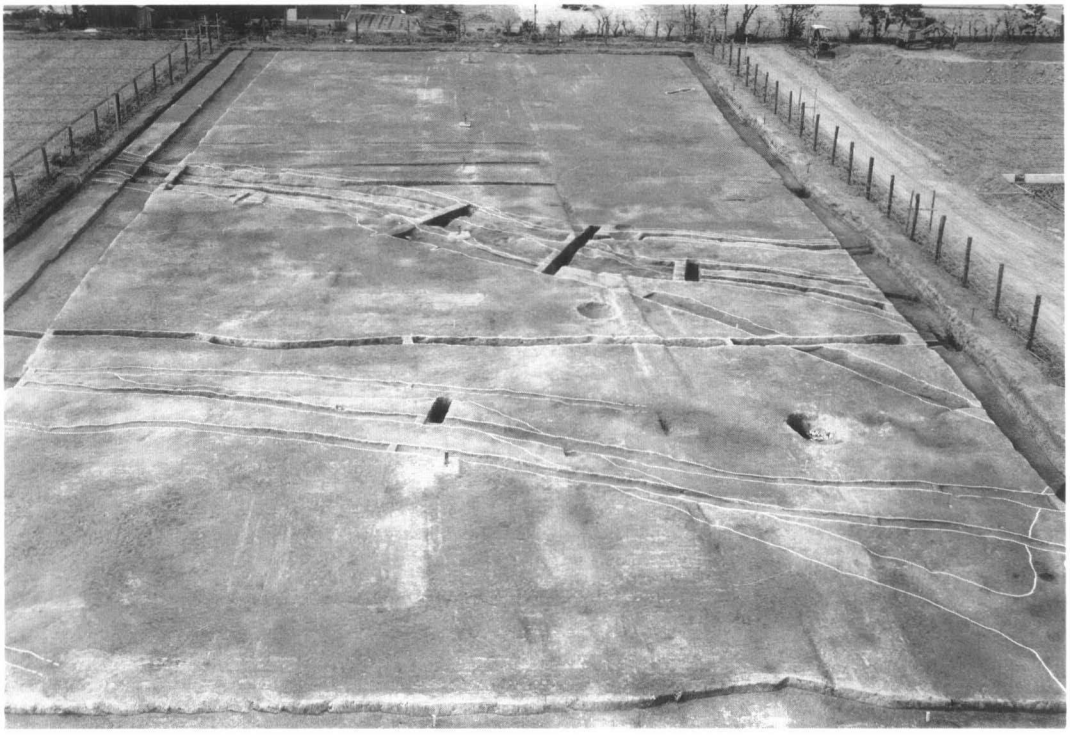


(1)Ｆ地区南壁土層断面（北より）



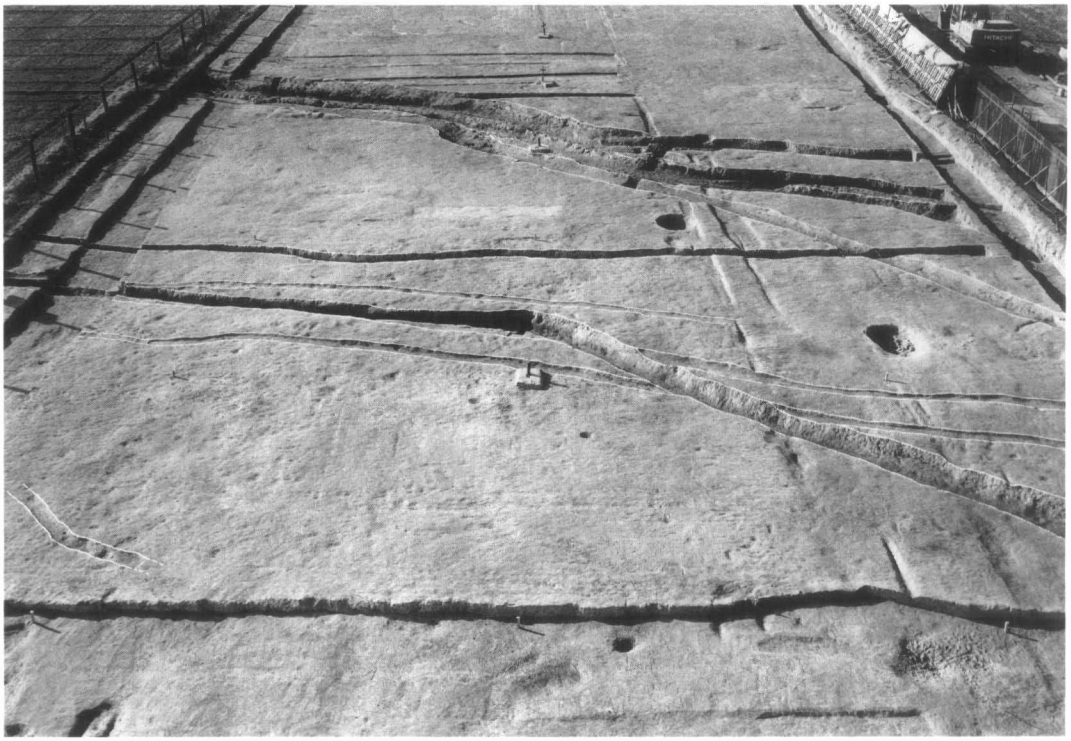
(2)Ｇ１北調査区南壁土層断面（北より）

(1)G 2 地区北壁土層断面（南より）



(2)A 地区上層遺構全景（東より）

図版 6



(1)A地区下層遺構全景（東より）

(2)B地区全景（西より）

(1)B地区全景（東より）

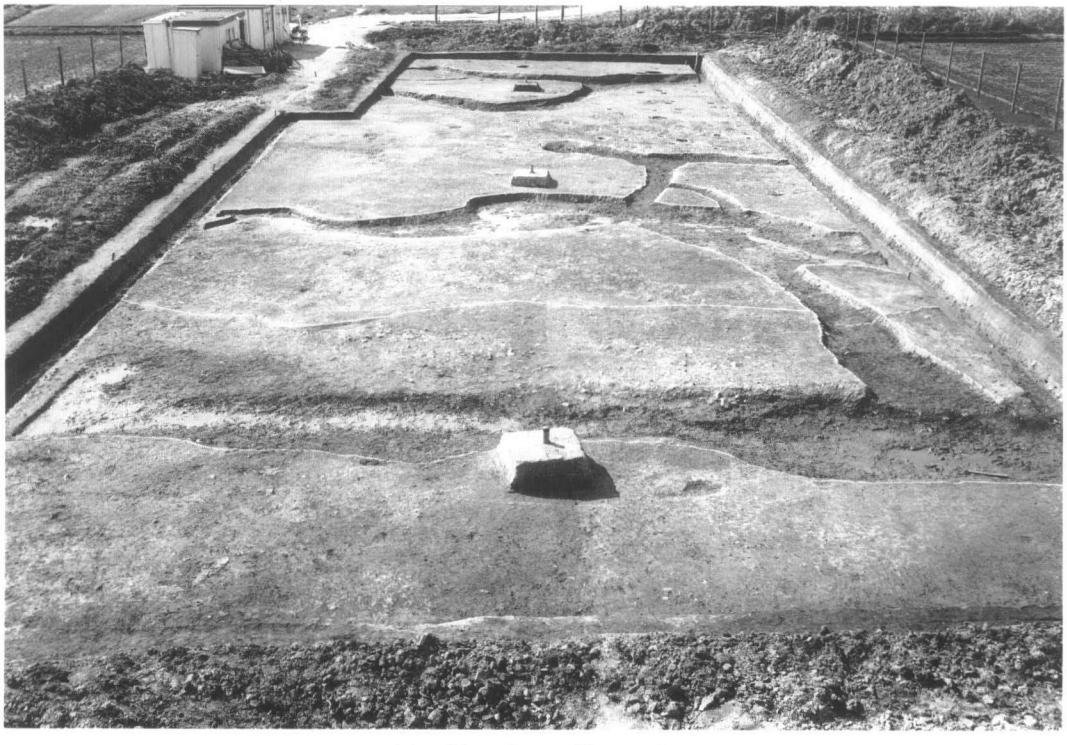
(2)C地区全景（西より）

図版 8

(1)D地区全景（東より）

(2)E地区全景（東より）

(1)E 地区全景（西より）

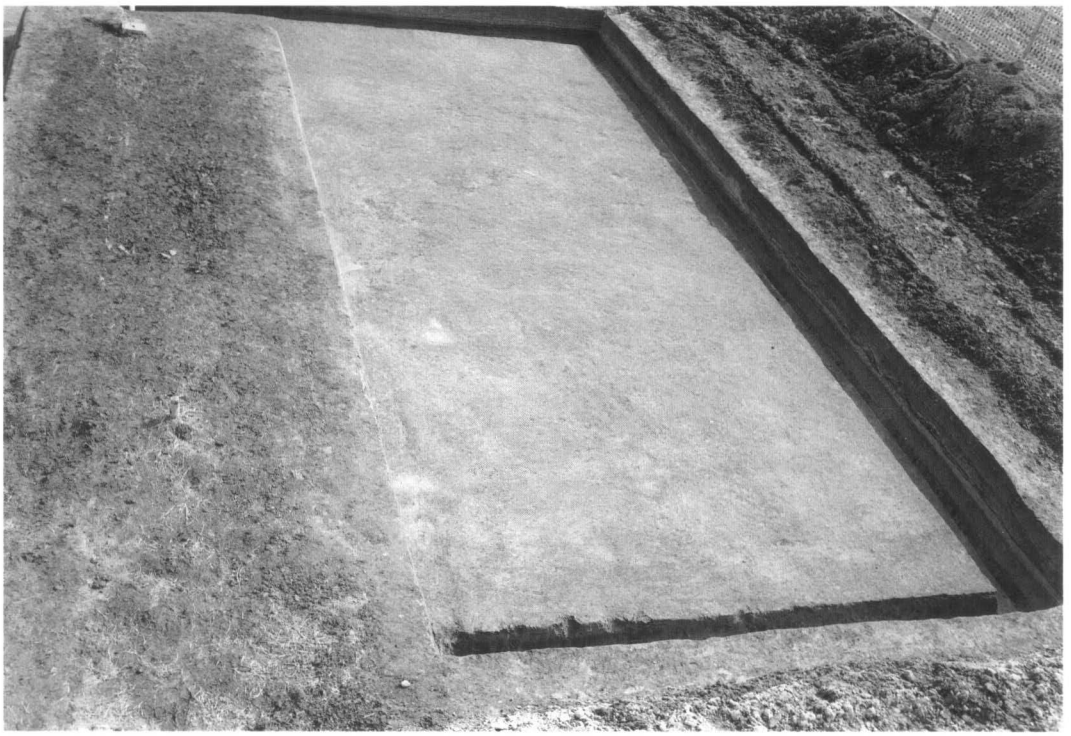


(2)F 地区全景（東より）

図版10

(1)F地区全景（西より）

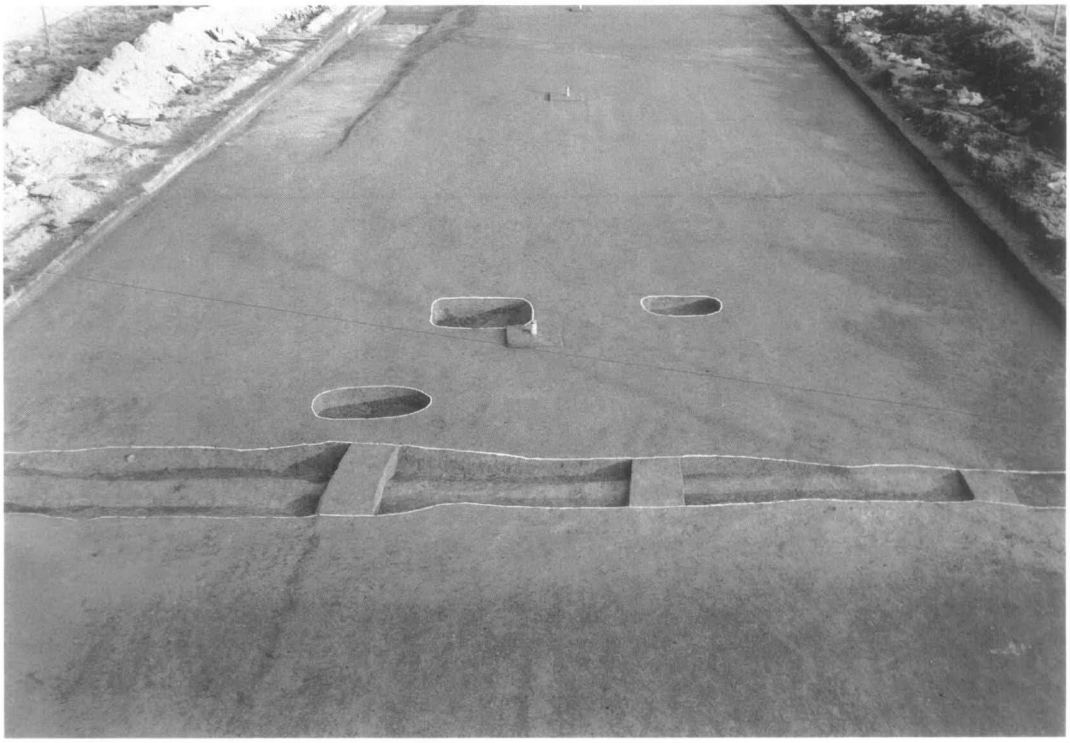
(2)F地区全景（西より）



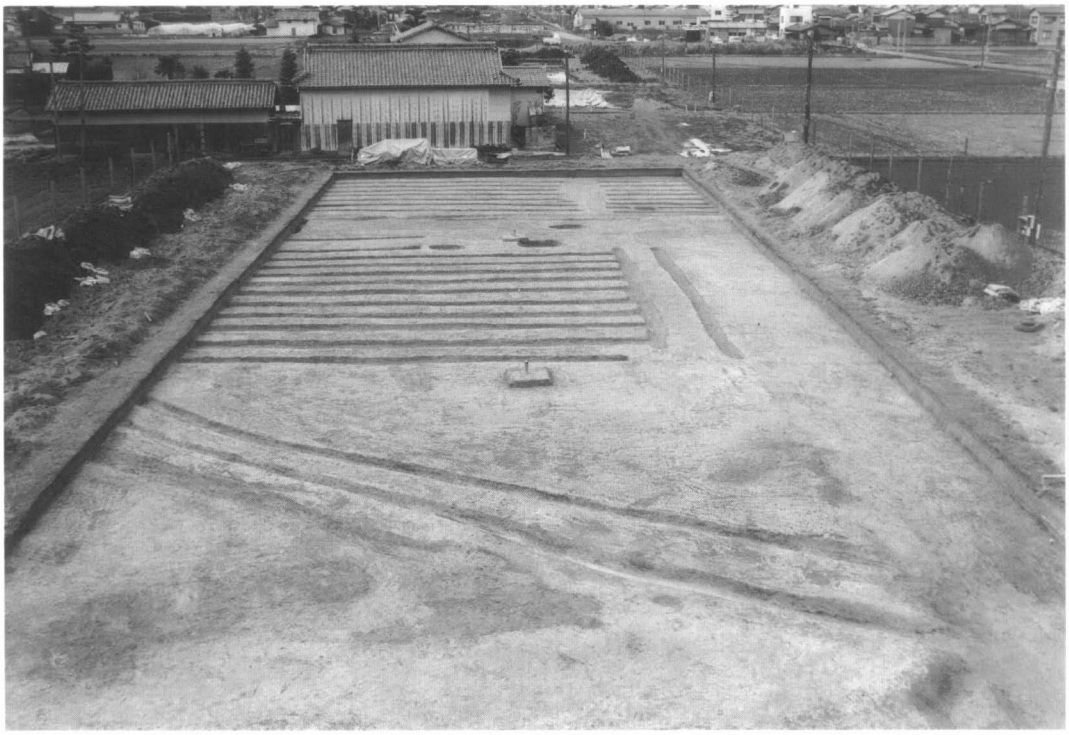
(1)F地区全景（西より）

(2)G１北調査区全景（西より）

図版12



(1)G 2 地区上層全景（西より）



(2)G 2 地区上層全景（東より）

(1)G 2 地区下層全景（南より）

(2)G 1 南調査区全景（東より）

図版14

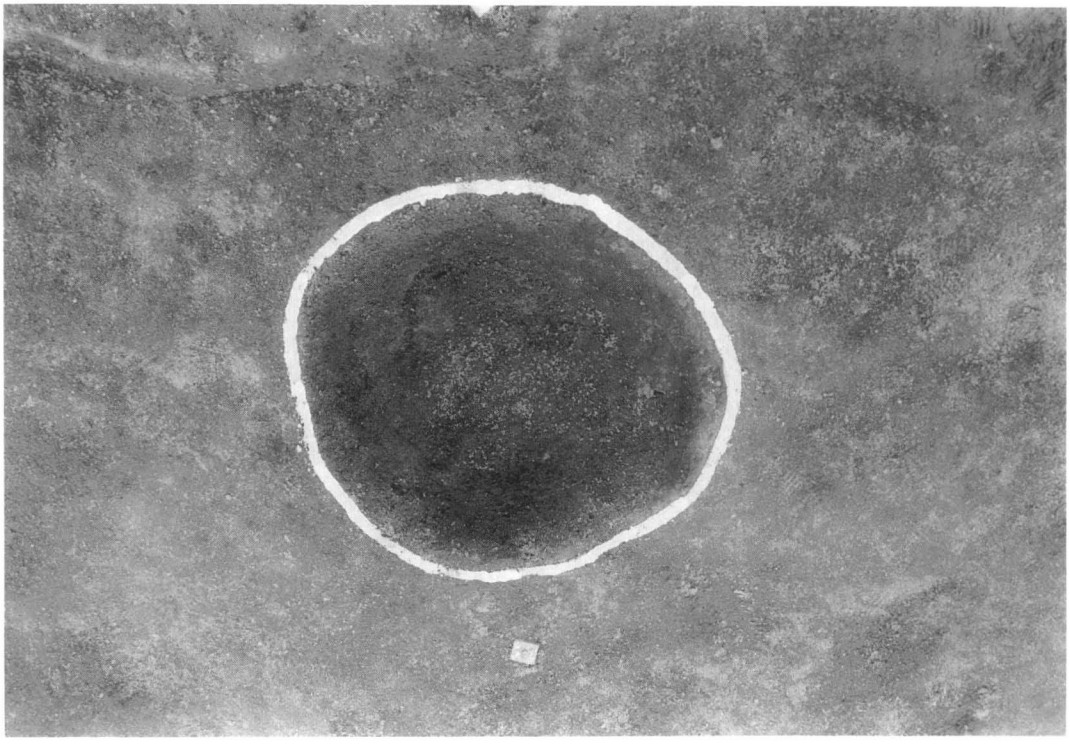
(1)ＳＢ01（東より）

(2)ＳＫ01遺物出土状況（南より）

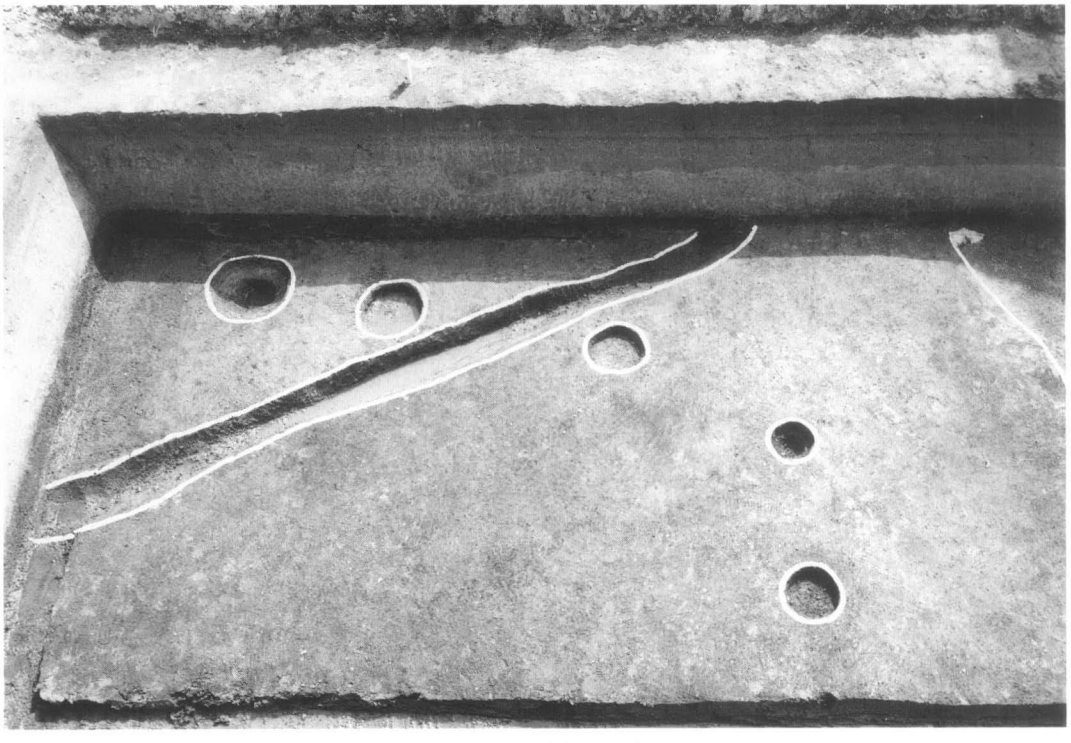
(1)ＳＫ01遺物出土状況（１）

(2)ＳＫ01遺物出土状況（２）

図版16



(1)ＳＫ01完掘状況



(2)ＳＤ03（北より）

(1)ＳＤ05土層断面（北より）

(2)ＳＲ01・11土層断面（北より）

図版18

(1)ＳＲ01・02・10・11土層断面（北より）

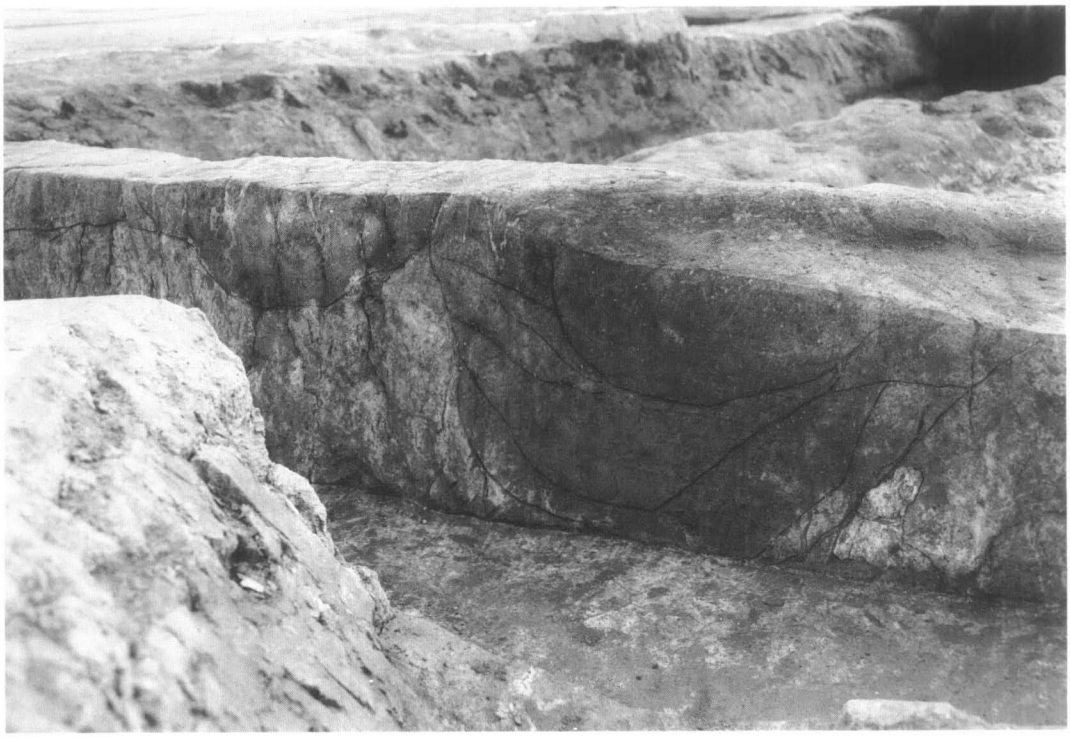
(2)ＳＲ01遺物出土状況

(1)ＳＲ02土層断面（北より）

(2)ＳＲ03，ＳＤ09土層断面（北より）

図版20

(1)ＳＲ03遺物出土状況（西より）

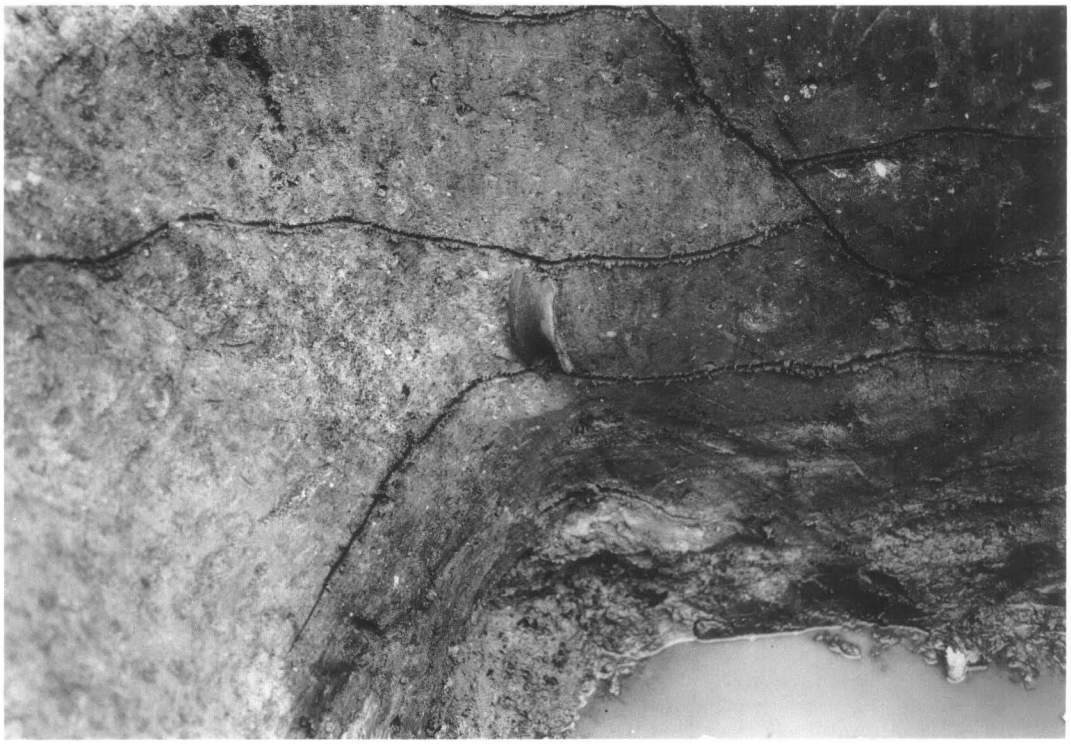


(2)ＳＲ05・10・11土層断面（北より）

(1)ＳＲ06土層断面（北より）

(2)ＳＲ07土層断面（北より）

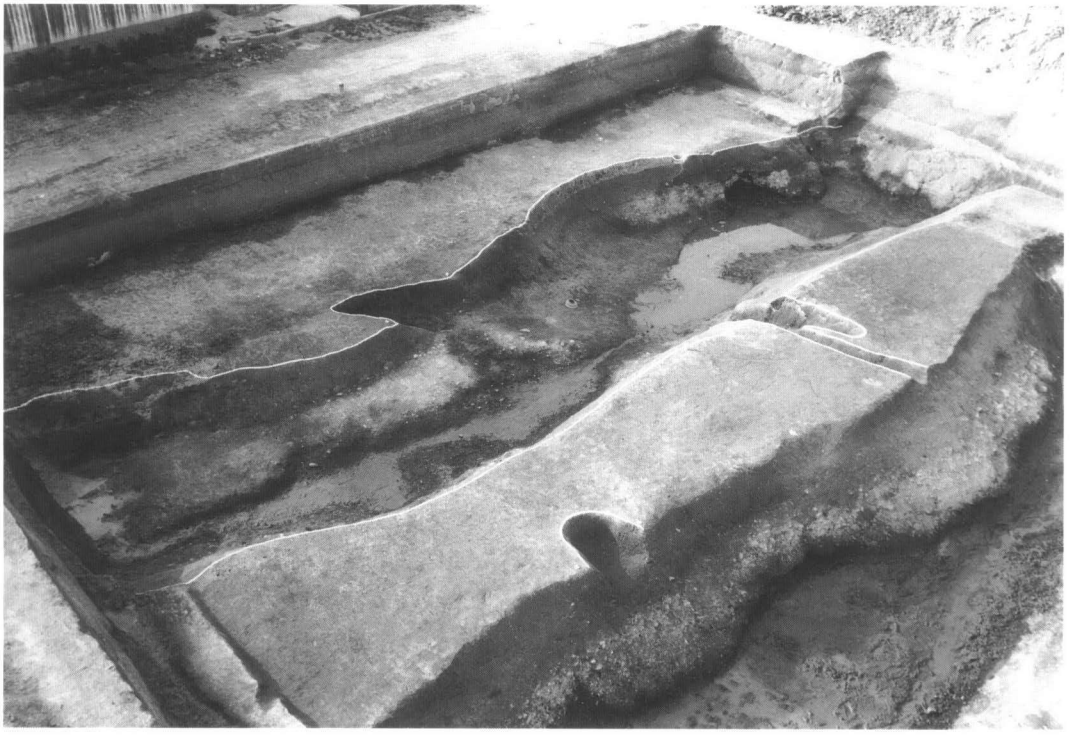
図版22



(1)ＳＲ06遺物出土状況（南より）

(2)ＳＲ06遺物出土状況拡大（南より）

(1)ＳＲ08（西より）



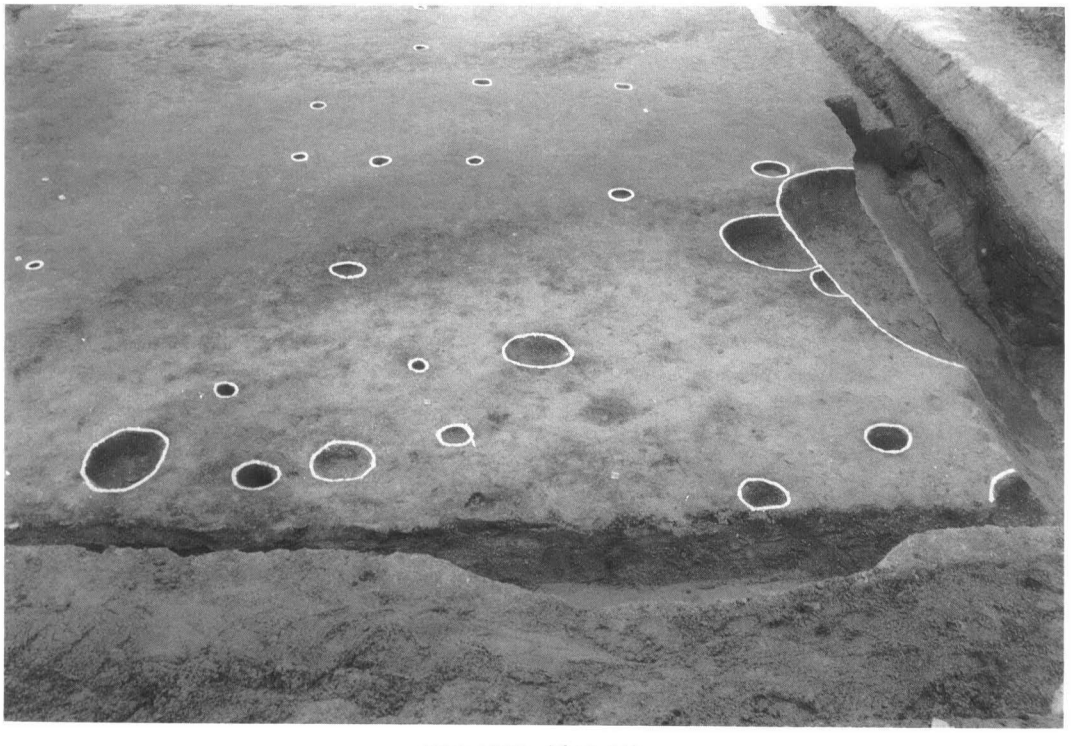
(2)ＳＲ09（南東より）

図版24

(1)ＳＲ09土層断面（南より）

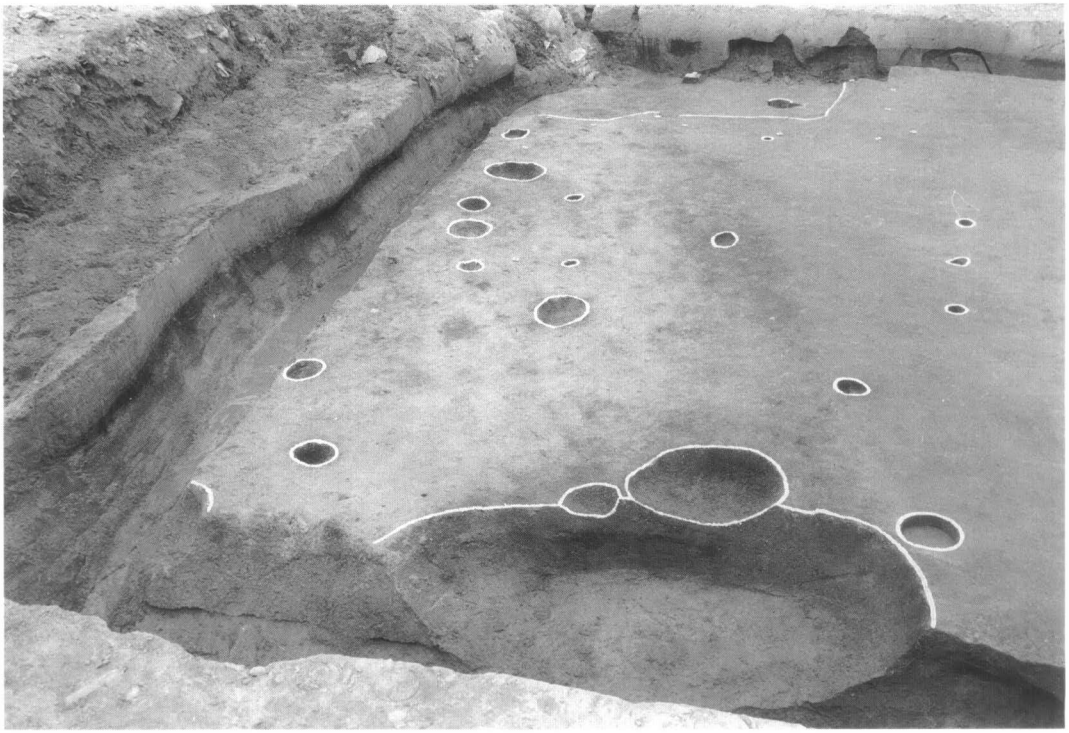
(2)ＳＲ09遺物出土状況（１）

(1)ＳＲ09遺物出土状況（２）

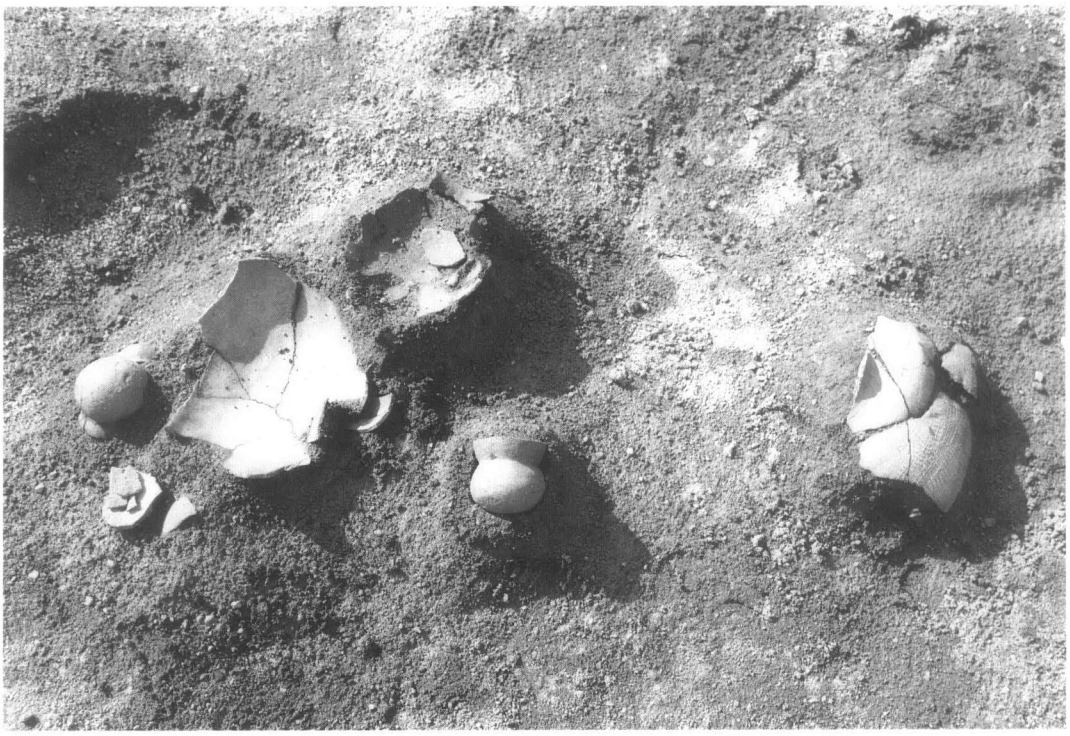


(2)ＳＨ01（東より）

図版26

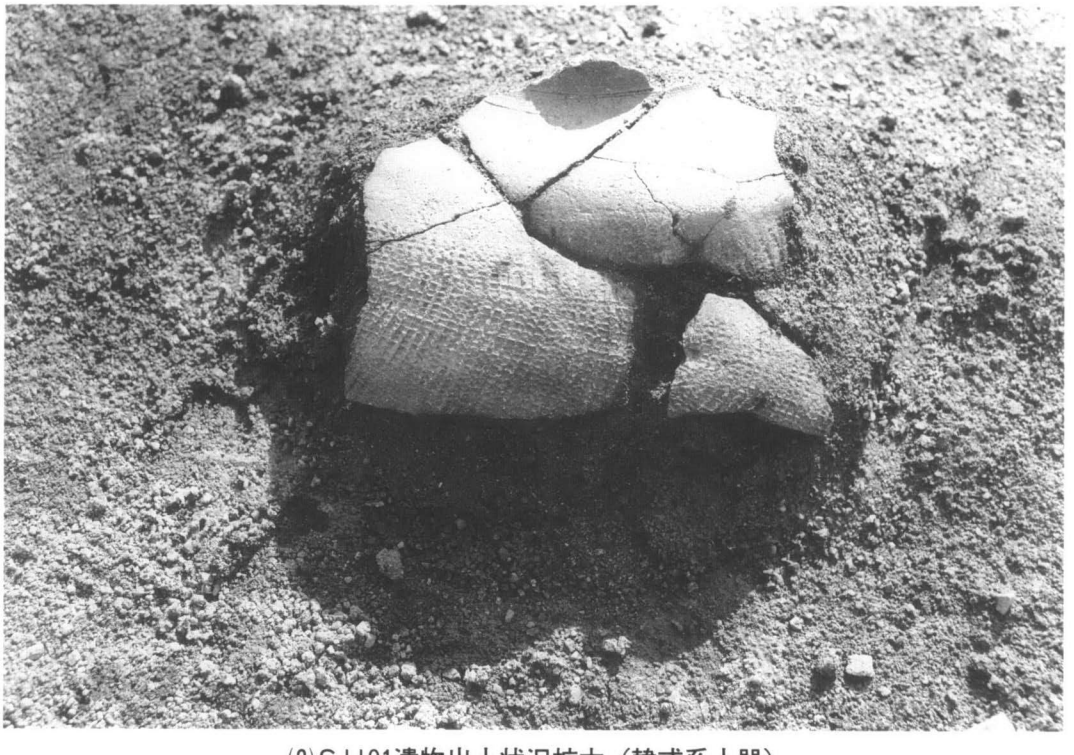


(1)ＳＨ01・02, ＳＥ01（北より）



(2)ＳＨ01遺物出土状況（１）

(1)ＳＨ01遺物出土状況拡大

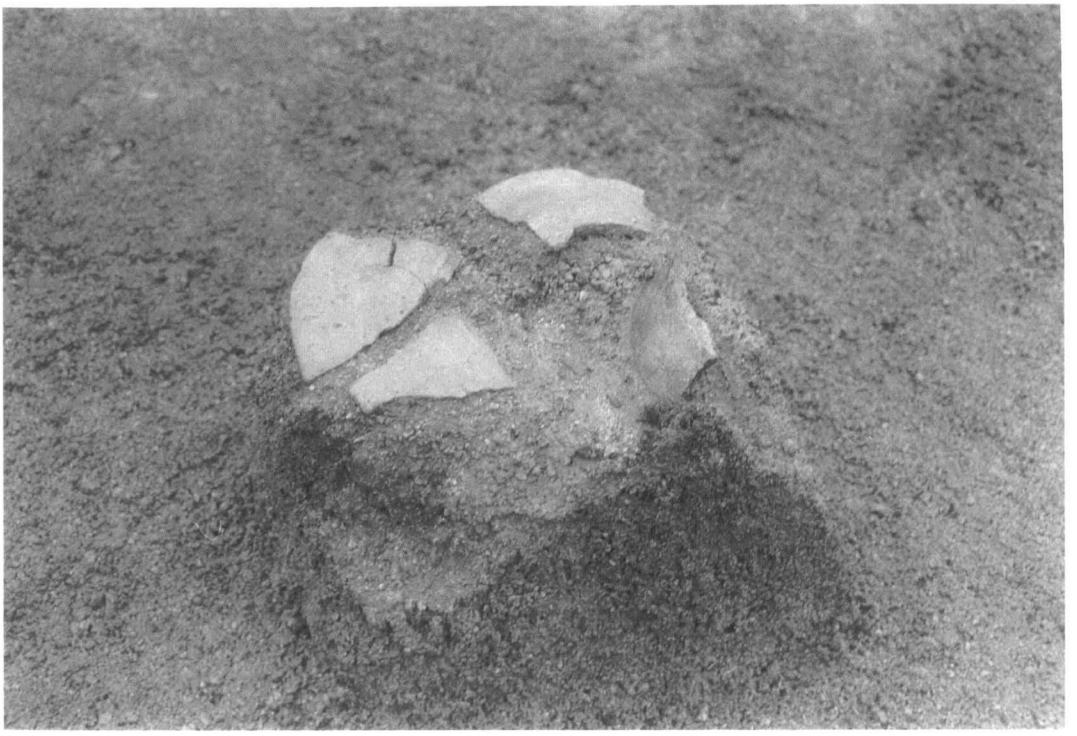


(2)ＳＨ01遺物出土状況拡大（韓式系土器）

図版28

(1)ＳＨ01遺物出土状況（２）

(2)ＳＨ02（南より）



(1)ＳＨ02遺物出土状況

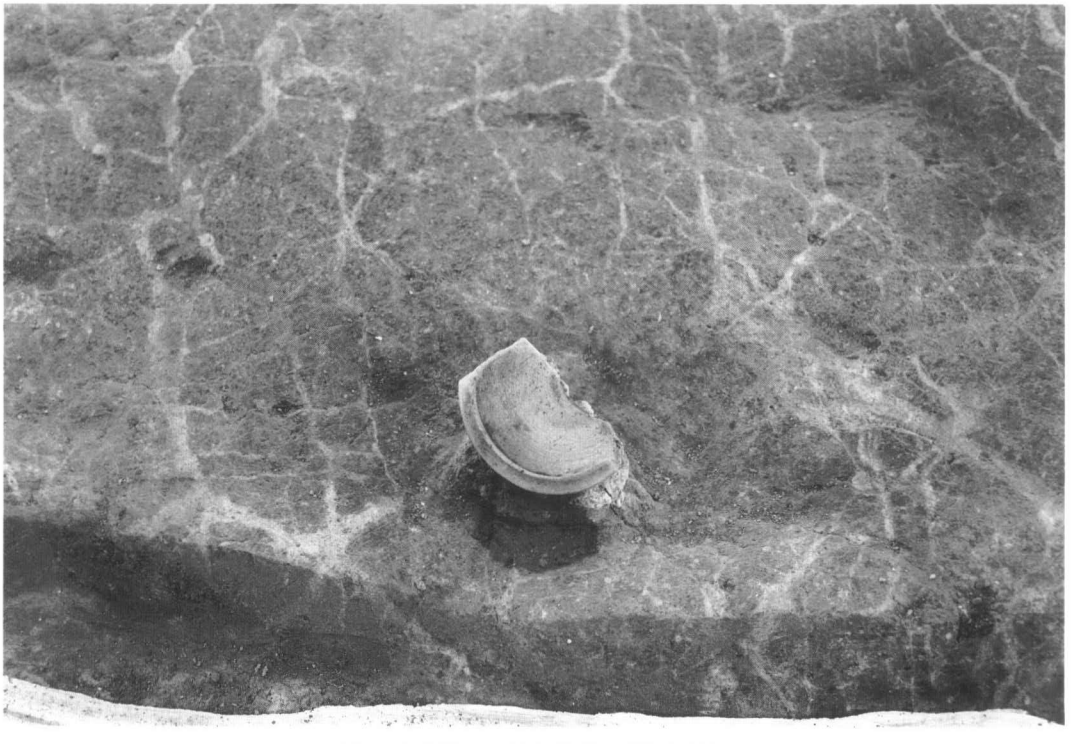
(2)ＳＤ04・06（北より）

図版30

(1)ＳＤ07土層断面（北より）

(2)ＳＤ08土層断面（北より）

(1)ＳＤ08・09, ＳＲ03土層断面

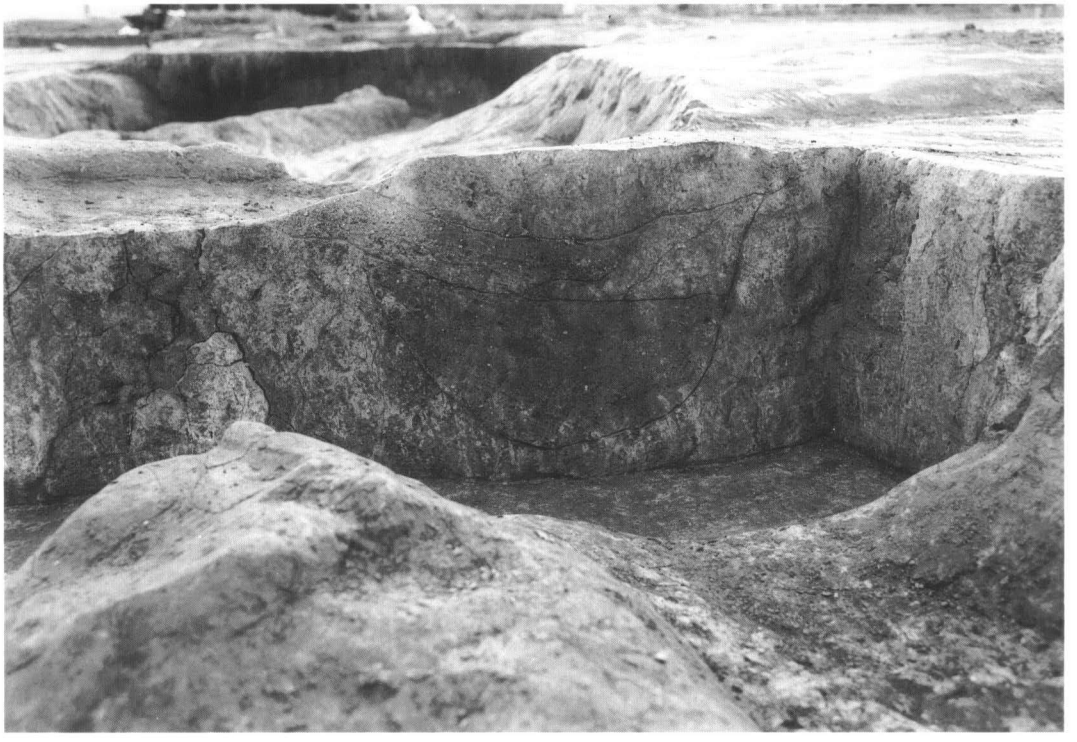


(2)ＳＤ09遺物出土状況（西より）

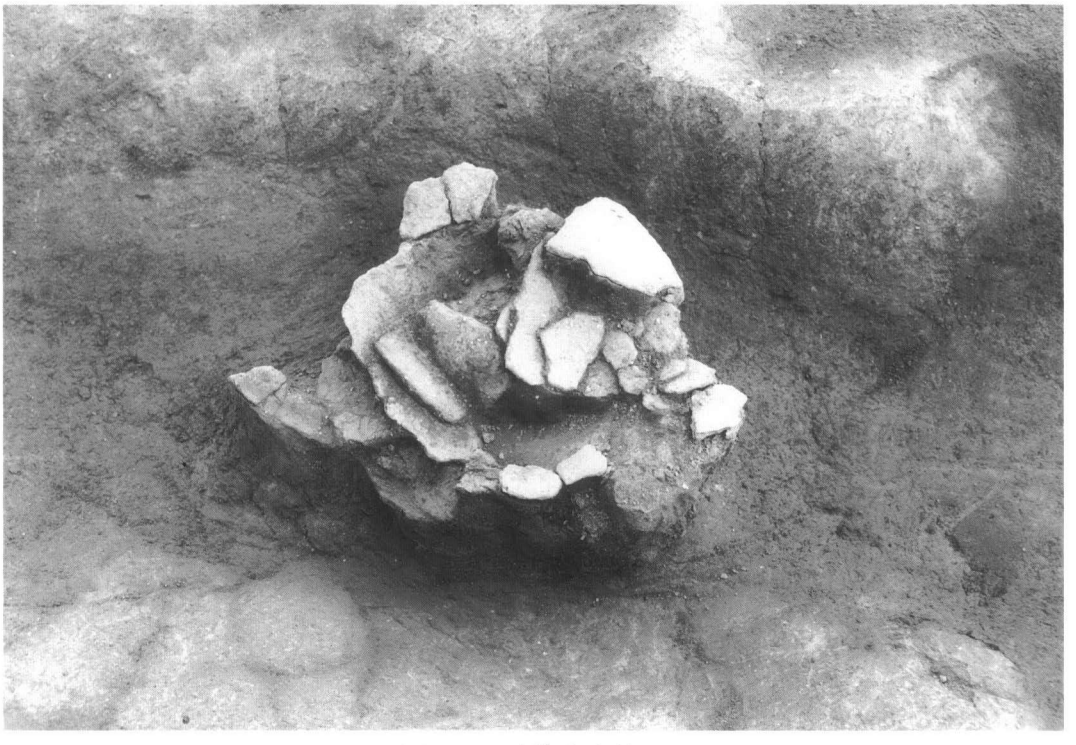
図版32

(1)ＳＤ10土層断面（北より）

(2)ＳＤ11土層断面（北より）



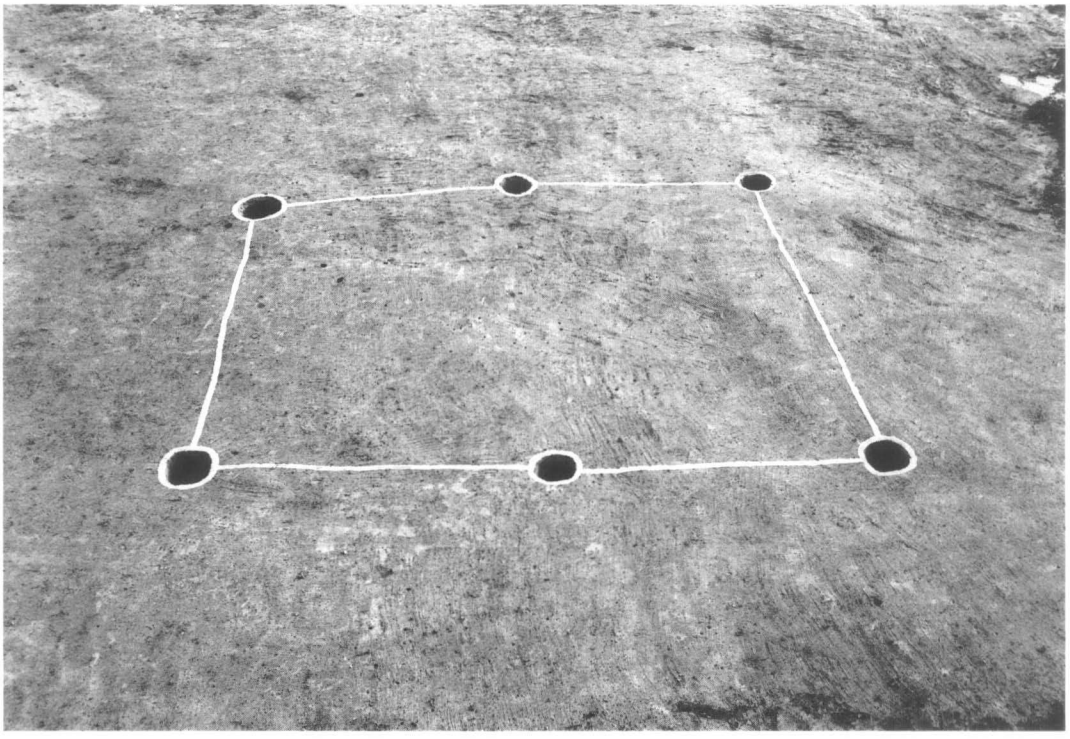
(1)ＳＲ10・05土層断面（北より）



(2)ＳＲ10遺物出土状況

図版34

(1)ＳＲ10・11・01・05土層断面（北より）

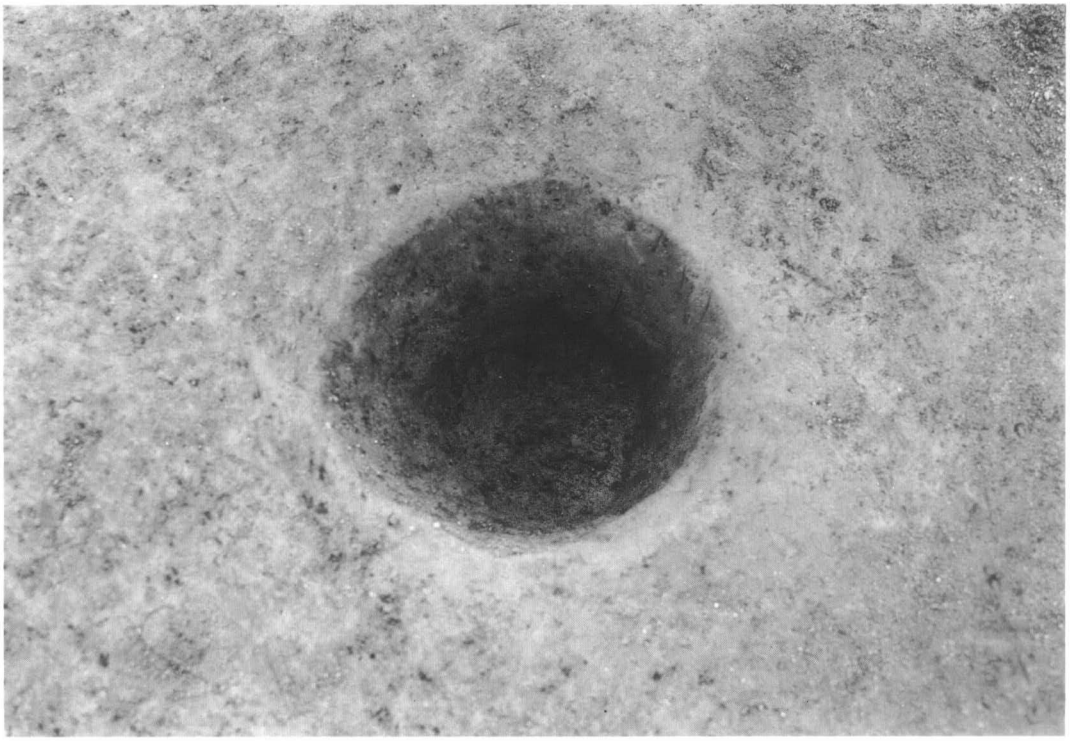


(2)ＳＢ02（北より）

(1)ＳＢ03（北より）

(2)ＳＢ03、ＳＰ0025遺物出土状況

図版36



(1)ＳＢ03、ＳＰ0025完掘状況

(2)ＳＢ03、ＳＰ0033遺物出土状況